E-Class

Sedan / Stationwagon

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

E

M

N

P

S

V

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費が抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環　境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

セレクターレバーを操作するときの注意（E 63 AMG を除く車種）

左ハンドル車

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは（▷164 ページ）をご覧ください。

レーダーセンサーシステム * 操作時の注意

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。詳しくは（▷466 ページ）をご覧ください。

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。上記の内容は、特に安全に関わる作業について当てはまります。

詳しくは整備手帳をご覧ください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

点検整備は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の適用外になります。

診断ソケット

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされるおそれがあります。これにより、次回の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

⚠ 警告

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、車両の安全性が損なわれます。また、事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をご覧ください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマット * は純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクまたはラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方のスペース（セダン）に荷物を置かないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷48 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシート検知機能非装備車は、必ず後席の左右いずれかにチャイルドセーフティシートを装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。

- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロック（▷57 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ * などの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * の開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷150 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P、N 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションが P になっていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションを D、R にするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

  また、坂道で発進するときは、ヒルスタートアシストも作動します(▷154 ページ)。

走行中

- 走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N に戻すように心がけてください。R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルなどの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。純正でない、または承認されていない製品を使用すると、エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

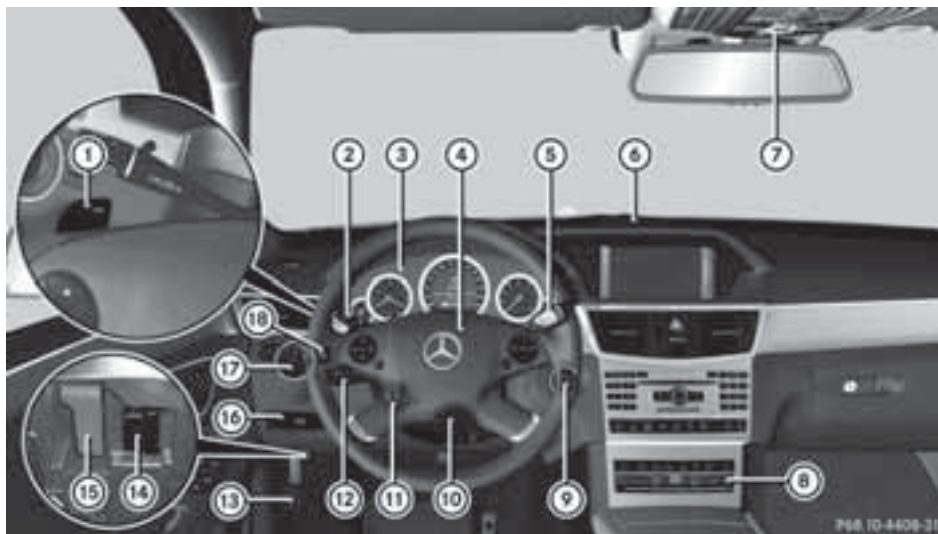
保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。データを使用して、車両の動きをさかのぼって調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

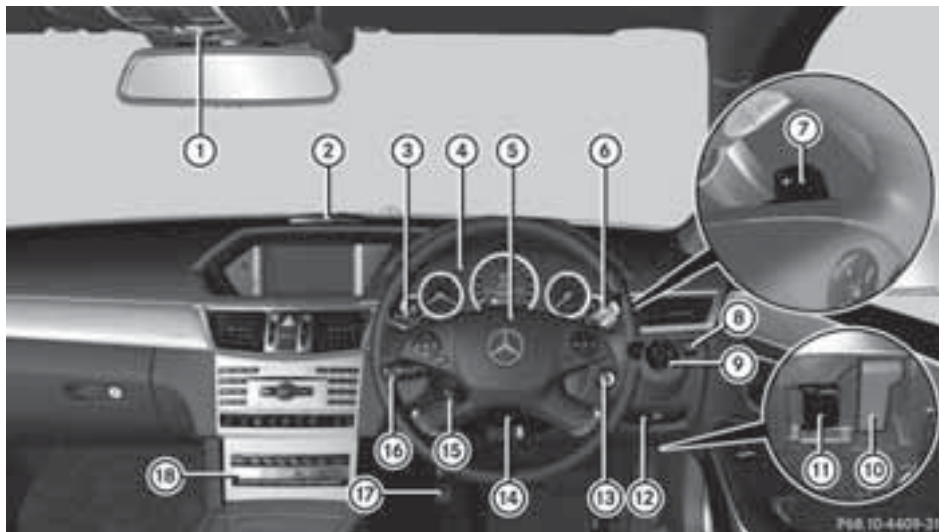
データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

インストルメントパネル

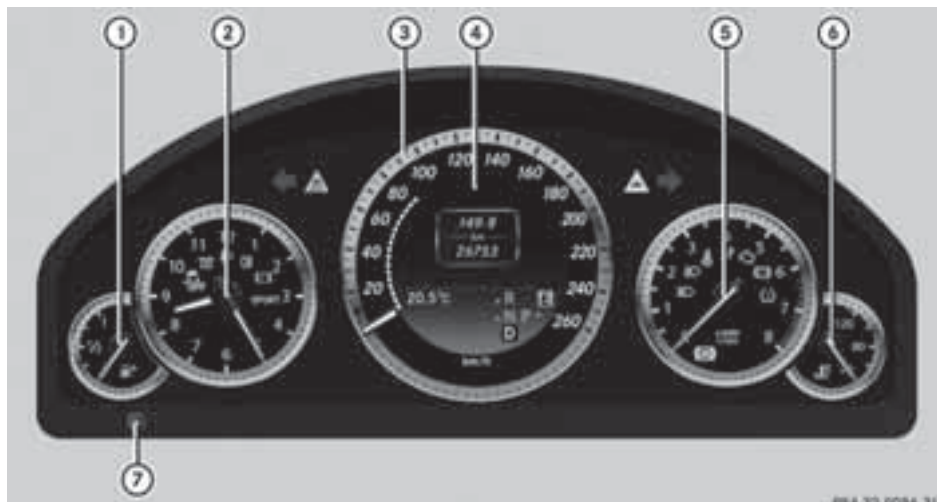
左ハンドル車

	名称	ページ
①	パドル	171
②	操作レバー • クルーズコントロール • ディストロニック・プラス * • 可変スピードリミッター	 212 220 215
③	メーターパネル	177
④	ホーン / 運転席エアバッグ	42
⑤	セレクターレバー (DIRECT SELECT装備車)	151 164
⑥	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	241
⑦	前席上方の操作部	32
⑧	エアコンディショナーコントロールパネル	273 274
⑨	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	98 99
⑩	日本仕様車には装備されません	
⑪	ステアリング調整レバー	114
⑫	コンビネーションスイッチ • ヘッドライト • 方向指示 • ワイパー	 129 129 140
⑬	パーキングブレーキペダル	159
⑭	診断ソケット	
⑮	ボンネットロック解除レバー	338
⑯	パーキングブレーキ解除ハンドル	159
⑰	ライトスイッチ	126
⑱	ナイトビューアシストプラススイッチ *	256

* オプションや仕様により、異なる装備です。

右ハンドル車

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	32
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	241
③	操作レバー • クルーズコントロール • ディストロニック・プラス * • 可変スピードリミッター	 212 220 215
④	メーターパネル	177
⑤	ホーン / 運転席エアバッグ	42
⑥	セレクターレバー (DIRECT SELECT装備車)	151 164
⑦	パドル	171
⑧	ナイトビューアシストプラススイッチ *	256
⑨	ライトスイッチ	126
⑩	ボンネットロック解除レバー	338
⑪	診断ソケット	
⑫	パーキングブレーキ解除ハンドル	159
⑬	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	98 99
⑭	日本仕様車には装備されません	
⑮	ステアリング調整レバー	114
⑯	コンビネーションスイッチ • ヘッドライト • 方向指示 • ワイパー	 129 129 140
⑰	パーキングブレーキペダル	159
⑱	エアコンディショナーコントロールパネル	273 274

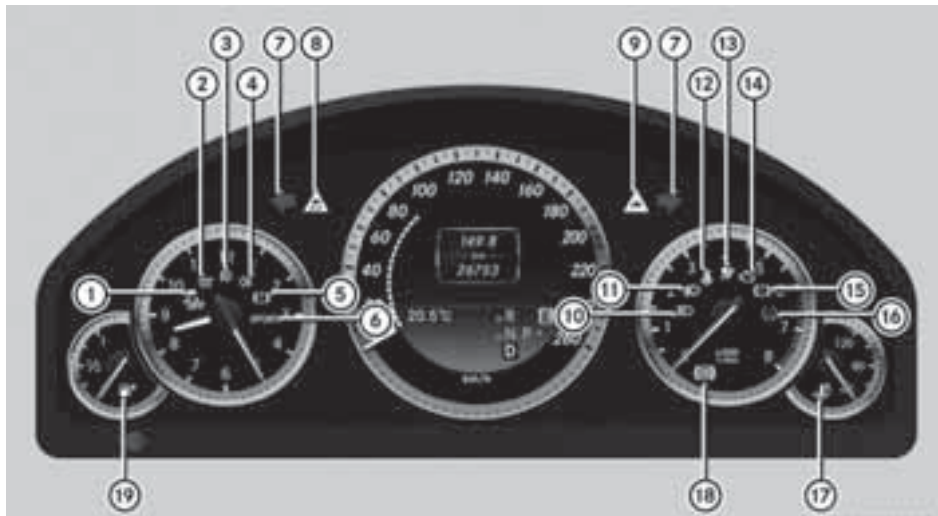
* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

メーターパネル

	名称	ページ
①	燃料計	177
②	時計	178
③	スピードメーター クルーズコントロール / ディストロニック・プラス * / 可変スピードリミッターインジケーター	178 213 225 217

	名称	ページ
④	マルチファンクションディスプレイ	179
⑤	タコメーター	178
⑥	エンジン冷却水温度計	177
⑦	メーターパネル照度調整ノブ	177

* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	ESP® オフ表示灯	406 407
②	予熱表示灯 (ディーゼルエンジン車)	152
③	日本仕様車には装備されません	
④	リアフォグランプ表示灯	127
⑤	ブレーキ警告灯（黄色）	405 406
⑥	スポーツハンドリングモード表示灯 (E 63 AMG)	407
⑦	方向指示表示灯	129
⑧	ESP® 表示灯	407
⑨	車間距離警告灯 *	410
⑩	ハイビーム表示灯	130

	名称	ページ
⑪	ヘッドライト表示灯	127
⑫	シートベルト警告灯	404
⑬	SRS 警告灯	408
⑭	エンジン警告灯	408
⑮	ブレーキ警告灯（赤色）	405 406 408
⑯	日本仕様車には装備されません	
⑰	冷却水警告灯	408 409
⑱	ABS 警告灯	405 406
⑲	燃料残量警告灯	408

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	179
②	COMAND ディスプレイ	別冊
③	通話開始 / 終了スイッチ（電話） ＋ − 音量スイッチ （音量の調整） 消音スイッチ	181
④	音声認識スイッチ	181

	名称	ページ
⑤	リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ	181
⑥	◀ ▶ スクロールスイッチ （メインメニューの選択） ▲ ▼ スクロールスイッチ （サブメニューの選択 / リストのスクロール） OK 確定スイッチ	180

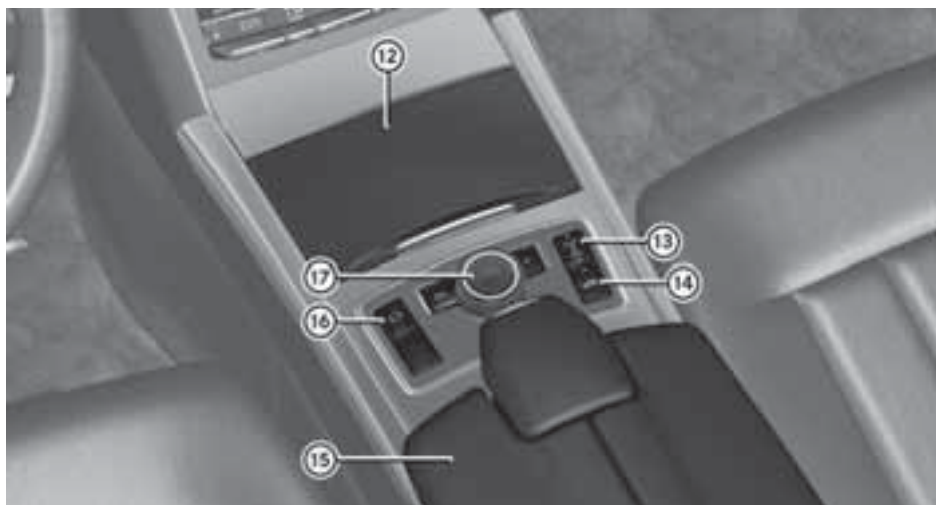
センターコンソール

センターコンソール上部

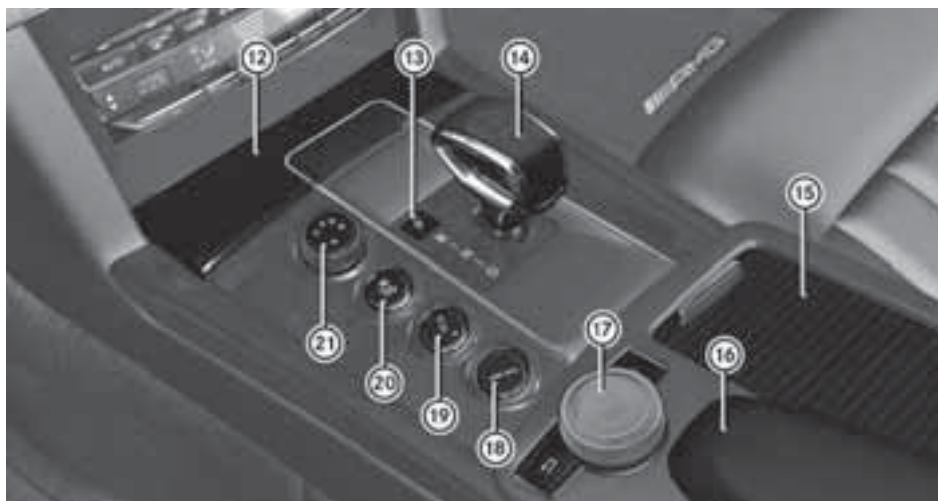
	名称	ページ
①	非常点滅灯スイッチ	130
②	盗難防止警報システム表示灯	72
③	助手席エアバッグオフ表示灯 *	51
④	COMAND コントロールパネル	別冊
⑤	フロントシートヒータースイッチ *	111
⑥	シートベンチレータースイッチ *	112

	名称	ページ
⑦	ECO スタート / ストップスイッチ *	158
⑧	パークトロニックオフスイッチ	242
⑨	リアヘッドレスト下降スイッチ	104
⑩	セダン：電動ブラインドスイッチ *	324
⑪	日本仕様車には装備されません	

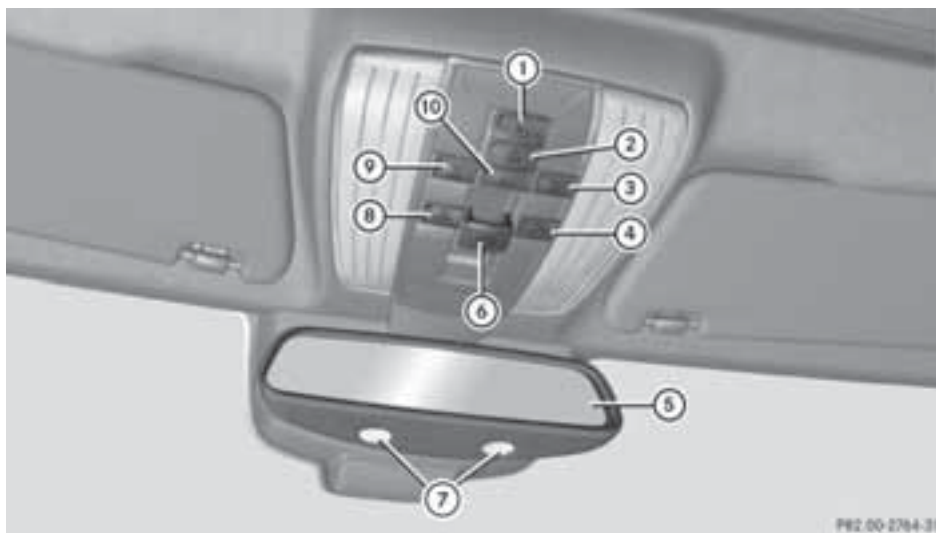
* オプションや仕様により、異なる装備です。

センターコンソール下部（E 63 AMG を除く車種）

	名称	ページ
⑫	灰皿	325
	ライター	326
	センターコンソールのカップホルダー	320
⑬	サスペンションモード選択スイッチ *	236
⑭	車高調整スイッチ *	235
⑮	フロントアームレストの小物入れ	297
⑯	走行モード選択スイッチ	170
⑰	COMAND コントローラー	別冊

* オプションや仕様により、異なる装備です。

センターコンソール下部（E 63 AMG）

	名称	ページ
⑫	灰皿 ライター	325 326
⑬	パーキングスイッチ	164
⑭	セレクターレバー	151 164
⑮	センターコンソールのカップホルダー	321
⑯	フロントアームレストの小物入れ	297

	名称	ページ
⑰	COMAND コントローラー	別冊
⑱	AMG セッティングスイッチ	237
⑲	サスペンションモード選択スイッチ	237
⑳	ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ	66 68
㉑	走行モード選択ダイヤル	170

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	リアルームランプスイッチ	135
②	点灯モード切り替えスイッチ	135
③	読書灯スイッチ（右側）	135
④	けん引防止機能解除スイッチ	74
⑤	ルームミラー	116
⑥	スライディングルーフスイッチ *	287
	パノラミックスライディングルーフスイッチ *	290

	名称	ページ
⑦	読書灯	135
⑧	室内センサー解除スイッチ	75
⑨	読書灯スイッチ（左側）	135
⑩	フロントルームランプスイッチ	135

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部

運転席ドア（左ハンドル車）

	名称	ページ
①	メモリースイッチ * ポジションスイッチ *	120 120
②	シート調整スイッチ *	102 103
③	ドアロックスイッチ	88 89
④	ドアレバー	87
⑤	ドアミラー選択スイッチ ドアミラー調整スイッチ ドアミラー格納 / 展開スイッチ	116 116 117

	名称	ページ
⑥	ドアウインドウスイッチ	145
⑦	リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックスイッチ	58
⑧	トランクオープナースイッチ * トランクスイッチ * テールゲートスイッチ *	91 93 96

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトやSRS（乗員保護補助装置）は、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷102 ～ 105 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷121 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷39 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。これにより、けがの危険性を減らすことができます。

したがって、衝突時にエアバッグが作動したときは、エアバッグは正しく着用されたシートベルトの保護機能に加えて効果を発揮します。

⚠ **警告**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具ならびに設備を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

不適切な作業を行なうと、車両の走行安定性が損なわれる可能性があります。その結果、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、安全装備が正常に作動しなくなり、乗員保護効果が得られないおそれがあります。

⚠ **警告**

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。

- シートベルトやベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

衝突時の衝撃の強さが乗員保護装置が作動するレベルに達していても、エアバッグとシートベルトテンショナーが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、絶対に車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ **警告**

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向、および以下のような事故の種類に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 横転

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、フロントシートベルトと左右のリアシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーは、車の縦方向に大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

リアシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用に関わらず作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際に、衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき

- 側面衝突の際に、衝撃を受けた最初の段階で、車両の横方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両が横転するような特定の状況で、シートベルトテンショナーの作動が乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ **警 告**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き、換気を行なってください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

ベルトフォースリミッター

ベルトテンショナーは、フロントシートベルトと左右のリアシートベルトに装備されています。

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

エアバッグ

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。これにより、乗員の身体への衝撃を分散・軽減します。

エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ 警告

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストが目の高さにあり、後頭部が支えられるように調整してください。
- 身長 150cm 未満または 12 歳未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 助手席エアバッグの機能が解除されている * 場合を除き、助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリーを、ドアに取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

> ⚠ **警 告**
>
> 以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
>
> - ステアリングパッド部
> - ステアリングコラム下部のパネル部
> - 助手席側のダッシュボードパネル部
> - フロントシートのバックレスト外側
> - リアシートの左右端部
> - フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

> ⚠ **警 告**
>
> エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。
>
> ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。

> ⚠ **警 告**
>
> 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
>
> 作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。次に事故が発生した場合は、エアバッグによる乗員保護機能が得られません。

> ⚠ **警 告**
>
> 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
運転席ニーバッグ	運転席足元
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
リアサイドバッグ	リアシートの左右端部
ペルビスバッグ	フロントシートのバックレスト側面下部
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

運転席エアバッグ ①/ 助手席エアバッグ ② は、縦方向からの強い衝撃を受けると作動し、運転席 / 助手席乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席エアバッグ / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

助手席エアバッグ ② は、助手席に乗員が乗車していて、エアバッグオフ表示灯 * が消灯しているときにのみ作動します。これにより、チャイルドセーフティシート検知システム装備車では、センサー付きチャイルドセーフティシートが装着されていないか、不適切な方法で装着されていないかを確認できます。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換する必要があります。

i 縦方向からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

運転席ニーバッグ

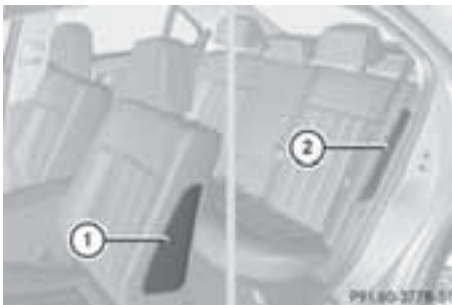
左ハンドル車

運転席ニーバッグ ① は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動し、運転席乗員の膝から下への衝撃を分散・軽減します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

サイドバッグ

⚠ 警告

フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。フロントサイドバッグとペルビスバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のフロントサイドバッグ①/ リアサイドバッグ②が作動し、乗員の胸部への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグは、シートベルトの着用や運転席 / 助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

車両が横転したときは、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知し、サイドバッグの作動がシートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断しない限り、基本的に作動しません。

運転席 / 助手席ペルビスバッグ

⚠ 警告

フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。フロントサイドバッグとペルビスバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

左ハンドル車

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側の運転席ペルビスバッグまたは助手席ペルビスバッグバッグが作動し、運転席または助手席乗員への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席ペルビスバッグ①は、シートベルトの着用や運転席 / 助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

車両が横転したときは、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知し、ペルビスバッグの作動がシートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断しない限り、基本的に作動しません。

ウインドウバッグ

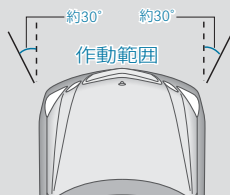
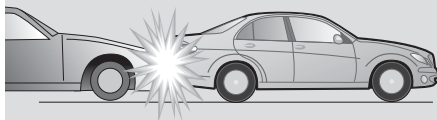
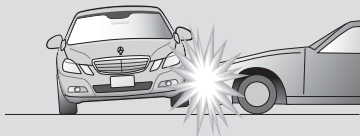
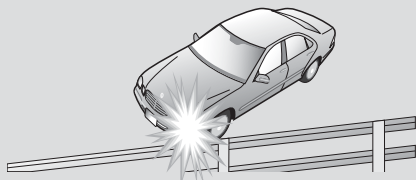
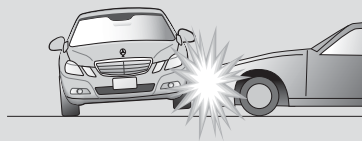
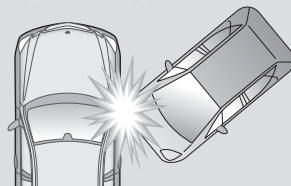
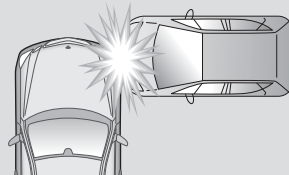
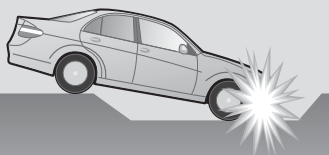
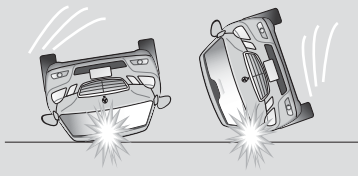
① ウインドウバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ ① が作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、助手席乗員の有無、シートベルトの着用、運転席 / 助手席エアバッグの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

車両が横転したときは、ウインドウバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めるとシステムが判断したときに作動します。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ、ペルビスバッグ、ウインドウバッグが作動するとき

サイドバッグ、ペルビスバッグ、ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE®

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- ディストロニック･プラス装備車は、BAS プラスが作動するような急ブレーキを効かせたとき
- ディストロニック・プラス装備車は、レーダーセンサーシステムが差し迫った衝突の危険性がある特定の状況を検知したとき
- 車が物理的な限界を超えて強いアンダーステア状態やオーバーステア状態になったときなど、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE® は以下のように作動します。

- 前席シートベルトを引き込み、シートベルトの張力を高めます。
- 助手席シートが不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に調整します。
- マルチコントロールシートバック装備車は、フロントシートのシートクッションおよびバックレストのサイドサポートの空気圧を高くします。
- 車が横滑りをすると、ドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車が不安定な状態から脱すると、引き込まれたシートベルトの張力が緩みます。また、フロントのマルチコントロールシートバック * のサイドサポートの空気圧が元の状態に戻ります。

助手席シートの位置、ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * の開き具合を再度調整することができます。

前席シートベルトの引き込みが解除されないとき

▶ 停車しているときに、シートベルトの張力が緩むまで、バックレスト角度やシートの前後位置を後方の位置に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

> ⚠ **警告**
>
> シートを調整するときは、後席の乗員がけがをしないように注意してください。

! シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部、頚部の保護度合いを高めます。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

> ⚠ **警告**
>
> フロントシートには、必ず純正のシートカバーだけを使用してください。市販のシートカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前方に動いた状態のままになります。このときは、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください（▷417 ページ）。

リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頚部を保護することができません。

このリセット作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

⚠ **警 告**

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大なけがや致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 身長 150cm 未満および 12 歳未満の子供は、適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗車させ、確実に身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要になります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグの機能が解除されている場合を除き、助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側サンバイザーに貼付されています。

左ハンドル車

- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。

  また、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 絶対に子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに子供を保護することができなくなり、子供が車内の部品に激しくぶつかったり、致命的なけがをするおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。子供の安全性が高くなります。
- チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接している必要があります。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品と交換してください。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったチャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。
チャイルドセーフティシートは後席に装着し、走行している間は、チャイルドセーフティシートにより子供の身体を固定してください。

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています（▷50 ページ）。

⚠ **警 告**

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。

⚠ **警 告**

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い物や硬い物を積むときは、確実に固定してください。荷物を積むときの注意点について、詳しくは（▷294 ページ）をご覧ください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 13kg 以下	新生児～15 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～4 歳位
キッドフィックス	15 ～ 36kg	3 歳半～12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央後席のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

チャイルドセーフティシート検知システム *

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

⚠ **警 告**

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車は、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着しても、助手席エアバッグの機能は解除されません。以下の点に注意して正しく使用してください。

- 純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置に調整してください。
- 後ろ向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

ℹ 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しているときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ **警告**

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の点に注意して正しく使用してください。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプの純正チャイルドセーフティシートは必ず後席に装着してください。

  やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろおよび低い位置にして、シートベルトの高さをもっとも低い位置に調整してください。
- 助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードや IC カードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれやセンサー付き純正チャイルドシートを検知できずに助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

! センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着していないときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

i センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、助手席の以下の装置は作動します。

- サイドバッグ
- ペルビスバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右の後席に、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

⚠ 警告

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを後席のシートベルトで装着してください。

⚠ 警告

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- 安全のため、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートは必ず後席左右の固定装置に装着してください。
- 正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護効果が得られなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央後席のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

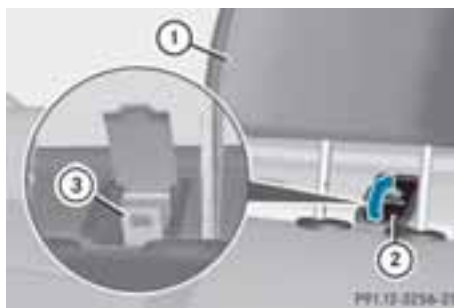
固定装置を使用する

▶ カバー ② を後方に押し、固定装置 ① にチャイルドセーフティシートを装着します。

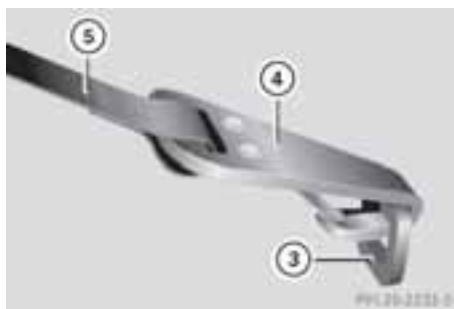
テザーアンカー

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故などのときにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

セダン

テザーアンカーは左右のリアヘッドレストの後方にあります。

▶ ヘッドレスト ① を上げます。

▶ テザーアンカー ③ のカバー ② を開きます。

▶ ヘッドレスト ① の 2 本の支柱の間にテザーベルト ⑤ を通します。

▶ テザーフック ④ をテザーアンカー ③ にかけます。

▶ テザーベルト ⑤ がねじれていないことを確認します。

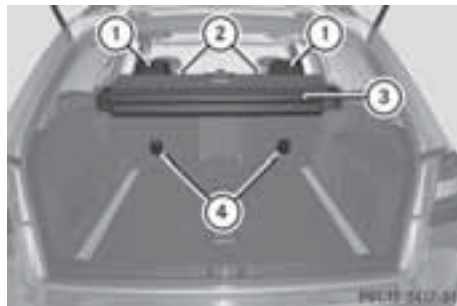
▶ テザーアンカー ③ のカバー ② を閉じます。

▶ 必要であれば、ヘッドレスト ① を少し下げます。

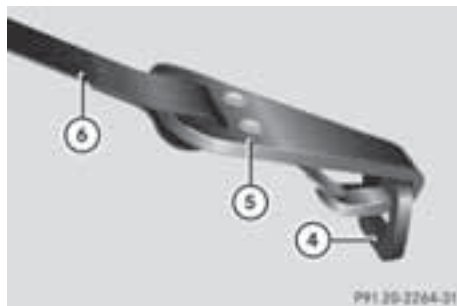
テザーベルト ⑤ の動きが妨げられていないことを確認してください。

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、テザーベルトと ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付けます。また、テザーベルト ⑤ が締め付けられていることを確認します。

ステーションワゴン

テザーアンカーはリアシートバックレストの背面にあります。

▶ ヘッドレスト ① を上げます。

▶ ラゲッジルームカバー収納リール ③ を取り外します（▷307 ページ）。

▶ ヘッドレスト ① の 2 本の支柱の間にテザーベルト ⑥ を通します。

▶ テザーフック ⑤ をリアシートバックレスト ② 背面のテザーアンカー ④ にかけます。

▶ テザーベルト ⑥ がねじれていないことを確認します。

▶ 必要であれば、ヘッドレスト ① を少し下げます（▷105 ページ）。

テザーベルト ⑥ の動きが妨げられていないことを確認してください。

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、テザーベルトと ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付けます。また、テザーベルト ⑥ が締め付けられていることを確認します。

▶ ラゲッジルームカバー収納リール ③ を取り付けます（▷307 ページ）。

チャイルドセーフティシート検知システムのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 イグニッション位置を **2** にしたときに、SRS 警告灯 [警告灯] が点灯するか、助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が短時間点灯しない。あるいは、SRS 警告灯 [警告灯] が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が短時間点灯しない。 ▶ 助手席シートに以下のものを置いているときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード 電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯しているとき： ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

装着できる ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置には、カテゴリーⅠのサイズ等級 A、B または B1 に属している、ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着できます。

詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ チャイルドセーフティシートのカテゴリーやサイズ等級については、チャイルドセーフティシート本体に貼付されているステッカーやチャイルドセーフティシートの取扱説明書をご覧ください。

<table>
<tr><th>カテゴリー
（適応体重）</th><th>サイズ等級
（装着器具タイプ）</th><th></th></tr>
<tr><td>キャリコット
（携帯式ベッド）</td><td>G（ISO/L2）
F（ISO/L1）</td><td>装着することはできません。</td></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>E（ISO/R1）</td><td rowspan="3">ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であっても、固定装置で装着することはできません。</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>C（ISO/R3）
D（ISO/R2）
E（ISO/R1）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ
（9 ～ 18kg）</td><td>C（ISO/R3）
D（ISO/R2）</td></tr>
<tr><td>A（ISO/F3）
B（ISO/F2）
B1（ISO/F2X）</td><td>ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であれば、固定装置で装着することができます。</td></tr>
</table>

チャイルドプルーフロック

⚠ **警告**

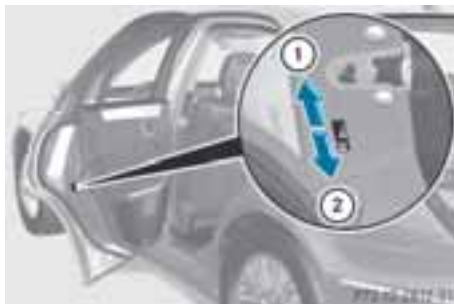
子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

⚠ **警告**

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ 設定するときは、レバーを設定側①に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、チャイルドプルーフロックが設定されていることを確認します。

▶ 解除するときは、レバーを解除側②に操作します。

ℹ チャイルドプルーフロックが設定されていても、車が解錠されているときは、車外のドアハンドルでリアドアを開くことができます。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

左ハンドル車

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの操作ができなくなります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに設定できます。

▶ スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯 / 消灯します。

表示灯 ① が点灯しているときは、運転席ドアのスイッチのみでリアドアウインドウを操作できます。

ⓘ 表示灯の点灯 / 消灯にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、チャイルドプルーフロックの設定は記憶されます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- BAS プラス（ブレーキアシスト・プラス）*
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ
- PRE-SAFE® ブレーキ *

安全上の重要事項

⚠ **警 告**

スピードの出しすぎなどの無謀な運転をすると、事故の危険性が非常に高まります。カーブを走行するときや、濡れた路面または滑りやすい路面を走行するとき、先行車との車間距離が短すぎるときなどは、特に危険です。

本書に記載されている走行安全装備は事故の危険性を低減するものではありません。また、各システムの機能には物理的な限界があります。

運転者は、路面や天候の状況に合わせて常に慎重に運転してください。周囲の交通状況に注意しながら、十分な車間距離を確保してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行安全装備は、タイヤが路面に十分接地しているときにのみ、十分な効果を発揮します。タイヤに関する情報やタイヤの摩耗については「タイヤとホイール」をご覧ください (▷349 ページ)。

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ 警 告

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

ブレーキ操作をする

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。

ABS が作動したとき

▶ 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なとき

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

⚠ **警告**

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

ⓘ エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

ⓘ バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると､機能も元に戻ります。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

ABS により、車輪のロックが抑えられます。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ **警告**

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ⓘ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ⓘ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

BAS プラス（ブレーキアシスト・プラス）*

> ⚠ **警 告**
>
> 電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

BAS プラスは、ディストロニック・プラスを装備した車両でのみ使用可能です。

ⓘ 「安全上の重要事項」の項目をご覧ください（▷58 ページ）。

BAS プラスは、7km/h 以上の速度での危険な状況で、レーダーセンサー技術を使用して交通状況を判断し、ブレーキ操作の補助を行ないます。

レーダーセンサーシステムの補助により、BAS プラスは一定時間車両の進路上にある障害物を検知することができます。

約 70km/h 以下の速度では、BAS プラスは停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知します。

障害物に接近していて、BAS プラスが衝突の危険性を検知したとき、BAS プラスは追突を防ぐために必要な制動力を算出します。

・**30km/h 以上の速度で走行しているとき**：急激にブレーキペダルを踏むと、BAS プラスは交通状況に合わせて制動圧力を上げます。

・**30km/h 以下の速度で走行しているとき**：ブレーキペダルを踏むと、BAS プラスが作動し、ブレーキは効き続けます。

特に高い制動力が必要と BAS プラスが判断したときは、PRE-SAFE® も同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキの必要性がなくなるまでブレーキペダルを踏み続けます。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下のときは、ブレーキは再度通常通り作動するようになります。

- ブレーキペダルから足を放したとき
- 追突の危険性がなくなったとき
- 車両前方に障害物が検知されなくなったとき

その後、BAS プラスは解除されます。

走行中の BAS プラスの補助のためには、レーダーセンサーシステムが設定されていなければなりません。詳しくは（▷203 ページ）をご覧ください。

> ⚠ **警 告**
>
> BAS プラスは常に障害物や複雑な交通状況を認識できるわけではありません。状況によっては、BAS プラスは介入することができません。事故の危険性があります。常に交通状況に十分注意し、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

以下のときは特に、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- センサーに汚れがあるときやカバーが覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- バイクなど、幅の狭い車両が前方を走行しているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

⚠ **警 告**

BAS プラスは以下には反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- カーブを走行しているとき

結果として、危険な状況で BAS プラスが介入を行なわないことがあります。事故の危険性があります。常に交通状況に十分注意し、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。

フロントバンパーを損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行ってください。低速で衝突し、フロントバンパーに外見上の損傷がないときも、このことに該当しますので注意してください。

レーダーセンサーシステムの故障で BAS プラスが使用できないときも、ブレーキシステムは、最大制動力まで BAS とともに使用できます。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々のタイヤに独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ESP® 表示灯 が点滅したときは、ESP® が作動しています。

ESP® 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 警告

ESP® 表示灯 が点滅したときは、以下のようにしてください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
- 路面と天候の状況に合わせて運転してください。

車輪が空転したり、車が横滑りするおそれがあります。

⚠ 警告

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! 以下のときはイグニッション位置を **0** にしてください。

- ダイナモメーターを使用して、パーキングブレーキの検査を行なうとき
- 前輪または後輪を上げてけん引されるとき

ESP® によりブレーキが作動し、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! 4MATIC 装備車は、前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示され、、ESP® 表示灯 や ESP® オフ表示灯 、ABS 警告灯 が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

ABS が故障して ABS 警告灯 [ABS] が点灯しているときは、ESP® の機能も解除されています。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したままになります）。

ETS

ETS は、ESP® の機能の一部です。

ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときに、駆動輪にブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

ESP® の機能が解除されている場合でも、ETS の機能は解除されません。

⚠ 警告

ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。

ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP® の機能の解除（E 63 AMG を除く車種）

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ECO スタート / ストップ装備車は、車両が停止したときにエンジンが自動的に停止します。発進するとエンジンは再始動します。このとき、ESP® の機能はエンジン停止前の状態が維持されます。例えば、ECO スタート / ストップによりエンジンが停止する前に ESP® の機能を解除していたときは、再始動しても ESP® の機能は解除されたままになります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ 警告

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯 [ESP] が点滅しますが、ESP® は作動しません。

⚠ **警 告**

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

ESP® の機能を解除する

▶ マルチファンクションディスプレイで ESP® の機能を解除します (▷192 ページ)。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯します。

ESP® を待機状態にする

▶ マルチファンクションディスプレイで ESP® の機能を設定します (▷192 ページ)。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が消灯します。

[ESP OFF] ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ **警 告**

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。ESP® 表示灯 [ESP] と ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯しているときは、故障のため、ESP® の機能が解除されています。

特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。

路面と天候の状況に合わせて運転してください。

スポーツハンドリングモード、ESP® の機能の設定 / 解除（E 63 AMG）

スポーツハンドリングモードの設定 / 解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ECO スタート / ストップにより、車両が停止したときにエンジンが自動的に停止します。発進するとエンジンは再始動します。このとき、ESP® の機能はエンジン停止前の状態が維持されます。例えば、ECO スタート / ストップによりエンジンが停止する前に ESP® の機能を解除していたときは、再始動しても ESP® の機能は解除されたままになります。

次のような状況では、スポーツハンドリングモードにしたほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

上記以外では、サーキットなどでスポーツ走行を行なうときに使用することができます。

警告

スポーツハンドリングモードにする必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。スポーツハンドリングモードでは ESP® の作動内容が制限されるため、車が不安定な状況になったときは、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになります。

スポーツハンドリングモードにしたときは以下のような状態になります。

- ESP® の作動内容が制限されるため、車両操縦性と走行安定性の確保は限られたものになります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを強く効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

スポーツハンドリングモードにしているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯 [ESP] が点滅しますが、ESP® は制限された内容で作動し、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになります。

左ハンドル車

スポーツハンドリングモードにする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルのスポーツハンドリングモード表示灯 SPORT が点灯し、マルチファンクションディスプレイに "SPORT handling mode" と表示されます。

マルチファンクションディスプレイの表示を "SPORT handling mode" から他の表示に切り替えるときは、ステアリングスイッチの [↩] または [OK] を押します。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルのスポーツハンドリングモード表示灯 [SPORT] が消灯します。

ESP® の設定 / 解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ECO スタート / ストップにより、車両が停止したときにエンジンが自動的に停止します。発進するとエンジンは再始動します。このとき、ESP® の機能はエンジン停止前の状態が維持されます。例えば、ECO スタート / ストップによりエンジンが停止する前に ESP® の機能を解除していたときは、再始動しても ESP® の機能は解除されたままになります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

警告

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を高めることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。この空転により、駆動力を向上させることができます。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- PRE-SAFE® の機能が解除されます。
- ブレーキを強く効かせたときは ESP® が自動的に作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤが空転したり横滑りをしても、ESP® 表示灯 [ ] は点滅せず、ESP® も作動しません。

⚠ 警告

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

左ハンドル車

ESP® の機能を解除する

▶ メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯するまで、ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押して保持します。

マルチファンクションディスプレイに " OFF" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイの表示を " OFF" から他の表示に切り替えるときは、ステアリングスイッチの [↩] または [OK] を押します。

[OFF] ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 警告

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。ESP® 表示灯 [ ] と ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、故障のため、ESP® の機能が解除されています。

特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。

路面と天候の状況に合わせて運転してください。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯し、マルチファンクションディスプレイに数秒間 " ON" と表示されます。

EBD

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を検知・制御し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

⚠ **警告**

EBDに異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の快適性と安全性を高めるシステムです。

アダプティブブレーキには、ホールド機能（▷229 ページ）とヒルスタートアシスト機能（▷154 ページ）も含まれます。

PRE-SAFE® ブレーキ *

⚠ **警告**

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラスを装備した車両でのみ使用可能です。

ℹ「安全上の重要事項」の項目をご覧ください（▷58 ページ）。

PRE-SAFE® ブレーキは、前方にいる車両へ衝突する危険性を最小限にしたり、衝突の際の影響を減らすための補助を行ないます。PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険性を検知したときは、自動ブレーキの作動とともに、警告灯および警告音により運転者に警告します。PRE-SAFE® ブレーキは、自動的に衝突を防ぐシステムではありません。

本機能は以下のような警告を行ないます。

- 速度が約 30km/h 以上で、前方を走行している車両との距離が数秒間にわたって不十分なままのとき

  このときは、メーターパネルの距離警告灯 [警告灯] が点灯します。
- 速度が約 7km/h 以上で、前方にいる車両に急速に接近しているとき

  このときは、断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯 [警告灯] が点灯します。

▶ 前方の車両との車間距離を増やすため、ただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全な状況であれば、回避操作を行なってください。

速度が約 7km/h 以上で、運転者および助手席の乗員がシートベルトを着用しているときは、約 200km/h までの速度で、PRE-SAFE® ブレーキは自動的に車両にブレーキを効かせます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

特に複雑な走行状況では、不必要なPRE-SAFE® ブレーキの警告や介入が発生する可能性があります。その場合、アクセルペダルを踏み込みキックダウンさせるか、ブレーキペダルから足を放すことで不必要な警告や介入を解除することができます。

PRE-SAFE® ブレーキのブレーキ操作は、以下のときに終了します。

- 障害物を回避する操作を行なったとき
- 追突の危険性がなくなったとき
- 自車の前方に障害物が検知されなくなったとき

レーダーシステムの補助により、PRE-SAFE® ブレーキは、一定時間自車の前方にある障害物を検知することができます。

約 70km/h までの速度では、PRE-SAFE® ブレーキは停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知できます。

障害物に接近していて、PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険性を検知したときは、まず警告灯および警告音により運転者に警告します。運転者がブレーキや回避操作を行なわなかったときは、システムは車両に自動的に軽くブレーキを効かせることで、運転者に警告を行ないます。衝突の危険性が高まったときは、PRE-SAFE® が作動します。衝突の危険性が残り、運転者がブレーキや回避操作、または急加速を行なわないときは、自動緊急ブレーキの強さまでのブレーキ操作が自動で行なわれます。可避できない事故の直前までは、自動緊急ブレーキは行なわれません。

⚠ 警 告

差し迫った衝突の前に PRE-SAFE® ブレーキが車両の速度を下げたときでも、運転者が回避操作を行なわないときは、システムでは衝突を回避することはできません。事故の危険性があります。状況に応じてブレーキを効かせるか、回避操作を行なってください。運転者の回避操作が遅れたときは、事故につながります。

⚠ 警 告

PRE-SAFE® ブレーキは常に障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるわけではありません。

そのようなとき、PRE-SAFE® ブレーキは：

- 不必要な警告と自動ブレーキを作動させる場合があります。
- 警告と自動ブレーキを作動させない場合があります。

事故の危険性があります。常に交通状況に注意して、特に PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。危険な状況でない場合には、自動ブレーキの作動を解除してください。

以下のときは特に、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- カバーが汚れているときやセンサーが覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- バイクなどの幅の狭い車両が前方を走行しているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

⚠ **警 告**

PRE-SAFE® ブレーキは、以下の物には反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- カーブを走行しているとき

結果として、危険な状況で PRE-SAFE® ブレーキが警告や自動ブレーキを作動させないことがあります。事故の危険性があります。常に交通状況に注意して、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。

前方の車両との適切な距離を維持し、衝突を防ぐために、運転者自身がブレーキを効かせてください。

PRE-SAFE® ブレーキを設定する / 解除する

▶ マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキの設定 / 解除を行ないます。

ホールド機能（▷229 ページ）が作動していないときは、マルチファンクションディスプレイ下部に ⊡ マークが表示されます。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

走行中の PRE-SAFE® ブレーキの補助のためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、作動していなければなりません。

フロントバンパーを損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行ってください。低速で衝突し、フロントバンパーに外見上の損傷がないときも、このことに該当しますので注意してください。

盗難防止システム *

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させないようにする機能です。

キーによりイモビライザーを作動させる

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

キーレスゴー * によりイモビライザーを作動させる

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

イモビライザーを解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

- ドアが開けられたとき
- トランクまたはテールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、車を施錠したあと、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアやトランクまたはテールゲートを解錠し、開いたときも作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

表示灯 ① が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

システムを解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報を停止する

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーレスゴー * による操作

▶ キーが左右側アンテナまたはテールゲート側アンテナの検知範囲（▷81 ページ）にあるときは、キーがある側のドアハンドルの裏側に触れるか、テールゲートのハンドルを引きます。

または

▶ キーがトランク側アンテナの検知範囲（▷81 ページ）にあるときは、キーがある側のドアハンドルの裏側に触れるか、トランクのハンドルを引きます。

または

▶ キーが車室内アンテナの検知範囲（▷81 ページ）にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

i ドアやトランクまたはテールゲートが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

i システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。

i システムが待機状態のときに車内からドアやテールゲートを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

けん引防止機能

車を施錠して、けん引防止機能を待機状態にしたときは、車両の傾きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、けん引やジャッキアップなどにより車両が持ち上げられたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

けん引防止機能が自動的に解除されます。

けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ けん引防止機能解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点灯し、その後消灯します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作を行なうまで解除されたままになります。

- 車を解錠する
- ドアを開閉する
- 車を施錠する

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウが完全に閉じていること
- スライディングルーフ *、パノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

室内センサーが自動的に解除されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき
- スライディンググルーフ *、パノラミックスライディンググルーフ * を少し開いた状態で車から離れるとき

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ 室内センサー解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点滅し、その後消灯します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

室内センサーが解除されます。

室内センサーは、以下の操作を行なうまで解除されたままになります。

- 車を解錠する
- ドアを開閉する
- 車を施錠する

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキー（▷411 ページ）を収納しています。

⚠ 警告

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチ * を押すことにより、エンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコン機能に障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作 * を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ キーの電池が消耗すると、キーのいずれかのボタンを押したときにキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作 * ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

① 施錠ボタン
② トランクオープナーボタン / テールゲートオープナーボタン
③ 解錠ボタン

イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- トランクまたはテールゲートを開く
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷146、147 ページ）

操作時にキーの表示灯が 1 回点滅します。

ⓘ バッテリーの電圧が低下したときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

解錠する

▶ 解錠ボタン ③ を押します。

ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷72 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、仕様により確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

トランクが独立施錠（▷93 ページ）されているときは、解錠ボタン ③ を押してもトランクは解錠されません。

施錠する

▶ 施錠ボタン ① を押します。

ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷72 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されないことがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

トランクまたはテールゲートを開く

▶ トランクまたはテールゲートが開きはじめるまで、トランクオープナーボタン / テールゲートオープナーボタン ② を約 2 秒間押し続けます。

ℹ トランクが独立施錠（▷93 ページ）されているときは、トランクオープナーボタン ② を押してもトランクは開きません。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するように設定できます。

▶ 解錠ボタン ③ と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン ③ を 1 回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、盗難防止警報システム（▷72 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

  また、アンサーバック機能を設定しているときは、仕様により確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン ③ を押すと、助手席ドア、リアドア、トランクまたはテールゲートが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

  また、アンサーバック機能を設定しているときは、仕様により確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

初期設定に戻す

▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、解錠ボタン ③ と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

ℹ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクまたはテールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチ * を押す
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- LED ドライビングライト
- テールランプ
- ライセンスライト
- ドアミラー下部のライト *

点灯したライトは以下のときに消灯します。

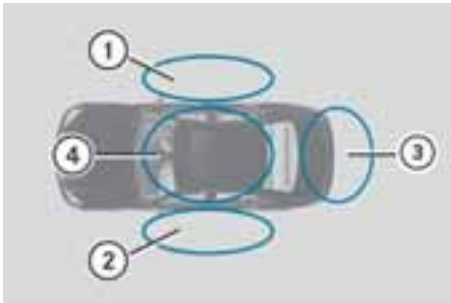
- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- キーレスゴースイッチ * でイグニッション位置を **1** にしたとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき

この機能の設定と解除については（▷201 ページ）をご覧ください。

キーレスゴー *

セダン
① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ トランク / テールゲート側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことができます。

キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときは、キーとドアハンドルまたはトランク / テールゲートとの距離は約 1m 以内にしてください。

ℹ エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、キーレスゴー操作を行なうことはできません。

ℹ エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナまたはトランク / テールゲート側アンテナの検知範囲にあるとき

- ドアハンドルに触れると、車の施錠 / 解錠ができます。
- トランクまたはテールゲートのハンドルを引くと、トランクまたはテールゲートのみを解錠して開くことができます。
- トランクまたはテールゲートのキーレスゴースイッチ * を押して、トランクまたはテールゲートを閉じて車を施錠することができます。

ℹ キーが左右反対側のアンテナの検知範囲にあるときは、ドアハンドルに触れても、車を施錠 / 解錠できないことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷99 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷152 ページ）。

ℹ ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、それ以外の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことによりエンジンが始動することがあり、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠 / 施錠しないことがあります。

! キーが左右側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

i キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

i 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドル表面のセンサーの機能が自動的に解除されます。ドアハンドルを引いてドアを解錠してからイグニッション位置を **2** にして、センサーを待機状態にしてください。

i キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、キーレスゴー操作を行なうことができます。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷72 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、仕様により確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

トランクが独立施錠（▷93 ページ）されているときは、ドアハンドルの裏側に触れてもトランクは解錠されません。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されないことがあります。

i 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクまたはテールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

解錠時の設定の切り替え

① 施錠ボタン
② 解錠ボタン

運転席ドアハンドルの裏側に触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 施錠ボタン ① と解錠ボタン ② を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

▶ 運転席ドアハンドルの裏側に触れます。

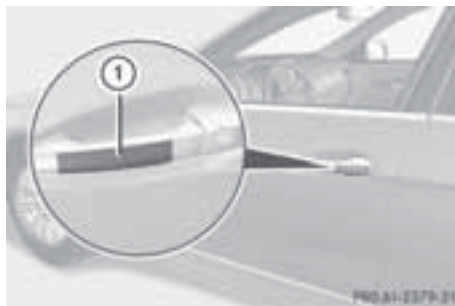
運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷72 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、仕様により確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

初期設定に戻す

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

i 設定を切り替えたときも、運転席以外のドアのドアハンドルの裏側に触れたり、トランクまたはテールゲートのハンドルを引くことで、ドアやトランクまたはテールゲートを解錠することができます。

施錠する

左フロントドア

▶ ドアハンドルの施錠操作部 ① に触れます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されないことがあります。

または

セダン
※スイッチの絵柄は予告なく変更されることがあります。

▶ トランクまたはテールゲートのキーレスゴースイッチ *② を押します。

トランクまたはテールゲートが閉じます。

ドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷72 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが左右側アンテナまたはトランク / テールゲート側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときは、ドアハンドルの施錠操作部かトランクまたはテールゲートのキーレスゴースイッチを押すことで施錠できます。

ただし、キーが左右反対側のアンテナの検知範囲にあるときは、ドアハンドルの施錠操作部に触れても、施錠できないことがあります。

トランクまたはテールゲートを解錠して開く

▶ トランクまたはテールゲートのハンドルを引きます。

トランクまたはテールゲートのみが解錠されて開きます。

! トランクまたはテールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

アンサーバック機能

アンサーバック機能を設定しているときは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を解錠 / 施錠したときに、仕様により以下のように確認音が鳴ります。

- 車両を施錠したときに、確認音が 1 回鳴ります。

または

- 車両を解錠したときに確認音が 1 回鳴り、車両を施錠したときに確認音が 3 回鳴ります。

この機能の設定と解除については（▷203 ページ）をご覧ください。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されないことがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーのトラブル

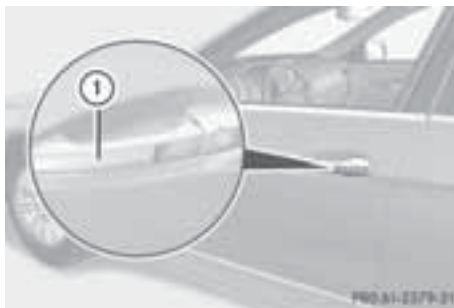
トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください(▷411、412 ページ)。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で解錠 / 施錠できない。	長い時間キーレスゴーで解錠しなかったため、キーレスゴーの機能が停止している。 ▶ ドアハンドルを引いて、キーをエンジンスイッチに差し込み、**2** の位置にしてください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください(▷411、412 ページ)。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷437 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
キーが車内にある状態で、キーレスゴースイッチを押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

⚠ **警告**

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

車外からのドアの開閉

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ 助手席ドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

車内からのドアの開閉

開く

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

ⓘ 車が施錠されているときも、車内のドアレバーを引くとドアを開くことができます。

ただし、リアドアのチャイルドプルーフロックが設定されているときは、車内のドアレバーを引いてもリアドアを開くことはできません。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ **警 告**

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアごとの解錠 / 施錠

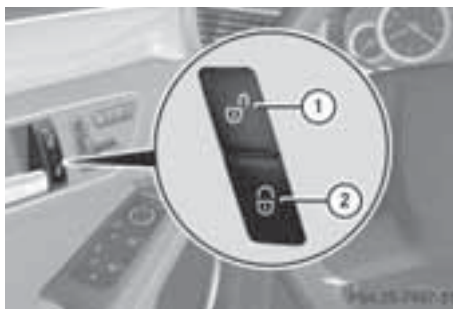
解錠する

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ ① を押し込みます。

ドアロックスイッチ

すべてのドアとトランクまたはテールゲートを解錠 / 施錠できます。

燃料給油フラップの解錠 / 施錠はできません。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）① を押します。

ロックノブが上がります。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）② を押します。

ロックノブが下がります。

ⓘ 次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ⓘ 運転席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチで運転席以外のドアとトランクまたはテールゲートの解錠 / 施錠ができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ トランクが独立施錠されているときは、ドアロックスイッチでトランクを解錠することはできません。

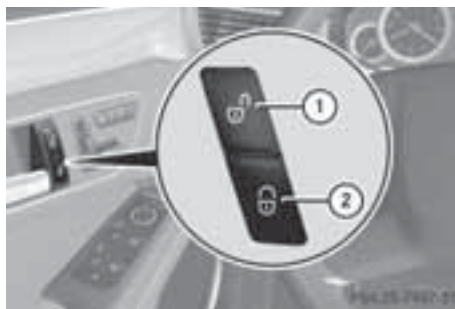
車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクまたはテールゲートを自動的に施錠します。

❗ 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押すときやタイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターでパーキングブレーキをテストするときなどは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

ℹ 車速感応ドアロックで施錠されているときも、車内のドアレバーを引いてドアを解錠して開くことができます。

ℹ 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

車速感応ドアロックの設定 / 解除

車速感応ドアロックを設定する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）② を約 5 秒間押して保持します。

車速感応ドアロックが設定され、確認音が鳴ります。

車速感応ドアロックを解除する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）① を約 5 秒間押して保持します。

車速感応ドアロックが解除され、確認音が鳴ります。

ℹ ドアロックスイッチを押して保持しても確認音が鳴らないときは、その設定がすでに選択されています。

車速感応ドアロックはマルチファンクションディスプレイでも設定 / 解除できます（▷203 ページ）。

トランク / テールゲート

トランク

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **警 告**

トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! トランク内には乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

! 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。

! トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

トランクをいっぱいまで開いたときの高さについては（▷458 ページ）をご覧ください。

! 強風のときにトランクを開くと、風にあおられ、トランクが不意に下がるおそれがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。

! 車が施錠されているときにリモコン操作やキーレスゴー操作 *、エマージェンシーキーなどでトランクを開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! トランクの中にキーを残したままにしないでください。トランクが施錠されるとキーが取り出せなくなります。

ⓘ トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ⓘ 車が施錠されているときは、キーのトランクオープナーボタンを押すとトランクだけが解錠されて開きます。

ⓘ 車が施錠されているときにトランクのみを解錠して開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。このとき、非常点滅灯が 3 回点滅します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 車が施錠されているときも、キーがキーレスゴー * の左右側アンテナまたはトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクハンドルを引くと、トランクだけが解錠されて開きます。その状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

ℹ トランクが独立施錠されているときは、トランクのハンドルを引くか、トランクオープナースイッチ / トランクスイッチを引いたり、キーのトランクオープナーボタンを押してもトランクは開きません。

自動開閉トランクリッド非装備車

車外からトランクを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ ハンドル ① を手前に引きます。

または

▶ トランクが開きはじめるまで、キーのトランクオープナーボタン（▷79 ページ）を押し続けます。

トランクが開きます。

車外からトランクを閉じる

▶ 凹部 ② に手をかけてトランクを引き下げます。

▶ 外側からトランクを軽く押さえます。

▶ 必要であれば、車を施錠します（▷79、83 ページ）。

車内からトランクを開く

左ハンドル車

停車しているときは、運転席ドアのスイッチでトランクを開くことができます。

▶ トランクが開きはじめるまでトランクオープナースイッチ ① を引き続けます。

トランクが開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

自動開閉トランクリッド装備車

⚠ 警告

トランクを開閉するときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。開閉操作を停止するときは、トランククローザースイッチを押すか、トランク外側のハンドルを手前に引いてください。

ℹ トランクが閉じているときに身体や荷物などと接触すると、トランクの動きが停止して、自動で開きます。

ℹ 走行中は、トランクを開閉することはできません。

ℹ トランクが自動で閉じているときやトランクスイッチを押し続けてトランクを閉じているときは、以下の操作を行なうとトランクの作動が停止して全開します。

- トランククローザースイッチを押す
- トランクのキーレスゴースイッチを押す
- キーのトランクオープナーボタンを押す
- トランクハンドルを引く
- トランクスイッチを操作する

ℹ 開閉操作を繰り返すと、トランクが一時的に開閉しなくなることがあります。

車外からトランクを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ ハンドル ① を手前に引きます。

または

▶ トランクが開きはじめるまで、キーのトランクオープナーボタン（▷79ページ）を押し続けます。

トランクが自動で開きます。

車外からトランクを閉じる

※ スイッチの絵柄は、予告なく変更されることがあります。

▶ トランククローザースイッチ ① を押します。

トランクが自動で閉じます。

トランクを閉じて車を施錠する

▶ キーレスゴースイッチ ② を押します。

トランクが自動で閉じ、ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷72 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーがトランク内にあるときは、キーレスゴースイッチ ② を押しても、トランクは施錠されません。

車内からトランクを開く

左ハンドル車

> ⚠ **警 告**
>
> トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。トランクスイッチから指を放すと、トランクは全開します。

車両が停止していて解錠されているときは、運転席ドアのスイッチでトランクを開閉できます。

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクスイッチ ① を引き続けます。

トランクが自動で開きます。

車内からトランクを閉じる

▶ トランクスイッチ ① を押し続けます。

押している間、トランクが閉じます。

トランクの独立施錠

車の解錠 / 施錠に関わらず、トランクを独立して施錠できます。

トランクを独立施錠しているときは、トランクを開くことはできません。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ トランクのキーシリンダーにエマージェンシーキー（▷411 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠位置 2 にまわします。

▶ キーシリンダーからエマージェンシーキーを抜きます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されないことがあります。

! トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

i 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

独立施錠を解除する

▶ トランクのキーシリンダーにエマージェンシーキー（▷411 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠解除位置 1 にまわします。

▶ キーシリンダーからエマージェンシーキーを抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

テールゲート（ステーションワゴン）

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **警 告**

- テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触して、けがをするおそれがあります。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

⚠ **警 告**

- テールゲートが開閉しているときに、身体や物が挟まれそうになったり、接触しそうになったときは、ただちに以下のいずれかの操作を行なってください。テールゲートの作動が停止します。
  ◇ テールゲートハンドルを引く
  ◇ キーのテールゲートオープナーボタンを押す
  ◇ 運転席ドアのテールゲートスイッチを押す
  ◇ テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
  ◇ テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す
- ラゲッジルームに乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

  子供などがラゲッジルームに閉じ込められないように注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

テールゲートをいっぱいまで開いたときの高さについては（▷458 ページ）をご覧ください。

! 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられて、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

! ラゲッジルームの中にキーを残したままにしないでください。テールゲートが施錠されるとキーが取り出せなくなります。

i テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

i 走行中はテールゲートスイッチでテールゲートを開閉することはできません。

i テールゲートが開閉しているときに障害物などとの接触を検知すると、開いているときはテールゲートはその位置で停止し、閉じているときは停止した後に自動で開きます。

i テールゲートの解錠は停車しているときのみ可能です。

車外からテールゲートを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

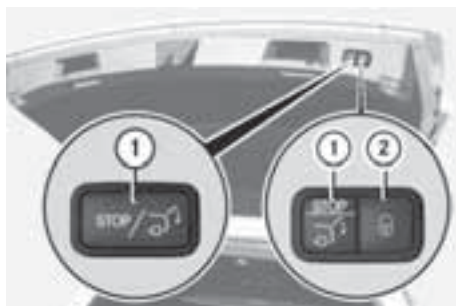
▶ テールゲートハンドル ① を手前に引いて、手を放します。

テールゲートが自動で開きます。

または

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲートオープナーボタン（▷79 ページ）を押し続けます。

テールゲートが自動で開きます。

車外からテールゲートを閉じる / 車を施錠する

左円：キーレスゴー非装備車
右円：キーレスゴー装備車

※ スイッチの絵柄は、予告なく変更されることがあります。

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートクローザースイッチ ① を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

車を施錠する

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ *② を押します。

テールゲートが自動で閉じ、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷72 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷84 ページ）。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

車内からテールゲートを開閉する

左ハンドル車

⚠ **警 告**

テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。テールゲートスイッチから指を放すと、テールゲートは停止します。

車両が停止していて解錠されているときは、運転席ドアのスイッチでテールゲートを開閉できます。

テールゲートを開く

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲートスイッチ ① を引き続けます。

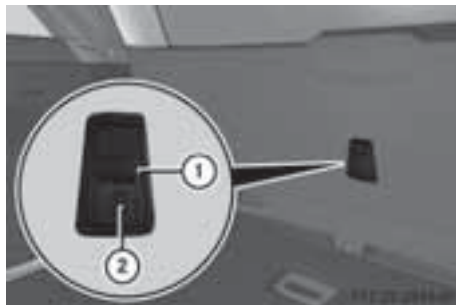
テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときに、テールゲートスイッチ ① を押し続けます。

押している間、テールゲートが閉じます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されないことがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

車内からテールゲートを開く（フロア格納式サードシート装備車）

テールゲート裏側

テールゲートの解錠

▶ ノブ ② を右側に動かします。

テールゲートを開く

▶ ハンドル ① の上側を引きます。

▶ テールゲートを上方に開きます。

テールゲートの施錠

▶ ノブ ② を左側に動かします。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、接触するおそれがないことを確認してください。

テールゲートをいっぱいまで開いたときの高さについては（▷458 ページ）をご覧ください。

テールゲートの開口角度の設定

テールゲートの開口角度を設定できます。約半分ほど開いた位置から全開位置の約 20cm 下の間で設定できます。

! テールゲートの開口角度を設定するときは、テールゲートが全開しても十分な空間があることを確認してください。テールゲートを損傷するおそれがあります。開口角度の設定は、できるだけ屋外で行なってください。

開口角度を設定する

▶ テールゲートが開閉しているときに、以下のいずれかの操作を行なって、設定したい角度でテールゲートを停止させます。

- テールゲートハンドルを引く
- キーのテールゲートオープナーボタンを押す
- 運転席ドアのテールゲートスイッチを操作する
- テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す

▶ 確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。

次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

開口角度の設定を解除する

▶ 確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度の設定が解除されます。

ℹ 設定した開口角度で停止した後にテールゲートハンドルを引くと、テールゲートは全開します。

ℹ テールゲートの角度によっては、その開口角度に設定できないことがあります。

イグニッション位置

⚠ 警 告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

キーによるイグニッション位置の選択

左ハンドル車

イグニッション位置を選択する

▶ エンジンスイッチに差し込んだキーをまわします。

以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
0	0：キーを差し込む / 抜く位置
1	1：イグニッション位置が 1 になります。
2	2：イグニッション位置が 2 になります。
3	3：エンジンが始動します。

エンジンスイッチからキーを抜かずに 0 の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。また、ステアリングがロックされます。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。

! バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

i キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

i 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがありますが、エンジンスイッチの位置の選択や、エンジンの始動はできません。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択（キーレスゴー装備車）

左ハンドル車

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ ① を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ ① を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ ① を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	0 から 1 になります。
さらに 1 回押す	1 から 2 になります。
さらに 1 回押す	2 から 0 になります。

ℹ イグニッション位置が **1** のときに、運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ ① を押します。

❗ ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

ℹ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに " キーを認識できません " または " スタートボタンを外し キーを入れてください " と表示されます。

キーレスゴースイッチの取り外し

左ハンドル車

キーレスゴースイッチ ① を取り外し、エンジンスイッチ ② にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置を選択できます。

ℹ キーレスゴースイッチは、通常は駐車時でも取り外す必要はありません。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ℹ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けてから約 2 秒間は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができません。

シート

⚠ **警告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもシート位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

運転席シートの調整は、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。特に子供は、シート調整スイッチを不用意に操作してけがをするおそれがあるため、以下のことに注意してください。

- シートを調整している間は、シートの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シートの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

⚠ **警告**

シートを調整するときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。また、エアバッグに関する注意もご覧ください。

子供を乗せるときは、（▷48 ページ）をご覧ください。

⚠ **警告**

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストの中央部に支えられていることを確認してください。後頭部がヘッドレストに正しく支えられていないと、事故などのときに、首に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが正しい位置に調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ **警告**

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い状態で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

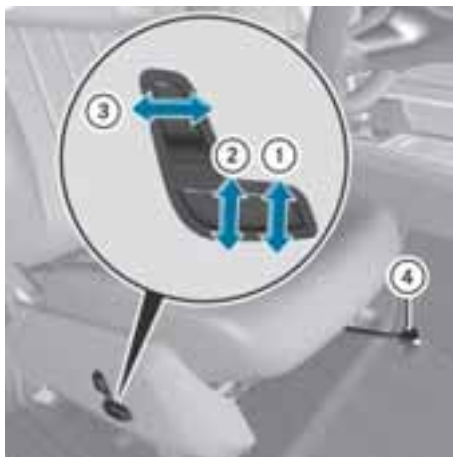
! シートやシートヒーター * の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートは定期的に清掃することをお勧めします。「日常の手入れ」をご覧ください（▷369 ページ）。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフや工具などの鋭利な物を置かないでください。シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、毛布やコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

! シートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときはリアシートと接触しないように注意してください。シートやシートバックポケットの収納物を損傷するおそれがあります。

i フロントシートのヘッドレストには、NECK PRO アクティブヘッドレストを装備しているため、ヘッドレストを取り外すことはできません。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

フロントシートの調整（4 ウェイパワーシート）

右側シートのスイッチ

シートクッションの角度の調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ① の方向に操作して調整します。

シートの高さの調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ② の方向に操作して調整します。

バックレストの角度の調整

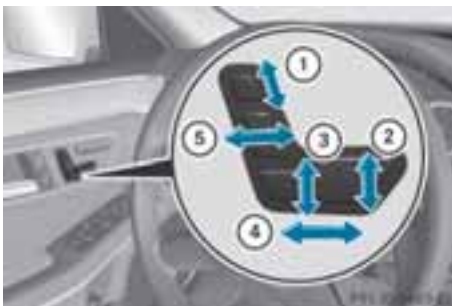
▶ シート調整スイッチを矢印 ③ の方向に操作して調整します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートの前後位置の調整

▶ レバー ④ を引き上げながらシートを前後に動かして調整します。

▶ レバー ④ を放して、シートがロックされたことを確認します。

フロントシートの調整（メモリー付パワーシート）

左側シートのスイッチ

シートの前後位置の調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ④ の方向に操作して調整します。

シートの前後位置の調整に連動して、ヘッドレストの高さも自動的に調整されます。

シートの高さの調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ③ の方向に操作して調整します。

シートクッションの角度の調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ② の方向に操作して調整します。

バックレストの角度の調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ⑤ の方向に操作して調整します。

フロントヘッドレストの調整

手動式ヘッドレストの高さの調整

リアエンターテインメントシステム非装備車

リアエンターテインメントシステム装備車

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン ① を押しながらヘッドレストを押し下げます。

電動式ヘッドレストの高さの調整

▶ シート調整スイッチを矢印 ① の方向（▷103 ページ）に操作して調整します。

ヘッドレストの角度の調整

▶ ヘッドレストの下部を持って矢印の方向に動かします。

ラグジュアリーヘッドレスト * の調整

ヘッドレストの前後位置を調整する

▶ ヘッドレストのクッション部を矢印 ② の方向に動かします。

サイドクッションの位置を調整する

▶ サイドクッションを矢印 ① の方向に動かします。

左右のサイドクッションを独立して調整できます。

> ⚠ **警 告**
>
> サイドクッションを広げるときは、サイドクッション後端部に指をかけないでください。指を挟むおそれがあります。

リアヘッドレストの調整

フロントからヘッドレストを下げる

▶ リアヘッドレスト下降スイッチ ① を押します。

ヘッドレストが下がります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアヘッドレストの高さの調整

セダンの分割可倒式リアシート装備車は、左右のヘッドレストの高さを調整できます。

ステーションワゴンおよびセダンの分割可倒式リアシート非装備車は、左右および中央のヘッドレストの高さを調整できます。

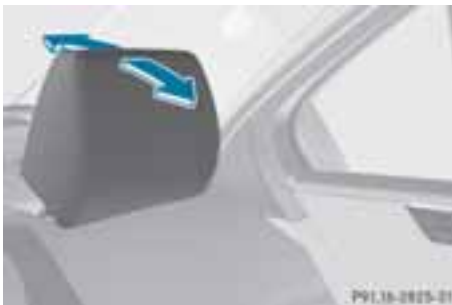
ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン ① を押しながらヘッドレストを押し下げます。

リアヘッドレストの角度の調整

左右のヘッドレストは角度を調整できます。

▶ ヘッドレストを動かして角度を調整します。

リアヘッドレストの脱着 *

セダンの分割可倒式リアシート装備車は、左右のヘッドレストを取り外すことができます。

ステーションワゴンは、左右と中央のヘッドレストを取り外すことができます。

ヘッドレストを取り外す

▶ バックレストのロックを解除して、バックレストを前方に倒します(▷302、304 ページ)。

ℹ バックレストのロックを解除すると、上げていたヘッドレストが自動的に下がります。

▶ ロック解除ボタン ① を押しながら、ヘッドレストを引き抜きます。

ヘッドレストを取り付ける

▶ バックレストのロックを解除して、バックレストを前方に倒します(▷302、304 ページ)。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 切り欠きのある方の支柱が右側の取り付け穴に入るようにして、ロック解除ボタン ① を押しながら、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックします。

▶ バックレストを元の位置に戻して確実にロックします。

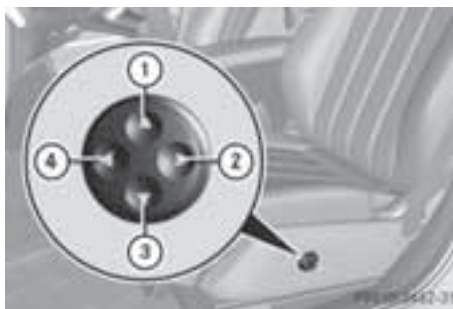
ランバーサポート *

ランバー（腰部）のサポートを調整できます。

運転席シート、または運転席シートと助手席シートに装備されています。

ランバーサポートを調整する

▶ 調整レバー ① を矢印の方向に操作して調整します。

電動ランバーサポート *

左側シートのスイッチ
①③ ランバーサポートの位置の調整
② ランバーサポートの強さの調整（弱）
④ ランバーサポートの強さの調整（強）

ランバー（腰部）のサポートを調整できます。

フロントシートに装備されています。

サポートの位置を調整する

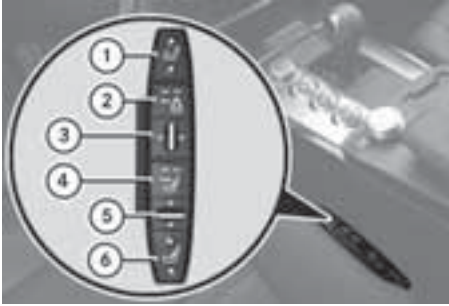
▶ スイッチ ① または ③ を押して、サポートの位置を調整します。

サポートの強さを調整する

▶ スイッチ ②（弱）または ④（強）を押して、サポートの強さを調整します。

ℹ 右側シートは、スイッチ ②（弱）と ④（強）の位置が逆になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチコントロールシートバック *

左側シートのスイッチ
① シートクッションの長さ
② ドライビングダイナミックシートスイッチ
③ バックレストのサイドクッションのサポート調整スイッチ
④ マッサージ機能スイッチ
⑤ ランバーサポートの位置の調整
⑥ ランバーサポートの強さの調整

身体を正しく支えるように、シートの形状を調整します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

シートクッションの長さを調整する

▶ スイッチ ① の前後を押します。

バックレストのサイドクッションのサポートを調整する

▶ スイッチ ③ を左右に操作します。

ランバーサポートの強さを調整する

▶ スイッチ ⑤ を前後に操作します。

ランバーサポートの位置を調整する

▶ スイッチ ⑥ を前後に操作します。

ドライビングダイナミック機能

カーブを曲がるときなどに、バックレストのサイドサポートを自動的に増加させ、身体を効果的に支える機能です。

サポートの強さを 2 段階に調整できます。

▶ スイッチ ② を押します。

スイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、ドライビングダイナミック機能の作動が切り替わります。

点灯している表示灯の数	作動内容
2	ドライビングダイナミック機能が強で作動します。
1	ドライビングダイナミック機能が弱で作動します。
0	停止しています。

▶ ドライビングダイナミック機能を停止するときは、スイッチ ② を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

マッサージ機能

バックレストのエアクッションが膨張と収縮を繰り返し、長距離走行などの疲労を軽減します。

マッサージの強さを 2 段階に調整できます。

▶ スイッチ ④ を押します。

スイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、マッサージ機能の作動が切り替わります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

点灯している表示灯の数	作動内容
2	マッサージ機能が強で作動します。
1	マッサージ機能が弱で作動します。
0	停止しています。

▶ マッサージ機能を停止するときは、スイッチ④を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

ⓘ マッサージ機能は、作動後約 20 分経過すると、自動的に停止します。

フロア格納式サードシート＊（ステーションワゴン）

フロア格納式サードシートは、身長 140cm 以下および体重 50kg 以下の乗員のみが使用できます。

乗車できる乗員の体重は、オプション装備や積載荷物により減少することがあります。車両総重量に対して過積載にならないようにしてください。

フロア格納式サードシートを使用するときは、必ずラゲッジルームカバー / セーフティネットの収納リールを取り付けてください。

⚠ 警告

フロア格納式サードシートを使用するときは、必ずリアシートのバックレストを起こしてロックしてください。

走行中は、必ずフロア格納式サードシートのヘッドレストの中央が目の高さになるように、正しく調整してください。事故のとき、乗員がけがをするおそれがあります。

シートベルトが正しく身体にかかっていて、確実にバックルに差し込まれていることを確認してください。

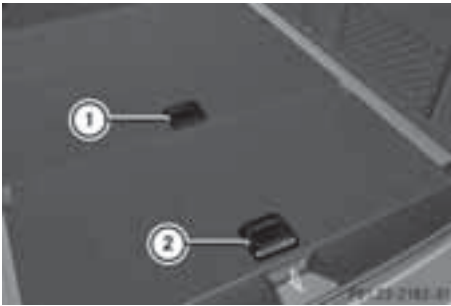
チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを残して車から離れないでください。

子供の安全を守るため、「子供を乗せるとき」をご覧ください。

⚠ 警告

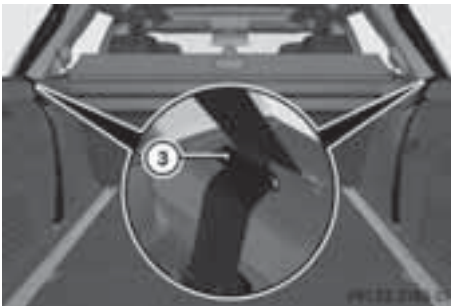
フロア格納式サードシートを損傷したときは、必ず純正品に交換してください。

ラゲッジルームの荷物や積載物が確実に固定されていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに乗員がけがをするおそれがあります。

＊オプションや仕様により、異なる装備です。

サードシートを使用する

▶ リアシートのバックレストが起きていて、確実にロックされていることを確認します。

▶ ラゲッジルームカバーのグリップを上方に折りたたみ、ラゲッジルームカバーを上方に向けます。

▶ ハンドル ① を引いて、サードシートのバックレストを前方に起こします。

▶ サードシートのシートベルトをフック ③ に差し込みます。

▶ ハンドル ② を引いて、サードシートのシートクッションを前方に起こします。

▶ サードシートのバックレストがロックされるまで、シートクッションを押し下げます。

▶ サードシートのヘッドレストを引き上げます。

▶ ヘッドレストを上方に起こして固定します。

シートクッションの取り外し / 取り付け

応急用スペアタイヤなどを取り出すときは、サードシートのシートクッションを取り外します。

取り外す

▶ サードシートのシートクッション ② を持ち上げて、ガイド ① から取り外します。

取り付ける

▶ サードシートのシートクッション ② を図のように少し傾けた状態で、ガイド ①（▷109 ページ）に矢印 ③ の方向から差し込みます。

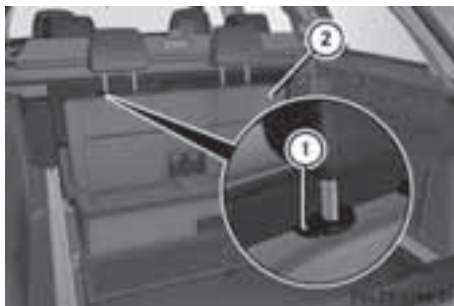
▶ シートクッション ② を矢印 ④ の方向にいっぱいまで倒してロックします。

サードシートを収納する

▶ サードシートのシートベルトのバックルを、バックレストの収納部に収納します。

▶ ストラップ ① を持ってサードシートのシートクッションを後方に起こし、ロックするまで下方に押し込みます。

▶ リリースボタン ① を押して、ヘッドレストを折りたたみます。

! サードシートを収納するときは、ヘッドレストをいっぱいまで下げ、シートベルトのバックルを収納部に収納してください。サードシートを損傷するおそれがあります。

▶ リリースボタン ① を押して、ヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ バックレスト ② を後方に引いて、ロックするまで下方に押し込みます。

シートヒーター *

フロントシートのスイッチ

リアシートのスイッチ

シートヒーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

シートヒータースイッチ ① を押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、表示灯を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 フロントシートのシートヒーターは約 8 分後に、リアシートのシートヒーターは約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

⚠ **警 告**

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警告**

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気を誘う薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

シートヒーターのトラブル

シートヒーターが短時間で停止したり、作動しないときは、多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

シートベンチレーター *

シートベンチレーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押して、表示灯を消灯させます。

ℹ リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を開くと、運転席のシートベンチレーターが強で作動します。

シートベンチレーターのトラブル

シートベンチレーターが短時間で停止したり、作動しないときは、多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

ステアリング

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもステアリング位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作してステアリングに挟まれるおそれがあります。

⚠ **警 告**

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジやステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整（手動式）

① ロック解除ハンドル

▶ ロック解除ハンドル ① を矢印の方向に押し下げます。

ステアリングのロックが解除されます。

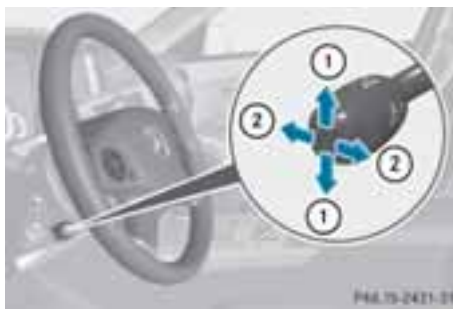
▶ ステアリングを前後上下に動かして、正しい位置に調整します。

▶ ロック解除ハンドル ① を引き上げてロックします。

▶ ステアリングが完全にロックされていることを確認してください。

⚠ 警 告

ステアリングがロックされていない状態で走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ステアリング位置の調整（電動式）

① 上下位置の調整
② 前後位置の調整

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ① の方向に操作します。

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ② の方向に操作します。

i ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます（▷119 ページ）。

イージーエントリー機能

⚠ **警告**

イージーエントリー機能が作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- 運転席ドアのいずれかのポジションスイッチ（▷120 ページ）を押す

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転席ドアを開いたときなどにイージーエントリー機能が作動して、ステアリングに身体が挟まれるおそれがあります。

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態でエンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは **1** の位置にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて **2** にするか、運転席ドアを閉じてイグニッション位置を **0** にしてから **1** の位置にする

この機能の設定と解除については（▷204 ページ）をご覧ください。

ℹ ステアリングが上方の位置にあるときは、イージーエントリー機能は作動しないことがあります。

クラッシュセンサー連動機能

事故などのときに、クラッシュセンサーに連動してイージーエントリー機能が作動します。イグニッション位置に関わらず、事故などのときに運転席ドアを開くと、ステアリングが上方に移動して、車外への脱出と乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動機能は、マルチファンクションディスプレイでイージーエントリー機能を設定しているときにのみ作動します。

ミラー

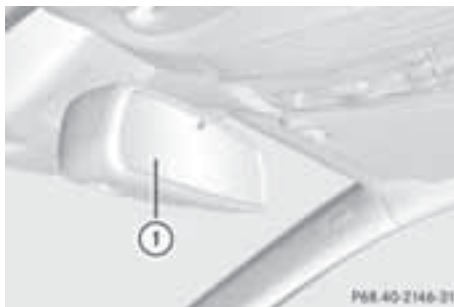
⚠ **警告**

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラー ① の角度を調整します。

ドアミラー

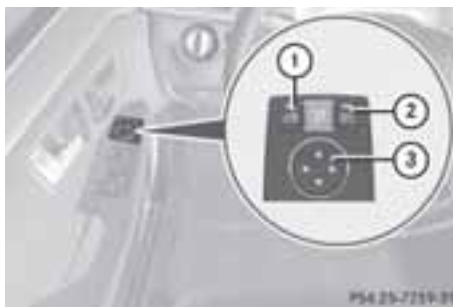
⚠ **警告**

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ℹ より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

ℹ ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が低いときにリアデフォッガーを使用したときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ ① または ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

何も操作を行なわないと、表示灯は約 15 秒後に消灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ③ を操作してドアミラーの角度を調整します。

ℹ ドアミラーの角度は、運転席シートの位置やステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷119 ページ）。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ ① を押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

❗ ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

❗ 走行するときはドアミラーを展開してください。

❗ ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

❗ 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ ① を押します。

施錠時のドアミラー格納

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、ドアミラーも併せて格納します。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については（▷206 ページ）をご覧ください。

ℹ ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアミラーが無理に外側に曲げられたとき

ドアミラーが無理に外側に曲げられたときは、以下のようにしてください。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷117 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

ドアミラーユニットのギアが噛み合うと、通常通りドアミラーを格納 / 展開できるようになります。

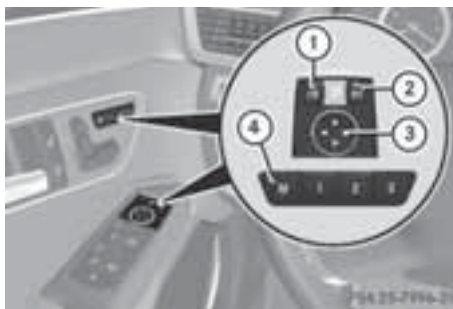
自動防眩機能

⚠ **警 告**

車内に高さのある荷物を積んでいるときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが照射されないときは自動防眩機能は作動しないことがあるため、眩惑により事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でルームミラーの角度を調整してください。

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

ℹ シフトポジションが R のときは、自動防眩機能が解除されます。

パーキングヘルプ機能

左ハンドル車

シフトポジションを R にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

ℹ パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択スイッチ ② の表示灯が点灯したままになります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- シフトポジションを R から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押したとき

後退時の助手席側ドアミラー角度を記憶させる

▶ 助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに助手席側ドアミラーの角度を調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

または

▶ 停車して、イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

何も操作を行なわないと、表示灯は約 15 秒後に消灯します。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ③ で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席側ドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ ④ を押します。

▶ 約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ ③ をいずれかの方向に押します。

このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

i 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ ドアミラー調整スイッチ ③ で、走行時の角度に助手席側ドアミラーを調整します。

! 走行する前に、必ずドアミラーの角度を後方が十分確認できるように調整してください。

メモリー機能

シート位置の記憶

メモリー機能では、例えば 3 人の異なる運転者のために 3 つの位置を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シートとバックレスト、ヘッドレストの位置
- マルチコントロールシートバック装備車は、シートクッションの長さ、バックレストのサイドクッションとランバーサポートの設定、ドライビングダイナミック機能の作動内容
- 運転席側は、ステアリングの位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの角度

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもメモリー機能は作動するため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートやステアリングが動き出し、身体が挟まれるおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席側の記憶位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

左側フロントドアのスイッチ

- ▶ 正しいシート位置に調整します（▷103 ページ）。

  運転席では、さらにステアリングの位置（▷114 ページ）、ドアミラーの角度（▷116 ページ）を調整します。

  ドアミラーの角度やマルチコントロールシートバック * を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にします。

- ▶ メモリースイッチ ① を押します。
- ▶ 3 秒以内にポジションスイッチ ② の 1 ～ 3 のいずれかを押します。

  ピッという確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

シート位置の呼び出し

- ▶ 呼び出したいポジションスイッチ ②（1 ～ 3 のいずれか）を押し続けます。

  シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチ ② から手を放すとシートなどは停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ 警 告

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

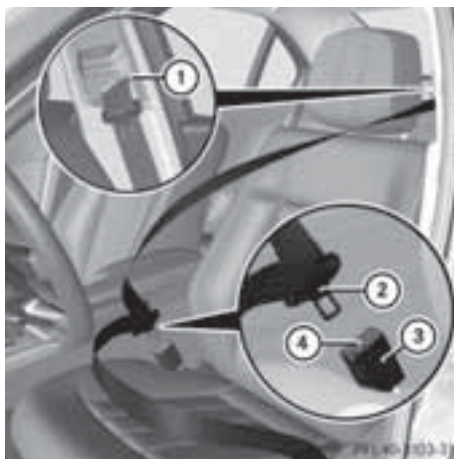
  詳しくは（▷48 ページ）をご覧ください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。

⚠ 警 告

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトに大きな衝撃がかかったとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。

シートベルトを着用する

セダン

▶ フロントシートは、シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

フロントシートは、テンション自動調整機能が作動します。

▶ 必要であれば、シートベルトの高さを調整します （▷124 ページ）。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能

フロントシートベルトにはテンション自動調整機能が装備されています。

イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込むと、シートベルトが身体に密着するように、自動的にシートベルトのテンション（締め付け具合）を調整します。

この機能の設定と解除については（▷205 ページ）をご覧ください。

後席中央シートベルト

分割可倒式リアシート装備車は、左側リアシートのバックレストを前方に倒したあと、元の位置に起こしたときは、中央リアシートのシートベルトがロックして引き出せなくなることがあります。

このときは、以下のようにしてロックを解除してください。

▶ シートベルトをいったん下方に強く引いてから約 2cm 程度巻き取らせ、再度引き出します。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート ② を持ち、バックル ③ の解除ボタン ④ を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれて、ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換する必要があります。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。

ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ⓘ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

シートベルトの高さ調整

フロントシートベルト

フロントシートベルト、左右リアシートベルト（ステーションワゴン）は、高さを調整することができます。

シートベルトが首に当たったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

フロントシートベルトは 4 段階に、左右リアシートベルト（ステーションワゴン）は 5 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、ベルトアンカーをそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン ① を押しながらベルトアンカーを下げます。

調整後はベルトアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

正しい運転姿勢

⚠ **警 告**

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 以下のことに注意して、シート ③ とヘッドレストを調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- 正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- バックレストをできるだけ垂直に調整している
- ペダルが楽に踏み込める

▶ 以下のことに注意して、ヘッドレストを調整します。

- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認する

▶ 以下のことに注意して、ステアリング ① を調整します。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

▶ 以下のことに注意して、シートベルト ② を着用します。

- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

▶ メモリー機能でシートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ライト

ライトスイッチ

左ハンドル車

	位置	作動内容
1	←P	左側パーキングライトが点灯
2	P→	右側パーキングライトが点灯
3		車幅灯、テールランプ、ライセンスライト、メーターパネルの照明が点灯
4	AUTO	オートモード
5		ヘッドライト / LED ドライビングライトが点灯
⑥		リアフォグランプが点灯

! バッテリーあがりを防ぐため、車から離れるときは、車幅灯とパーキングライトを消灯してください。

i ライトスイッチが の位置のとき、エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態やキーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にしているときは、運転席ドアを開くと警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ライトを 消してください " と表示されます。

i 車から離れるときに警告音が鳴ったときは、ライトが消灯していません。ライトスイッチを AUTO の位置にしてください。

車外ライトの消灯

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときや、エンジンがかかっているときは、ライトスイッチを P→ または ←P の位置にします。

i ヘッドライトと LED ドライビングライトが点灯しているときに、エンジンを停止するか、イグニッション位置を **1** にすると、ヘッドライトと LED ドライビングライトは消灯します。

さらにイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ライトスイッチを の位置にします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドライト / LED ドライビングライト

ヘッドライト / LED ドライビングライトを点灯する

▶ イグニッション位置を 2 にします。

▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にします。

メーターパネルのヘッドライト表示灯が点灯します。

オートモード

周囲が暗いとき、車外ライトが自動的に点灯します。

⚠ **警 告**

霧の中を走行するときにオートモードにしていると、ライトが自動的に点灯しなかったり点灯していたライトが消灯することがあるため、事故を起こすおそれがあります。霧の中を走行するときはライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にしてください。

ライトのオートモードは運転者を支援する機能です。ライトの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。

ⓘ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、オートモードが作動しなくなります。

オートモードにする

▶ ライトスイッチを AUTO の位置にします。

イグニッション位置を 1 にすると、周囲の明るさに応じて、車幅灯、テールランプ、ライセンスライト、メーターパネル、スイッチの照明などが自動的に点灯 / 消灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドライト / LED ドライビングライトも自動的に点灯し、メーターパネルのヘッドライト表示灯が点灯します。

リアフォグランプ

! リアフォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。後続車の迷惑になります。

リアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置を 2 にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] または AUTO の位置にします。

▶ リアフォグランプスイッチ ⑥ を押します。

メーターパネルのリアフォグランプ表示灯が点灯します。

ⓘ 車種や仕様により、オートモードで車外ライトが消灯しているときにリアフォグランプスイッチを押してリアフォグランプを点灯させると、車幅灯やヘッドライトなども点灯します。

リアフォグランプを消灯する

▶ 再度、リアフォグランプスイッチ ⑥ を押します。

メーターパネルのリアフォグランプ表示灯が消灯します。

ⓘ リアフォグランプを点灯させたまま、イグニッション位置を **1** にしてエンジンを停止したときは、その位置から再度エンジンを始動してヘッドライトなどが点灯すると、リアフォグランプも点灯します。

ⓘ ライトスイッチを [≡OO≡] [P≡→] [←P≡] のいずれかの位置にすると、リアフォグランプは消灯します。

パーキングライト

暗がりでの駐車時に車の存在を知らせるため、片側の車幅灯とテールランプがパーキングライトとして点灯します。

イグニッション位置が **0** のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯することができます。

パーキングライトを点灯する

▶ ライトスイッチを [P≡→] の位置にします。

右側の車幅灯とテールランプが点灯します。

または

▶ ライトスイッチを [←P≡] の位置にします。

左側の車幅灯とテールランプが点灯します。

車外ライト残照機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- LED ドライビングライト
- テールランプ
- ライセンスライト
- ドアミラー下部のライト *

点灯した車外ライトは、ドアやトランクまたはテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒経過すると消灯します。

この機能の設定と解除については（▷201 ページ）をご覧ください。

ⓘ ライトが消灯するまでの時間は、ドアやトランクまたはテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

エンジンを停止してからドアやトランクまたはテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ライトは消灯します。

車外ライト残照機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後に、イグニッション位置を **2** にします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドライトウォッシャー

エンジンがかかっていてヘッドライトが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャー（▷141 ページ）を約 10 回噴射させると、ヘッドライトウォッシャーがヘッドライトに向けて 2 回噴射されます。

その後、ウインドウウォッシャーを約 10 回噴射させるたびに、ヘッドライトウォッシャーがヘッドライトに向けて噴射されます。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

i 状況によっては、最初にウインドウウォッシャーを噴射させたときに、ヘッドライトウォッシャーが噴射されることがあります。

i エンジンを停止すると、ウインドウウォッシャーを噴射させた回数はリセットされます。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

コンビネーションスイッチ

方向指示

① ヘッドライト（上向き）
② 方向指示（右側）
③ パッシング
④ 方向指示（左側）

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

方向指示灯を短時間点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に軽く操作します。

操作した側の方向指示灯が 3 回点滅します。

方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に操作します。

操作した側の方向指示灯が点滅します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ⓘ 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が点滅します。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ヘッドライトの上向き / 下向きの切り替え

ヘッドライトを上向きにする

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ≣D または AUTO の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドライトが上向きになり、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

ライトスイッチが AUTO の位置のときは、周囲が暗く、エンジンがかかっているときにのみ、ヘッドライトが上向きで点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドライトを上向きにしないでください。

ヘッドライトを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを元の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が消灯します。

パッシング

▶ イグニッション位置を **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間、ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと元の位置に戻ります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯は、イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときも点滅させることができます。

また、以下のときに自動的に点滅します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停車したとき

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

ⓘ 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

非常点滅灯を停止する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

ⓘ エアバッグが作動して自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ⓘ 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停車したときに自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると消灯します。

インテリジェントライトシステム

インテリジェントライトシステムは以下のものから構成されます。

- アクティブライトシステム
- コーナリングライト
- ハイウェイモード
- フォグランプ強化機能

インテリジェントライトシステムは、周囲が暗いときに作動します。

この機能の設定と解除については（▷199 ページ）をご覧ください。

ⓘ ヘッドライトの照射範囲設定（▷200 ページ）を " 右側通行用 " に設定すると、インテリジェントライトシステム設定画面に " ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｼｽﾃﾑ作動できません 右側通行設定では無効 " と表示され、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

アクティブライトシステム

ヘッドライトが点灯しているとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドライトの向きが変わります。

ⓘ ヘッドライトの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。

ⓘ 変化するヘッドライトの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

コーナリングライト

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、コーナリングライトが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっているとき
- ヘッドライトを点灯しているとき

コーナリングライトの点灯

▶ 走行速度が約 40km/h 以下のときに方向指示灯を点滅させるか、ステアリングを操作します。

方向指示灯を点滅させた側、またはステアリングを操作した側のコーナリングライトが点灯します。

コーナリングライトの消灯

コーナリングライトは以下のときに消灯します。

- 走行速度が約 40km/h 以上になったとき
- 方向指示灯が消灯したとき
- ステアリングを直進位置に戻したとき

ℹ 方向指示灯を点滅させたとき、シフトポジションが R のときは、コーナリングライトは点灯しません。

ℹ ステアリングを操作したとき、シフトポジションが R のときは、ステアリングを操作した側と逆側のコーナリングライトが点灯します。

ℹ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のコーナリングライトが点灯します。

ℹ コーナリングライトはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のコーナリングライトが点灯することがあります。

ℹ 点灯したコーナリングライトは約 3 分後に自動的に消灯します。

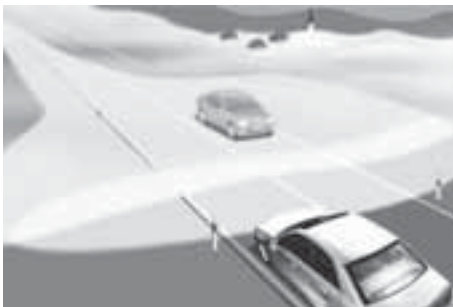
ハイウェイモード

以下のときに、ヘッドライトの照度や照射範囲を自動的に調整します。

- 約 110km/h 以上の走行速度で、ステアリングを大きく操作することなく約 1km 走行したとき
- 走行速度が約 130km/h 以上になったとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

走行速度が約 80km/h 以下になると、ハイウェイモードは停止します。

フォグランプ強化機能

ヘッドライトが道路の脇を照射することで視界を確保し、眩しさを軽減します。

走行速度が約 70km/h 以下のときにリアフォグランプを点灯すると作動します。

ℹ 走行速度が約 100km/h を超えると、フォグランプ強化機能は停止します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

アダプティブハイビームアシスト

フロントウインドウ上のカメラにより路面状況や交通状況を検知し、ヘッドライトを自動的に上向きと下向きに切り替えます。他の車を幻惑することなく、状況に応じて路上を適切に照射します。

ヘッドライトが下向きから上向きに切り替わるときは、ヘッドライトの光量がゆっくり変化します。

アダプティブハイビームアシストを作動させる

▶ エンジンを始動します。

▶ マルチファンクションディスプレイで、アダプティブハイビームアシストを設定します（▷199 ページ）。

▶ ライトスイッチを AUTO の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします（▷129 ページ）。

周囲が暗く、ヘッドライトが下向きで自動的に点灯したときは、マルチファンクションディスプレイにアダプティブハイビームアシストマーク①が表示されます。

※ 車種や仕様により、アダプティブハイビームアシストマークが表示される位置は異なります。

走行速度が約 45km/h になると、アダプティブハイビームアシストによりヘッドライトの光軸調整が開始されます。

走行速度が約 55km/h 以上で、他の車両などを検知しない場合は、自動的にヘッドライトが上向きになり、メーターパネルにハイビーム表示灯も表示されます。

走行速度が約 45km/h 以下で、他の車両を検知したり、道路が照明で照らされている場合は、ヘッドライトが下向きになり、ハイビーム表示灯は消灯しますが、アダプティブハイビームアシストマーク①は表示されたままになります。

アダプティブハイビームアシストを解除する

▶ コンビネーションスイッチを③の位置にします。

アダプティブハイビームアシストマーク①が消えます。

⚠ 警告

- アダプティブハイビームアシストは運転者を支援する機能です。運転者は視界や道路状況、交通状況に応じて、ヘッドライトの下向き／上向きを手動で切り替えてください。
- 以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、システムが作動しないことがあります。
  ◇ 降雪時や降雨時、霧のときなど視界が悪いとき
  ◇ フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、またはカメラ付近にステッカーなどが貼付されているとき
- 以下のような場合は、歩行者や自転車を検知できなかったり、検知が遅れる場合があります。
  ◇ 歩行者がライトを持っていないときや自転車にライトが装着されていないとき
  ◇ 歩行者がライトを持っていたり、自転車にライトが装着されていても、ライトが暗いとき
  ◇ 荷物を持っていたり、ガードレールの後ろにいるなど、歩行者が持っているライトや自転車に装着されているライトが遮られて検知できないとき
- 車両の前を人が横切った場合や車両に近づいてくる場合は、ヘッドライトが自動的に切り替わらなかったり、不意に切り替わる場合があります。事故を起こすおそれがあるため、常に交通状況に注意し、必要であれば、手動でヘッドライトの向きを切り替えてください。

- 以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、システムが作動しないことがあります。
  - ◇ 降雪時や降雨時、霧のときなど視界が悪いとき
  - ◇ フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、またはカメラ付近にステッカーなどが貼付されているとき
- 以下のような場合は、歩行者や自転車を検知できなかったり、検知が遅れる場合があります。
  - ◇ 歩行者がライトを持っていないときや自転車にライトが装着されていないとき
  - ◇ 歩行者がライトを持っていたり、自転車にライトが装着されていても、ライトが暗いとき
  - ◇ 荷物を持っていたり、ガードレールの後ろにいるなど、歩行者が持っているライトや自転車に装着されているライトが遮られて検知できないとき
- 車両の前を人が横切った場合や車両に近づいてくる場合は、ヘッドライトが自動的に切り替わらなかったり、不意に切り替わる場合があります。事故を起こすおそれがあるため、常に交通状況に注意し、必要であれば、手動でヘッドライトの向きを切り替えてください。

ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇りは取れます。

▶ ヘッドライト内側の曇りが取れない場合は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ルームランプ

スライディングルーフ装備車
① リアルームランプスイッチ
② 点灯モード切り替えスイッチ
③ フロント読書灯スイッチ（右側）
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯スイッチ（左側）

点灯モードの切り替え

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード切り替えスイッチ ② を押して、スイッチが押されていない状態にします。

自動点灯モードになり、以下のときにフロントルームランプとリアルームランプが点灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠したとき

  点灯したルームランプは約 40 秒後に消灯します。

  ステーションワゴンでは、ラゲッジルームランプも点灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

  点灯したルームランプは約 20 秒後に消灯します。

  ステーションワゴンでは、ラゲッジルームランプも点灯します。

  この機能の設定と解除については、（▷201 ページ）をご覧ください。

- ドアを開いたとき

  イグニッション位置が **2** のときは、点灯したルームランプは消灯しません。ドアを閉じると、ルームランプはただちに消灯します。

  イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、点灯したルームランプは約 5 分後に消灯します。ドアを閉じると、ルームランプは約 10 秒後に消灯します。

ステーションワゴンでは、テールゲートを開いたときに、ラゲッジルームランプとテールゲートランプが点灯します。

- イグニッション位置が **2** のときは、点灯したラゲッジルームランプとテールゲートランプは消灯しません。テールゲートを閉じると、ラゲッジルームランプとテールゲートランプはただちに消灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、点灯したラゲッジルームランプとテールゲートランプは約 5 分後に消灯します。テールゲートを閉じると、テールゲートランプはただちに消灯し、ラゲッジルームランプは約 10 秒後に消灯します。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード切り替えスイッチ ② を押して、スイッチが押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、フロントルームランプとリアルームランプは点灯しません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠する
- エンジンスイッチからキーを抜く
- ドアを開閉する

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルームランプ、フロント読書灯

フロントルームランプを点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ④ を押して点灯 / 消灯します。

リアルームランプを点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ① を押して点灯 / 消灯します。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、点灯していたルームランプは消灯します。次に解錠したとき、施錠前に点灯していたルームランプは再度点灯します。

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ③ または ⑤ を押して点灯 / 消灯します。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、点灯していたフロント読書灯は消灯します。車種や仕様により、次に解錠したとき、施錠前に点灯していたフロント読書灯は再度点灯します。

リア読書灯

① リア読書灯スイッチ（右側）
② リアコンソールライト
③ リア読書灯スイッチ（左側）
④ リア読書灯（左側）
⑤ リアルームランプ
⑥ リア読書灯（右側）

リア読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ① または ③ を押して点灯 / 消灯します。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー * 操作で施錠すると、点灯していたリア読書灯は消灯します。次に解錠したとき、施錠前に点灯していたリア読書灯は再度点灯します。

ルームミラー下部のライト

車外ライトが点灯すると点灯し、車外ライトが消灯すると消灯します。

リアコンソールライト

車外ライトが点灯すると点灯し、車外ライトが消灯すると消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアレバーライト

ドアレバー上方にドアレバーライトがあります。

車外ライトが点灯すると点灯します。

車外ライトが消灯してから約 2 分後に消灯します。

ドア赤色灯

ドアを開くと点灯します。

- イグニッション位置が **2** のときは、点灯したドア赤色灯は消灯しません。
- イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、点灯したドア赤色灯は約 5 分後に消灯します。

乗降用ライト *

ダッシュボード左右下部とフロントシート下部に乗降用ライトがあります。

- ドアを開くと、明るい照度で点灯します。
  - ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを開いたままにすると点灯した乗降用ライトは消灯しません。ドアを閉じると、暗い照度で点灯します。
  - ◇イグニッション位置が **2** 以外のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、ドアを開いたままにすると、点灯した乗降用ライトは約 5 分後に消灯します。ドアを閉じると、暗い照度で約 7 秒間点灯した後に消灯します。
- イグニッション位置を **2** にすると暗い照度で点灯し、イグニッション位置を **2** 以外にすると約 10 秒後に消灯します。

アンビエントライト *

① アンビエントライト

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点灯します。イグニッション位置を **0** にしてから約 10 秒後に消灯します。

また、イグニッション位置が **0** のときは、以下のときに点灯します。

- ドアを開いたとき

  ドアを閉じると、約 10 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠したとき

  約 40 秒後に消灯します。
- ライトスイッチを の位置にしたとき

アンビエントライトの照度の調整については（▷200 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

緊急時点灯機能

ルームランプの点灯モードを自動点灯モードにしているときは、事故などのときに大きな衝撃を受けると、ルームランプが自動的に点灯します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーの施錠ボタンまたは解錠ボタンを押します。

ワイパー

ワイパーの操作

⚠ 警 告

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。フロントウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。

! 自動洗車機で洗車した後に、ワイパーを使用してもフロントウインドウに油膜が残るときは、ウインドウにワックスや洗浄液などが付着している可能性があります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液を噴射してフロントウインドウを清掃してください。

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを停止の位置にしてください。ワイパーが作動して、けがをするおそれがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを停止の位置にしてください。コンビネーションスイッチが低速作動モードや高速作動モードの位置のときにイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、フロントウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーブレードがフロントウインドウに張り付くことがあります。作動させる前に張り付いていないことを確認してください。張り付いたままワイパーを作動させると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを作動させてください。作業の際には、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

コンビネーションスイッチ

位置	作動内容
1 0	停止
2 ···	オートモードⅠ ⓘ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
3 ····	オートモードⅡ オートモードⅠよりも少ない雨滴量で作動します。 ⓘ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
4 ―	低速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、間欠作動になります。
5 ═	高速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、低速作動になります。
⑥	ティップ機能 / ウインドウウォッシャーの噴射

ワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、作動内容を選択します。

ワイパーを 1 回だけ作動させる

▶ コンビネーションスイッチを ⑥ の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずに、ワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ⓘ 仕様により、フロントウインドウが濡れていなくても、オートモード I またはオートモード II にすると、ワイパーが 1 回作動します。

ⓘ ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ⓘ オートモード I またはオートモード II でワイパーが作動しているとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- シフトポジションが P または N のときは、フロントドアを閉じて、セレクターレバーを他の位置にしたとき
- シフトポジションが D または R のときは、フロントドアを閉じたとき

ⓘ ボンネットのロックを解除すると、ワイパーは停止します。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

! フロントウインドウが濡れていないときは、コンビネーションスイッチを停止位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動し、ワイパーが作動するおそれがあります。

フロントウインドウウォッシャーの噴射

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチを②の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウインドウウォッシャー液が噴射して、ワイパーも作動します。

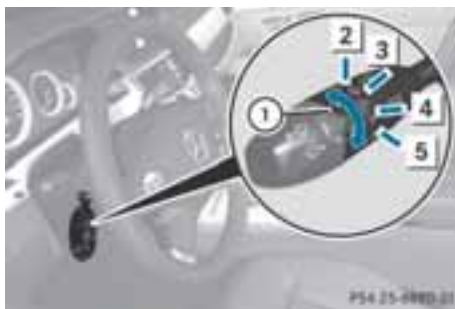
! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

ⓘ 純正ウインドウウォッシャーには油膜や汚れの付着を防ぐ効果があります。

ⓘ 冬季にはウインドウウォッシャー液の濃度に注意し、冬用のウインドウウォッシャー液を使用してください。

ⓘ エンジンがかかっていて、ヘッドライトが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約 10 回噴射すると、ヘッドライトウォッシャーが 2 回噴射されます。

その後、ウインドウウォッシャーを約 10 回噴射させるたびに、ヘッドライトウォッシャーが 2 回噴射します。

リアワイパー（ステーションワゴン）

コンビネーションスイッチ
① ノブ
2 テールゲートウインドウウォッシャー噴射の位置
3 作動の位置
4 停止の位置
5 テールゲートウインドウウォッシャー噴射の位置

⑥ リアワイパーインジケーター

リアワイパーを作動させる

▶ ノブ ① を持って、ワイパー作動モードのマークを作動の位置 3 に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動し、マルチファンクションディスプレイにリアワイパーインジケーター ⑥ が表示されます。

※ 車種や仕様により、リアワイパーインジケーターが表示される位置は異なります。

ⓘ イグニッション位置が **2** でフロントワイパーが作動しているときにシフトポジションを **R** にすると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のときは間欠で作動します
- フロントワイパーが低速あるいは高速作動のときは低速で作動します

テールゲートウインドウウォッシャーを噴射する

▶ ノブ ① を持って、ワイパー作動モードのマークをテールゲートウインドウウォッシャー噴射の位置 2 または 5 に合わせて保持します。

その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーが数回連続で作動します。

ワイパーブレードの交換

⚠ 警告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームが取り付けられていない状態で、ワイパーアームを元の位置に戻さないでください。

! ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウに当たり、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ワイパーのトラブル

ワイパーの作動が妨げられている

葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着しているため、ワイパーの作動が妨げられています。ワイパーモーターの作動が停止しています。

▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

▶ 障害物を取り除きます。

▶ 再度、ワイパーを作動させます。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障しています。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウォッシャーノズルの角度が適切でない

ウォッシャーノズルの角度が適切でないため、ウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されません。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でウォッシャーノズルの角度を調整してください。

パワーウインドウ

⚠ 警告

ウインドウを開くときは、ウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにウインドウスイッチを操作してウインドウを開いてください。

⚠ 警告

子供が車内からウインドウを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

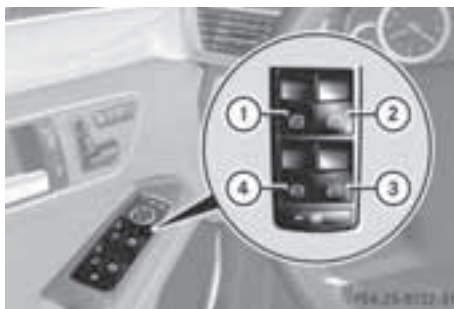
⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 車内の各部に触れて、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。
- 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供を乗せるときは、後席に乗車させ、リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。走行中にウインドウが開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。

ドアウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
① 左フロントドアウインドウスイッチ
② 右フロントドアウインドウスイッチ
③ 右リアドアウインドウスイッチ
④ 左リアドアウインドウスイッチ

パワーウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、すべてのドアウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

i PRE-SAFE®（▷46 ページ）が作動している間は、ドアウインドウが自動で閉じ、わずかに開いた状態で停止します。

i リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷146 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でドアウインドウを閉じることができます（▷147 ページ）。

i 運転席ドアのチャイルドプルーフロックスイッチで、リアドアにあるリアドアウインドウスイッチを操作できなくすることができます（▷58 ページ）。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

i ドアウインドウが自動で開閉しているときにドアウインドウスイッチを操作すると、ドアウインドウはその位置で停止します。

i 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアやリアドアのスイッチで開閉中のドアウインドウを操作することはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

挟み込み防止機能

⚠ **警告**

挟み込み防止機能が作動しない状態でウインドウを閉じるときは十分注意してください。ウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。

このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

さらに、この状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、その位置から少し下降します。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してからただちに再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しなくなります。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作により、以下の操作をすることができます。

- 車両を解錠する
- ドアウインドウを開く
- スライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * および電動サンシェード * を開く
- 運転席のシートベンチレーター * を作動させる

ℹ コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コンビニエンスオープニング機能を作動させる

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの解錠ボタンを押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * が開きます。

パノラミックスライディンググルーフ * の電動サンシェードが閉じているときは、電動サンシェード * が開きます。

電動サンシェード * が全開になった後、解錠ボタンから指を放し、再度押し続けると、パノラミックスライディンググルーフ * が開きます。

シートベンチレーター装備車は、シートベンチレーターが強で作動します。

解錠ボタン ② から指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディンググルーフ *、パノラミックスライディンググルーフ *、電動サンシェード * はその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作はできません。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により、車外から以下の各部を閉じることができます。

- ドアウインドウ
- スライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * および電動サンシェード *

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

⚠ **警 告**

車外からドアウインドウやスライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * などを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、以下の操作を行なってください。

- リモコン操作の場合は、施錠ボタンから指を放してください。そして、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとスライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * を開いてください。
- キーレスゴー操作の場合は、コンビニエンスクロージング操作部から指を放してください。そして、ただちにドアハンドルを引き続けてください。

  ドアウインドウとスライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * が開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下で操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が閉じていることを確認してください。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作はできません。

i 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

i コンビニエンスクロージング機能を作動させているときに、ドアウインドウが挟み込みを検知すると、ドアウインドウはただちに停止して、施錠ボタンまたはコンビニエンスクロージング操作部から指を放すと、ドアウインドウは少し開きます。スライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が挟み込みを検知すると、スライディングルーフ * やパノラミックスライディングルーフ * はただちに停止して、少し開きます。

リモコン操作での作動

i 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて、施錠ボタンを押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * が閉じているときは、電動サンシェード * が閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * が全閉した後、施錠ボタンから指を放し、再度押し続けると、電動サンシェード * が閉じます。

施錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ *、電動サンシェード * はその位置で停止します。

キーレスゴー操作での作動 *

キーが車外にあり、すべてのドアが閉じているときに操作できます。

左ハンドル車

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部 ① に触れ続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * が閉じているときは、電動サンシェード * が閉じます。

パノラミックスライディングルーフ * が全閉した後、コンビニエンスクロージング操作部 ① から指を放し、再度触れ続けると、電動サンシェード * が閉じます。

コンビニエンスクロージング操作部 ① から指を放すと、作動中のドアウインドウやスライディングルーフ *、パノラミックスライディングルーフ *、電動サンシェード * はその位置で停止します。

ドアウインドウのリセット

ドアウインドウが完全に閉じなくなったときは、ドアウインドウをリセットします。

▶ すべてのドアを閉じます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、下記の操作を行ないます。

▶ ただちにドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

スイッチから指を放したときにドアウインドウが閉じていれば、ドアウインドウはリセットされています。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、再度上記の操作を行なってください。

ドアウインドウのトラブル

ドアウインドウに障害物があり、ドアウインドウを閉じることができないとき

▶ 障害物を取り除いてください。

▶ ドアウインドウを閉じてください。

ドアウインドウを閉じることができず、原因が分からないとき

⚠ 警 告

強い力でドアウインドウを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。閉じているドアウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

閉じているドアウインドウが停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ ドアウインドウが停止したらただちに、ドアウインドウが閉じるまでドアウインドウスイッチを引き続けてください。

強い力でドアウインドウが閉じます。

閉じているドアウインドウが再度停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ ドアウインドウが停止したらただちに、ドアウインドウが閉じるまでドアウインドウスイッチを引き続けてください。

挟み込み防止機能が作動しない状態で、ドアウインドウが閉じます。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ **警 告**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ **警 告**

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、シフトポジションが N のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

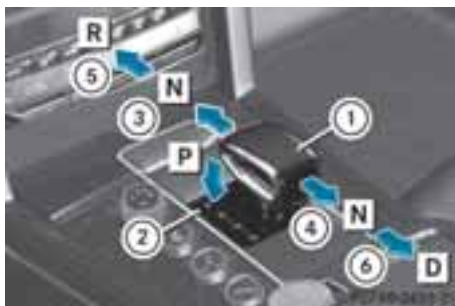
! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

ℹ エンジンが冷えた状態で始動したときは、触媒が約 30 秒間予熱されます。このときは、エンジン音が通常と異なることがあります。

シフトポジション

DIRECT SELECT 装備車

セレクターレバー

E 63 AMG

セレクターレバー

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。

N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、自動的に N になります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

キーによるエンジンの始動

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ ガソリンエンジン車は、エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

▶ ディーゼルエンジン車は、エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **2** の位置までまわします。

メーターパネルの予熱表示灯（▷27 ページ）が点灯します。

▶ 予熱表示灯が消灯したら、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

ⓘ ディーゼルエンジン車は、エンジンが暖まっているときは、予熱操作をせずにエンジンを始動できます。

キーレスゴー操作によるエンジンの始動 *

⚠ **警 告**

キーが車内にあるときは、キーレスゴースイッチによりエンジンを始動できます。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

ⓘ キーレスゴースイッチにより、エンジンスイッチにキーを差し込むことなく、エンジンを始動することができます。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ ガソリンエンジン車は、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチ ① を押します。

エンジンが始動します。

▶ ディーゼルエンジン車は、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチ ① を押します。

予熱が行なわれ、エンジンが始動します。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して、ドアを閉じるか走行を開始すると、マルチファンクションディスプレイが赤くなり、" キーを認識できません " と数秒間表示されます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

タッチスタート機能

エンジンスイッチに差し込んだキーを **3** の位置 (▷98 ページ) までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

発進

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! E 63 AMG では、エンジンオイルの油温が約 20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については (▷89、203 ページ) をご覧ください。

i ディーゼルエンジン車は、エンジン関係の装置の状態を良好に保つため、アイドリング回転数が上がることがあります。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にします。

⚠ **警告**

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

ⓘ ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

ⓘ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシストの作動

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

⚠ **警告**

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にしてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ⓘ ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

ⓘ ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションが N のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

駐車

⚠ **警告**

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

⚠ 警告

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を閉じて、車を施錠してください。

確実に駐車するために、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが確実に効いていること
- シフトポジションが P になっていて、エンジンスイッチからキーが抜かれているか、イグニッション位置が **0** になっていること
- 坂道で駐車するときは、前輪が歩道方向に向いていること

ECO スタート / ストップ

! 緩い坂などで発進するときは、車両が若干後退することがあります。

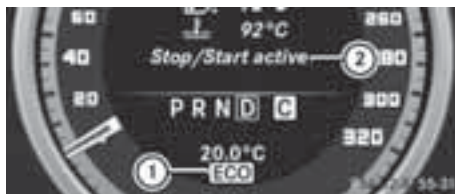
i エンジンが再始動するときにエンジン音が高くなることがありますが、故障ではありません。

ECO スタート / ストップは、車両が停車したときに自動的にエンジンを停止し、発進時に再始動します。

エンジンは発進時に自動的に再始動します。これにより、車両の消費燃料と排出ガスが抑えられます。

エンジンを始動するたびに、ECO スタート / ストップは待機状態になります。

i E 63 AMG は、走行モード（▷169 ページ）が C モードのときにのみ、ECO スタート / ストップを使用できます。

E 63 AMG を除く車種
① ECO インジケーター

E 63 AMG
① ECO インジケーター
② ECO スタート / ストップ作動表示

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっていないときは、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター ① が黄色で表示されます。

ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろうと、ECO インジケーター ① が緑色で表示（E 63 AMG を除く車種）、または緑色で反転表示（E 63 AMG）されます。

E 63 AMG では、ECO スタート / ストップスイッチで ECO スタート / ストップを作動させていて、ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっているときに、マルチファンクションディスプレイを AMG メニューにしたときは、ECO スタート / ストップ作動表示 ② に "Stop / Start active" と表示されます。

また、ECO スタート / ストップスイッチで ECO スタート / ストップを作動させていて、ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっていないときは、ECO スタート / ストップ作動表示 ② に "Stop / Start inactive" と表示されます。

ECO スタート / ストップが解除されているときは、ECO インジケーターは表示されません。

⚠ **警告**

- エンジンが停止して ECO インジケーターが緑色に表示（E 63 AMG を除く車種）、または緑色で反転表示（E 63 AMG）しているときは、エンジンが自動的に停止している状態です。車両のすべてのシステムは機能したままです。この状態で運転席ドアを開いたときやシートベルトを外したとき、ブレーキペダルから足を放したときは、自動的にエンジンが始動します。車両が動き出して、事故やけがの原因になります。
- 車両が不意に動き出すことを防ぐため、発進するまではブレーキペダルから足を放さないでください。
- ECO インジケーターが緑色で表示（E 63 AMG を除く車種）、または緑色で反転表示（E 63 AMG）しているとき、あるいは黄色で表示されているときは、車から離れないでください。
- 車から離れるときは、シフトポジションを **P** にして、パーキングブレーキを効かせて車が動き出さないようにしてから、イグニッション位置を **0** にして、エンジンを停止してください。

! 車から離れるときは、必ずイグニッション位置を **0** にして、キーを携帯してください。

エンジンの自動停止

シフトポジションが D か N の状態で、ブレーキペダルを踏んで停車したとき、自動的にエンジンが停止します。

ℹ 停車して、エンジンが自動的に停止しているときも、ブレーキペダルをさらに踏み込むことによりホールド機能を作動させることができます。このときは、ブレーキペダルから足を放しても、エンジンは停止したままになります。

また、このときにアクセルペダルを踏むと、エンジンが始動してホールド機能が解除されます。先にアクセルペダルを軽く踏んでエンジンを始動させてから、発進してください。

エンジンが自動的に停止するための条件は以下の通りです。

- 外気温度が作動温度の範囲内にあるとき
- エンジン温度が作動温度に達しているとき
- 車内温度がエアコンディショナーの設定温度に達しているとき
- バッテリーの電圧が十分なとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウインドウの曇りを検知していないとき
- ボンネットが確実に閉じているとき
- フロントタイヤが直進方向を向いているとき
- 運転席の乗員がシートベルトを装着していて、運転席ドアが閉じているとき

ℹ エンジンが自動的に停止しているときは、エアコンディショナーの作動能力が低下します。最大限の能力でエアコンディショナーを作動させたいときは、ECO スタート / ストップスイッチを押して、ECO スタート / ストップを解除してください。

エンジンの自動再始動

以下のとき、エンジンは自動的に再始動します。

- ECO スタート / ストップスイッチを押して、ECO スタート / ストップを解除したとき
- 走行モードを S モード、S+ モード、M モードのいずれかにしたとき（E 63 AMG）
- 車両が動き出したとき
- エンジン始動がブレーキシステムに必要になったとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウインドウの曇りを検知したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 運転席の乗員がシートベルトを外すか、運転席ドアを開いたとき
- ステアリングを操作したとき（E 63 AMG を除く）

以下のときも、エンジンは自動的に再始動します。

- ホールド機能が作動していない状態で、シフトポジションが D または N のときに、ブレーキペダルから足を放したとき
- シフトポジションを R にしたとき
- アクセルペダルを踏んだとき

ⓘ シフトポジションを P にしても、エンジンは始動しません。

ECO スタート / ストップの解除 / 作動

ⓘ 表示灯 ② が消灯しているときは、ECO スタート / ストップが手動で解除されているか、システムに異常が発生しています。このときは、ブレーキペダルを踏んで停車しても、エンジンは自動的に停止しません。

ⓘ エンジンを始動するたびに、ECO スタート / ストップは待機状態になり、オートマチックトランスミッションの走行モードが E モード（E 63 AMG は C モード）になります。

ECO スタート / ストップを解除する（E 63 AMG を除く車種）

▶ ECO スタート / ストップスイッチ ① を押します。

表示灯 ② とマルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター ECO が消えます。

ECO スタート / ストップを解除する（E 63 AMG）

▶ 走行モードが C モードのときに、ECO スタート / ストップスイッチ ① を押します。

または

▶ 走行モードを S モード、S+ モード、M モードのいずれかにします。

表示灯 ② とマルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター ECO が消えます。

マルチファンクションディスプレイを AMG メニューにしているときは、ECO スタート / ストップスイッチで ECO スタート / ストップを作動させていて、走行モードを S モードまたは M モードにして ECO スタート / ストップを解除すると、マルチファンクションディスプレイに "Stop / Start inactive" と表示されます。

ECO スタート / ストップを作動させる（E 63 AMG を除く車種）

▶ ECO スタート / ストップスイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯し、ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっているときは、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が緑色で表示されます。

ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっていないときは、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター ECO が黄色で表示されます。このときは、ECO スタート / ストップを作動させることはできません。

ECO スタート / ストップを作動させる（E 63 AMG）

▶ ECO スタート / ストップスイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。走行モードが S モード、S+ モード、M モードのいずれかのときは、走行モードを C モードにします。

ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっているときは、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が緑色で反転表示されます。また、マルチファンクションディスプレイを AMG メニューにしたときは、ECO スタート / ストップ作動表示に "Stop / Start active" と表示されます。

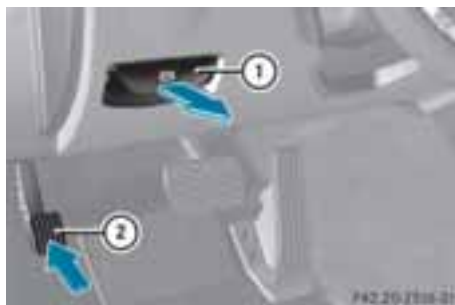
ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっていないときは、マルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター ECO が黄色で表示されます。また、マルチファンクションディスプレイを AMG メニューにしたときは、ECO スタート / ストップ作動表示に "Stop / Start inactive" と表示されます。このときは、ECO スタート / ストップを作動させることはできません。

パーキングブレーキ

⚠ 警 告

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

⚠ 警 告

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

左ハンドル車

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル ③ をいっぱいまで踏みます。

▶ 解除ハンドル ① を手前に引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が消灯します。

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル ③ を踏み、左足でパーキングブレーキペダル ② をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 [(!)] が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

i パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

E 63 AMG

▶ E 63 AMG は、パーキングスイッチ ① を押して、シフトポジションを [P] にします。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ キーをまわし、イグニッション位置を **0** にして、キーを抜きます。

イモビライザーが作動します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

i シフトポジションが [D] か [R] のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に [N] になります。さらに、この状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが [P] になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションが [N] のときに、エンジンスイッチに差し込んだキーをまわしてエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは [P] になりません。

エンジンの停止

⚠ 警告

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

車のコントロールを失って事故を起こし、乗員がけがをするおそれがあります。

そのため、走行中はエンジンを停止しないでください。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンを停止する

▶ 完全に停車します。

▶ セレクターレバーのボタンを押して、シフトポジションを [P] にします。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ * を取り付けているとき

▶ キーレスゴースイッチを押して、エンジンを停止します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

⚠ **警告**

走行中にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ⓘ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

ⓘ キーレスゴースイッチによるエンジン停止機能は、ECO スタート / ストップの作動に関わらず使用できます。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に **N** になります。さらに、この状態でフロントドアを開くと、シフトポジションが **P** になります。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。このようなときは、以下のようにしてください。

▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。

ⓘ バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。このようなときは、別途対応が必要です。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジンのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンが始動しない。	ホールド機能またはディストロニック・プラスが作動している。 ▶ ホールド機能（▷229 ページ）またはディストロニック・プラス（▷218 ページ）を解除してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置にまわすか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチを押してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷437 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 触媒を損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

<table>
<tr><th>トラブル</th><th>可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応</th></tr>
<tr><td rowspan="2">冷却水温度が約120℃を超えている。
冷却水警告灯が点灯し、警告音も鳴った。</td><td>リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。
冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。
▶ すみやかに安全に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。
▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷345ページ）。</td></tr>
<tr><td>冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。
冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。
▶ 冷却水温度が約120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転してください。
▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。</td></tr>
</table>

オートマチックトランスミッション

⚠ **警告**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

⚠ **警告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

セレクターレバー

DIRECT SELECT 装備車

① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

! セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

シフトポジションを P にする

▶セレクターレバー先端のボタンを②の方向に押します。

シフトポジションを N にする

▶セレクターレバーを③または④の方向に軽く操作します。

シフトポジションを R にする

▶セレクターレバーを⑤の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジションを D にする

▶セレクターレバーを⑥の方向にいっぱいまで操作します。

E 63 AMG

① セレクターレバー
② パーキングスイッチ
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

シフトポジションを P にする

▶パーキングスイッチ②を押します。

シフトポジションを N にする

▶セレクターレバーを③または④の方向に軽く操作します。

シフトポジションを R にする

▶セレクターレバーを⑤の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジションを D にする

▶セレクターレバーを⑥の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジション

P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行中に、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、自動的に N になります。 ! 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

⚠ **警告**

走行中にシフトポジションを N にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! セレクターレバーを操作するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

! シフトポジションを P にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! エンジンを停止してシフトポジションが自動的に N になったときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを効かせてください。車が動き出すおそれがあります。

! エンジン回転数が高いときや車が動いているときは、シフトポジションを D から R、または R から D にしたり、直接 P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 約 10km/h 以下で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更できますが、一旦停止して、シフトポジションが変更されたことに気付かずに再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、P から他のシフトポジションにできます。

i セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。

i シフトポジションを R にしたときは、確認音が鳴ります。

i シフトポジションを P から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに " ブレーキを踏んで P レンジからシフト " と表示されます。

i 約 10km/h 以上で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更しようとすると、N になります。

i シフトポジションが D か R のときにエンジンスイッチに差し込まれているキーをまわすか、キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。さらに、この状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションが N のときに、エンジンスイッチに差し込んだキーをまわしてエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

停車してイグニッション位置が 2 のとき、またはごく低速で走行しているとき、シフトポジションが D または R の状態で運転席ドアを開くと、シフトポジションが P になります。

ただし、運転席ドアが開いているときにシフトポジションを D または R にして、前進 / 後退することができます。このときは、マルチファンクションディスプレイに " セレクタが走行位置 " と表示され、警告音が鳴ります。

イグニッション位置が 2 のとき、シフトポジションが N の状態で運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに " セレクタが走行位置 " と表示され、警告音が鳴ります。

イグニッション位置が 2 で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から N または D、R にできます。

イグニッション位置が 1 で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から N にできます。

シフトポジション表示

DIRECT SELECT 装備車

① シフトポジション表示
（ドライブポジションが選択されている状態）

マルチファンクションディスプレイが表示されているとき、シフトポジション表示 ① に、選択されているシフトポジションが強調表示されます。

E 63 AMG

① シフトポジション表示
（ドライブポジションが選択されている状態）

マルチファンクションディスプレイが表示されているとき、シフトポジション表示 ① に、選択されているシフトポジションが強調表示されます。

! メーターパネルが故障してシフトポジション表示が表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、シフトされたポジションを確認してから走行してください。できるだけシフトポジションを D にし、走行モードを E モードまたは C モード、S モードのいずれかにして、ティップシフトにはしないでください。また、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

シフトポジションの選択

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のとき、以下の状況に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- 走行モード（▷169 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

ダブルクラッチ機能（E 63 AMG）

選択している走行モードに関わらず、シフトダウン操作時にダブルクラッチ機能が作動します。

ダブルクラッチ機能が作動することにより、ギアシフト操作がスムーズに行なわれ、スポーティな運転スタイルに役立ちます。

ダブルクラッチ機能作動時のエンジン音は、走行モードにより異なります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、シフトポジションを D にしたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にします。

⚠ **警告**

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが D か R になると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

走行モード

路面状況や運転に合わせて、オートマチックトランスミッションのギアの変速特性を選択できます。

走行モード	作動内容
E モード または C モード (E 63 AMG)	快適性と経済性を重視したモードです。 トランスミッションが快適性と経済性を重視した設定になります。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。
S+ モード (E 63 AMG)	S モードよりも、さらにスポーティな走行用のモードです。
M モード *	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（▷173 ページ）をご覧ください。
レース スタート (RS) (E 63 AMG)	グリップ力の高い路面状況において、停車状態から最適な加速力で発進することができます。 詳しくは（▷232 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行モードの選択（E 63 AMG を除く車種）

① 走行モード選択スイッチ
（マニュアルギアシフト非装備車）
② 走行モード選択スイッチ
（マニュアルギアシフト装備車）

マニュアルギアシフト非装備車

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押します。

E モード→ S モード→ E モードと切り替わります。

マニュアルギアシフト装備車

▶ 走行モード選択スイッチ ② を押します。

E モード→ S モード→ M モード→ E モードと切り替わります。

走行モード表示（E 63 AMG を除く車種）

イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイ下部に、走行モード表示 ① が表示されます。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは E モードになります。

走行モードの選択（E 63 AMG）

▶ 走行モード選択ダイヤル ① をまわします。

選択した走行モードの文字が赤色に点灯します。

走行モード表示（E 63 AMG）

イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイ下部に、走行モード表示 ① が表示されます。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは C モードになります。

ℹ E 63 AMG は、通常の走行ではレーススタート（RS）を選択することはできません。詳しくは（▷232 ページ）をご覧ください。

パドルによる操作

① 左側パドル
② 右側パドル

シフトポジションが D で、走行モードが M モード * 以外のときは、パドルを操作して、オートマチックトランスミッションの変速範囲を変えることができます（▷172 ページ）。

マニュアルギアシフト（▷173 ページ）を選択しているときは、パドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。走行中にエンジン回転数が下がったときは、ギアは自動的にシフトダウンします。

ℹ パドルによる操作は、シフトポジションが D でのときのみ行なえます。

オートマチックギアシフト

走行モードが E モードまたは C モード（E 63 AMG）のときは、以下のようになります。

- エンジンとオートマチックトランスミッションが快適性を重視した設定になります。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードまたは S+ モード（E 63 AMG）のときは、以下のようになります。

- エンジンとオートマチックトランスミッションがスポーティな設定になります。
- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、エンジン回転数が高くなり、燃料をより多く消費します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要なシフトアップを抑えます。

シフトポジションが D で、走行モードが E モードまたは C モード、S モード、S+ モード * のいずれかのときにティップシフトにできます。

ギアレンジ	作動内容
D	1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。
D6	1 速～ 6 速の範囲で自動的に変速します。
D5	1 速～ 5 速の範囲で自動的に変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で自動的に変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で自動的に変速します。緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で自動的に変速します。急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
D1	1 速に固定されます。エンジンブレーキが最大に作用します。

警 告

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失い、車両がスリップするおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数により異なります。

ティップシフトにする

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）

* オプションや仕様により、異なる装備です。

E 63 AMG を除く車種
③ ギアレンジ表示

E 63 AMG
③ ギアレンジ表示

▶ シフトポジションが D のときに、左側パドル ① を引きます。
ティップシフトになり、ギアレンジ表示 ③ に選択されたギアレンジが表示されます。

ℹ シフトダウン操作によりエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、シフトダウンされません。

ℹ 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル ① を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル ② を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル ② を引いて保持します。

または

▶ セレクターレバーを D の方向に操作します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ③ に "D" が表示されます。

最適なシフトレンジを選択する

▶ 左側パドル ① を引いて保持します。

そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されます。

ℹ ティップシフトにしていないときに右側パドル ② を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

マニュアルギアシフト *

ステアリングのパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ **警 告**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。また、駆動輪が空転すると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

❗ エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

車両の操作

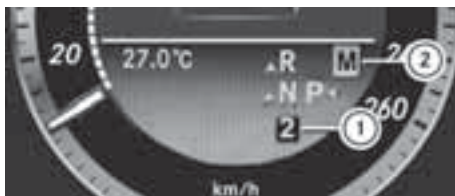
* オプションや仕様により、異なる装備です。

! E 63 AMG は、マニュアルギアシフトでは、エンジン回転数が許容限度に達しても、自動的にシフトアップされません。エンジンの許容回転数に達したときは、過回転からエンジンを保護するため、燃料の供給が断たれます。運転者は常に、タコメーターの指針がレッドゾーンに達していないこと、シフトアップインジケーターが赤色に点灯していないことを確認してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

i マニュアルギアシフトでは、ESP® の機能を解除しないで走行することをお勧めします。

i エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

i マニュアルギアシフトが選択された状態でエンジンを停止すると、オートマチックギアシフトに切り替わります。

マニュアルギアシフトの選択

E 63 AMG を除く車種
① ギア表示
② 走行モード表示

E 63 AMG
① ギア表示
② 走行モード表示

マニュアルギアシフトを選択すると、ギア表示 ① には選択されているギアが表示されます。

i マニュアルギアシフトではギア表示 ① に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ */ ダウンに応じてギア表示 ① に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ（▷170 ページ）を押すか、走行モード選択ダイヤル（▷170 ページ）をまわして、M モードを選択します。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ（▷170 ページ）を押すか、走行モード選択ダイヤル（▷170 ページ）をまわして、E モードまたは C モード、S モード、S+ モード * のいずれかを選択します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ギアシフト操作

① 左側パドル（低いギアを選択）
② 右側パドル（高いギアを選択）

低いギアを選択する

▶ 左側パドル ① を引きます。

高いギアを選択する

▶ 右側パドル ② を引きます。

ⓘ シフトダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

ⓘ 左側パドル ① を引いて保持すると、そのときの加速や減速に最も適したギアが選択されます。

ⓘ E 63 AMG を除く車種は、エンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされます。

ⓘ シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

ⓘ 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

ⓘ 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

ⓘ E 63 AMG を除く車種は、マニュアルギアシフトを選択しているときにキックダウンを行なうことができます。また、キックダウンしているときは、シフト操作はできません。

ⓘ E 63 AMG では、マニュアルギアシフトを選択しているときは、キックダウンはできません。

シフトアップ表示（E 63 AMG）

① ギア表示
② "UP" マーク

エンジン回転が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、走行速度表示 ① とギア表示 ② が赤く表示され、"UP" マーク ③ が表示されます。

必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

ⓘ エンジン回転数が高くなったときは、シフトアップするタイミングになる前に、マルチファンクションディスプレイの表示が一瞬赤くなることがあります。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを D にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを R にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷26 ページ）をご覧ください。

⚠ **警 告**

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、走行速度や外気温度、警告灯 / 表示灯や故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。また、車両操縦性に影響を与えるおそれがあります。十分注意して走行してください。

また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

マルチファンクションディスプレイとメーターパネルの照度を調整する

左ハンドル車
① メーターパネル照度調整ノブ

▶ 周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、メーターパネル照度調整ノブ ① を時計回りまたは反時計回りにまわします。

マルチファンクションディスプレイの照度が変化します。

メーターパネルが点灯しているときは、メーターパネルやスイッチの照明などの照度も変化します。

エンジン冷却水温度計

メーターパネルの右側にあります。エンジンの冷却水温度を表示します。

指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が 120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されない限り、故障ではありません。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 80 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 9 リットル（E 63 AMG は約 14 リットル）です。

i 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

時計

時計の時刻は、COMAND システムの時刻に連動します。

時刻を調整するときは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

スピードメーター

車の走行速度を km/h で表示します。

スピードメーターの内側には、クルーズコントロールインジケーター *（▷213 ページ）またはディストロニック・プラスインジケーター *（▷225 ページ）および可変スピードリミッターインジケーター（▷217 ページ）があります。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

環 境

必要以上にエンジン回転数を上げて走行しないでください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチファンクションディスプレイ

⚠ 警 告

マルチファンクションディスプレイは道路と交通状況が許すときにのみ操作してください。注意がそれ、運転に集中することができず、事故の原因になります。

⚠ 警 告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージは表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、メッセージなどの走行状態を示す情報を得ることができなくなります。また、走行特性に変化が出る可能性もあります。運転スタイルと走行速度を状況に合わせてください。

また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警 告

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムの故障および警告のみを記録および表示します。そのため、車両が安全に使用できることを常にお客様自身で確認してください。安全性が確保されていない車両を運転することにより、事故の原因になります。

⚠ 警 告

不適切な作業を行なうと、車両安全性に悪影響を与えるおそれがあります。その結果、車両操縦性を失い、事故の原因になります。さらに、安全装備が設計通りに乗員を保護できなくなります。

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ 警 告

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

マルチファンクションディスプレイの操作

イグニッション位置を **1** にすると、マルチファンクションディスプレイは作動します。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイを操作します。

① マルチファンクションディスプレイ
② 右側キーパッド
③ 音声認識スイッチ
④ リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ
⑤ 左側キーパッド

左側キーパッド

	機能
	スクロールスイッチ • メインメニューおよびメニューリストの呼び出し
	スクロールスイッチ 軽く押す： • リストのスクロール • サブメニューまたは機能の選択 • オーディオメニュー：ラジオ・テレビの手動選局、トラックの選択、DVD ビデオのチャプター選択 • 電話メニュー：電話帳の表示および電話帳の名前または電話番号の選択、発信履歴の選択 押して保持する： • オーディオメニュー：ラジオ・テレビの自動選局、トラックの早送り / 早戻し、DVD ビデオの早送り / 早戻し • 電話メニュー：電話帳のスクロール
OK	**確定スイッチ** • 選択した項目の確定やメッセージの確認 • 電話メニュー：電話帳の表示および電話の発信 • オーディオメニュー：選局操作の停止

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

右側キーパッド

	機能
	通話終了スイッチ • 電話の保留 / 切断 • 電話帳 / 発信履歴を閉じる
	通話開始スイッチ • 電話の発信 • 発信履歴の表示
	音量スイッチ • 音量の調節
	消音スイッチ オーディオやナビの音声案内などの消音

音声認識スイッチ

	機能
	音声認識スイッチ • 音声認識の開始 ⓘ 音声認識の詳細については、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

リターンスイッチ

	機能
	リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ 軽く押す： • 戻る • 音声認識の中止 • 故障 / 警告メッセージの消去、ひとつ前の画面への移動 • 電話帳 / 発信履歴を閉じる 押して保持する： • 基本画面への移動

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メニューリスト

① 表示エリア
② メニューリスト
③ 走行モード表示
④ シフト位置表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示 *
⑤ 外気温度表示 / 走行速度表示

メニューリスト②には、マルチファンクションディスプレイのメインメニューが表示されます。

メニューリストを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押します。

ℹ メニューリストを表示させてから約 3 秒間何も操作しないと、メニューリストの表示は消えます。

基本操作

メインメニューを選択する

▶ メニューリストが表示されているときに [◀] または [▶] を押して、メインメニューを選択します。

ひとつ前の画面に戻る

▶ [↩] を押します。

基本画面（トリップメニュー）に戻る

▶ トリップメニューが表示されるまで [↩] を押します。

または

▶ [↩] を押して保持します。

選択を確定する

▶ [OK] を押します。

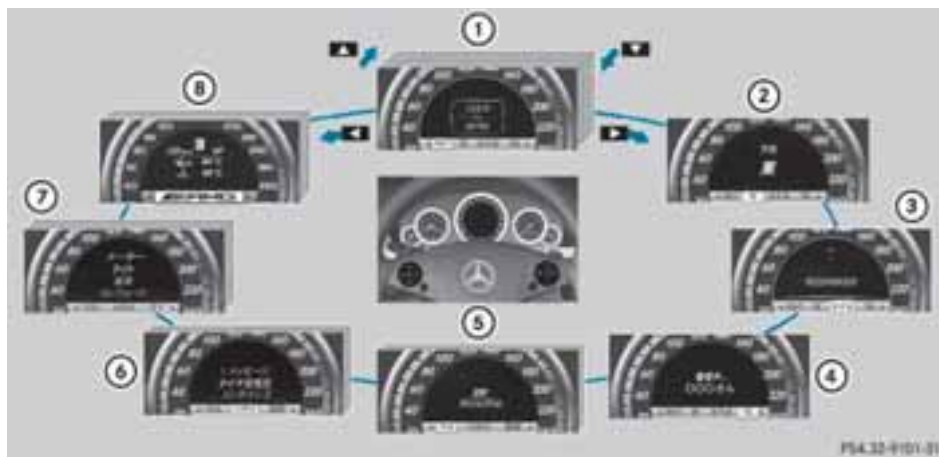
オーディオや通話などの音量を調整する

▶ [+] または [−] スイッチを押します。

消音する

▶ [🔇] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

メインメニューとサブメニュー

	機能
①	トリップメニュー（▷184 ページ）
②	ナビメニュー（▷187 ページ）
③	オーディオメニュー（▷188 ページ）
④	TEL メニュー（▷190 ページ）
⑤	アシストメニュー （▷192 ページ）
⑥	メンテナンスメニュー（▷195 ページ） • 故障表示（▷195 ページ） • タイヤ空気圧警告システムの表示（▷355 ページ） • メンテナンスインジケーターの表示（▷366 ページ）
⑦	設定メニュー（▷196 ページ）
⑧	AMG メニュー *（▷207 ページ）

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

トリップメニュー

トリップメニューで表示・設定できる項目は以下の通りです。

- 基本画面
- エンジン始動時からの情報表示（▷184 ページ）
- リセット時からの情報表示（▷185 ページ）
- 走行可能距離・瞬間燃費 * 表示（▷186 ページ）
- 走行速度表示（▷186 ページ）

トリップメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " トリップ " を選択します。

基本画面

① トリップメーター
② オドメーター

トリップメーター ① は、リセット後の走行距離を表示します。

オドメーター ② は、これまでに走行した距離の総合計を表示します。

基本画面を表示させる

▶ 基本画面が表示されるまで ⮌ を押すか、押して保持します。

または

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ 基本画面以外の画面が表示されたときは、基本画面が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

トリップメーターをリセットする

▶ 基本画面を表示させます。

▶ OK を押します。

確認画面が表示されます。

▶ ▼ を押して " はい " を選択し、OK を押します。

エンジン始動時からの情報表示

① エンジン始動時からの走行距離
② エンジン始動時からの経過時間
③ エンジン始動時からの平均速度
④ エンジン始動時からの平均燃費

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。

約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km 走行後に自動的にリセットされます。

エンジン始動時からの情報を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ エンジン始動時からの情報以外の画面が表示されたときは、エンジン始動時からの情報が表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

エンジン始動時からの情報を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報は手動でリセットすることもできます。

▶ エンジン始動時からの情報を表示させます。

▶ [OK] を押します。

確認画面が表示されます。

▶ [▼] を押して "はい" を選択し、[OK] を押します。

リセット時からの情報表示

① リセット時からの走行距離
② リセット時からの経過時間
③ リセット時からの平均速度
④ リセット時からの平均燃費

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ リセット時からの情報以外の画面が表示されたときは、リセット時からの情報が表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

ⓘ リセット後は、9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

リセットする

▶ リセット時からの情報を表示させます。

▶ OK を押します。

確認画面が表示されます。

▶ ▼ を押して " はい " を選択し、OK を押します。

走行可能距離・瞬間燃費 * 表示

① 走行可能距離
② 瞬間燃費

走行可能距離 ① は、現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示されます。

瞬間燃費 ②* は、走行中の瞬間燃費を km/l で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

走行可能距離・瞬間燃費を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ 走行可能距離・瞬間燃費以外の画面が表示されたときは、走行可能距離・瞬間燃費が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

ℹ 燃料残量が少ないときは、走行可能距離の代わりに ⛽ が表示されます。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行速度表示

走行速度を表示します。

走行速度を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ 走行速度以外の画面が表示されたときは、走行速度が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ナビメニュー

ナビメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ナビ " を選択します。

ルート案内を行なっていないとき

①進行方向の方位表示

マルチファンクションディスプレイに進行方向の方位 ① が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

①目的地までの距離
②交差点（分岐点）までの距離
③交差点（分岐点）での進行方向

交差点（分岐点）に接近しているとき

車線変更を伴わない右折時の例

①交差点（分岐点）までの距離と距離を表すグラフ
②交差点（分岐点）での進行方向

交差点（分岐点）に接近すると、音声案内が行なわれ、マルチファンクションディスプレイに交差点（分岐点）までの距離と距離を表すグラフ ①、進行方向 ② が表示されます。

車線変更を伴う右折時の例

①交差点（分岐点）までの距離
②適切な走行車線
③車線変更表示

複数の車線がある道路を走行しているときに交差点（分岐点）に接近すると、マルチファンクションディスプレイに交差点（分岐点）までの距離 ① が表示されます。また、適切な走行車線 ② と、車線変更の内容 ③ が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ルート案内中の表示

COMAND システムで目的地を設定したときやルート案内をしているときは、マルチファンクションディスプレイに以下のような表示が行なわれることがあります。

" 🏁 "

目的地に到着したときに表示されます。

" 新ルート "

当初の案内ルートから外れたり、渋滞が発生した場合などに表示されることがあります。計算後はルート案内表示に戻ります。

" ルート計算中 "

ルートを計算しているときに表示されます。

" 案内ルート外 "

車が地図に表示されない場所にあるとき、または駐車場などの道路外の場所にあるときに表示されることがあります。

" ルートなし "

目的地までのルート案内が計算できない場合などに表示されることがあります。

ℹ ナビの詳細については、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

オーディオメニュー

ℹ オーディオの詳細については、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

ラジオ局を選局する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2" または " 交通情報 "
② プリセット番号 /
放送局名または受信周波数

COMAND システムで、ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " オーディオ " を選択します。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ ▼ または ▲ を押します。

プリセットされたラジオ局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ ▼ または ▲ を押して保持します。

受信周波数が動き、次に受信できる周波数で停止します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トラックを選択する

① 音楽ソース表示
（" ディスク "/" ﾒﾓﾘｰｶｰﾄﾞ "/"HDD"/"USB"/"MEDIA INT."/"BT AUDIO"/" 外部入力 "）
② トラック番号 / トラック名

COMAND システムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、USB メモリー、メディアインターフェース、Bluetooth® オーディオ、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

トラックを選択する

ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、USB メモリー、メディアインターフェース、Bluetooth® オーディオのいずれかを再生しているときはトラックを選択することができます。

▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のトラックが選択されます。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

チャプターを選択する

▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のチャプターが再生されます。

テレビ局を選局する

① " テレビ 1" または " テレビ 2"
② プリセット番号 / チャンネル番号 / 放送局名

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

テレビ局をプリセット選局する

▶ ▼ または ▲ を押します。

プリセットされたテレビ局が選択されます。

テレビ局を自動選局する

▶ ▼ または ▲ を押して保持します。

受信チャンネルが動き、次に受信できるチャンネルで停止します。

TEL メニュー

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ℹ COMAND システムには Bluetooth® 接続により携帯電話を接続できます。詳しくは、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

⚠ **警告**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話をかけないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

TEL メニューを表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

マルチファンクションディスプレイに " 電話 待ち受け " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に 📞 を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ ☎ を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に ☎ を押します。

ℹ 上記の操作は TEL メニューを表示していないときも行なうことができます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ℹ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話やメモリーカードからデータをダウンロードできます。詳しくは、COMAND システムの別冊取扱説明書をご覧ください。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

▶ ▼ ▲ または OK を押して、電話帳を呼び出します。

▶ ▼ または ▲ を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ℹ ▲ または ▼ を約 2 秒以上押し続けると、電話帳データがスクロールします。▲ または ▼ を約 4 秒以上押し続けると、あかさたな…行、および各アルファベットの最初の登録項目ごとにスクロールします。

▶ 📞 または OK を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" 発信中 ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前も表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ℹ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに ▼ または ▲ を押して電話番号を選択してから、📞 または OK を押すと発信されます。

ℹ ステアリングの 📞 スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "TEL" を選択します。

▶ COMAND ディスプレイに " 電話 待ち受け " と表示されているときに、📞 を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ ▼ または ▲ を押して、発信先を選択します。

▶ 📞 または OK を押します。

ℹ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アシストメニュー

アシストメニューで設定できる項目は以下の通りです。

- ディストロニック・プラスの車間距離表示 *
- ESP® *
- PRE-SAFE® ブレーキ *
- アテンションアシスト
- アクティブブラインドスポットアシスト *
- アクティブレーンキーピングアシスト *

アシストメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "アシスト" を選択します。

ディストロニック・プラスの車間距離表示 *

車間距離表示は、ディストロニック・プラス装備車にのみ表示できます。

▶ アシストメニューで "車間距離表示" を選択し、OK を押します。

マルチファンクションディスプレイにディストロニック・プラスの車間距離（▷226 ページ）が表示されます。

ESP® の設定 *

⚠ 警告

ESP® 表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。事故につながるおそれがあるため、以下の点に注意してください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。
- 路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP® は無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

エンジンがかかっているときに、ESP® の設定ができます。

▶ アシストメニューで ▲ を押して、"ESP" を選択し、OK を押します。

設定画面が表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示	設定内容
オフ	ESP® の機能が解除されます。 メーターパネルの ESP® オフ表示灯（▷65 ページ）が点灯します。
オン	ESP® が待機状態になります。 メーターパネルの ESP® オフ表示灯（▷65 ページ）が消灯します。

⚠ 警告

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されているか、故障により ESP® の機能が作動していません。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

詳しくは（▷64 ページ）をご覧ください。

PRE-SAFE® ブレーキの設定 *

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラス装備車にのみ設定ができます。

▶ アシストメニューで ▼ を押して "PRE-SAFE ブレーキ" を選択し、OK を押します。

設定画面が表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	PRE-SAFE® ブレーキが設定されます。
オフ	PRE-SAFE® ブレーキが解除されます。

ℹ ホールド機能を作動させていないときは、PRE-SAFE® ブレーキを設定すると、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに [表示] が表示されます。

詳しくは（▷69 ページ）をご覧ください。

アテンションアシストの設定

アテンションアシストの設定ができます。

▶ アシストメニューで ▼ を押して " アテンションアシスト " を選択し、OK を押します。

設定画面が表示されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	アテンションアシストが設定されます。
オフ	アテンションアシストが解除されます。

ⓘ アテンションアシストを設定すると、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに ☕ が表示されます。

詳しくは（▷253 ページ）をご覧ください。

アクティブブラインドスポットアシストの設定 *

アクティブブラインドスポットアシストの設定ができます。

▶ アシストメニューで ▼ を押して " ブラインドスポットアシスト " を選択し、OK を押します。

設定画面が表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	アクティブブラインドスポットアシストが設定されます。
オフ	アクティブブラインドスポットアシストが解除されます。

設定画面が表示されます。

アクティブブラインドスポットアシストが設定されているときは、イラストのモニターエリア部分が赤色で表示されます。

詳しくは（▷262 ページ）をご覧ください。

レーンキーピングアシスト / アクティブレーンキーピングアシストの設定 *

レーンキーピングアシスト / アクティブレーンキーピングアシストの設定ができます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ アシストメニューで ▼ を押して、" レーンキープ゚アシスト " を選択し、OK を押します。

設定画面が表示されます。

レーンキーピングアシスト / アクティブレーンキーピングアシストが設定されているときは、イラストのレーン部分が赤色で表示されます。

レーンキーピングアシスト / アクティブレーンキーピングアシストの設定を変更する

▶ 再度 OK を押します。

ⓘ レーンキーピングアシスト / アクティブレーンキーピングアシストを設定すると、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに [アイコン] が表示されます。

詳しくは（▷260、266 ページ）をご覧ください。

メンテナンスメニュー

メンテナンスメニューで表示 / 設定できる項目は以下の通りです。

- 故障表示
- タイヤ空気圧警告システム（▷355 ページ）
- メンテナンスインジケーター（▷366 ページ）

メンテナンスメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " メンテナンス " を選択します。

故障表示

故障や異常が発生したとき、故障や異常の内容がメッセージで表示されます。

⚠ **警 告**

表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障 / 警告メッセージは運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

自動表示機能

故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージが自動的に表示されます。

複数の故障や異常があるときは、故障 / 警告メッセージが約 5 秒間隔で順番に表示されます。

メンテナンスメニューに戻るときは、[⮌] または [OK] を押します。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " メンテナンス " を選択します。

"0 メッセージ " と表示されているときは、故障や異常はありません。故障や異常があるときは、 "2 メッセージ " のように故障や異常の件数が表示されます。

▶ [▼] または [▲] を押して、" メッセージ " を選択し、[OK] を押します。

ⓘ " メンテナンス " を選択して約 3 秒経過すると、" メッセージ " が自動的に選択されます。

▶ 故障や異常があるときは、[OK] を押します。

故障や異常の内容が表示されます。

複数の故障や異常があるときは、[▼] または [▲] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。

▶ メンテナンスメニューに戻るときは、[⮌] を押します。

ⓘ 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷388 ページ～）をご覧ください。

ⓘ 故障 / 警告メッセージは、イグニッション位置を **0** にすると消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

設定メニュー

設定メニューで設定できる項目は以下の通りです。

- メーターの設定（▷197 ページ）
- ライトの設定（▷198 ページ）
- 車両の設定（▷202 ページ）
- コンフォートの設定（▷204 ページ）
- 設定項目の初期化（▷206 ページ）

設定メニューを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

メーター

以下の設定ができます。

- 速度・距離の単位
- ディスプレイ下部の表示の設定の表示

速度・距離単位の設定

マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位を設定できます。

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" メーター " を選択します。

▶ OK を押します。

設定画面が表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
km	表示単位がキロメートルになります。 "km/h"、"km" などで表示されます。
miles	表示単位がマイルになります。 "mph"、"mi"、"miles" などで表示されます。

⚠ 警 告

1 マイル（mph）は約 1.6km（km/h）です。マルチファンクションディスプレイの表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず表示単位をキロメートルにしてください。

ディスプレイ下部の表示の設定

マルチファンクションディスプレイ下部に表示される項目の設定ができます。

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" メーター " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
外気温度表示	マルチファンクションディスプレイ下部に外気温度が表示されます。
速度表示 [mph]:	マルチファンクションディスプレイ下部に走行速度（mph 単位）が表示されます。

ライト

以下の設定ができます。

- ヘッドライト点灯モード
- インテリジェントライトシステム
- アダプティブハイビームアシスト
- アンビエントライト照度
- ヘッドライト照射範囲
- ロケイターライティング
- ルームランプ残照機能

ヘッドライト点灯モードの設定

ヘッドライトの点灯モードの設定ができます。

常時点灯モードでは、ライトスイッチが AUTO の位置にあるときにイグニッション位置を **1** か **2** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスライトが常に点灯します。また、エンジンを始動すると、ヘッドライトと LED ドライビングライトが常に点灯します。

手動点灯モードでは、ライトスイッチを操作してヘッドライトなどを点灯します。日本ではこのモードに設定してください。

イグニッション位置が **1** のとき、またはイグニッション位置が **2** でエンジンが停止しているときに設定できます。

▶ 設定メニュー（▷196 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ OK を押して、設定を変更します。

常時点灯モードに設定されているときは、車両イラストのライトと ☀ マークが赤色に表示されます。

手動点灯モードに設定されているときは、車両イラストのライトと ☀ マークが白色に表示されます。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときは、設定の変更はできません。

ℹ 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定してください。

ℹ 常時点灯モードで自動的に点灯するライト以外のライトを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

インテリジェントライトシステムの設定

インテリジェントライトシステムの設定を変更できます。

- ▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。
- ▶ OK を押します。
- ▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

- ▶ OK を押して、設定を変更します。

  インテリジェントライトシステムが設定されているときは、車両イラストのライトと マークが赤色に表示されます。

  インテリジェントライトシステムの設定が解除されているときは、車両イラストのライトと マークが白色に表示されます。

詳しくは（▷131 ページ）をご覧ください。

アダプティブハイビームアシストの設定

アダプティブハイビームアシストの設定ができます。

- ▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" ライト " を選択します。
- ▶ OK を押します。
- ▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

- ▶ OK を押して、設定を変更します。

  アダプティブハイビームアシストが設定されているときは、車両イラストのライトと マークが赤色に表示されます。

  アダプティブハイビームアシストの設定が解除されているときは、車両イラストのライトと マークが白色に表示されます。

詳しくは（▷133 ページ）をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アンビエントライト照度の設定

アンビエントライトの照度を設定できます。

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で [▼] または [▲] を押して、" ライト " を選択します。

▶ [OK] を押します。

▶ [▼] を押して、設定画面を表示させます。

▶ [OK] を押します。

▶ [▼] または [▲] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
レベル 5 レベル 4 レベル 3 レベル 2 レベル 1	レベル 5 がもっとも明るく、レベル 1 がもっとも暗い照度になります。
オフ	アンビエントライトは点灯しません。

詳しくは（▷138 ページ）をご覧ください。

ヘッドライト照射範囲の設定

ヘッドランプの照射範囲を、左側通行または右側通行に適した設定に切り替えます。

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で [▼] または [▲] を押して、" ライト " を選択します。

▶ [OK] を押します。

▶ [▼] を押して、設定画面を表示させます。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
左側通行用	ヘッドライトの照射設定が左側通行に適した設定になります。
右側通行用	ヘッドライトの照射設定が右側通行に適した設定になります。

ℹ 日本では、" 左側通行用 " に設定して使用してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ "右側通行用"に設定すると、インテリジェントライトシステム設定画面に"ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｼｽﾃﾑ作動できません 右側通行設定では無効"と表示され、インテリジェントライトシステムの設定が変更できなくなります。また、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

ロケイターライティングの設定

ロケイターライティングの設定ができます。

ロケイターライティングには、周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ライトが点灯する機能（解錠時点灯機能）と、周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ライトが点灯する機能(車外ライト残照機能)があります。

上記の機能で点灯する車外ライトは以下の通りです。

- 車幅灯
- LED ドライビングライト
- テールランプ
- ライセンスライト
- ドアミラー下部のライト *

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、"ライト"を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

解錠時点灯機能と車外ライト残照機能が設定されているときは、車両イラストの車外ライトが赤色に表示されます。

解錠時点灯機能と車外ライト残照機能の設定が解除されているときは、車両イラストの車外ライトが白色に表示されます。

詳しくは（▷80、128 ページ）をご覧ください。

ルームランプ残照機能の設定

ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くとルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、"ライト"を選択します。

▶ OK を押します。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ [▼] を押して、設定画面を表示させます。

▶ [OK] を押して、設定を変更します。

ルームランプ残照機能が設定されているときは、車両イラストのドアウインドウが赤色に表示されます。

ルームランプ残照機能の設定が解除されているときは、車両イラストのドアウインドウが白色に表示されます。

詳しくは（▷136 ページ）をご覧ください。

車両

以下の設定ができます。

- ウィンタータイヤスピードリミッター
- 車速感応ドアロック
- アンサーバック機能
- レーダーセンサーシステム *

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で [▼] または [▲] を押して、"車両" を選択します。

▶ [OK] を押します。

設定画面が表示されます。

▶ [OK] を押します。

▶ [▼] または [▲] を押して、設定を変更します。

▶ [OK] を押します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷214 ページ）で設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

車速感応ドアロックの設定

走行速度が約 15km/h 以上になったときにドアとトランクまたはテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー（▷196 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" 車両 " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

車速感応ドアロックが設定されているときは、車両イラストのドア部分が赤色に表示されます。

車速感応ドアロックの設定が解除されているときは、車両イラストのドア部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷89 ページ）をご覧ください。

アンサーバック機能の設定 *

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を解錠 / 施錠したときに確認音が鳴る機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー（▷196 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" 車両 " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

アンサーバック機能が設定されているときは、イラストの 🔒 マークが赤色に表示されます。

アンサーバック機能の設定が解除されているときは、イラストの 🔒 マークが白色に表示されます。

詳しくは（▷79、84 ページ）をご覧ください。

レーダーセンサーシステムの設定 *

電子望遠鏡施設の周辺に入ったときは、手動でレーダーセンサーシステムを停止することができます。レーダーセンサーシステムについて、詳しくは（▷466 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

電子望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

レーダーセンサーシステムを停止すると、以下の機能も解除されます

- ディストロニック・プラス（▷218 ページ）
- BAS プラス（▷61 ページ）
- PRE-SAFE® ブレーキ(▷69 ページ)
- アクティブブラインドスポットアシスト（▷262 ページ）

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" 車両 " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	レーダーセンサーシステムが設定されます。
オフ	レーダーセンサーシステムが解除されます。

詳しくは（▷466 ページ）をご覧ください。

コンフォート

以下の設定ができます。

- イージーエントリー *
- フロントシートベルトのテンション自動調整機能
- 施錠時のドアミラー格納

イージーエントリーの設定 *

イージーエントリーの設定ができます。

イージーエントリーを設定すると、以下のときにステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- イグニッション位置が **0** か **1** で運転席ドアを開いたとき

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ OK を押します。

設定画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ OK を押して、設定を変更します。

イージーエントリーが設定されているときは、車両イラストのステアリング部分がオレンジ色に表示されます。

イージーエントリーの設定が解除されているときは、車両イラストのステアリング部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷115 ページ）をご覧ください。

⚠ 警告

- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開くとイージーエントリーが作動し、けがをするおそれがあります。
- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定

イグニッション位置が **2** のとき、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように、テンション（締め付け具合）を自動的に調整する機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー（▷196 ページ）で ▼ または ▲ を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能が設定されているときは、車両イラストのシートベルト部分が赤色に表示されます。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定が解除されているときは、車両イラストのシートベルト部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷123 ページ）をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

施錠時のドアミラー格納の設定

リモコン操作やキーレスゴー操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ または ▲ を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ を押して、設定画面を表示させます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

施錠時のドアミラー格納機能が設定されているときは、車両イラストのドアミラー部分が赤色に表示されます。

施錠時のドアミラー格納機能の設定が解除されているときは、車両イラストのドアミラー部分が白色に表示されます。

詳しくは（▷117 ページ）をご覧ください。

設定項目の初期化

設定メニューのすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

設定項目を初期化する

▶ 設定メニュー(▷196 ページ)で ▼ を押して、" 設定初期化 " を選択し、OK を押します。

確認画面が表示されます。

▶ ▼ を押して、 " はい " を選択し、OK を押します。

初期化が実行され、" 工場出荷時の設定に初期化 しました " と表示されます。

" いいえ " を選択すると、元の画面に戻ります。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときは初期化を行なうことができない項目があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

AMG メニュー *

油温・水温表示

① 走行速度表示
② ギア表示
③ シフトアップ表示
④ 油温表示
⑤ 水温表示

油温・水温を表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "AMG" を選択します。

イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときは、AMG メニューの各項目に走行速度表示 ① とギア表示 ② が表示されます。

走行速度表示 ① は、走行中の速度を表示します。

ギア表示 ② は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

シフトアップ表示 ③ は、マニュアルギアシフトを選択しているとき、シフトアップするタイミングになると表示されます。

油温表示 ④ は、エンジンオイルの油温を表示します。

! 油温が約 80℃未満のときは油温が青色で表示されます。このときはエンジンオイルが温まっていません。必要以上にエンジン回転数を上げないように運転してください。

水温表示 ⑤ は、エンジン冷却水の水温を表示します。

i イグニッション位置が **1** のときは、油温、水温は表示されません。このときは " ――℃ " が表示されます。

ドライブモード表示

① 走行モード表示
② ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示
③ サスペンションモード

以下の設定を確認することができます。

- 走行モード表示（C、S、S+、M）
- ESP® モード / スポーツハンドリングモード表示（ON、SPORT、OFF）
- サスペンションモード（COMFORT、SPORT、SPORT+）

ドライブモードを表示させる

▶ 油温・水温を表示させます。

▶ ドライブモードが表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

レースタイマー

レースタイマー画面では、周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

レースタイマーを表示させる

▶ 油温・水温を表示させせます。

▶ レースタイマーが表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

ⓘ レースタイマーを表示しているときは、[◀] または [▶] でメインメニューを選択することはできません。

① ラップ表示
② 計測タイム

タイム計測を開始する

▶ [OK] を押して、"Start" を確定します。

タイム計測が開始されます。

スプリットタイムを表示する

▶ [◀] または [▶] を押して、"Interm. Time" を選択し、[OK] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

ラップタイムを記録する

最大 16 件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

① 計測タイム
② 最速ラップタイム
③ ラップ表示

▶ [◀] または [▶] を押して、"New Lap" を選択し、[OK] を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、スプリットタイムが表示された時点から、次のラップのタイム計測が開始されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ ラップタイムが記録されているときは、計測タイム ① の下に最速ラップタイム ② が表示されます。

ⓘ ラップタイムが 16 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムをすべて消去してください。

タイム計測を停止する

▶ [↩] を押します。

▶ [OK] を押して、"Yes" を確定します。

▶ "Start" を選択して [OK] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

すべてのラップタイムを消去する

▶ 現在のラップタイムを消去します。

▶ "Reset" を選択して [OK] を押します。

マルチファンクションディスプレイに "Reset Race-Timer?" と表示されます。

▶ [▼] を押して "Yes" を選択し、[OK] を押します。

全ラップの計測結果を確認する

2 周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測が停止しているときに全ラップの計測結果を表示できます。

① 全ラップ計測結果表示
② 合計時間
③ 計測した全ラップの平均速度
④ 計測した全ラップの走行距離
⑤ 計測した全ラップでの最高速度

計測結果（全ラップ）を表示させる

▶ タイム計測を停止します。

▶ 計測結果（全ラップ）が表示されるまで [▼] または [▲] を押します。

ラップごとの計測結果を確認する

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測が停止しているときにラップごとの計測結果を表示できます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップの平均速度
④ 表示されているラップの走行距離
⑤ 表示されているラップでの最高速度

計測結果（ラップ別）を表示させる

▶ タイム計測を停止します。

▶ 計測結果（ラップ別）が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

▶ 表示させたいラップの計測結果が表示されるまで ▼ または ▲ を押します。

表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示 ① が点滅します。

記録したすべてのラップタイムを消去する

計測結果を表示しているときに、すべてのラップタイムを消去することができます

▶ 計測結果（全ラップ）または計測結果（ラップ別）が表示されているときに、OK を押します。

マルチファンクションディスプレイに "Reset Race-Timer?" と表示されます。

▶ ▼ を押して "Yes" を選択し、OK を押します。

記録したすべてのラップタイムが消去されます。

ℹ 記録したラップタイムは個別には消去できません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行装備

クルーズコントロール *

クルーズコントロールを設定することにより、アクセルペダルを踏まなくても、設定速度を自動的に維持して走行できます。

クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

設定できる速度は 30km/h 以上です。

⚠ **警 告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

クルーズコントロールを使用しているときは、運転者は常に道路状況に注意を払ってください。

⚠ **警 告**

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の走行速度を維持できない道路·交通状況の場合（交通量が多い場合やカーブが連続している場合）。事故を起こすおそれがあります。
- 路面が滑りやすい場合。ブレーキや加速により駆動輪がグリップを失い、車がスリップするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪などで視界が確保できない場合。

! クルーズコントロールの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷399 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では速度を維持するためにシフトダウンすることがありますが、設定した速度を維持できないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、走行速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

クルーズコントロールを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールは、可変スピードリミッター（▷214 ページ）と同じレバーで操作します。

▶ 表示灯 ② が消灯していることを確認します。

表示灯が点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

表示灯が消灯します。

クルーズコントロールは、約 30km/h 以上の速度で走行しているときに設定できます。

▶ レバーを ① または ④ の方向に操作します。

そのときの走行速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

記憶されている前回の設定速度に設定されます。

前回の設定速度が記憶されていないときは、そのときの走行速度に設定されます。

⚠ 警 告

記憶されている前回の設定速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

▶ アクセルペダルから足を放します。

自動的に設定速度を維持しながら走行します。

ⓘ 以下のときはクルーズコントロールは設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール — km/h" が数秒間表示され、"—" 部分が点滅します。

- 約 30km/h 以下の速度で走行しているとき
- ESP® の機能を解除しているとき
- スポーツハンドリングモードに設定しているとき（E 63 AMG）

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

ⓘ 上り坂では設定速度を維持できないことがありますが、平坦な路面になると設定速度に戻ります。

クルーズコントロールが設定されると、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール " と設定速度 ⑦ が数秒間表示されます。

また、設定速度から上の部分のクルーズコントロールインジケーター ⑧ が点灯します。

ⓘ クルーズコントロールインジケーターの目盛りは 5km/h 単位です。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で上がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り上がり、10km/h 単位で上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で下がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り下がり、10km/h 単位で下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ⓘ レバーを ④ の方向に下げているときは、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯が点灯して、可変スピードリミッターが操作できる状態になります。

以下のときも、クルーズコントロールは解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや、ESP® の機能を解除したとき
- シフトポジションを N にしたとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " クルーズコントロール 解除 " が約 5 秒間表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

⚠ **警 告**

走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターを設定することにより、アクセルペダルを踏んでも、設定速度を超えないように走行できます。

設定できる速度は 30km/h から 210km/h までの間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ **警 告**

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ **警 告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

! 可変スピードリミッターの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷399 ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、走行速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

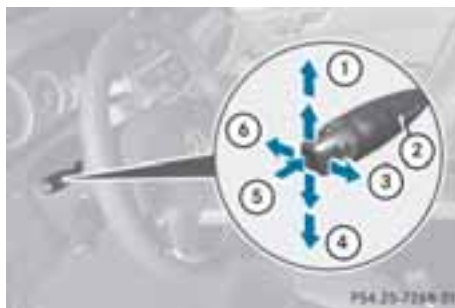
i ウィンタータイヤ装着時など、タイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定できるウィンタータイヤスピードリミッターが装備されています。詳しくは（▷202 ページ）をご覧ください。

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッターの設定速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

i 車の最高速度以上に設定しても、最高速度以上の速度で走行することはできません。

i 車種や仕様により、設定できる速度が異なる場合があります。

i 設定速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " リミット超えました " と表示されることがあります。

可変スピードリミッターを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターは、クルーズコントロール *（▷211 ページ）またはディストロニック･プラス *（▷218 ページ）と同じレバーで操作します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 表示灯 ② が点灯していることを確認します。

表示灯が消灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

表示灯が点灯します。

⚠ **警告**

運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定速度を伝えてください。

可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターは設定速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

可変スピードリミッターを設定しているときは、以下の操作を行なったときにのみ、設定速度以上の速度にすることができます。

- レバーを操作する
- アクセルペダルを踏んでキックダウンさせる

ブレーキ操作により、可変スピードリミッターを解除することはできません。

▶ レバーを ① または ④ の方向に操作します。

- 走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度に設定されます。
- 走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

- 記憶されている前回の設定速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

⚠ **警告**

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。

記憶されている前回の設定速度が走行速度より低いときは、前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

可変スピードリミッターが設定されると、マルチファンクションディスプレイに " 制限速度 " と設定速度 ⑦ が数秒間表示されます。

また、設定速度から下の部分の可変スピードリミッターインジケーター ⑧ が点灯します。

ⓘ 可変スピードリミッターインジケーターの目盛りは 5km/h 単位です。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で上がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り上がり、10km/h 単位で上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で下がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り下がり、10km/h 単位で下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯が消灯して、クルーズコントロールが操作できる状態になります。

⚠ **警 告**

ブレーキ操作により、可変スピードリミッターを解除することはできません。

以下のときも、可変スピードリミッターは解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、キックダウンしても解除されません。

- エンジンを停止したとき

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両の操作

ディストロニック・プラス *

⚠ 警告

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

重要な安全事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持するための補助を行ないます。また、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを 1 、2 、3 にしてください。それによりエンジンブレーキを使用することにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキの過熱と早期の摩耗を防ぎます。

前方を走行している遅い車両を検知すると、ディストロニック・プラスは自動ブレーキを作動させ、あらかじめ設定した先行車との距離を維持します。

⚠ 警告

滑りやすい路面では、よりエンジンブレーキを効かせるためのシフトダウンは行なわないでください。駆動輪がグリップを失い、車両がスリップする原因になります。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは運転の補助のみを行なうために設計されたものです。他の車両との距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

ディストロニック・プラスは、特に以下のようなものには反応しません。

- 歩行者
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両や、左または右にずれて走行している車両を検知しないことがあります。そのため、ディストロニック・プラスを作動させているときでも、交通状況には常に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警 告**

ディストロニック・プラスは道路や交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスが先行車を認識しない場合には、ディストロニック・プラスを作動させないでください。特に以下の場合です。

- カーブの前
- 車線が狭くなった場合
- 流れの速い車線に車線変更する場合
- 複雑な運転状況、または高速道路での工事など、車線が迂回している場合

ディストロニック・プラスは現在設定されている速度を維持するか、設定した速度まで加速します。

ディストロニック・プラスは天候などの条件を考慮することはできません。以下のときは、ディストロニック・プラスを作動させないでください。

- 道路が滑りやすいとき、雪で覆われているとき、または凍結しているとき。ブレーキを効かせたときや加速したときに車輪がグリップを失うことがあります。車両が滑り始めるおそれがあります。
- センサーが汚れていたり、雪、雨、または霧などで視界が悪いとき。距離の制御ができないことがあります。

ディストロニック・プラスが作動していても、交通状況には常に注意してください。 危険を適切に認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

ディストロニック・プラスの補助のためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、レーダーが作動していなければなりません。

前方に車両がいないとき、ディストロニック・プラスは、約 30km/h ～約 200km/h の走行速度の範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。前方を車両が走行しているときは、ディストロニック・プラスは、0km/h ～約 200km/h の走行速度の範囲で作動します。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

⚠ **警 告**

ディストロニック・プラスは、走行速度により、最大 4m/s² で車両にブレーキを効かせます。これは、車両の最大制動力の約 40%に相当します。この制動力が不十分なときは、運転者自身でブレーキを効かせてください。

ディストロニック・プラスが車両の前方に衝突の危険性を検知したときは、断続的な警告音が鳴ります。さらに、メーターパネルの車間距離警告灯 [⚠] が点灯します。衝突を避けるためにブレーキ操作を行なってください。

クルーズコントロールレバー

レバーでディストロニック・プラスや可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの LIM 表示灯は選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯が消灯：**ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：**可変スピードリミッターが選択されています。

① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
② 車間距離を設定する
③ LIM 表示灯
④ 現在の走行速度に設定する、または最後に記憶させた速度を呼び出す
⑤ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニック・プラスを解除する

ディストロニック・プラスの選択

▶ LIM 表示灯 ③ が消灯していることを確認します。

消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。

消灯していないときは、レバーを矢印 ⑥ の方向に押します。

レバーの LIM 表示灯が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

現在の速度を記憶させ、それを維持させるようにディストロニック・プラスを作動させる

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスが作動しているときは、車両にブレーキが効くことがあります。このため、他の方法（自走式洗車機に入れたり、けん引するときなど）で車両を動かすときは、ディストロニック・プラスを解除してください。

以下の条件を満たすときに、ディストロニック・プラスを作動させることができます。

- エンジンがかかっていること

  約 2 分以上走行するとディストロニック・プラスの使用準備が整います。

- パーキングブレーキが解除されていること
- ESP® が待機状態になっていて、作動していないこと

- シフトポジションが D にあること
- ボンネットが閉じていること
- シフトポジションを P から D にしたときに運転席ドアが閉じているか、運転者がシートベルトを着用していること
- 助手席側ドアと後席ドアが閉じていること
- 車両がスリップしていないこと

走行中の作動

約 30km/h 以下の速度で走行しているときは、先行車が検知されていて、マルチファンクションディスプレイに表示されているときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。先行車が検知されなくなり、表示されなくなったときは、ディストロニック・プラスは解除され、確認音が鳴ります。

▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引くか、クリックポイントまで上 ① または下 ⑤ に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

▶ 希望の速度が設定されるまで、レバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。

▶ アクセルペダルから足を放します。

設定速度以下で先行車が走行している場合、自車の速度が先行車と同じ速度に調整されます。

ⓘ アクセルペダルから足を完全に放していないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ ﾌﾟﾗｽ 制御待機中" というメッセージが表示されます。前方を走行している遅い車両との車間距離は維持されなくなります。アクセルペダルの踏み具合で自車の速度を調整してください。

停止している先行車に向かって走行しているときに作動させる

先行車が停車しているときは、自車が同様に停車してからのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。

▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引くか、クリックポイントまで上 ① または下 ⑤ に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

ⓘ 約 30km/h 以下では、先行車が検知されたときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。マルチファンクションディスプレイのディストロニック・プラス表示で確認してください。

▶ 希望の設定速度になるまで、レバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。

ⓘ レバーを使用して記憶速度を設定したり、レバーのダイヤル ② を使用して車間距離を設定することができます。

発進

▶ 前方の車両が発進したときは、ブレーキペダルから足を放します。

▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引きます。

または

▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。

先行車の走行速度に合わせるようにして発進します。

走行

先行車がいないときは、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

ディストロニック・プラスが先行車の減速を検知したときは、自動ブレーキを作動させて、設定した車間距離を維持します。

先行車が加速し、設定速度よりも速くなったときは、設定速度まで加速します。

⚠ 警告

ブレーキペダルを踏んだとき、自車が停止しているとき以外はディストロニック・プラスが解除されます。この後は、ディストロニック・プラスが車両にブレーキを効かせることはありません。そのような場合は、運転者のブレーキ操作のみで先行車との距離を調整することになります。事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。他の車両との車間距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

車線変更

以下の状況で追い越し車線に変更する場合は、ディストロニック・プラスの加速によって運転者の車線変更操作を補助します。

- 約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 先行車の速度が自車の設定速度よりも遅く、ディストロニック・プラスが先行車との距離を維持して追従走行しているとき
- 対応する方向指示灯を作動させたとき
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が短すぎるときは、加速は中断されます。

ⓘ 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは追い越し車線側の車両または障害物をモニターします。

※ 上記の機能は日本仕様では作動しない場合があります。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは、運転を補助するために設計されたものです。運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。他の車両との車間距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

停止

⚠ **警 告**

ディストロニック・プラスが作動しているときは車両から降りないでください。

ディストロニック・プラスを同乗者が操作したり、停車時に車外から作動または解除するような操作はしないでください。

ディストロニック・プラスはパーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときには、ディストロニック・プラスの自動ブレーキの作動が中断し、車両が動き出すことがあります。

- クルーズコントロールレバーを使用してディストロニック・プラスが解除されたとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するときは、ディストロニック・プラスを解除し、車両が動き出さないようにしてください。

⚠ **警 告**

ディストロニック・プラスは、走行速度により、最大 4m/s² で車両にブレーキを効かせます。これは、車両の最大制動力の約 40%に相当します。この制動力が不十分なときは、運転者自身でブレーキを効かせてください。

ディストロニック・プラスが車両の前方に衝突の危険性を検知したときは、断続的な警告音が鳴ります。さらに、メーターパネルの車間距離警告灯 [⚠] が点灯します。衝突を避けるためにブレーキ操作を行なってください。

先行車が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、自車が停止するまでブレーキを効かせます。

一度自車が停止すると、停車したままになり、ブレーキペダルを踏む必要はありません。

ⓘ 設定した車間距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。車間距離はレバーのダイヤルを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動しているときに以下のことを行なうと、シフトポジションが自動的に P になります。

- 運転席ドアを開いて、運転席のシートベルトを外したとき
- ECO スタート / ストップで自動的に停止している場合を除き、エンジンを停止したとき
- ボンネットを開いたとき
- システムに故障が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

速度の設定

▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に押します。

▶ 希望の速度が設定されるまで、レバーを押したままにします。

▶ レバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両の速度を調整します。

1km/h 単位での調整

▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に、クリックポイントまで軽く押します。

記憶される速度が 1km/h 単位で変更されます。

10km/h 単位での調整

▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に、クリックポイントを越えて押します。

記憶される速度が 10km/h 単位で変更されます。

ⓘ ディストロニック・プラスはアクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越しを行なうために速度を上げたときは、追い越しが完了した後に、ディストロニック・プラスは車両の速度を設定速度に調整します。

現在の速度を記憶させる、または記憶された速度を呼び出す

⚠ **警 告**

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放します。

ディストロニック・プラスが作動し、現在の速度が記憶されます。または、以前に記憶されていた巡航速度に車両を設定します。

車間距離の設定

先行車との車間距離を所定の範囲で設定できます。

車間距離の設定を最短にしたとき、約 60km/h で走行しているときは約 17m の車間距離に設定されます。

車間距離の設定を最長にしたとき、約 60km/h で走行しているときは約 33m の車間距離に設定されます。

車間距離はマルチファンクションディスプレイで確認できます（▷226 ページ）。

車間距離を長くする

▶ ダイヤル ② を矢印 ③ の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より長い車間距離を維持します。

車間距離を短くする

▶ ダイヤル ② を矢印 ① の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より短い車間距離を維持します。

ℹ 先行車と十分で安全な距離を維持していることを確認してください。必要であれば、先行車との距離を調整してください。

スピードメーターのディストロニック・プラス表示

DIRECT SELECT 装備車の例

ディストロニック・プラスを作動させたときは、設定速度域の 1 個または 2 個のセグメント ① が点灯します。

ℹ デザイン上の理由により、スピードメーターに表示されている速度とディストロニック・プラスの設定速度が若干異なる場合があります。

DIRECT SELECT 装備車の例

ディストロニック・プラスが先行車を検知すると、先行車の速度 ① と設定速度 ③ の間のセグメント ② が点灯します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイのディストロニック・プラス表示

一般的な注意事項

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー（▷192 ページ）で、車間距離表示を選択することができます。

▶ マルチファンクションディスプレイで、" 車間距離表示 "（▷192 ページ）を選択します。

ディストロニック・プラスが解除されているときの表示

ディストロニック・プラスが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイに以下の画面が表示されます。

DIRECT SELECT 装備車の例

①検知された先行車
②先行車との現在の距離を表示する車間距離インジケーター
③先行車との間に設定された車間距離（調整可能）
④自車

ディストロニック・プラスが作動しているときの表示

ディストロニック・プラスを作動させたときは、設定速度が約 5 秒間表示されます。この後、ディストロニック・プラスを作動させている間は、マルチファンクションディスプレイに以下の画面が表示されます。

DIRECT SELECT 装備車の例

①ディストロニック・プラス作動表示
②自車
③先行車との間に設定された車間距離（調整可能）
④検知された先行車

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディストロニック・プラスの解除

ディストロニック・プラスの解除には、いくつかの方法があります。

▶ レバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 停車していないときに、ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。レバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに " ディストロニックプラス オフ " と約 5 秒間表示されます。

ⓘ エンジンを停止すると、記憶された設定速度は消去されます。

以下のときはディストロニック・プラスは自動的に解除されます。

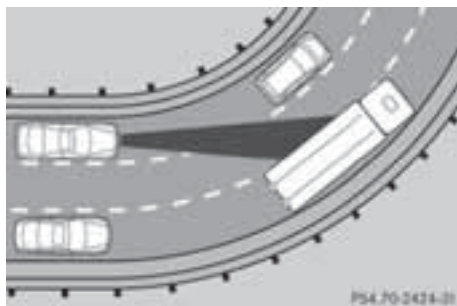
- パーキングブレーキを効かせたとき
- 走行速度が 25km/h 以下のときに、先行車がいなくなったときや先行車が検知されなくなったとき
- ESP® が介入したときや ESP® を解除したとき
- シフトポジションを N や P、R にしたとき
- 車両が電波望遠鏡施設の周辺にあるとき
- レーダーセンサーシステムを停止したとき
- 助手席ドアまたはいずれかの後席ドアが開いている状態で、発進させるためにレバーを手前に引いたとき
- 車両がスリップしたとき

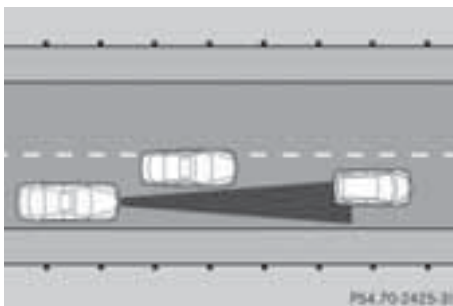
ディストロニック・プラスが解除されると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ディストロニックプラス オフ " と約 5 秒間表示されます。

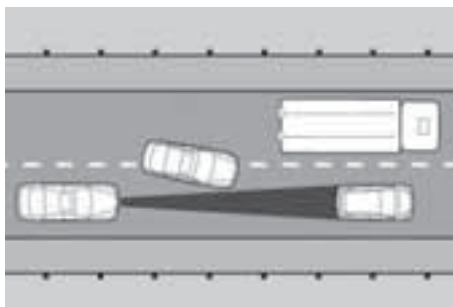
ディストロニック・プラスで走行するときのヒント

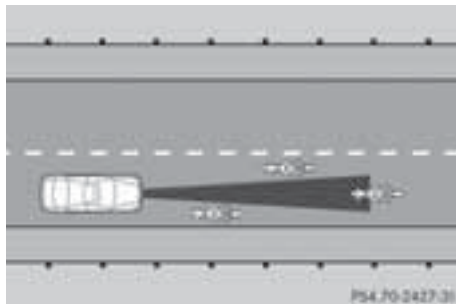
一般的な注意事項

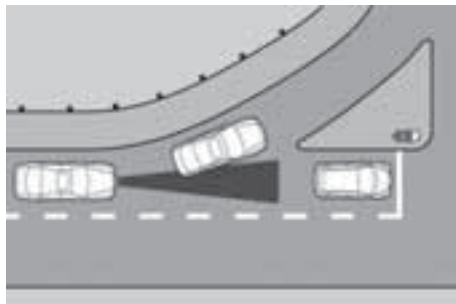
特に注意が必要な、道路と交通の特定の状況を以下に記載しています。このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニック･プラスが解除されます。

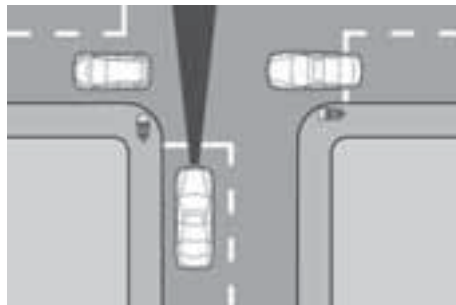
カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき

カーブでは、ディストロニック・プラスの機能が制限されます。車両が予期せずにブレーキを効かせたり、ブレーキが遅れることがあります。

自車の進路から左または右に少しずれた位置に車両が走行しているとき

ディストロニック・プラスは、自車の進行方向から左または右にずれて走行している車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなることがあります。

自車の進路に車両が割り込んでくるとき

ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知できないことがあります。この車両との距離が非常に短くなることがあります。

横幅の狭い車両が前方を走行しているとき

ディストロニック・プラスは、車線の端を走行している横幅の狭い車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなることがあります。

自車の進路に障害物や停車車両があるとき

ディストロニック・プラスは、障害物や停車車両に対して自動ブレーキを作動させません。例えば、自車が追従していた先行車がカーブを曲がり、障害物や停車車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対して自動ブレーキを作動させません。

車両が横切ったとき

ディストロニック・プラスは、誤って自車の車線を横切る車両を検知することがあります。交差点でディストロニック・プラスを作動させているときは、意図せずに自車が発進することがあります。

ホールド機能

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。

ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面で、停車した状態を維持することができます。

⚠ 警告

- 積雪路面や凍結路面、極端な急勾配の道路などタイヤが路面をグリップしない状況では、ホールド機能を使用しないでください。停車した状態を維持できません。
- ホールド機能使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- エンジンを停止するときや駐車するとき、車から離れるときは、必ずホールド機能を解除し、パーキングブレーキを効かせて、シフトポジションを P にしてください。
- ホールド機能はパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。
- ホールド機能が作動している状態で車から降りないでください。
- ホールド機能は、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。

⚠ 警告

ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。洗車機に入れるときやけん引などで車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

! マルチファンクションディスプレイにホールド機能に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷396 ページ）をご覧ください。

ホールド機能の作動条件

ホールド機能は、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、または ECO スタート / ストップ * によりエンジンが自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき（運転席の乗員がシートベルトを着用しているときは、運転席ドアが開いているときも作動します。）
- パーキングブレーキが解除されているとき
- ボンネットのロックが解除されていないとき
- シフトポジションが D、N、R のいずれかのとき

ホールド機能を作動させる

▶ ホールド機能の作動の条件を確認します。

▶ ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

マルチファンクションディスプレイにホールド機能表示灯 ① が表示されます。

※ 車種や仕様により、ホールド機能表示灯が表示される位置は異なります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示されないときは、ブレーキペダルを少し戻して、再度意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動し、ブレーキペダルから足を放しても停車したままになります。

⚠ 警告

以下のときは、ホールド機能が解除され、車が動きだすおそれがあります。

- アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを再度踏んだとき
- システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）があるとき
- バッテリーの接続が断たれたとき
- エンジンルームの電気システムやヒューズなどが変更されたときや、乗員がスイッチなどに触れることにより車が動き出すおそれがあります。

ホールド機能を解除する

以下のいずれかの操作をすると、ホールド機能は解除され、ホールド機能表示灯 ① が消灯します。

- シフトポジションが D または R のときに、アクセルペダルを踏んだとき
- シフトポジションを P にしたとき
- ブレーキペダルを再度踏んだとき

! ホールド機能を解除したときは、車の動きに十分注意してください。

! シフトポジションを P にしてホールド機能を解除したときは、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、確実に停車してください。

i シフトポジションが N のときにアクセルペダルを踏んでも、ホールド機能は解除されません。

i ホールド機能が作動して停車しているときにパーキングブレーキを効かせても、ホールド機能は解除されません。

ホールド機能の警告

! ホールド機能を作動させているときに、システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）が発生したときは、マルチファンクションディスプレイに " すぐにブレーキを踏んでください " と警告メッセージが表示されます。

このときは、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでください。警告メッセージが消えます。さらにシフトポジションを P にしてホールド機能を解除し、パーキングブレーキを効かせて確実に停車するとともに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ホールド機能が作動しているときに、ブレーキペダルを深く踏み込まずに以下の操作をすると、シフトポジションが P になり、ホールド機能は解除されます。

このときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

- 運転席の乗員がシートベルトを着用していないときに運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外したとき
- エンジンを停止したとき（ECO スタート / ストップによりエンジンが自動的に停止している場合を除く）
- ボンネットのロックを解除したとき
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給に異常が発生したとき

レーススタート（E 63 AMG）

グリップ力の高い路面状況において、停車状態から最適な加速力で発進できる機能です。

⚠ 警 告

- レーススタートは、スポーツハンドリングモード（▷66 ページ）を設定しているときにのみ使用できます。ただし、スポーツハンドリングモードを設定したときは、車が横滑りをし始めたりタイヤが空転した場合、限られた程度までしか、車両操縦性や走行安定性が確保されません。
- レーススタートは、公道以外のサーキットなどでのみ使用してください。また、常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。
- レーススタートを使用するときは、可変スピードリミッターを解除してください。可変スピードリミッターの設定速度によっては、レーススタートを作動させたときにエンジンが停止するおそれがあります。

レーススタートの作動条件

レーススタートは、以下の状態のときに使用できます。

- 運転席ドアが閉じているとき
- エンジンがかかっていて、油温が約80℃以上のとき（▷207 ページ）
- パーキングブレーキが解除されているとき
- スポーツハンドリングモードを設定しているとき
- ステアリングが直進状態のとき
- ブレーキペダルを確実に踏んだ状態で、車が完全に停止しているとき（ブレーキペダルは左足で踏んでください）
- シフトポジションが D のとき

レーススタートを使用する

▶ ブレーキペダルを左足で踏み、そのまま保持します。

左ハンドル車

▶ レーススタート表示灯 ② が点灯するまで、走行モード選択ダイヤル ① を時計回りにまわします。

マルチファンクションディスプレイに "RACE START 確認：右側パドル 中断：左側パドル " と表示されます。

ⓘ レーススタートの作動条件に合わない操作を行なうと、マルチファンクションディスプレイに "RACE START 使用できません 取扱説明書を参照 " と表示され、レーススタートは解除されます。

▶ 右側のパドルを引きます。

マルチファンクションディスプレイに "RACE START 使用できます アクセルを踏んで下さい " と表示されます。

ⓘ 左側のパドルを引くと、マルチファンクションディスプレイに "RACE START 中断されました " と表示され、レーススタートは解除されます。

ⓘ 右側のパドルを引いてから約 2 秒以内にアクセルペダルを踏み込まないと、ファンクションディスプレイに "RACE START 中断されました " と表示され、レーススタートが解除される場合があります。

▶ 右足でアクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数が約 4,000 回転まで上がります。

マルチファンクションディスプレイに "RACE START スタートするにはブレーキを離して下さい " と表示されます。

ℹ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでから、約 3 秒以内にブレーキペダルから足を放さなかったときは、ファンクションディスプレイに "RACE START 中断されました " と表示され、レーススタートは解除されます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んだまま、左足をブレーキペダルから放します。

最適な加速力で発進します。また、マルチファンクションディスプレイには "RACE START オン " と表示されます。

レーススタートは、走行速度が約 50km/h になると自動的に解除されます。また、走行モードは S+ モードに設定され、スポーツハンドリングモードは維持されます。

ℹ レーススタートの作動中にアクセルペダルをゆるめるか、レーススタートの作動条件（▷233 ページ）に合わない操作を行なうと、ファンクションディスプレイに "RACE START 使用できません 取扱説明書を参照 " または "RACE START 中断されました " と表示され、レーススタートは解除されます。

ℹ 短時間のうちにレーススタートを繰り返して使用したときは、レーススタートが使用できなくなることがあります。ある程度の距離を走行すると、再度使用できるようになります。

AIR マティックサスペンション *

車高の自動調整

車高を自動的に調整することにより、最適なサスペンション制御を行ない、荷物搭載時などでも地上高を一定に保ちます。高速走行時には、走行安定性と燃料消費率を向上させるために、自動的に車高が低くなります。

以下の車高レベルが選択可能です。

- 標準の車高レベル
- 高い車高レベル

  標準の車高より約 25mm 高くなります。
- 低い車高レベル

  標準の車高より約 10mm 低くなります。

標準の車高レベルと高い車高レベルは手動で設定することができます。

低い車高レベルは、以下のときに自動的に設定されます。

- 走行速度が約 140km/h を超えたとき
- スポーツモードを選択したとき

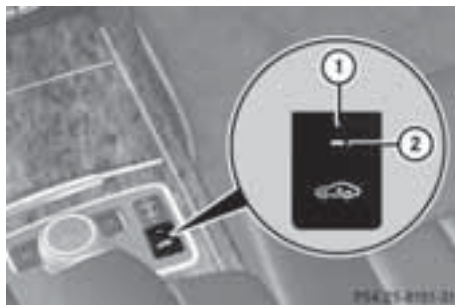
※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車高の手動調整

通常の路面を走行するときは、標準の車高レベルを選択し、スノーチェーンを装着したり悪路を走行するときは、高い車高レベルを選択してください。選択した車高レベルは、エンジンスイッチからキーを抜いても記憶されます。

⚠ **警 告**

停止状態で車高レベルを低くするときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。身体が挟まれるおそれがあります。

車高を上げる

▶ エンジンを始動します。

▶ スイッチの表示灯 ② が消灯しているときは、車高調整スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

高い車高レベルに調整されます。また、マルチファンクションディスプレイに数秒間 " 車高があがります " と表示されます。

高い車高レベルは、以下のときに標準の高さに戻ります。

- 走行速度が約 120km/h を超えたとき
- 約 80km/h 以上の速度で約 3 分間走行したとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

上記の速度域を超えずに走行したときは、高い車高レベルが維持されます。

車高を標準の高さに戻す

▶ エンジンを始動します。

▶ 車高調整スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯します。

標準の車高レベルに戻ります。

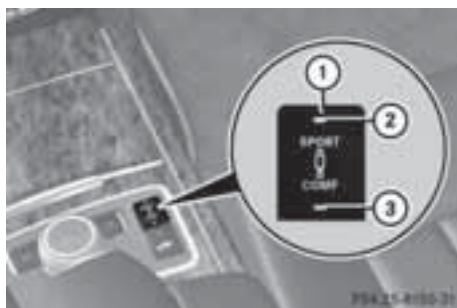
サスペンションの自動制御

電子制御サスペンションシステムによりサスペンション制御を行ない、走行安全性と乗り心地の向上をもたらします。

サスペンション制御は、以下のものにより行なわれます。

- スポーティな走行など、運転者の走行スタイル
- 路面の凹凸などの状態
- スポーツモードとコンフォートモードの選択

エンジンがかかっているときにサスペンションモードの選択ができます。

選択したサスペンションモードは、エンジンスイッチからキーを抜いても記憶されます。

スポーツモードにする

スポーツモードではサスペンション制御が固くなり、路面追従性が向上します。カーブが連続する道路などを走行するときは、このモードを選択してください。

▶ サスペンションモード選択スイッチ ① を押します。

スポーツモード表示灯 ② が点灯します。

スポーツモードが選択されます。また、マルチファンクションディスプレイに数秒間 "AIRMATIC SPORT" と表示されます。

コンフォートモードにする

コンフォートモードでは、快適性を重視したサスペンション制御になります。直線の多い道路や高速道路で、より快適性を向上させたいときに、コンフォートモードにしてください。

▶ サスペンションモード選択スイッチ ① を押します。

コンフォートモード表示灯 ③ が点灯します。

コンフォートモードが選択されます。また、マルチファンクションディスプレイに数秒間 "AIRMATIC COMFORT" と表示されます。

AMG RIDE CONTROL サスペンション（E 63 AMG）

車高の自動調整

自動的に車高を調整するリアサスペンションにより、最適なサスペンション制御を確保し、荷物積載時などでも地上高を一定に保ちます。これにより、走行安定性と燃料消費率が向上します。

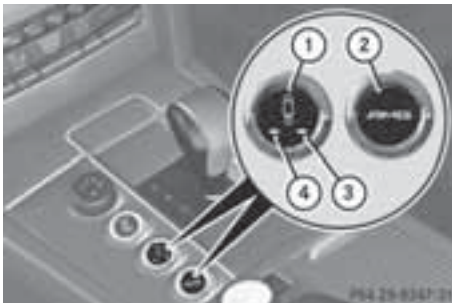
サスペンションの自動制御

電子制御サスペンションシステムによりサスペンション制御を行ない、走行安全性と乗り心地の向上をもたらします。

サスペンション制御は、以下のものにより行なわれます。

- スポーティな走行など、運転者の走行スタイル
- 路面の凹凸などの状態
- スポーツモード、スポーツモード+、コンフォートモードの選択

エンジンがかかっているときにサスペンションモードの選択ができます。

エンジンを停止すると、選択したサスペンションモードに関わらず、次にエンジンを始動したときはコンフォートモードになります。

左ハンドル車

スポーツモードにする

スポーツモードではサスペンション制御が固くなり、路面追従性が向上します。カーブが連続する道路などを走行するときに、スポーツモードにしてください。

▶ サスペンションモード選択スイッチ ① を押します。

表示灯 ④ が点灯し、スポーツモードになります。

マルチファンクションディスプレイに "AMG Ride Control SPORT" と表示されます。

スポーツモード+にする

スポーツモードよりもサスペンション制御が固くなり、路面追従性が向上します。サーキットなどを走行するときに使用します。

▶ 表示灯 ③ と ④ が消灯しているときは、サスペンションモード選択スイッチ ① を 2 回押します。

表示灯 ③ と ④ が点灯し、スポーツモード+になります。

マルチファンクションディスプレイに "AMG Ride Control SPORT +" と表示されます。

▶ 表示灯 ④ が点灯しているときは、サスペンションモード選択スイッチ ① を 1 回押します。

表示灯 ③ が点灯し、スポーツモード+になります。

マルチファンクションディスプレイに "AMG Ride Control SPORT +" と表示されます。

コンフォートモードにする

コンフォートモードでは、快適性を重視したサスペンション制御になります。直線の多い道路や高速道路で、より快適性を向上させたいときに、コンフォートモードにしてください。

▶ サスペンションモード選択スイッチ ① を押して、表示灯 ③ と ④ を消灯させます。

コンフォートモードになります。

マルチファンクションディスプレイに "AMG Ride Control COMFORT" と表示されます。

AMG セッティングスイッチ

AMG セッティングスイッチ ②（▷237 ページ）を押すことで、あらかじめ記憶させたサスペンションモードと走行モード（▷169 ページ）を呼び出すことができます。

サスペンションモードと走行モードを記憶させる

▶ 記憶させたいサスペンションモードと走行モードを選択します。

▶ 確認音が鳴るまで、AMG セッティングスイッチ ② を押して保持します。

サスペンションモードと走行モードを呼び出す

▶ AMG セッティングスイッチ ② を押します。

記憶させたサスペンションモードと走行モードに設定されます。

マルチファンクションディスプレイが、ドライブモード表示になります（▷207 ページ）。

4MATIC*

4MATIC は、滑りやすい路面での発進時や加速時の走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする 4 輪駆動システムです。

⚠ **警告**

4MATIC は車両操縦性や走行安定性を高める装備で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。4MATIC 車でも、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

タイヤのグリップが失われて車輪が空転した場合は、以下の操作を行なってください。

- 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
- 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。
- 路面と交通状況に合わせて運転してください。

運転時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! 4MATIC 車は、前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。

! 4MATIC 車であってもスノーチェーンは必ず後輪に装着してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

ℹ 雪道を走行するときは、ウィンタータイヤを装着し、また必要に応じて、スノーチェーンを使用することにより、4MATIC の効果がより発揮されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パークトロニック

⚠ 警告

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

⚠ 警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

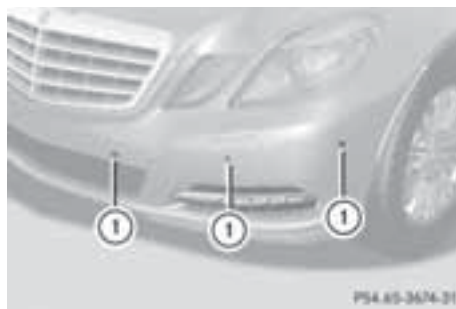
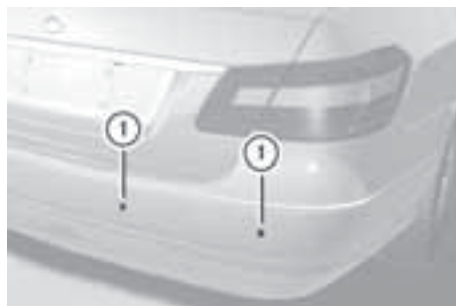
パークトロニックは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは、以下のときに自動的に作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- シフトポジションが **D**、**R**、**N** のいずれかのとき
- パーキングブレーキが解除されているとき

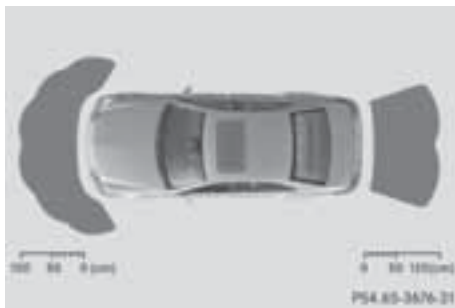
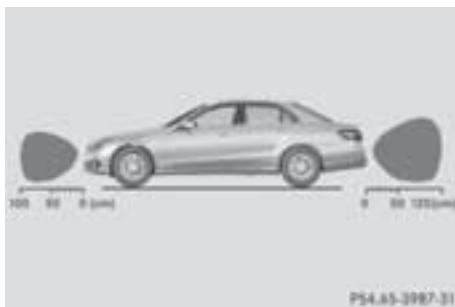
パークトロニックは、走行速度が約 18km/h 以下のときに作動します。走行速度が約 18km/h 以上になると作動を停止します。

フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーが障害物などを感知します。

パークトロニックセンサー

① センサー（フロントバンパー）

セダン

① センサー（リアバンパー）

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは、赤色インジケーターだけが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃してください（▷374 ページ）。

センサーの感知範囲

上方から見た感知範囲（セダン）

側方から見た感知範囲（セダン）

フロントバンパーのセンサー

センター部	約 100cm ～ 20cm
コーナー部	約 60cm ～ 15cm

リアバンパーのセンサー

センター部	約 120cm ～ 20cm
コーナー部	約 80cm ～ 15cm

! バンパーのセンター部で約 20cm 以内、コーナー部で約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

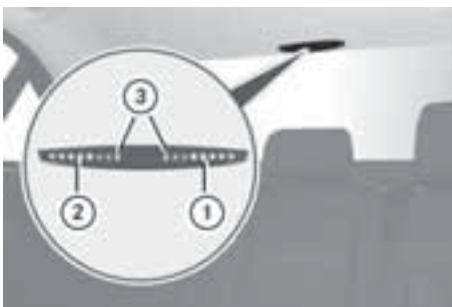
! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 路面が平坦でないときは、パークトロニックは正常に作動しないことがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

リア（セダン）
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ リア作動表示灯

パークトロニックのインジケーター / 作動表示灯は、フロントはダッシュボード上の図の位置、リアは後席のルーフライニングにあります。

感知範囲に障害物が入ったとき

黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が近くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離が近くなったとき

黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 2 秒間鳴ります。

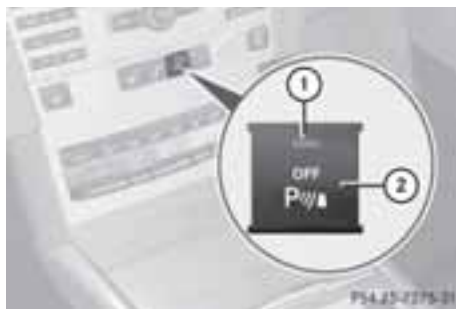
最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 2 秒間鳴ります。

パークトロニックの作動

パークトロニックは、シフトポジションに応じて、以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

ℹ イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの機能の解除

① 表示灯
② パークトロニックオフスイッチ

パークトロニックの機能を解除できます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パークトロニックオフスイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯 ① が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ パークトロニックオフスイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯 ① が消灯します。

ⓘ パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

パークトロニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックの故障のため、機能が解除されている。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷374 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷241 ページ）。

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ **警告**

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

⚠ **警告**

リアビューカメラは運転の補助を行なう装備です。状況によっては、障害物が歪んで表示されたり、正しく表示されなかったり、全く表示されないおそれがあります。リアビューカメラは、運転者の不注意を補うものではありません。以下のものは、リアビューカメラに表示されないことがあります。

- リアバンパーのすぐ近くにあるもの
- リアバンパーの下方にあるもの
- トランクの近くにあるもの

リアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。リアビューカメラを使用する際も、常に車両の周囲に注意を払ってください。

絶対に COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。

⚠ **警告**

以下のときは、リアビューカメラが正常に作動しなかったり、機能が制限されるおそれがあります。

- トランクが完全に閉じていないとき
- 激しい雨や雪が降っているときや霧のとき
- 夜間や暗い場所にいるとき
- カメラにヘッドライトや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入ったときやカメラに冷水や温水がかかったときなど）
- カメラが汚れていたり、付着物があるとき
- 車の後部を損傷したとき

  車の後部を損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラ位置の点検と調整を行なってください。

上記のような場合は、リアビューカメラを使用して後退操作を行なわないでください。人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

! 後退駐車または縦列駐車をしているときに、COMAND システムの他の機能を作動させると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が中断されます。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすおそれがあります。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 乗員人数や荷物の積載量が多く車両が沈み込んだり傾いたりしている場合は、画面に表示されているガイドラインに誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

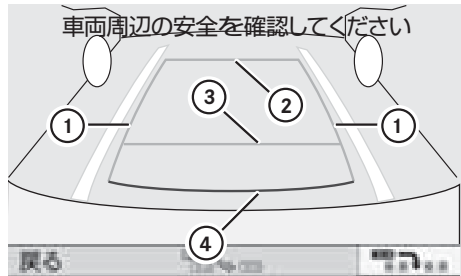
! 以下のような場合はパーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。

- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦または直線でない道路

カメラの位置

セダン
① カメラ

カメラ ① は、トランクハンドルまたはテールゲートハンドルの右側に装備されています。

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車モードの映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに表示される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

⚠ **警告**

安全のため、ガイドラインの色の識別が困難な方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。

ⓘ トランクまたはテールゲートが開いていたり、完全に閉じていない状態でシフトポジションを R にしたときや、パーキングアシストリアビューカメラ作動中にトランクまたはテールゲートを開いたときは、ガイドラインは表示されません。このときは COMAND ディスプレイに " トランクが開いています パーキングアシストを中止します " または " テールゲートが開いています パーキングアシストを中止します " と数秒間表示されます。

ⓘ シフトポジションを R から D にしたときは、数秒間パーキングアシストリアビューカメラの映像が COMAND ディスプレイに表示されます。

ⓘ 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。

- 夜間や暗い場所で使用するとき
- 急激な温度変化があったとき（カメラに冷水や温水がかかったときなど）
- カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
- カメラにヘッドライトや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な明るさの変化があったとき（ガレージから出し入れするときなど）
- カメラに水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

⚠ **警告**

- 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。
- 障害物に向かって後退しているときは、障害物が 0.25m ガイドライン ④ を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン ④ まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

! 路面に接していない障害物や上方の空間にある障害物はガイドライン内になくても接触する可能性があります。十分に注意してください。

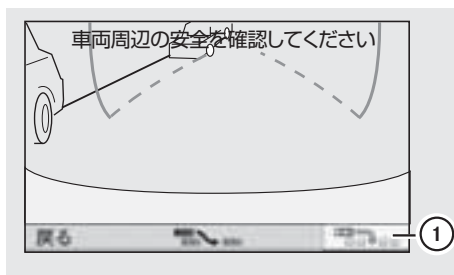
後退駐車モード

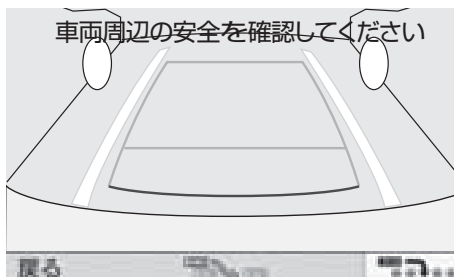
駐車場の駐車スペースなどに後退して駐車するときに、画面表示で後退操作を補助をするモードです。

後退駐車モードにする

▶ COMAND システムをオンにします。

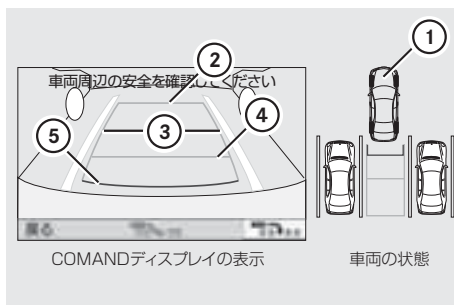
▶ シフトポジションを R にします。

▶ COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

① 後退駐車アイコン

[アイコン] が表示されていないときは、後退駐車アイコン [アイコン] ① を選択して、COMAND コントローラーを押します。

▶ 後退駐車時のガイドラインが表示されます。

ℹ "戻る" を選択して COMAND コントローラーを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

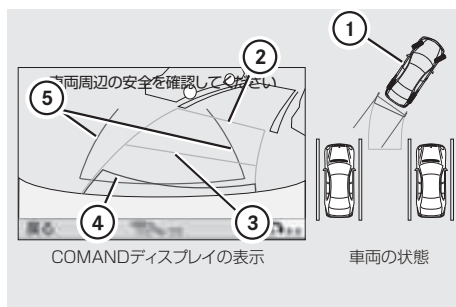
パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

ステアリングをまわさないで、まっすぐ後退駐車する

① 自車位置
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 予想進路ガイドライン（黄色）
④ 1.0m ガイドライン（黄色）
⑤ 0.25m ガイドライン（赤色）

▶ 予想進路ガイドライン ③ が駐車スペースに収まっていることを確認し、周囲に注意しながら、まっすぐ後退します。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

車両の操作

ステアリングをまわしながら、後退駐車する

① 自車位置
② 予想進路ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）
⑤ 直進ガイドライン（青色）

直進ガイドライン ⑤ は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン ② は、そのときのステアリングの操舵角で車が後退するときの予想進路を示します。

▶ 予想進路ガイドライン ② が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

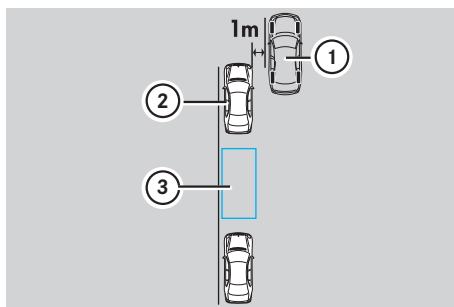
▶ 直進ガイドライン ⑤ が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン ④ の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

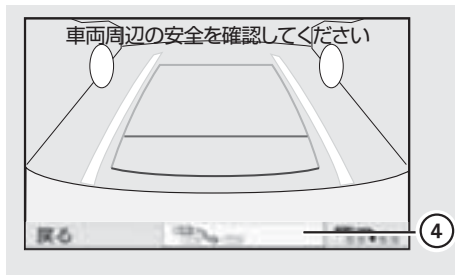
▶ 駐車スペース前方の駐車車両 ② から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両 ② の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。

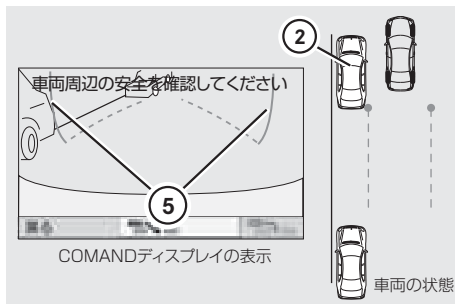
ステアリングは直進状態にします。

ℹ 駐車スペース ③ の前方に駐車車両がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

▶ COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

④ 縦列駐車アイコン

が表示されていないときは、縦列駐車アイコン ④ を選択して、COMAND コントローラーを押します。

② 駐車スペース前方の駐車車両
⑤ 垂直ガイドライン

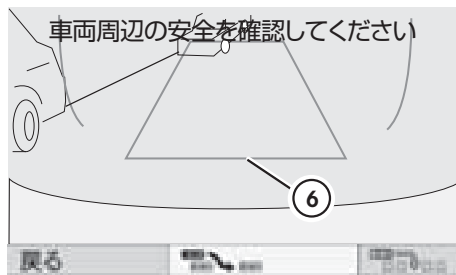
▶ 縦列駐車モードのガイドラインが表示されます。

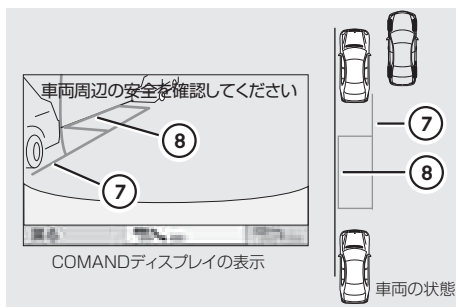
ℹ " 戻る " を選択して、COMAND コントローラーを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

▶ 垂直ガイドライン ⑤ が、駐車スペース前方の駐車車両 ② の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン ⑤ が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン ⑤ が駐車車両 ② の後端から外れていると、正しい位置に駐車できません。

⑥ 駐車位置ガイドライン

垂直ガイドラインが表示されてからしばらくすると、駐車位置ガイドライン ⑥ が表示されます。

⑦ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑧ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦ が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。

また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑦ が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは "ステアリングをまわしすぎています ステアリングを戻してください" と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

▶ 後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン ⑤、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧ が消えます。

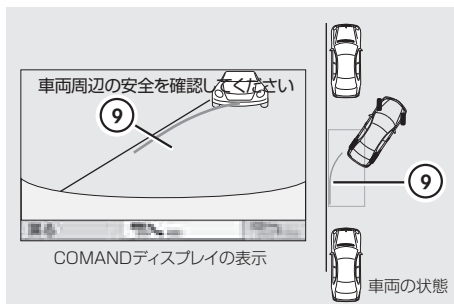
ℹ 周囲の安全を確認しながら、ゆっくり後退してください。ゆっくり後退しないと、ガイドが間に合わないことがあります。

ℹ 以下のときはガイドが中止されます。

- シフトポジションを R 以外にしたとき
- "戻る"、または [ボタン] を選択したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

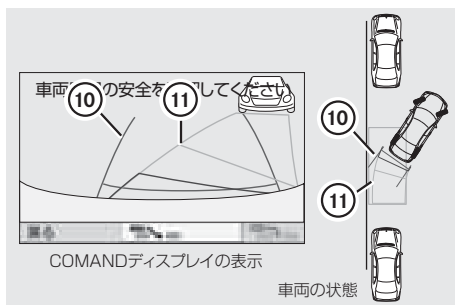
! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、画面に " ステアリングの位置が変わりました パーキングアシストを中止します。" と表示されます。

! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑨ ステアリング角度ガイドライン

▶ ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン ⑨ が表示されます。

縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン ⑨ が合うまでステアリングをまわさないで、そのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン ⑨ が正しい位置に合ったら、停車します。

⑩ 直進ガイドライン（青色）
⑪ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン ⑩ と予想進路ガイドライン ⑪ が表示されます。

▶ 予想進路ガイドライン ⑪ が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻します。

! ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

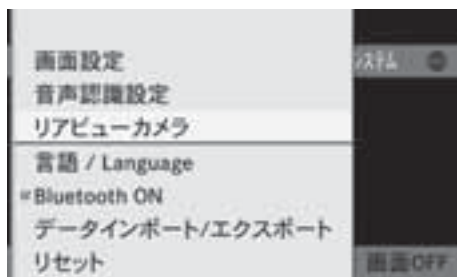
パーキングアシストリアビューカメラの設定

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

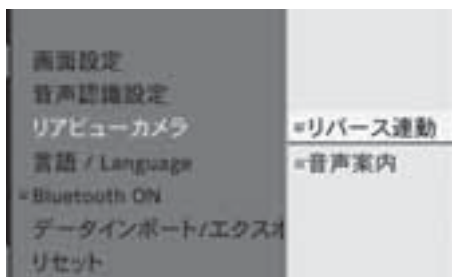
または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面になります。

▶ " 設定 " → " リアビューカメラ " を選択します。

パーキングアシストリアビューカメラの起動設定

▶ " リバース連動 " を選択します。

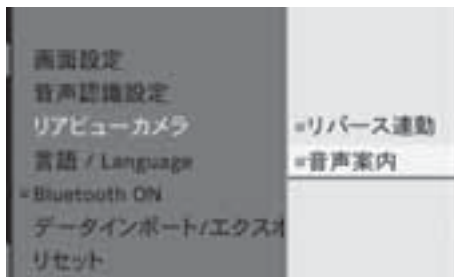
COMAND コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマーク	設定内容
表示	セレクターレバーを R に入れると、パーキングアシストリアビューカメラが自動的に起動します。
消去	パーキングアシストリアビューカメラは起動しません。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、設定内容は記憶されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの音声案内設定

▶ " 音声案内 " を選択します。

COMAND コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマーク	設定内容
表示	音声案内が行なわれます。
消去	音声案内は行なわれません。

ⓘ " 音声案内 " は、" リバース連動 " が選択されているときのみ選択できます。

ⓘ 音声ガイドの音量は、ステアリングの [+] [−] スイッチ、または COMAND コントロールパネルの音量調整ダイヤルで調整できます。

アテンションアシスト

アテンションアシストは、高速道路や幅の広い道路を走行するときなど、長時間にわたる単調な運転を行なっているときに運転者を補助するシステムです。

アテンションアシストは、80km/h 〜 180km/h で走行しているときに作動します。運転者の走行パターンや運転時間などから、疲労や注意力低下に対する警告を行ない、休憩を促します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ **警 告**

アテンションアシストは、あくまで運転者の補助のみを行なうものであり、疲労や集中力低下の兆候の増加に対する警告が遅れたり、まったく警告が行なわれないことがあります。また、十分な休憩を取り、集中力を持つ運転者の代わりになるものではありません。

疲労により、危険な状況の認知が非常に遅れたり、また、状況の判断を誤ったり、反応が遅れることがあります。運転前や運転中は疲労がないことを確認してください。運転が長時間にわたるときは、適時かつ定期的に休憩を取ってください。危険を認知することができず、事故を起こしたり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アテンションアシストは、以下のような状況を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の兆候の増加を判断します。

- ステアリング操作などの運転スタイル
- 時刻や運転時間などの運転状況

以下のようなときは、アテンションアシストの機能が制限され、警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。

- 大きな凹凸や穴があるなど、道路状況が悪いとき
- 横風が強いとき
- スピードを出してカーブを曲がっているときや急加速で運転しているときなど、非常にスポーティな運転を行なっているとき
- 80km/h 以下や 180km/h 以上の速度で走行していることが多いとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- COMAND システムを操作しているときや COMAND システムの電話機能で通話しているとき
- 時刻の設定が正しくないとき
- 車線を変えたり走行速度を変えるなど、絶えず運転状況に変化があるとき

アテンションアシストの設定と解除

アテンションアシストの設定と解除はマルチファンクションディスプレイで行ないます（▷193 ページ）。

アテンションアシストが設定されているときは、マルチファンクションディスプレイにアテンションアシストマーク ① が表示されます。

※ 車種や仕様により、アテンションアシストマークが表示される位置は異なります。

アテンションアシストの警告

アテンションアシストが設定されていても、運転を開始してから約 20 分以内は警告は行なわれません。

警告が行なわれると断続的な警告音とともに、マルチファンクションディスプレイに " アテンションアシスト 休憩してください " と表示されます。

このときは

▶ 必要であれば、休憩を取ってください。

▶ OK を押します。

マルチファンクションディスプレイのメッセージが消えます。

長時間の運転では、適切な休息をするために、適時かつ定期的な休憩を設けてください。休憩することなく運転を続けたときは、運転者の走行パターンや運転時間などから、約 15 分経過以降に再度警告を行ないます。

以下の操作を行なうとアテンションアシストはリセットされます。

- エンジンを停止したとき
- 運転を交代したり休憩を取るなどで､運転者がシートベルトを外して､運転席ドアを開いたとき

ナイトビューアシストプラス *

ナイトビューアシストプラスは、赤外線を利用して、通常のヘッドライトと同じように道路上を照射します。

フロントウインドウ上部にあるカメラが赤外線を検知し、COMAND ディスプレイに白黒表示で表示します。

COMAND ディスプレイには、上向きヘッドライトで映し出される風景と同じものが表示されます。

これにより、道路の状況や障害物を適時、確認することができます。歩行者検知機能が作動しているときは、システムによって認識された歩行者は、COMAND ディスプレイに強調されて表示されます。

⚠ 警 告

ナイトビューアシストプラスは、あくまで運転操作を補助するためのものであり、運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。ナイトビューアシストプラスの映像に頼るのではなく、フロントウインドウを通して前方に注意してください。運転者には安全を確保する責任があり、周囲の交通状況に応じた運転をしなければなりません。運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。

COMAND ディスプレイに表示されるナイトビューアシストプラスの映像は、以下のときに影響を受けるおそれがあります。

- 降雨時や降雪時、霧などで視界が悪いとき
- フロントウインドウが汚れているときや曇っているとき、貼付してあるステッカーなどでカメラが遮られているとき
- カーブや上り坂、下り坂を走行しているとき

対向車のヘッドライトからの光は、COMAND ディスプレイに表示されるナイトビューアシストプラスの映像に影響を与えることはありません。対向車がいるために、ヘッドライトを下向きにしているときも同様です。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

ナイトビューアシストプラスは、車の直前にある物は検知しません。運転するときは、フロントウインドウを通して前方に注意してください。周囲に人や動物がいないことを確認してください。

ℹ 赤外線は人の目には見えないため、眩惑させることがありません。このため、対向車がいるときも作動させることができます。

ナイトビューアシストプラスカメラの位置

① ナイトビューアシストプラスカメラ

ナイトビューアシストプラスカメラ①は、フロントウインドウ上部に装着されています。

ナイトビューアシストプラスの作動

左ハンドル車
① ナイトビューアシストプラススイッチ

ナイトビューアシストプラスを作動させる

ナイトビューアシストプラスは、以下のときに作動させることができます。

- イグニッション位置が **2** のとき
- 周囲が暗いとき
- ライトスイッチが AUTO または ≣D になっているとき
- シフトポジションが **R** 以外のとき

▶ COMAND システムがオンになっていることを確認します。

▶ ナイトビューアシストプラススイッチ ① を押します。

COMAND ディスプレイにナイトビューアシストプラスの映像が表示されます。

ⓘ ライトスイッチを [≡D0≡] または [←P≡] か [P≡→] にしたり、シフトポジションを [R] にするなどして、ナイトビューアシストプラスの画面が消えたとき、次にナイトビューアシストプラススイッチを押すと、COMAND ディスプレイに " ナイトビューアシスト ライト確実に点灯 " または " ナイトビューアシスト　R レンジ以外に " と表示されます。

ナイトビューアシストプラスを停止する

▶ 再度、ナイトビューアシストプラススイッチ ① を押します。

ⓘ 赤外線照射ライトは走行速度が約 10km/h 以上になると赤外線を照射します。

COMAND ディスプレイの映像

① ナイトビューアシストプラスの映像
② 検知された歩行者
③ 検知された歩行者を囲むフレーム
④ 歩行者検知機能インジケーター

歩行者検知機能

人の形の輪郭などの特徴により、システムが歩行者を検知します。

歩行者検知機能は以下のときに作動します。

- ナイトビューアシストプラスが作動しているとき
- 走行速度が約 10km/h 以上のとき
- 街路灯がない郊外を走行するときなど、周囲が非常に暗いとき

歩行者検知機能が作動すると、歩行者検知機能インジケーター ④ が表示されます。歩行者が検知されると、歩行者はフレームで囲まれます。歩行者検知機能が歩行者を検知したときは、マルチファンクションディスプレイの映像ではなく、フロントウインドウ越しに、直接前方の状況を確認してください。COMAND ディスプレイの映像では、障害物や歩行者までの距離を正確に把握することはできません。

障害物が検知されたときも、歩行者と同様に強調して表示されます。

⚠ **警 告**

以下のような状況下では、歩行者が正常に検知されなかったり、まったく検知されないことがあります。

- 歩行者の身体の一部または全部が駐車車両などに隠れているとき
- 強い光の反射などで、ディスプレイの映像が不完全なときや遮られたとき
- 歩行者が周囲の背景などに溶け込んでいるとき
- 座っていたり、かがんでいる、または横たわっているなど、歩行者が立っていない状態のとき

ⓘ ナイトビューアシストプラスの歩行者検知機能では、動物を検知することはできません。

COMAND ディスプレイの照度調整

ナイトビューアシストプラス使用時の COMAND ディスプレイの照度を調整することができます。

▶ COMAND システムにナイトビューアシストプラスの映像が表示されているときに、COMAND コントローラーをいずれかの方向に操作します。

▶ " 明るさ " を選択して、コントローラーを押します。

ⓘ " 戻る " を選択してコントローラーを押すと、ナイトビューアシストプラスが停止します。

照度のスケールが表示されます。

▶ コントローラーをまわすか、上下にスライドします。

指針が上下に移動します。

▶ コントローラーを押すか、左右にスライドします。

照度が設定されます。

フロントウインドウの曇りや汚れ

ナイトビューアシストプラスカメラ前方のフロントウインドウの内側または外側が曇っていたり汚れていると、ナイトビューアシストプラスの映像が不鮮明になります。

フロントウインドウの曇りを取る

▶ エアコンディショナーの設定を確認し、カメラのカバーを開きます。

フロントウインドウ内側の汚れを取る

▶ カメラのカバーを開いて、フロントウインドウを清掃します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ナイトビューアシストプラスのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ナイトビューアシストプラスを作動させたときに画質が鮮明でない。	ワイパーに付着物がある。 ▶ ワイパーブレードを交換してください。
	洗車機で洗車した後など、フロントウインドウに付着物がある。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。
	カメラ部分のフロントウインドウに損傷がある。 ▶ フロントウインドウを交換してください。
	フロントウインドウの内側が曇っている。 ▶ フロントウインドウ内側の曇りを取ってください。
	フロントウインドウが凍結している。 ▶ フロントウインドウを解凍してください。
	フロントウインドウの内側が汚れている。 ▶ フロントウインドウの内側を清掃してください。

レーンキーピングアシスト *

レーンキーピングアシストは走行速度が約 60km/h 以上のときに作動します。

レーンキーピングアシストは路面の車線ラインを検知し、車線を外れそうになったときに運転者に警告を行ないます。通常は前輪が車線ラインを越えたときに警告が行なわれます。

警告は、約 1.5 秒間ステアリングホイールを振動させることにより行なわれます。

レーンキーピングアシストカメラの位置

① レーンキーピングアシストカメラ

フロントウインドウ上部に装着されたレーンキーピングアシストカメラ①により、レーンキーピングアシストは車両前部をモニターします。

⚠ **警 告**

レーンキーピングアシストは、車線内を自動的に走行させるシステムではありません。レーンキーピングアシストは運転者を支援するシステムであり、状況によっては、車線ラインを正確に検知できなかったり、まったく検知できないことがあります。

レーンキーピングアシスト作動時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、システムが作動しないことがあります。

- 道路の照明が不十分だったり、降雪時や降雨時、霧や小雨などで視界が悪いとき
- 太陽光線や対向車のヘッドランプなどで眩惑があるとき
- フロントウインドウが汚れているときや曇っているとき、貼付してあるステッカーなどでカメラが遮られているとき
- 車線ラインが何本もあるときや、車線ラインがないとき
- 車線ラインが薄くなっているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車との車間距離が短いため、車線ラインが検知できないとき
- 工事区間など、車線ラインがあいまいなとき
- 車線の合流や高速道路の出口など、車線ラインが頻繁に変わるとき
- 車線の幅が狭いときや車線がカーブしているとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

レーンキーピングアシストは、道路や交通の状況を検知することはできません。また、運転者の代わりに運転操作を行なうことはできません。走行速度やブレーキ操作、ステアリング操作については運転者に全責任があります。道路や天候の状況に合わせて運転し、常に周囲の交通状況に注意を払ってください。危険な状況を正しく認識できず、事故やけがの原因になります。

レーンキーピングアシストの警告

車線ラインを越えたとき、適切な状況とタイミングでのみ警告を行なうため、システムは以下のように検知と警告を行ないます。

早めのタイミングで警告が行なわれるとき

- カーブの外側の車線ラインを超えたとき
- 高速道路などの広い車線の道路を走行しているとき
- 路肩や中央分離帯など、車線を越えると非常に危険な状況になるとシステムが検知したとき

遅めのタイミングで警告が行なわれるとき

- 狭い車線の道路を走行しているとき
- カーブの内側の車線ラインを超えたとき

警告が行なわれないとき

- 明らかにステアリング操作をしているときや、ブレーキペダルやアクセルペダルを踏んでいるとき
- きついカーブで車線ラインを超えたとき
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全装備が作動しているとき
- 方向指示灯を点滅させているとき

  このときは、状況により短い時間警告が行なわれることがあります。

レーンキーピングアシストの設定と解除

レーンキーピングアシストの設定と解除はマルチファンクションディスプレイで行ないます（▷194 ページ）。

レーンキーピングアシストが設定されているときは、マルチファンクションディスプレイにレーンキーピングアシストマーク ① が表示されます。

走行速度が約 60km/h 以上になり、車線ラインが検知されると、レーンキーピングアシストマーク ① が反転表示され、レーンキーピングアシストが待機状態になります。

※ 車種や仕様により、レーンキーピングアシストマークが表示される位置は異なります。

アクティブブラインドスポットアシスト *

⚠ 警 告

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

重要な安全事項

アクティブブラインドスポットアシストはレーダーセンサーシステムを使用して、運転席側後方の車両側方をモニターします。ドアミラーの警告灯によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意を喚起します。車線変更するために対応する方向指示灯を作動させると、衝突に対する警告灯および警告音による警告を行ないます。後側方の障害物との衝突の危険性が検知されると、修正のためのブレーキが衝突回避を補助します。進路修正ブレーキの適用を補助するために、アクティブブラインドスポットアシストは前方のレーダーセンサーシステムも使用します。アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以上の速度で運転者を補助します。

⚠ 警 告

アクティブブラインドスポットアシストは補助のみを行なうものであり、車両や障害物を正しく、またはまったく検知しないことがあります。

以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- リアやフロントのセンサーが汚れているとき

アクティブブラインドスポットアシストは、オートバイや自転車のような幅の狭い車両を検知しなかったり、非常に遅れて検知することがあります。至近距離で追い越して死角に入った車両を検知することはできません。

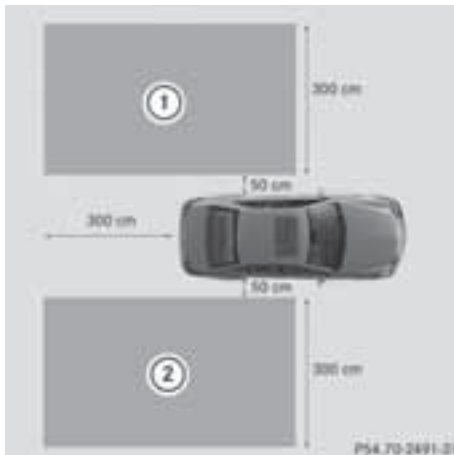
アクティブブラインドスポットアシストは道路や交通状況を検知できません。運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。車両の速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲の状況に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

レーダーセンサーシステムは電波望遠鏡施設の周辺では自動的に停止します。

運転中にアクティブブラインドスポットアシストが運転者を補助するためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、作動していなければなりません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

モニター範囲

アクティブブラインドスポットアシストは図に示すように、車両後方 3m までの側方の範囲をモニターします。このために、アクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのレーダーセンサーを使用します。

例：セダン
① 左ハンドル車のモニター範囲
② 右ハンドル車のモニター範囲

⚠ 警 告

アクティブブラインドスポットアシストは、車両近辺の特定の範囲をモニターします。高速で近づいて通り過ぎていく車両は検知されません。警告灯および警告音による警告は発せられず、進路を修正するためにシステムが車両にブレーキを効かせることはしません。

車線の幅が非常に広いときは、隣の車線の幅すべてをモニターしないことがあります。このため隣の車線の車両が特にずれた位置を走行している場合は、その車両が検知されないことがあります。これは、車両が自車からかなり離れた車線の外端部を走行している場合などです。

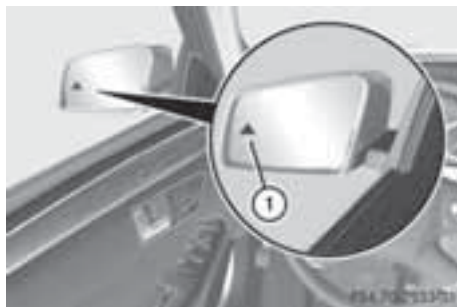
常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、自車の 2 車線隣りの車両を検知することがあります。これは、車線の自車寄りに車両がいる場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレールや類似の連続している車線境界物の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トラックのように特に長い車両の脇を長い間走行しているときに、警告が中断されることがあります。

2 つのアクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーがそれぞれフロントとリアのバンパーに内蔵されています。ラジエーターグリルのカバーの裏にもレーダーセンサーがあります。センサーとその周辺に、汚れ、氷、または泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。アクティブブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示

① 黄色表示灯 / 赤色警告灯

アクティブブラインドスポットアシストが設定されているとき、ドアミラーの表示灯 ① は、約 30km/h 以下の速度では黄色に点灯します。約 30km/h 以上の速度では表示灯は消え、アクティブブラインドスポットアシストが作動可能になります。

ⓘ レーダーセンサーシステムが自動的に停止したときは、ドアミラーの表示灯が黄色に点灯したままになります。

約 30km/h 以上の速度でアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。この警告は後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ったときに常に行なわれます。遅い車両を追い越すときは、速度差が約 12km/h 以下の車両のみが警告の対象になります。

黄色の表示灯はリバースギアになると消灯します。アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯 / 警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

⚠ **警 告**

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。ドアミラーの表示灯は黄色に点灯します。モニター範囲にある車両の検知状況は表示されません。

常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

表示灯および警告音による衝突警告

側方のモニター範囲内で車両が検知され、対応する側の方向指示灯を作動させると、衝突警告が発せられます。警告音が聞こえ、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯がそのままの状態のときは、車両の検知は赤色の警告灯 ① の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

進路修正ブレーキの適用

アクティブブラインドスポットアシストがモニター範囲で側方衝突の危険性を検知すると、進路修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を補助するために設計されています。

進路修正ブレーキの適用は、約 30km/h から約 200km/h の範囲で行なわれます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

進路修正ブレーキの適用が行なわれると、ドアミラーの赤色の警告灯 ① が点滅し、マルチファンクションディスプレイに以下のイラストが表示されます。

左ハンドル車の DIRECT SELECT 装備車の例

⚠ **警 告**

アクティブブラインドスポットアシストは、運転を補助するためだけに設計されています。安全運転の代わりになるものではありません。状況によっては、衝突を防ぐためにはシステムによる自動ブレーキでは不十分な場合があります。そのような場合は、運転者自身でステアリング操作、ブレーキ操作、またはアクセル操作を行なう必要があります。

ごくまれに、システムが誤って周辺にあるガードレール、または類似の車線境界物との衝突の危険を検知し、自動ブレーキを作動させることがあります。

アクティブブラインドスポットアシストは、すべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。他の道路使用者や障害物との側方距離が十分であることを常に確認してください。 ステアリングを反対方向に軽く操作する、または加速すると、不適切なブレーキの適用を中断できます。

車両の速度、適切なステアリング操作およびタイミングに合ったブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

以下のときは、進路修正ブレーキの適用は少しだけ行なわれるか、またはまったく行なわれません。

- 車両の両側に車両やガードレールなどの障害物があるとき
- 側方すぐのところに車両が接近しているとき
- 高い速度でカーブを曲がるスポーティな運転を行なっているとき
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっているとき
- ESP® または PRE-SAFE® ブレーキのような走行安全装備が介入しているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されたとき

アクティブブラインドスポットアシスト を設定する

▶ マルチファンクションディスプレイで、レーダーセンサーシステムが設定されていることを確認します（▷203 ページ）。

▶ アクティブブラインドスポットアシストを設定します（▷194 ページ）。

アクティブブラインドスポットアシストが設定されているときは、イグニッション位置をに **2** したときに、ドアミラーの警告灯 ① が約 1.5 秒間赤色に点灯し、黄色に変わります。

アクティブレーンキーピングアシスト *

重要な安全事項

アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部のカメラにより車両前方の範囲をモニターします。アクティブレーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、運転者が意図せずに車線を外れそうになったときに警告を行ないます。運転者が警告に反応しないときは、車線修正ブレーキの適用により、車両を元の車線内に戻そうとします。

① アクティブレーンキーピングアシストカメラ

マルチファンクションディスプレイで "表示単位 速度 / 距離 :" を選択していて、計測単位として "km" を選択しているとき、アクティブレーンキーピングアシストは速度が約 60km/h 以上のときに作動します。表示単位で "miles" を選択しているときは、補助範囲は約 40mph から開始されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警告**

アクティブレーンキーピングアシストは、車両を車線内に維持させるものではありません。補助のみを行なうものであり、路面の車線マークを正確に検知できなかったり、まったく検知できないことがあります。

以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、機能しないことがあります。

- ひとつの車線に複数のマークがあったり、マークがないとき
- 道路の照明が不十分だったり、雪や雨、霧や小雨のときなどで視界が悪いとき
- 対向車、太陽、他の車両の反射などで眩惑があるとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、またはカメラ付近にステッカーなどが貼付されて覆われているとき
- 車線マークが摩耗していたり、黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 前方の車両との距離が短すぎて、車線マークを検知できないとき
- 工事の周辺などで、路面の車線マークが不鮮明なとき
- 車線の分流や交差、合流などで車線マークが急に変わるとき
- 道路が狭いときや曲がっているとき

アクティブレーンキーピングアシストは、道路や交通状況を検知することはできません。安全運転の代わりになるものではありません。車両の速度、タイミングに合ったブレーキ、適切なステアリングの責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

ステアリングホイールの振動による警告

警告は、前輪が車線マークを越えたときに行なわれます。警告は、ステアリングホイールを断続的に最大 1.5 秒間振動させることにより行なわれます。

車線マークを越えたときに必要かつ適切なタイミングで警告を行なうため、システムは状況を認識し、以下のように警告を行ないます。

以下のときは、振動による警告が早めに行われます。

- カーブの外側の車線マークに接近したとき
- 高速道路などの車線が広い道路のとき
- システムが切れ目のない車線マークを認識しているとき

以下のときは、振動による警告が遅めに行われます。

- 道路が狭い車線のとき
- カーブの内側の車線マークを超えたとき

以下のときは警告は行なわれません。

- 明確に、かつ意図的にステアリング操作やブレーキ操作、加速操作をしたとき
- きついカーブで車線ラインを超えたとき
- ABS、BAS または ESP® などの走行安全装備が介入したとき
- 方向指示灯を点滅させたとき

  このときは、一定時間警告が停止することがあります。

車線修正ブレーキの適用

特定の状況下で車線を外れたとき、車両の片側に軽くブレーキが効きます。これは、車両を元の車線内に戻そうとするものです。

この機能は、約 60km/h ～ 約 200km/h の間で行なわれます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車線修正ブレーキの適用は、システムが認識できる車線マークを越えて走行した後にのみ行なわれます。これより前に、ステアリングホイールの断続的な振動による警告が必ず行なわれます。加えて、両側に車線マークがある車線であることが認識されていなければなりません。ブレーキの適用により、走行速度がわずかに下がります。

車線修正ブレーキの適用が行なわれたときは、マルチファンクションディスプレイに以下のイラストが表示されます。

DIRECT SELECT 装備車の例

ℹ 次の車線修正ブレーキの適用は、車両が元の車線に戻った後にのみ、行なわれます。

⚠ **警告**

アクティブレーンキーピングアシストは、車両を車線内に維持させるものではありません。運転の補助を行なうためのみに設計されています。運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。修正ブレーキが常に、車両を元の車線に戻すために十分なものであるわけではありません。そのようなときは、車線から出ないために、運転者自身が車両のステアリング操作を行なわなければなりません。

アクティブレーンキーピングアシストは、そのときの交通状況や他の車両などは検知できません。自車と他の車両などや障害物との間に、側面方向の十分な距離があることを常に確認してください。ごくまれに、破線のラインや道路表面にある特定の障害物が、システムに切れ目のない車線マークと検知されることがあります。切れ目のない車線マークを意図的に越えたいときなどは、その方向にステアリング操作を継続することにより、不適切なブレーキ操作を中断させることができます。

アクティブレーンキーピングアシストは、天候状況は考慮しません。

車両の速度、適切なステアリング操作、タイミングに合ったブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行なわれません。

- 明確、かつ意図的にステアリング操作、ブレーキ操作、または加速を行なったとき
- 急なカーブで車線ラインを超えたとき
- 方向指示灯を点滅させているとき
- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキ、アクティブブラインドスポットアシストなどの走行安全装備が介入しているとき
- 速い速度でカーブを走行したり、急加速を行なうなど、スポーティな走行をしているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- シフトポジションが D 以外のとき
- タイヤ空気圧が低下しているときや不具合のあるタイヤが検知されて表示されたとき

アクティブレーンキーピングアシストは、道路や交通状況を検知しません。不適切なブレーキの適用は、以下によりいつでも中断できます。

- 進行方向と反対方向に軽くステアリング操作を行なったとき
- 方向指示灯を点滅させたとき
- 明確なブレーキ操作または加速を行なったとき

以下のときは、車線修正ブレーキの適用が自動的に中断されます。

- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキ、アクティブブラインドスポットアシストなどの走行安全装備が介入したとき
- 車線マークが認識されなくなったとき

アクティブレーンキーピングアシストの設定

DIRECT SELECT 装備車の例

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アクティブレーンキーピングアシストを設定します (▷194 ページ)。
マルチファンクションディスプレイにマーク ① が表示されます。

約 60km/h 以上の速度で走行していて、車線マークが検知されたときは、マーク ① が強調されます。アクティブレーンキーピングアシストを使用できる準備が整っています。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

警告

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。ウインドウが曇ります。これにより交通状況を把握できず、事故の原因になります。

警告

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるように努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充や交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! フロントウインドウ下部の吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

ⓘ 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を開くと、短時間で換気ができます(▷146 ページ)。

ⓘ 除湿された水分は車体下方に排水されます。水分が排出されても、故障ではありません。

ⓘ エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

ⓘ エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

ⓘ エンジンスイッチからキーを抜いてから約 1 時間経過すると、エアコンディショナーシステムの乾燥のため、余熱ヒーター･ベンチレーションが自動的に約 30 分間作動することがあります。

エアコンディショナー作動表示

内気循環スイッチやリアデフォッガースイッチ、オフスイッチ以外のエアコンディショナーのスイッチを操作したときに、COMAND ディスプレイ下部に、エアコンディショナーの主な作動内容が数秒間表示されます。

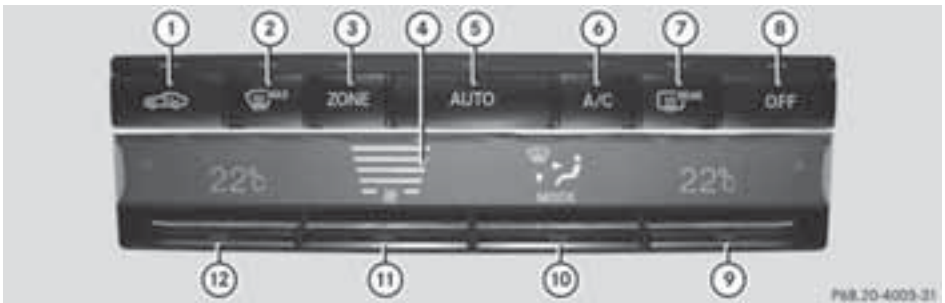
エアコンディショナー作動表示を消す

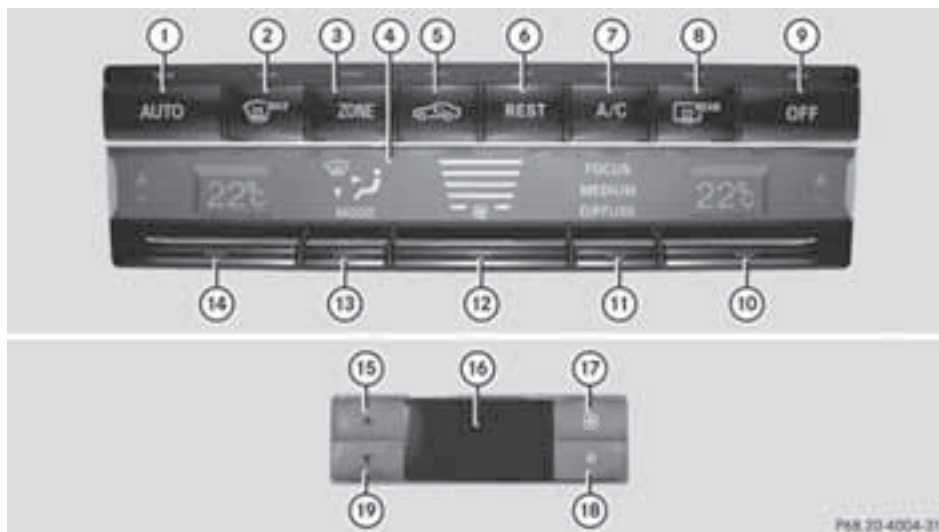
▶ COMAND コントローラーを操作します。

または

▶ COMAND コントロールパネルの CLEAR ボタンまたはコントローラー右側の C スイッチ、コントローラー左側の ⮌ スイッチを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コントロールパネル（E 550 / E 63 AMG 以外）

①	内気循環スイッチ
②	デフロスタースイッチ
③	独立温度設定スイッチ
④	ディスプレイ
⑤	AUTO スイッチ
⑥	AC スイッチ
⑦	リアデフォッガースイッチ
⑧	オフスイッチ
⑨	温度設定スイッチ（右側）
⑩	送風口選択スイッチ
⑪	送風量調整スイッチ
⑫	温度設定スイッチ（左側）

コントロールパネル（E 550 / E 63 AMG）

フロント

①	AUTO スイッチ
②	デフロスタースイッチ
③	独立温度設定スイッチ
④	ディスプレイ
⑤	内気循環スイッチ
⑥	余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑦	AC スイッチ
⑧	リアデフォッガースイッチ
⑨	オフスイッチ
⑩	温度設定スイッチ（右側）
⑪	送風モードスイッチ
⑫	送風量調整スイッチ
⑬	送風口選択スイッチ
⑭	温度設定スイッチ（左側）

リア

⑮	温度設定スイッチ（高）
⑯	リアコントロールパネルディスプレイ
⑰	送風量調整スイッチ（強）
⑱	送風量調整スイッチ（弱）
⑲	温度設定スイッチ（低）

通常の使い方

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ AUTO を押します。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が点灯し、送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

▶ オフスイッチ OFF を押します。

オフスイッチ OFF の表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ただし、内気循環モードに設定されていたときは、外気導入モードに設定されます。

ℹ リアデフォッガースイッチ以外のエアコンディショナーのスイッチを操作したときも、エアコンディショナーは作動します。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ OFF を押します。

オフスイッチ OFF の表示灯が点灯します。

ℹ エアコンディショナーが停止しているときは、送風や内気循環も停止します。ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が閉じているときは、エアコンディショナーの停止は一時的にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなります。

AUTO モードの解除

エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに以下の操作を行ないます。

▶E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナーは、送風量調整スイッチ ⑪ を操作します。

▶ E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナーは、送風量調整スイッチ ⑫ を操作します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯し、送風量の AUTO モードが解除されます。

ディスプレイ ④ に送風量インジケーターが表示されます。

または

▶E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナーは、送風口選択スイッチ ⑩ を操作します。

▶ E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナーは、送風口調整スイッチ ⑬ を操作します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯し、送風口の AUTO モードが解除されます。

ディスプレイ ④ に送風口インジケーターが表示されます。

AC モード

AC モードを設定しているときは、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ℹ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ [A/C] を押します。

AC スイッチ [A/C] の表示灯が消灯します。

除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ 再度、AC スイッチ [A/C] を押します。

AC スイッチ [A/C] の表示灯が点灯します。

除湿 / 冷房された空気が送風されます。

⚠ 警告

AC モードが解除されているときは、車内の空気が除湿または冷房されません。ドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、交通状況を把握できずに事故の原因になります。

環 境

AC モードを解除すると、エンジンへの負担が軽減し、燃費が向上します。

ⓘ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになります。

ⓘ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

ⓘ エアコンディショナーが停止しているときに AC スイッチ [A/C] の表示灯が点灯するときは、エアコンディショナーが故障しているため、除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

AC モードのトラブル

AC スイッチ [A/C] を押したときに、表示灯が 3 回点滅するか、消灯したままになります。このときは、AC モードに設定することができません。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

送風モード（E 550 / E 63 AMG）

エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているとき、各送風口からの送風量を調整できます。特に温度を高めに設定しているときに効果的です。

▶ 送風モードスイッチ ⑪（▷274 ページ）を操作して、ディスプレイ ④ の送風モードインジケーターに以下の各設定を表示させます。

- FOCUS
  主に送風されている送風口からの送風量が増加します。
- MEDIUM
  標準の送風設定です。
- DIFFUSE
  乗員に向けて直接送風される送風量の割合が低下します。

ⓘ AUTO モードが解除されているときに送風モードスイッチを操作すると、AUTO モードになります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

設定温度の調整

ⓘ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ⓘ ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持できません。

ⓘ 助手席側の温度設定スイッチを操作すると、独立温度設定機能が設定されます。

E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナー

運転席と助手席で、それぞれ異なる温度を設定できます。

設定温度を調整する

▶ 設定温度調整スイッチ ⑨ または ⑫ を上方または下方に操作します。

E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナー

運転席と助手席、後席で、それぞれ異なる温度を設定できます。

設定温度ゾーンのイメージ

フロントの設定温度を調整する

▶ 設定温度調整スイッチ ⑩ または ⑭ を上方または下方に操作します。

フロントコントロールパネルから後席の設定温度を調整する

▶ 独立温度設定スイッチ ZONE を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

▶ 設定温度調整スイッチ ⑩ または ⑭ を上方または下方に操作します。

リアコントロールパネルで後席の設定温度を調整する

▶ 設定温度調整スイッチ ⑮ または ⑲ を操作します。

送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナー

▶ 送風口選択スイッチ ⑩ を操作して、送風したい送風口のマークをディスプレイ ④ の送風口インジケーターに表示させます。

E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナー

▶ 送風口選択スイッチ ⑬ を操作して、送風したい送風口のマークをディスプレイ ④ の送風口インジケーターに表示させます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口マーク	主に送風される送風口
	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口、中央送風口、リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口、フロント足元送風口、リア足元送風口
	中央送風口、サイド送風口、リア中央送風口
	サイド送風口、リア中央送風口、フロント足元送風口、リア足元送風口

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風口選択スイッチを押すと、AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯し、送風口選択の AUTO モードが解除されます。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

ⓘ 選択した送風口に関わらず、サイド送風口からは常に送風が行なわれます。サイド送風口からの送風を停止するときは、サイド送風口を閉じてください。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

ⓘ 送風量は 5 段階に調整できます。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風量調整スイッチを押すと、AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯し、送風量調整の AUTO モードが解除されます。

E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナー

送風量を調整する

▶ 送風量調整スイッチ ⑪ を上方または下方に操作します。

E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナー

送風量を調整する

▶ 送風量調整スイッチ ⑫ を上方または下方に操作します。

独立温度設定機能

助手席側の設定温度を個別に調整したり、運転席側の設定温度に連動させることができます。

独立温度設定機能を使用する

▶ 独立温度設定スイッチ ZONE を押します。

独立温度設定スイッチ ZONE の表示灯が点灯します。

E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナーは、運転席側と助手席側の設定温度を個別に調整できます。

E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナーは、は、運転席側と助手席側、後席の設定温度を個別に調整できます。

助手席側または後席 * の設定温度調整スイッチを操作したときは、運転席側の設定温度は連動しません。

独立温度設定機能を停止する

▶ 再度、独立温度設定スイッチ ZONE を押します。

独立温度設定スイッチ ZONE の表示灯が消灯します。

E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナーは、助手席側の設定温度が、運転席側の設定温度に連動します。

E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナーは、は、助手席側と後席の設定温度が、運転席側の設定温度に連動します。

デフロスターモード

フロントウインドウの外側が凍結しているときや、フロントウインドウまたはドアウインドウの内側が曇っているときに使用します。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ℹ デフロスターモードに設定しているときも、送風量を調整することができます。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ MAX を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が点灯し、以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 外気温度によっては、エアコンディショナーの送風量が上がり、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口を中心に送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ MAX を押します。

デフロスタースイッチ MAX の表示灯が消灯し、設定温度、送風口の選択、送風量などが元の設定に戻ります。

または

▶ AUTO スイッチ AUTO を押します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が点灯し、デフロスタースイッチ MAX の表示灯が消灯します。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

または

▶ E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナーは、設定温度調整スイッチ ⑨ または ⑫ を上方または下方に操作します。

▶ E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナーは、設定温度調整スイッチ ⑩ または ⑭ を上方または下方に操作します。

ⓘ デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していたときは AC モードに設定され、内気循環モードにしていたときは内気循環モードは解除されます。

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ AC スイッチ [A/C] を押して、AC モードに設定します。

▶ AUTO スイッチ [AUTO] を押します。

▶ 曇りが取れないときは、デフロスターモードに設定します。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ E 550 / E 63 AMG 以外のエアコンディショナーは、送風口選択スイッチ ⑩ を操作して、ディスプレイ ④ の送風口インジケーターに [ ] または [ ] のマークを表示させせます。

▶ E 550 / E 63 AMG のエアコンディショナーは、送風口選択スイッチ ⑬ を操作して、ディスプレイ ④ の送風口インジケーターに [ ] または [ ] のマークを表示させせます。

ⓘ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

⚠ **警 告**

ウインドウに氷や雪が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ リアデフォッガースイッチ [REAR] を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ [REAR] を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、数分後に自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

ⓘ リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は、外気温度や走行速度により異なります。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガーが短時間で停止したり、使用できないときは、以下のようにしてください。

▶ 読書灯やルームランプなど、必要でない電気装備を停止してください。

バッテリーの電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに設定すると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやスライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * を開閉できます。

⚠ 警 告

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は一時的にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、視界が損なわれ、交通状況を把握することができずに事故の原因になります。

⚠ 警 告

ドアウインドウを開閉するときは、身体を挟まれないようにしてください。また、身体や物がドアウインドウに触れないようにしてください。ドアウインドウが作動しているときにウインドウに引き込まれたり、ウインドウとウインドウフレームの間に挟まれるおそれがあります。挟まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチを反対の方向に操作してください。

スライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * を開閉するときは、スライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフに身体を挟まれないようにしてください。挟まれそうになったときは、スライディンググルーフスイッチまたはパノラミックスライディンググルーフスイッチを反対の方向に操作してください。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ [内気循環] を押します。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が点灯します。

または

▶ ドアウインドウやスライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * が閉じはじめるまで、内気循環スイッチ [内気循環] を押して保持します。

内気循環モードに設定され、内気循環スイッチ [内気循環] を押している間、ドアウインドウやスライディンググルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * が閉じます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後
外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後

内気循環モードを解除する

▶ 再度、内気循環スイッチ [内気循環] を押します。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が消灯します。

または

▶ ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が開きはじめるまで、内気循環スイッチ [内気循環] を押して保持します。

内気循環モードが解除され、内気循環スイッチ [内気循環] を押している間、ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が前回開いていた位置まで開きます。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わりますが、このときは内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ℹ 内気循環スイッチ [内気循環] で閉じたドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を、別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を内気循環モードの解除操作に連動して開くことはできません。

ℹ 内気循環モードに設定しているときに AC モードを解除すると、自動的に内気循環モードは解除されます。

余熱ヒーター・ベンチレーション（E 550 / E 63 AMG）

エンジンを停止した後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

最適に使用するために、ドアウインドウスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を閉じてください。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ REST を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ REST の表示灯が点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 温度設定スイッチで設定温度を調整します。

送風口は自動的に選択されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ REST を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ REST の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- イグニッション位置を **2** にしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 冷却水温度が低いとき

ℹ 少ない送風量で一定に保たれます。

ℹ 冷却水温度が低いときは、暖気が送風されないことがあります。

ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

ℹ エアコンディショナーシステムを乾燥させるため、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠してから約 60 分後に余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に約 30 分間作動することがあります。

送風口の調整

車外の空気を車内へ取り入れるために、以下の点に注意してください。

- フロントウインドウ下部の吸気口が、氷や雪、葉などで覆われていないこと
- 車内の送風口や吸排気口が覆われていないこと

ℹ 送風効率を上げるため、各送風口の向きが中央になるように調整してください。

中央送風口

① 中央送風口（左側）
② 中央送風口（右側）
③ 中央送風口（右側）開閉ダイヤル
④ 中央送風口（左側）開閉ダイヤル

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③④ を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③④ を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブを上下左右に動かします。

サイド送風口

左側送風口

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③ を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③ を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

ⓘ サイド送風口 ② を閉じても、ドアウインドウ送風口 ① を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブを上下左右に動かします。

グローブボックス送風口

エアコンディショナーが作動しているときは、グローブボックス内には、外気または冷気が送風されます。

送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

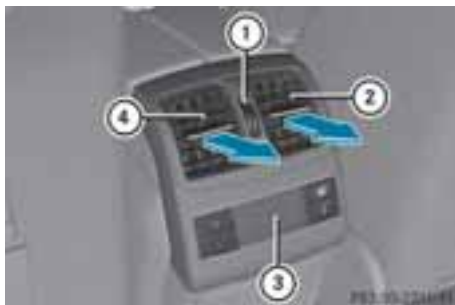
! エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

! 外気温度が高いときは、グローブボックス送風口を開き、エアコンディショナーの AC モードを設定してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

左ハンドル車
① 開閉ダイヤル
② 送風口

グローブボックス送風口を開閉する

▶ 開閉ダイヤル ① をまわします。

リア中央送風口

① リア中央送風口開閉ダイヤル
② リア中央送風口（右側）
③ リアコントロールパネル
④ リア中央送風口（左側）

送風口を開く

▶ リア中央送風口開閉ダイヤル ① を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ リア中央送風口開閉ダイヤル ① を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブを上下左右に動かします。

リアサイド送風口

① リアサイド送風口（左側）
② リアサイド送風口開閉ダイヤル

ℹ リアサイド送風口の送風量や送風温度は、フロントコントロールパネルの送風設定およびリアコントロールパネルの設定温度により、自動的に調整されます。

送風口を開く

▶ リア中央送風口開閉ダイヤル ② を右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ リア中央送風口開閉ダイヤル ② を左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

スライディングルーフ *

⚠ **警 告**

スライディングルーフを開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。

⚠ **警 告**

子供が車内からスライディングルーフを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ **警 告**

スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作で開くことができます（▷146 ページ）。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作またはキーレスゴー操作 * で閉じることができます（▷147 ページ）。

i スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i スライディングルーフが自動で開閉しないときは、スライディングルーフをリセットしてください（▷290 ページ）。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、スライディングルーフを開閉できます。その間にフロントドアを開くと、スライディングルーフは開閉できなくなります。

i スライディングルーフが自動で作動しているときにスイッチをいずれかの方向に操作すると、スライディングルーフは停止します。

ガラス・スライディングルーフ *

スライディングルーフを開閉する

① チルトアップする
② 開く
③ 閉じる / チルトダウンする

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

スライディングルーフを開く

▶ スイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェードが閉じているときは、連動して開きます。

スイッチを ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開します。

スライディングルーフを閉じる

▶ スイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

スイッチを ③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全閉します。

▶ 必要に応じて、サンシェードを閉じます。

スライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

スライディングルーフは、後部をチルトアップすることができます。

チルトアップする

▶ スイッチを ① の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

スイッチを ① の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

チルトダウンする

▶ スイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

スイッチを ③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

サンシェード

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

サンシェードは、スライディングルーフが閉じているか、チルトアップしているときに開閉できます。

サンシェードを開閉する

▶ グリップ ② を持って、サンシェード ① を前後に開閉します。

! スライディングルーフを開くときは、サンシェードとルーフ内張りの間に身体や物が挟まれないように注意してください。

挟み込み防止機能

スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。

⚠ 警 告

強い力でスライディングルーフを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフを閉じるときは十分注意してください。閉じているスライディングルーフに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを操作し続けてスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、その位置から少し開きます。

ただし、挟み込み防止機能が作動した後に再度操作して、挟み込みなどの抵抗を検知したときは、より強い力で閉じます。

さらに、この状態で再度操作して挟み込みなどの抵抗を検知したときは、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

自動でスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

レインクローズ機能

スライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディンググルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 6 時間が経過したとき
- 電力供給に異常が発生したとき

ℹ レインクローズ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗を感知したときは、挟み込み防止機能が作動し、スライディングルーフが停止し、その位置から少し開いた状態になります。また、レインクローズ機能が解除されます。

ℹ 以下のときは、レインクローズ機能は作動しません。

- スライディングルーフをチルトアップしているとき
- スライディングルーフの作動が妨げられたとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき

スライディングルーフのリセット

スライディングルーフがスムーズに作動しないときや、自動で開閉しないときは、スライディングルーフのリセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ スイッチを ① の方向（▷287 ページ）に押して、スライディングルーフを完全にチルトアップし、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スライディングルーフが自動で開閉することを確認します。

▶ 自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行ないます。

! スライディングルーフをリセットしても、自動で開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

パノラミックスライディングルーフ *

パノラミックスライディングルーフを開閉する

① チルトアップ
② 開く
③ 閉じる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

開く

▶ 電動サンシェードが全開しているときに、スイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

自動で開く

▶ 電動サンシェードが全開しているときに、スイッチを ② の方向にいっぱいまで操作します。

自動で全開します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で開いているパノラミックスライディングルーフは停止します。

閉じる

▶ スイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

自動で閉じる

▶ スイッチを ③ の方向にいっぱいまで操作します。

自動で全閉します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で閉じているパノラミックスライディングルーフは停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! パノラミックスライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、パノラミックスライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

パノラミックスライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

パノラミックスライディングルーフは、後部をチルトアップすることができます。

チルトアップする

▶ スイッチを ① の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

自動でチルトアップする

▶ スイッチを ① の方向にいっぱいまで操作します。

自動でチルトアップします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトアップしているパノラミックスライディングルーフは停止します。

i パノラミックスライディングルーフが開いている状態のときにスイッチを ① の方向に操作して保持するか、いっぱいまで操作すると、パノラミックスライディングルーフは閉じ、チルトアップした状態になります。

チルトダウンする

▶ スイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

自動でチルトダウンする

▶ スイッチを ③ の方向にいっぱいまで操作します。

自動でチルトダウンします。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動でチルトダウンしているパノラミックスライディングルーフは停止します。

電動サンシェード

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

開く

▶ スイッチを ① または ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

自動で開く

▶ スイッチを ① または ② の方向にいっぱいまで操作します。

自動で全開します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で開いている電動サンシェードは停止します。

! 電動サンシェードを開くときは、電動サンシェードとルーフ内張りの間に身体や物が挟まれないように注意してください。

閉じる

▶ パノラミックスライディングルーフが全閉しているときに、スイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

自動で閉じる

▶ パノラミックスライディングルーフが全閉しているときに、スイッチを ③ の方向にいっぱいまで操作します。

自動で全閉します。

スイッチをいずれかの方向に操作すると、自動で閉じている電動サンシェードは停止します。

レインクローズ機能

パノラミックスライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにパノラミックスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 6 時間が経過したとき
- 電力供給に異常が発生したとき

i 以下のときは、レインクローズ機能は作動しません。

- パノラミックスライディングルーフをチルトアップしているとき
- レインクローズ機能でパノラミックスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗を感知したとき

  このときは、挟み込み防止機能が作動し、パノラミックスライディングルーフが停止し、その位置から少し開いた状態になります。また、レインクローズ機能が解除されます。
- レインセンサーに雨滴がかからないとき

挟み込み防止機能

パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードには挟み込み防止機能があります。

⚠ **警 告**

挟み込み防止機能が作動しない状態でパノラミックスライディングルーフや電動サンシェードを閉じるときは、身体を挟まないように注意してください。パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを操作し続けてパノラミックスライディングルーフや電動サンシェードを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、その位置から少し開きます。

ただし、挟み込み防止機能が作動した後に再度操作して、挟み込みなどの抵抗を検知したときは、より強い力で閉じます。

さらに、この状態で再度操作して挟み込みなどの抵抗を検知したときは、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

自動でパノラミックスライディングルーフか電動サンシェードを閉じているとき、またはパノラミックスライディングルーフをチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

! パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードには挟み込み防止機能がありますが、パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードを閉じるときやパノラミックスライディングルーフをチルトダウンするときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

パノラミックスライディングルーフ / 電動サンシェードのリセット

パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードがスムーズに作動しないときや、自動で開閉しないときは、パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードのリセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ スイッチを ③ の方向（▷290 ページ）に操作してパノラミックスライディングルーフを完全に閉じ、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スイッチを ③ の方向（▷290 ページ）に操作して電動サンシェードを完全に閉じ、そのまま数秒間保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードが自動で開閉することを確認します。

▶ 自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行ないます。

! パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードをリセットしても、自動で開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

スライディングルーフのトラブル

スライディングルーフを閉じることができず、原因がわからないとき

⚠ 警告

強い力でスライディングルーフを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフを閉じるときは十分注意してください。閉じているスライディングルーフに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

閉じているスライディングルーフが停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ スライディングルーフが停止したらただちに、スライディングルーフが閉じるまでスイッチを ③ の方向に軽く操作し続けてください。

強い力でスライディングルーフが閉じます。

閉じているスライディングルーフが再度停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ スライディングルーフが停止したらただちに、スライディングルーフが閉じるまでスイッチを ③ の方向に軽く操作し続けてください。

挟み込み防止機能が作動しない状態で、スライディングルーフが閉じます。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

⚠ 警告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故のときなどに乗員がけがをする可能性は高まります。

荷物を積むときは、" 荷物の固定 " (▷305 ページ)もご覧ください。

⚠ 警告

エンジンをかけた状態でトランクやテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 荷物はできるだけトランクまたはラゲッジルームに積んでください。
- 重量が偏らないよう均等に積んでください。
- 重い物は車の中心近く（トランクの前方またはラゲッジルームの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、トランクやラゲッジルームの内部を損傷するおそれがあります。

- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。
- 荷物の重量が、制限重量(▷458 ページ)を超えないようにしてください。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- トランクに荷物を積むときは、トランクの前端に接するようにしてください。
- ラゲッジルームに荷物を積むときは、リアシートのバックレストに接するようにしてください。
- リアシートを折りたたんだときは、フロントシートのバックレストに接するように荷物を積んでください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。

ⓘ 荷物固定用のアクセサリーは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

⚠ **警 告**

荷物が収納されているときは、小物入れを必ず閉じてください。また、収納ネットは重い荷物を固定するためには設計されていません。

以下のときに荷物が投げ出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

収納ネットには、鋭利な角のある物やこわれやすい物を入れて運搬しないでください。

収納ポケットには、かたい物を入れて運搬しないでください。また収納ポケットの上部から、物がはみ出ないようにしてください。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

左ハンドル車

グローブボックスを開く

▶ ハンドル ① を引きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー ② を押してロックさせせます。

ⓘ グローブボックス内には照明があります。イグニッション位置が **1** か **2** のときにグローブボックスを開くと、照明が点灯します。

ⓘ グローブボックス内には、ETC 車載器があります。詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

ⓘ グローブボックス内に送風することができます。

キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んでグローブボックスを施錠 / 解錠できます。

左ハンドル車

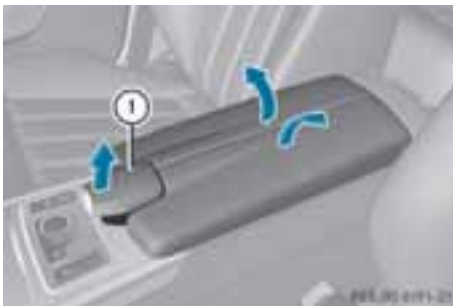
グローブボックスを施錠する

▶ エマージェンシーキーを差し込んで施錠位置 2 にまわします。

グローブボックスを解錠する

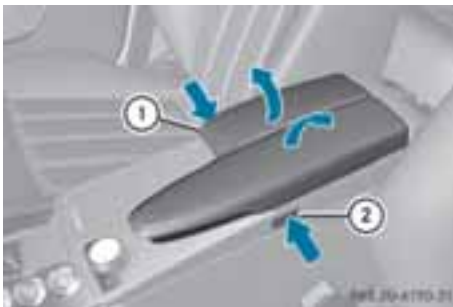
▶ エマージェンシーキーを差し込んで解錠位置 1 にまわします。

ⓘ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

フロントアームレストの小物入れ（E 63 AMG を除く車種）

小物入れのカバーを開く

▶ レバー ① を引きます。

アームレストカバーが左右に開きます。

フロントアームレストの小物入れ（E 63 AMG）

左ハンドル車

小物入れのカバーを開く

▶ 左右にあるボタン ① または ② を押します。

アームレストカバーが左右に開きます。

ⓘ フロントアームレストの小物入れ内には、メディアインターフェース用端子と USB インターフェース用端子があります。メディアインターフェースは、iPod® や USB 機器などのポータブル音楽機器のための接続端子です。詳しくは別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

フロントシート下部の小物入れ *

小物入れのカバーを開く

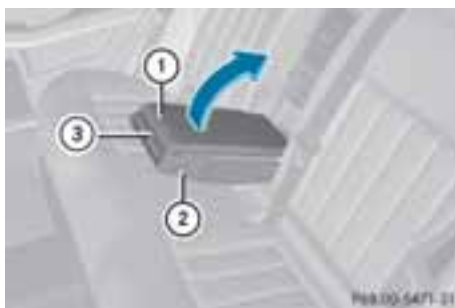
▶ ハンドル ① を引いて、カバー ② を前方に開きます。

⚠ 警 告

フロントシート下部の小物入れには、約 1.5kg 以上の物を収納しないでください。また、走行するときは、小物入れのカバーが確実に閉じていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアアームレストの小物入れ

小物入れのカバーを開く

▶ リアアームレスト ② を引き出します。

▶ レバー ③ を引き上げながら、カバー ① を開きます。

! リアアームレストを収納するときは、アームレストカバーを閉じてから収納してください。再度リアアームレストを引き出すときに、アームレストのカバーやシートを損傷するおそれがあります。

スルーローディング（セダン）*

アームレスト奥にあるカバーを開いて、長尺物を収納することができます。

⚠ 警告

スルーローディングを使用するときは、荷物を確実に固定してください。急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

▶ リアアームレスト ① を引き出します。

▶ トランク奥にあるカバー ② のノブ ③ を下方に押しながら、カバー ② を矢印の方向に開きます。

▶ スキーバッグ * が装着されているときは、スキーバッグを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

収納ネット

⚠ **警 告**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

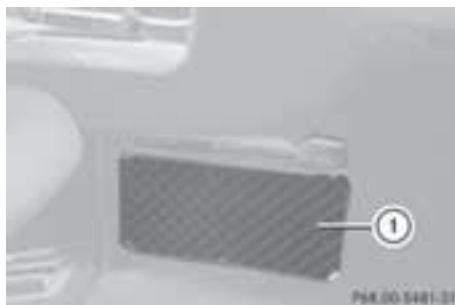
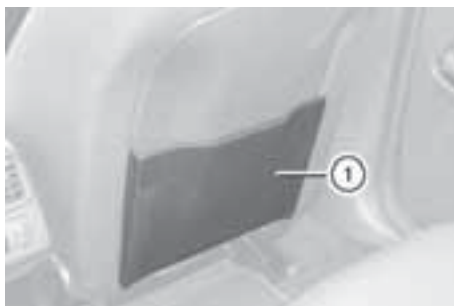
助手席足元の収納ネット

左ハンドル車
① 助手席足元の収納ネット

リアシートの収納ネット *

① リアシートの収納ネット

トランク / ラゲッジルーム内の収納ネット

セダン
① トランク / ラゲッジルームの収納ネット

シートポケット

① シートポケット

フロントシートの背面にシートポケット ① があります。

⚠ **警 告**

シートポケットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。また、シートポケットから収納物がはみ出さないようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

スキーバッグ *

⚠ 警 告

スキーバッグには、スキー板以外の物を収納しないでください。

スキーバッグを使用するときは、必ずスキー板を確実に固定してください。事故のときなどに、スキー板が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

スキーバッグを使用する

▶ リアシートのアームレストを引き出します。

▶ ノブ ② を内側につまみながら、カバー ① を手前に開きます。

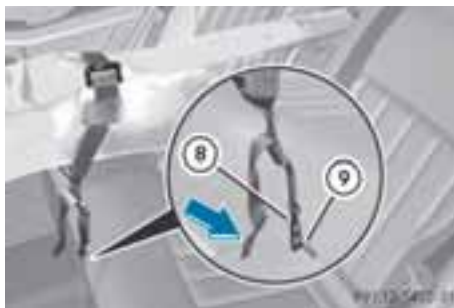
▶ ベルクロテープ ③ を外して、スキーバッグ ④ を車内に引き出します。

▶ トランクまたはテールゲートを開きます。

▶ リアシートのバックレスト背面にあるカバー ⑤ のノブ ⑥ を下方に押しながら、カバー ⑤ を矢印の方向に開きます。

▶ トランクまたはラゲッジルーム内から、スキー板をスキーバッグに通します。

▶ ストラップ ⑦ を締めて、スキー板を確実に固定します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ フック ⑧ を左側リアシート足元の固定用リング ⑨ にかけます。

必要であれば、ストラップ ⑦ を引いて締め付けます。

スキーバッグを収納する

▶ ストラップ ⑦ を緩めます。

▶ フック ⑧ を固定用リング ⑨ から外します。

▶ スキー板を取り出します。

▶ リアシートのバックレスト背面にあるカバー ⑤ を閉じます。

▶ スキーバッグをたたんで、ベルクロテープで固定します。

▶ カバー ① を閉じます。

ⓘ スキーバッグを使用しないときは、カバー ⑤ を閉じてください。

スキーバッグを取り外す

スキーバッグを乾燥させるときなどは、スキーバッグを取り外します。

▶ トランクまたはテールゲートを開きます。

▶ リアシートのバックレスト背面のカバー ⑤ を開きます（▷300 ページ）。

▶ ノブ ⑩ を手前に引いて、スキーバッグを取り外します。

⚠ **警 告**

スキーバッグを取り外しているときは、エンジンをかけた状態でトランクまたはテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

スキーバッグを取り付ける

▶ スキーバッグの下部を合わせ、スキーバッグを押し込んで固定します。

▶ カバー ⑤ を閉じます。

分割可倒式リアシート *（セダン）

リアシートのバックレストの左右いずれか一方、または両方を倒すことができます。

⚠ **警 告**

トランクに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! リアシートのバックレストを前方に倒した状態でフロントシートを後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを後方に倒すときは、リアシートに当たらないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

i フロントシートを大きく後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを大きく後方に倒すときは、左右リアシートのヘッドレストを取り外してください。

i シートを倒す必要のないときは、バックレストを起こしてロックしてください。

バックレストを倒す

! リアシートのバックレストを前方に倒す前に、リアシートのヘッドレストが最も低い位置になっていること、フロントシートが前方にあり、フロントシートのバックレストが後方に倒れすぎていないことを確認してください。シートや、フロントシート背面のシートポケットの収納物などを損傷するおそれがあります。

▶ トランクを開きます（▷91、92 ページ）。

▶ トランク内にあるリリースハンドル ① を手前に引きます。

バックレストのロックが解除されます。

左右リアシートのヘッドレストが下がります。

i バックレストのロックを解除したときに、フロントシートが後方の位置にあるときやバックレストを後方に倒しているときは、ロックを解除した側のフロントシートが自動的に前方および上方に移動し、バックレストが垂直付近の位置に起き上がります。ただし、運転席シートは、イグニッション位置が **2** のときは移動しません。

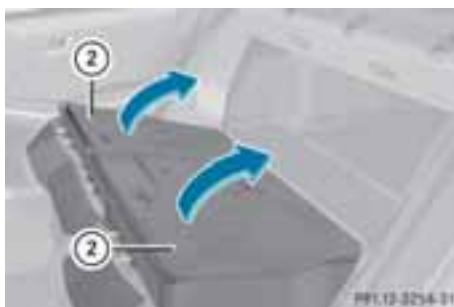
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ バックレスト ② を前方に倒します。

▶ 必要であれば、フロントシートの位置を調整します。

バックレストを起こす

▶ 必要であれば、フロントシートを前方に移動します。

! バックレストを起こすときは、シートベルトを挟み込まないように注意してください。

▶ バックレスト ② を起こしてロックします。

⚠ 警 告

バックレストを起こしたときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

ℹ バックレストが確実にロックされていないときは、イグニッション位置が **2** でドアが閉じているときに、マルチファンクションディスプレイに " 左（右）リア バックレスト ロックされていません " と表示されます。再度バックレストを起こして、確実にロックしてください。

▶ 必要であれば、リアシートのヘッドレストの高さを調整します。

▶ 必要であれば、フロントシートの位置を調整します。

分割可倒式リアシート（ステーションワゴン）

リアシートのバックレストの左右いずれか一方または両方を倒すことにより、ラゲッジスペースの容量を増やすことができます。

バックレストはラゲッジルームカバー収納リールを装着したままで倒すことができます。

⚠ **警告**

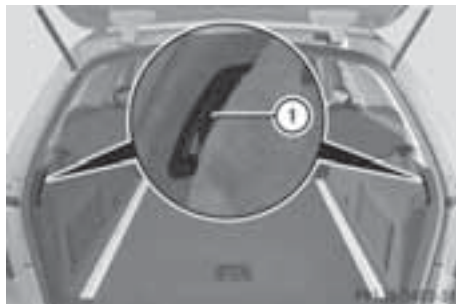
ラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

バックレストを倒した状態でラゲッジルームに荷物を積載するときは、必ずセーフティネットを使用してください。

⚠ **警告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

バックレストを倒す

! リアシートのバックレストを倒すときは、シートクッションの上に物がないことを確認してください。物やリアシートを損傷するおそれがあります。

▶ ラゲッジルーム内のロック解除ハンドル ① またはバックレスト脇のロック解除ハンドル ② をいっぱいまで引きます。

引いた側のバックレストが前方に倒れます。

ℹ ロック解除ハンドル ① または ② を軽く引くと、ロックを解除した側のヘッドレストの高さが下がります。また、フロントシートが後方の位置にあるときやバックレストを後方に倒しているときは、ロックを解除した側のフロントシートが自動的に前方および上方に移動し、バックレストが垂直付近の位置に起き上がります。ただし、運転席シートは、イグニッション位置が **2** のときは移動しません。

▶ 必要であれば、フロントシートの位置を調整します。

バックレストを起こす

▶ 必要であれば、フロントシートを前方に移動します。

! バックレストを起こすときは、シートベルトを挟み込まないように注意してください。

▶ バックレスト ① を起こしてロックします。

⚠ 警 告

リアシートのバックレストを起こしたときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに乗員がけがをするおそれがあります。

リアシートのバックレストが確実にロックされていないときは、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▶ 必要であれば、リアシートのヘッドレストの高さを調整します。

▶ 必要であれば、フロントシートの位置を調整します。

荷物の固定

荷物固定用リング *

⚠ 警 告

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物固定用リングに均等に力がかかるようにしてください。
- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もお読みください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

セダン
① 荷物固定用リング

ステーションワゴン
① 荷物固定用リング

トランクルーム / ラゲッジルーム内に 6 個の荷物固定用リング ① があります。

EASY-PACK フィックスキット装備車は、着脱式の荷物固定用リングが装備されています。

ラゲッジルームカバーとセーフティネット（ステーションワゴン）

⚠ **警 告**

ラゲッジルームカバーは、荷物の飛び出しを防ぐものではありません。ラゲッジルームカバーを使用しているときも、ラゲッジルームの荷物は確実に固定してください。またラゲッジルームカバーが確実に取り付けられていることを確認してください。荷物が確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジルームに荷物を積むときは、荷物の高さが左右ウインドウの下端よりも高くならないようにしてください。また、ラゲッジルームカバーの上には重いものを載せないでください。

ラゲッジルームカバーとセーフティネットを収納している収納リールは、ラゲッジルーム左右の取付部に取り付けることができます。

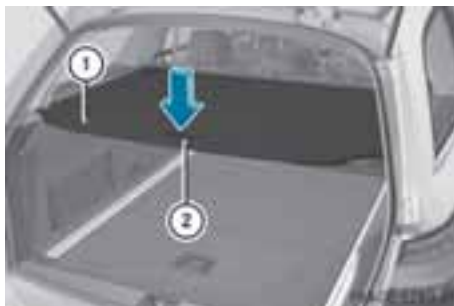
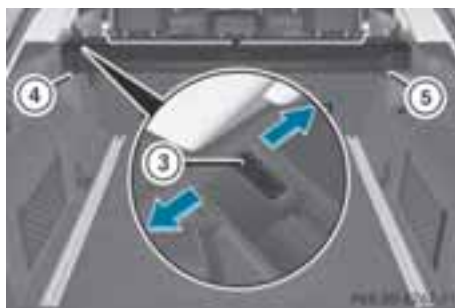
荷物の積載を容易にするために、テールゲートを開くとラゲッジルームカバーも自動的に開きます。テールゲートを閉じると、ラゲッジルームカバーも閉じます。

ラゲッジルームカバーを閉じるときは、ラゲッジルームにラゲッジルームカバーの作動を妨げるものがないことを確認してください。障害物に接触すると、ラゲッジルームカバーは再び開きます。

ラゲッジルームカバー

ラゲッジルームカバーを引き出す

▶ グリップ ② を持ってラゲッジルームカバー ① を引き出し、後端部を左右のフックに掛けます。

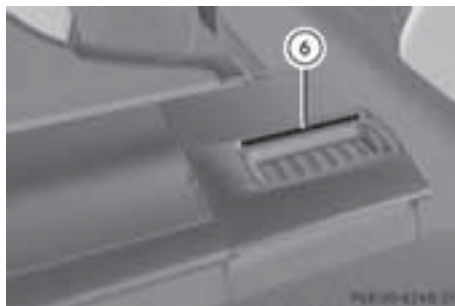
ラゲッジルームカバーを収納する

▶ ラゲッジルームカバー ① をフックから外し、グリップ ② を持ちながら、ラゲッジルームカバーをゆっくり巻き取らせます。

収納リールを取り外す

▶ ボタン ③ を押しながら、収納リールの左端部を前方または後方に押して、左側の取り付け部 ④ から外します。

▶ 収納リールの右端部を右側取り付け部 ⑤ から外し、収納リールを取り外します。

収納リールを取り付ける

▶ 収納リールの右端部を右側の取り付け部 ⑤ にいっぱいまで押し込みます。

▶ 収納リールの左端部を左側の取り付け部に合わせ、収納リールが固定されるまで押し込みます。

▶ 赤色のロックインジケーター ⑥ が見えていないことを確認します。

見えているときは、収納リールが確実に固定されていません。

収納リールをリアシートのバックレストに取り付ける

取り外した収納リールを左側リアシートの背面に取り付けることができます。

▶ 左右リアシートのバックレストを倒します（▷302 ページ）。

▶ 収納リールのロック部 ⑦ を 2 ヶ所のガイド ⑧ に差し込み、矢印の方向に停止するまで押し込みます。

! 前方に倒したバックレストに収納リールを取り付けているときは、バックレストを起こさないでください。

セーフティネット

⚠ 警 告

セーフティネットは重い荷物の飛び出しを防ぐことはできません。重い荷物を積載するときは確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

軽い荷物を積載するときは、セーフティネットを使用してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されるおそれがあります。

リアシートを倒していない状態でセーフティネットを使用する

▶ タブ ① を持ってセーフティネットを引き出し、取り付け部 ② に差し込みます。

リアシートを倒している状態でセーフティネットを使用する

▶ 収納リールをリアシートのバックレスト背面に取り付けます（▷307 ページ）。

▶ タブ ① を持ってセーフティネットを引き出し、取り付け部 ② に差し込みます。

バッグフック

⚠ 警 告

バッグホルダーには軽い荷物のみを掛けてください。重い物やとがった物、壊れやすい物を掛けないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

❗ バッグフックには、約 3kg 以上の荷物を掛けないでください。

セダン

バッグフックを使用する

▶ タブ ① を持って、バッグフック ② を引き出します。

ステーションワゴン

ラゲッジルームの左右にバッグフックがあります。

バッグフックを使用する

▶ バッグフック ① を押します。

バッグフックが引き出されます。

バッグフックを収納する

▶ ロックされるまで、バッグフック ① を押します。

テールゲートのコートフック（ステーションワゴン）

⚠ 警 告

テールゲートのコートフックには重い物を掛けないでください。重みでテールゲートが閉じ、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

テールゲートフックには軽い衣類のみを掛けてください。

① コートフック

テールゲートを開いているときに、コートなどの軽い衣類を掛けることができます。

EASY-PACK コンビニエンスボックス（セダン）*

⚠ 警 告

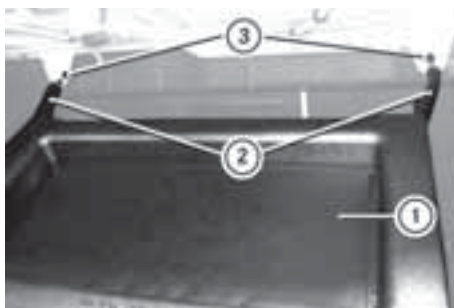
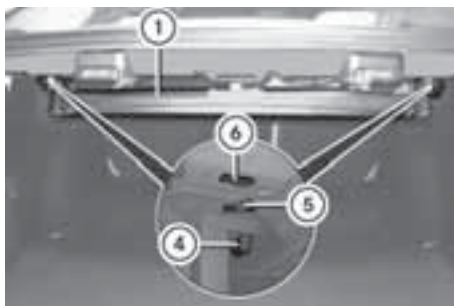
EASY-PACK コンビニエンスボックスには、重量が約 10kg までの物のみを収納してください。また、重量が約 5kg 以上の物を収納するときは、ボックスの底面がトランクフロアボードに接するようにボックス底面を下ろしてください。

ボックスには、鋭い角のある物やこわれやすい物を収納しないでください。

! EASY-PACK コンビニエンスボックスを引き出したり収納するときは、ボックスのフレームに物が載っていないことを確認してください。また、上からフレームが押されていないようにしてください。ボックスを損傷するおそれがあります。

EASY-PACK コンビニエンスボックスは販売店オプションです。詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コンビニエンスボックスの取り付け

▶ トランクルーム奥の取り付け穴 ③ に、コンビニエンスボックス ① のアーム ② の先端を差し込みます。

▶ コンビニエンスボックス ① を上方に持ち上げ、フック ⑤ をトランクルーム上方の取り付け部 ⑥ にいっぱいまで差し込みます。

▶ ノブ ④ を停止するまでまわし、確実に固定します。

コンビニエンスボックスの取り外し

▶ ノブ ④ を取り付けたときと反対の方向に停止するまでまわします。

▶ コンビニエンスボックス ① を下方に下げ、手前に引いて取り外します。

ℹ 取り外した EASY-PACK コンビニエンスボックスは、棚など平らな場所に保管してください。

コンビニエンスボックスを使用する

コンビニエンスボックスを引き出す

▶ ハンドル ① を持って、停止するまで後方にボックスを引き出します。

積載面を下げる

▶ 荷物の積載面 ② が好みの高さになり、ボックスが好みの大きさになるまで、荷物の積載面 ② の中央部を下方に押し下げます。

積載面を上げる

▶ ボタン ③ を押します。

荷物の積載面 ② がいっぱいまで上方に動きます。

⚠ 警 告

積載面を上げるときは、EASY-PACK コンビニエンスボックスの中やフレームの周囲に手を触れないでください。けがをするおそれがあります

! 積載面を上げるときは、EASY-PACK コンビニエンスボックスの中に荷物が入っていないことを確認してください。荷物が放り出されて、荷物やトランクルームを損傷するおそれがあります。

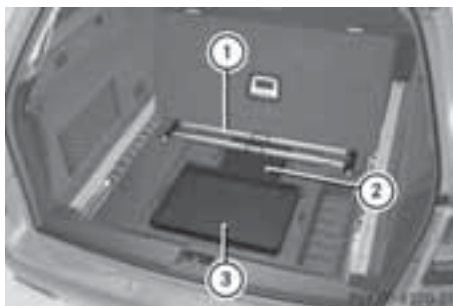
コンビニエンスボックスを収納する

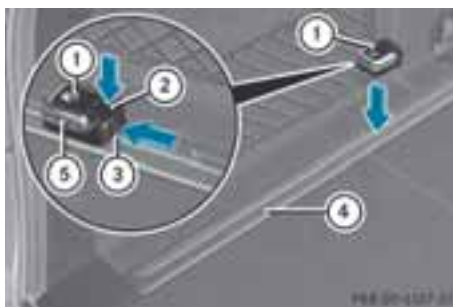
▶ ハンドル ① を持って、停止するまで前方にボックスを押し込みます。

EASY-PACK フィックスキット（ステーションワゴン）*

ラゲッジルームレールに装着したアタッチメントに伸縮式ベルトを装着して荷物を固定したり、伸縮式ポールを装着してラゲッジルームを区切ることができます。

また、アタッチメントにはリングが装備されており、荷物固定用リングとして使用できます。

▶ EASY-PACK フロアボードを開きます（▷316 ページ）。

① 伸縮式ポール
② アタッチメント / 伸縮式ベルト収納バッグ
③ 折りたたみ式ボックス

ラゲッジルームレールへのアタッチメントの装着

アタッチメントを装着する

▶ ラゲッジルームレール ④ の中央にある開口部にアタッチメント ① を合わせます。

▶ ロック解除ボタン ② を押しながら、アタッチメントを前方または後方にスライドさせます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 好みの位置で、ロック解除ボタンを放します。

▶ ロックボタン ③ を押します。

アタッチメントがその位置で固定されます。

アタッチメントを取り外す

▶ ロック解除ボタン ② を押しながら、アタッチメントをラゲッジルームレール ④ の中央にある開口部までスライドさせます。

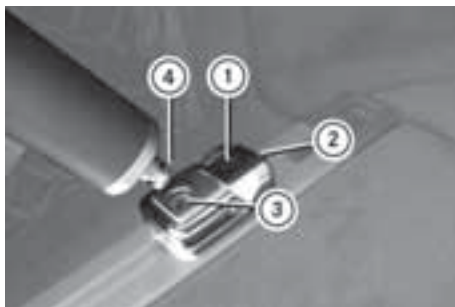
▶ アタッチメントをラゲッジルームレールから取り外します。

荷物固定用リングとして使用する

▶ リング ⑤ を起こします。

⚠ 警 告

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な車線変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

伸縮式ベルト

軽い荷物を伸縮式ベルトとラゲッジルームの側面の間に固定することができます。

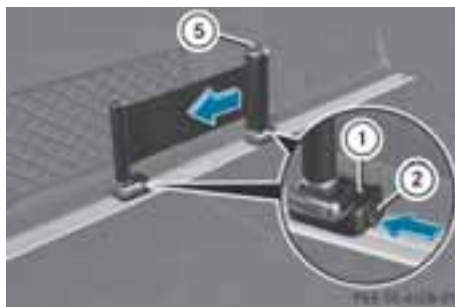
! 伸縮式ベルトには、7kg 以下の、安全に固定できる大きさの荷物のみを固定してください。

伸縮式ベルトを装着する

▶ 左右いずれかのラゲッジルームレールにアタッチメントを 2 個装着します。

▶ アタッチメントのロック解除ボタン ① を押しながら、いずれかのアタッチメントの取り付け部 ③ に、伸縮式ベルトの固定部 ④ をいっぱいまで差し込みます。

▶ アタッチメントのロックボタン ② を押します。

伸縮式ベルトの固定部がアタッチメントに確実に装着されていることを確認します。

▶ 伸縮式ベルトのロック解除ボタン ⑤ を押しながら、伸縮式ベルトを引き出します。

このとき、固定する荷物が伸縮式ベルトとラゲッジルーム側面の間になるようにします。

- ▶ もう一方のアタッチメントのロック解除ボタン ① を押しながら、アタッチメントの取り付け部に、引き出した伸縮式ベルトの固定部をいっぱいまで差し込みます。
- ▶ アタッチメントのロックボタン ② を押します。

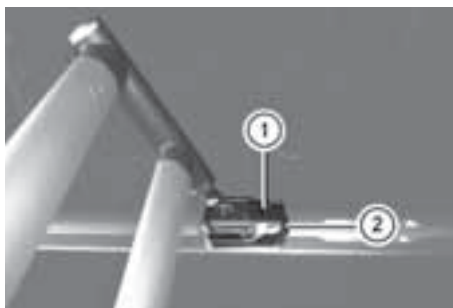
  伸縮式ベルトの固定部がアタッチメントに確実に装着されていることを確認します。
- ▶ 伸縮式ベルトのロック解除ボタン ⑤ を押しながら伸縮式ベルトを巻き取らせ、荷物を確実に固定します。

  必要であれば、荷物が確実に固定されるようにアタッチメントの前後位置を調整します。

伸縮式ベルトを取り外す

- ▶ アタッチメントのロック解除ボタン ① を押しながら、伸縮式ベルトをアタッチメントから取り外します。
- ▶ 伸縮式ベルトのロック解除ボタン ⑤ を押しながら、伸縮式ベルトを巻き取ります。

伸縮式ポール

伸縮式ポールを装着することにより、積載する荷物の大きさに合わせて、ラゲッジルームを区切ることができます。

伸縮式ポールを装着する

- ▶ 左右のラゲッジルームレールにアタッチメントを 1 個ずつ装着します。
- ▶ いずれかのアタッチメントのロック解除ボタン ① を押しながら、アタッチメントの取り付け部に、伸縮式ポールの固定部をいっぱいまで差し込みます。
- ▶ アタッチメントのロックボタン ② を押します。

  伸縮式ポールの固定部がアタッチメントに確実に装着されていることを確認します。

▶ アタッチメント ③ のロック解除ボタン ① を押しながら、もう一方のアタッチメントの取り付け部に、引き出した伸縮式ポール ④ の固定部をいっぱいまで差し込みます。

このとき、伸縮式ポール ④ の長さを調整しながら作業を行ないます。

▶ アタッチメントのロックボタン ② を押します。

伸縮式ポールの固定部がアタッチメントに確実に装着されていることを確認します。

▶ 必要であれば、アタッチメントを前後に動かして、伸縮式ポールの位置を調整します。

伸縮式ポールを取り外す

▶ ロック解除ボタン ① を押しながら、伸縮式ポールの固定部をアタッチメントから取り外します。

トランクフロアボード下の収納スペース（セダン）

トランクフロアボード下の収納スペースには、車載工具や応急用スペアタイヤなどが収納されています。

トランクフロアボードを開く

▶ フック ① を起こして、トランクフロアボードを引き上げます。

▶ トランクフロアボードを支えながら、フック ① をリアウインドウ下側のトランクの縁 ② にかけます。

! トランクフロアボードのフックをリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。フックを損傷します。

ラゲッジトレイ *

トランクフロアボードの下には、ラゲッジトレイ ① があります。

ラゲッジトレイの下には、車載工具や応急用スペアタイヤ * などがあります (▷382 ページ)。

EASY-PACK フロアボード *（ステーションワゴン）

⚠ **警 告**

EASY-PACK フロアボードが開いているときは、固定されていない荷物は積載しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

EASY-PACK フロアボードの下には、EASY-PACK アンダーラゲッジルームトレー * が装備されています。

トレーには、EASY-PACK フィックスキット * や折りたたみ式ボックスなどが収納されています。トレーの下部には、応急用スペアタイヤ * や車載工具などが収納されています。

EASY-PACK フロアボードの開閉

! ハンドルを持って EASY-PACK フロアボードを引き上げた状態で、フロアボードを上から押さえ付けないでください。EASY-PACK フロアボードを損傷するおそれがあります。

開く

▶ 矢印の位置を押してハンドル ① を起こし、フロアボードを引き上げます。

▶ ハンドル ① を持って EASY-PACK フロアボード ② を折りたたみ、好みの位置になるように両端部 ③ を左右の切り欠きに合わせます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

閉じる

▶ ハンドル ① を持って EASY-PACK フロアボード ② を手前に引き戻します。

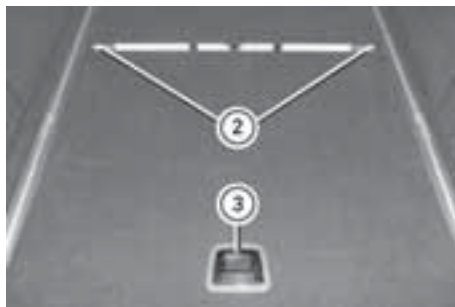
▶ ロックされるまで EASY-PACK フロアボードを押し込みます。

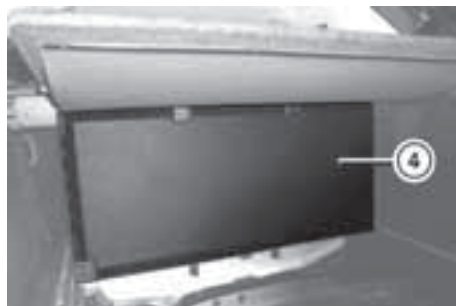
EASY-PACK フロアボードの取り外し / 取り付け

EASY-PACK フロアボードをいっぱいまで開いた状態

取り外す

▶ EASY-PACK フロアボード ① をいっぱいまで開きます。

▶ EASY-PACK フロアボード ① の矢印の位置を持って手前に引き、取り外します。

取り付ける

▶ EASY-PACK フロアボード ① の前端を、フック ② に合わせます。

ラゲッジフロアボード前部を約 90° の位置まで起こした状態

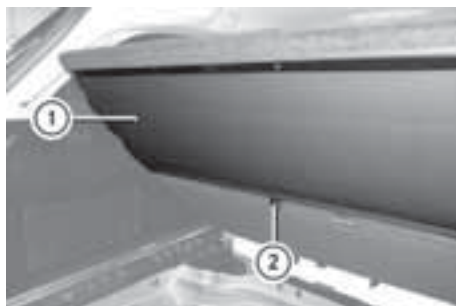
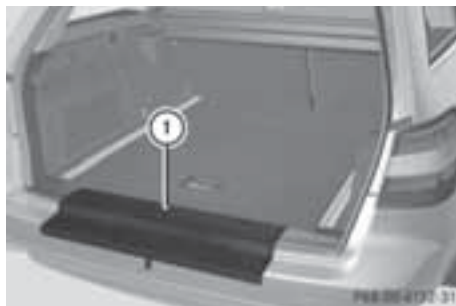
▶ ハンドル ③ を持って EASY-PACK フロアボード ① を折りたたみ、フロアボードの前部 ④ を約 90° の位置まで起こします。

ロックされた音がして、フロアボードの前部がフック ② に固定されます。

EASY-PACK テールゲートシルプロテクター *（ステーションワゴン）

EASY-PACK テールゲートシルプロテクターは磁石で EASY-PACK フロアボード裏面に装着されています。荷物を積載するときに、衣類が汚れたり、塗装面の損傷を防ぎます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ EASY-PACK フロアボードを開きます（▷316 ページ）。

▶ タブ ② を持って、EASY-PACK テールゲートシルプロテクター ① を磁石から放します。

▶ EASY-PACK シルプロテクター ① をテールゲート開口部に展開し、EASY-PACK フロアボードを閉じます。

! テールゲートを閉じる前に、EASY-PACK テールゲートシルプロテクターを EASY-PACK フロアボードの裏面に固定してください。EASY-PACK テールゲートシルプロテクターを損傷するおそれがあります。

ルーフラック

⚠ 警告

- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。誤った取り付け方によってルーフラックが脱落すると、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約 100kg）を超えないよう注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

⚠ 警告

ルーフラックを取り付けているときは、スライディングルーフ * やパノラミックスライディングルーフ * を閉じてください。乗員がけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

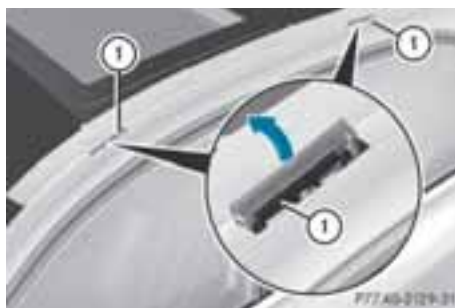
! 推奨品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。

ルーフラックを取り付けるとき、また、ルーフラックに荷物を積んだときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- スライディングルーフ * をチルトアップしたときに接触しないこと
- パノラミックスライディングルーフ * をチルトアップしたとき、または開いたときに接触しないこと
- ルーフ後部のアンテナに接触しないこと
- トランクまたはテールゲートを開いたときに接触しないこと

i ルーフラックは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

セダン

パノラミックスライディングルーフ非装備車

パノラミックスライディングルーフ装備車

▶ カバー ① を矢印の方向に開きます。

内部にルーフラックを装着するマウント部があります。

ルーフラックの装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

! カバーを開くときは、金属製の物やかたい物を使用しないでください。カバーやルーフを損傷するおそれがあります。

ステーションワゴン

ルーフラックなどをルーフレールに装着することができます。

ルーフラックなどの装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内装備

カップホルダー

⚠ 警告

走行中はカップホルダーを閉じ、使用しないでください。以下のときに物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。飲み物がこぼれるおそれがあります。熱い飲み物のためにカップホルダーを使用しないでください。火傷をするおそれがあります。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

ℹ センターコンソールのカップホルダーは取り外して清掃することができます。清掃するときは、清潔なぬるま湯のみを使用してください。

センターコンソールのカップホルダー（E 63 AMG を除く車種）

① カップホルダー
② カバー
③ ノブ

カップホルダーのカバーを開く

▶ カバー ③ を前方に押します。

カップホルダーのカバーを閉じる

▶ カバー ③ を前方に押してから手を放します。

カバーが自動的にスライドして閉じます。

カップホルダーを取り外す

▶ カバー ③ を開きます。

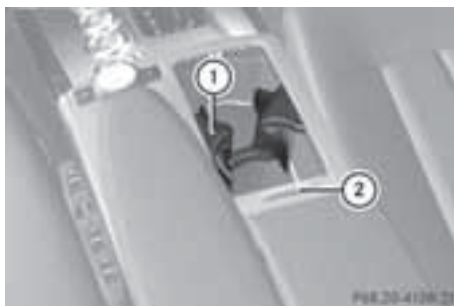
▶ ノブ ② を前方にスライドさせます。

▶ カップホルダー ① を取り外します。

カップホルダーを取り付ける

▶ カップホルダー ① を元の位置に取り付けます。

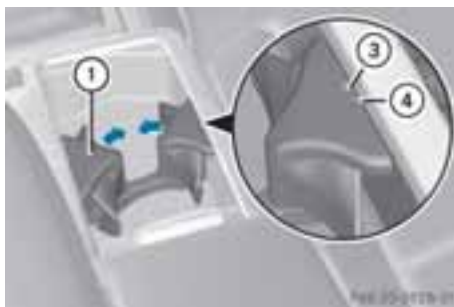
▶ ノブ ② を後方にスライドさせてロックします。

センターコンソールのカップホルダー（E 63 AMG）

左ハンドル車
① カップホルダー
② カバー

カップホルダーのカバーを開く

▶ カバー ② を後方に引きます。

カップホルダーのカバーを閉じる

▶ カバー ② を前方に押します。

① カップホルダー
③ 切り欠き
④ ガイド

カップホルダーを取り外す

▶ 左右にある切り欠き ③ にドライバーなどを差し込み、ロックを解除します。

▶ カップホルダー ① を矢印の方向に引き寄せながら取り外します。

① カップホルダー
④ ガイド
⑤ カップホルダー下部の切り欠き

カップホルダーを取り付ける

▶ カップホルダー下部の切り欠き ⑤ をガイド ④ に合わせます。

▶ カップホルダー ① を押し込みます。

リアアームレストのカップホルダー

カップホルダーを使用する

▶ リアアームレストを引き出して、小物入れのカバーを開きます（▷298 ページ）。

▶ ロック解除ボタン ① を押します。

カップホルダー ② が前方に展開します。

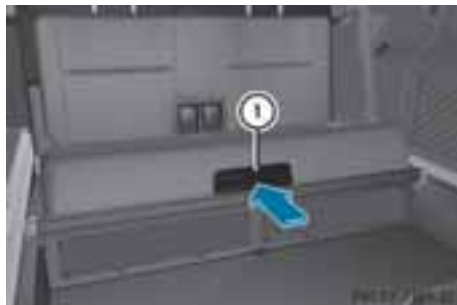
ⓘ カップホルダーを使用しているときも、アームレストのカバーを閉じることができます。

カップホルダーを収納する

▶ リアアームレストのカバーを開きます。

▶ カップホルダー ② を元の位置に戻してロックします。

! アームレストを元の位置に戻す前に、カップホルダーを収納してください。カップホルダーやシートなどを損傷するおそれがあります。

フロア格納式サードシートのカップホルダー *

カップホルダーを使用する

▶ カップホルダーのカバー ① を押し、カップホルダーを引き出します。

カップホルダーを収納する

▶ カップホルダーのカバー ① を押し込みます。

! カップホルダーに飲み物の容器以外のものを置かないでください。

ボトルホルダー *

⚠ 警 告

ボトルホルダーには、鋭利な形状や割れやすい容器、重いボトルなどを収納しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにボトルが投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ボトルホルダーは、ボトルを完全に固定することはできません。

! ボトルホルダーに約 0.5kg 以上のボトルを収納するときは、ボトルがフロアの上に置かれていることを確認してください。ボトルホルダーを損傷するおそれがあります。

左ハンドル車

ボトルホルダーを使用する

▶ ボトルホルダー固定部 ① を押しながら、後方にスライドさせます。

▶ ボトルホルダーにボトルを収納します。

▶ ボトルホルダー固定部 ① を前方にスライドさせて、ボトルを固定します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ボトルの形状によっては、ボトルホルダーに収納できない場合があります。

サンバイザー

⚠ 警告

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により交通状況の視認が損なわれ、事故の原因になります。

① 照明
② 補助サンバイザー *
③ フック
④ クリップ
⑤ バニティミラー
⑥ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック ③ から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

バニティミラーを使用する

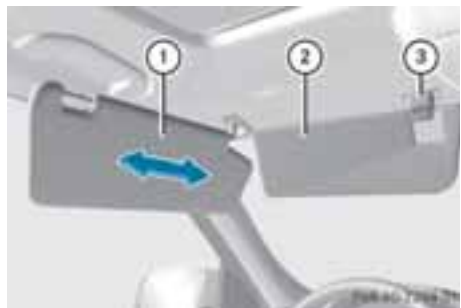
▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー ⑥ を上方に開きます。

照明 ① が点灯します。

使用後はバニティミラーカバーを閉じます。

照明 ① はサンバイザーがフックにかかっているときに点灯します。

前方および横方向からの眩しさを防ぐ（ダブルサンバイザー装備車）

▶ サンバイザー ① を下げます。

▶ サンバイザーをフック ③ から外します。

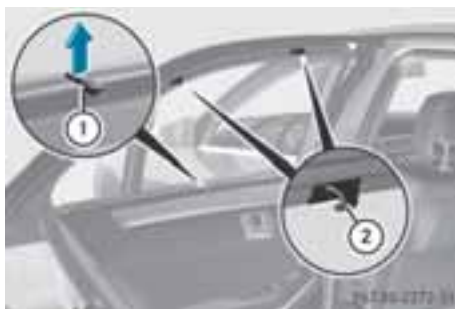
▶ サンバイザーを横にまわします。

サンバイザーは矢印の方向にスライドさせることができます。

▶ 補助サンバイザー ② を下げて、前方からの眩しさを防ぎます。

! サンバイザー ① を横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。バニティミラーカバーやルーフ内張りを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ブラインド（後席左右）＊

ブラインドを展開する

▶ タブ ① を持って、ブラインドを引き出します。

▶ リアドアウインドウ上端にあるフック ② にブラインドをかけます。

ブラインドを格納する

▶ タブ ① を持って、フック ② からブラインドを外します。

▶ タブ ① を持ちながら、ブラインドをゆっくり格納します。

! ブラインドを格納するときは、タブ ① を持ちながら、ゆっくり格納してください。タブから手を放して急激に格納するとブラインドや格納機構を損傷するおそれがあります。

! リアドアウインドウが開いている状態で走行速度を上げるときは、ブラインドを格納してください。走行風によりブラインドがフックから外れ、ブラインドが急激に格納されることにより、ブラインドや格納機構を損傷するおそれがあります。

電動ブラインド(リアウインドウ)(セダン）＊

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動させることができます。

ブラインドを展開する

▶ 電動ブラインドスイッチ ① を押します。

ブラインドが自動で展開します。

展開中に再度スイッチを押すと、ブラインドが自動で格納します。

ブラインドを格納する

▶ 電動ブラインドスイッチ ① を押します。

ブラインドが自動で格納します。

格納中に再度スイッチを押すと、ブラインドが自動で展開します。

! ブラインドの作動範囲に物を置かないでください。ブラインドや物を損傷するおそれがあります。

! リアウインドウにアクセサリーなどを装着しないでください。ブラインドを作動させたときにブラインドやアクセサリーなどを損傷するおそれがあります。

＊ オプションや仕様により、異なる装備です。

灰皿

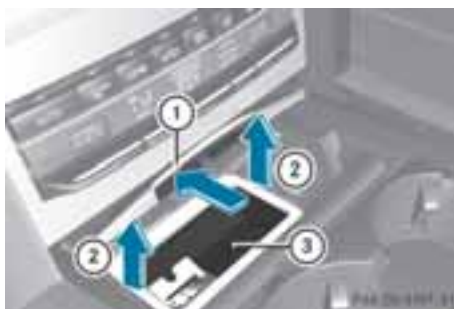
! 吸いがらやマッチの火は確実に消して、使用後はカバーを閉じてください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 灰を落とすときは、灰皿が取り付けられていることを確認してください。灰皿の収納部を損傷するおそれがあります。

フロントの灰皿

i 灰皿を取り外したスペースを小物入れとして使用することができます。

! 灰皿下部のスペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に取り付けられていることを確認してください。灰皿下部のスペースを損傷するおそれがあります。

灰皿のカバーを開く

▶ カバー ① をいっぱいまで前方に押します。

灰皿のカバーを閉じる

▶ カバー ① を前方に押してから手を放します。

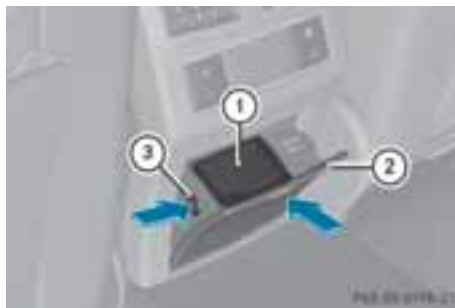
カバーが自動的にスライドして閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿 ③ の両脇をつまみ、矢印 ② の方向に引き上げます。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ③ を元の位置に合わせ、押し込みます。

リアの灰皿

灰皿を開く / 閉じる

▶ カバー ② を押して開きます。

閉じるときはカバーを押します。

灰皿を取り外す

▶ 解除ボタン ③ を押して、灰皿 ① を取り出します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ① を元の位置に合わせ、ロックするまで押し込みます。

ライター

⚠ **警告**

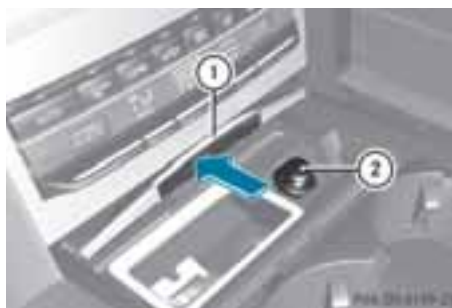
ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。

! ライターを使用するときは、以下の点に注意してください。ライターを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

ライターのカバーを開く

▶ フロントの灰皿のカバー ① をいっぱいまで前方に押します。

ライターを使用する

▶ ライター ② を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

▶ ライター ② を引き抜きます。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

ライターのカバーを閉じる

▶ カバー ① を前方に押してから手を放します。

カバーが自動的にスライドして閉じます。

12V 電源ソケット

グローブボックス内とセンターコンソール後端、ラゲッジルーム右側（ステーションワゴン）に 12V 電源ソケットを装備しています。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

! 必ず DC12V、最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。

規格外の電気製品を使用すると、ヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! 12V 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 12V 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障やショートの原因になります。

ⓘ バッテリー電圧が低下したときは、エンジン始動のための電力を確保するため、12V 電源ソケットは自動的に作動を停止します。

センターコンソール後端の 12V 電源ソケット

▶ カバー ② を押して開きます。

▶ 12V 電源ソケットのカバー ① を開きます。

ラゲッジルーム右側の 12V 電源ソケット（ステーションワゴン）

▶ 12V 電源ソケットのカバー ① を開きます。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ 警告

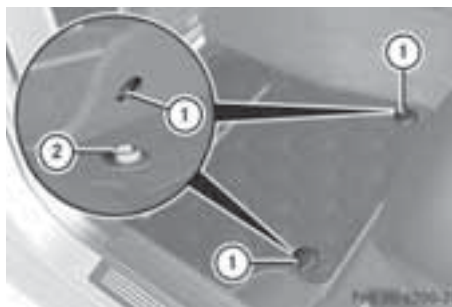
SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

フロアマット *

左ハンドル車

⚠ 警告

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- 運転席のフロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

運転席のフロアマットを取り付ける

▶ 運転席シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

運転席のフロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転

⚠ **警 告**

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも同様です。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 D3、D2、D1 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけに使用してください。
- できるだけ、走行モードを E モードまたは C モードにして走行してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

- E 63 AMG は、以下の注意事項を守ってください。

  ◇走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

  ※ 公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

  ◇エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、慣らし運転を行なってください。

ⓘ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ⓘ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

リアディファレンシャルロック装備車（E 63 AMG パフォーマンスパッケージ）

リアディファレンシャルロック装備車には、セルフロッキング式のディファレンシャルがリアアクスルに装備されています。

リアアクスルのディファレンシャルを保護するために、リアアクスルのディファレンシャルオイルは、新車時から約 3,000km 走行後を目安に、以降は約 50,000km または 3 年ごとに交換してください。

これにより、より長い期間リアアクスルのディファレンシャルを正常な状態に保つことができます。オイル交換についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ 警 告

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警 告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 警 告

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

⚠ 警 告

ディーゼルエンジン車にガソリンを燃料として使用したり、軽油に混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでも燃料系部品やエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

セダン
① 燃料給油フラップ
② ホルダー
③ タイヤ空気圧ラベル
④ 使用燃料表示

燃料給油フラップは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。メーターパネル内に、給油口の位置を示す ⛽▸ が表示されています。

給油口を開いて給油する

▶ エンジンを停止します。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

燃料給油フラップ ① が少し開きます。

▶ 燃料給油フラップ ① を開きます。

▶ キャップを反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 外したキャップを燃料給油フラップ ① の裏側にあるホルダー ② に置きます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

! 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

給油口を閉じる

▶ キャップを燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

! ディーゼルエンジン車は、燃料切れによりエンジンが停止した場合は、給油後に燃料ポンプのエア抜きを行なってください（▷336 ページ）。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- ガソリンエンジン車の燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- ガソリンエンジン車の燃料として軽油を使用しないでください。また、絶対にディーゼルエンジン車の燃料としてガソリンを使用しないでください。

  また、無鉛プレミアムガソリンと軽油を混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでも燃料系部品やエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- ガソリンエンジン車に誤って軽油を給油してしまった場合やディーゼルエンジン車に誤ってガソリンを給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。誤った燃料が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合は、燃料タンクや燃料装置から燃料を完全に抜き取る必要があるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- ディーゼルエンジン車の燃料については（▷334 ページ）をご覧ください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ③ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷353 ページ）をご覧ください。

ℹ 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。施錠後に燃料給油フラップを閉じようとしても、ロックピンにより、燃料給油フラップが閉じなくなります。

ℹ リモコン操作やキーレスゴー操作 * で燃料給油フラップが解錠されないときは、手動で解錠できます（▷414 ページ）。

ディーゼルエンジン車の燃料について

⚠ **警 告**

ディーゼルエンジン車に自動車用軽油以外の燃料を使用したり、自動車用軽油以外の燃料を自動車用軽油に混ぜて使用すると、エンジンや排気系部品、燃料系部品の腐食・損傷による火災が発生するおそれがあります。

自動車用軽油以外の燃料の使用または承認されていない添加剤の使用により発生した故障については、保証の適用外になります。

ディーゼルエンジン搭載車は、ガソリンエンジン搭載車とは取扱方法が異なります。

以下の注意を守ってください。

使用する燃料

自動車用の軽油を使用する

ディーゼルエンジン車の燃料には、日本の JIS 規格に適合した、自動車用の軽油を使用してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 以下のような自動車用軽油以外の燃料を使用したり、自動車用軽油以外の燃料を自動車用軽油に混ぜて使用しないでください。

- 船外機用軽油
- 暖房用軽油
- バイオディーゼル軽油
- 植物油
- ガソリン
- 灯油 / 白灯油

エンジンの性能が発揮されず、エンジンを損傷するおそれがあります。

また、エンジンや排気系部品、燃料系部品を腐食・損傷させたり、摩耗度合いが高まるおそれがあります。

! 低温時用の流動性向上剤以外の添加剤は使用しないでください。

寒冷地での給油について

自動車用軽油は、外気温度が低くなると流動性が低下する性質があります。寒冷地で車を使用するときは以下の点に注意してください。

- 寒冷地で給油するときは、流動性向上剤を多く配合した寒冷地用軽油であることを確認してください。
- 寒冷地用軽油は、外気温度に合わせて、下記の等級の軽油を使用してください。

外気温度	使用燃料
-5℃以下	3 号軽油
-12℃以下	特 3 号軽油

i 寒冷地用軽油を「3 号軽油」という呼称で呼ぶことがあります。それに対して、流動性向上剤の配合率が低い軽油を「2 号軽油」と呼ぶことがあります。

- 寒冷地で長時間駐車するときは、あらかじめ寒冷地用軽油を給油してください。
- 寒冷地用軽油を給油するときは、燃料タンク容量の 3 分の 2 以上の容量を給油してください。

  燃料タンク容量については（▷453 ページ）をご覧ください。

燃料と燃料タンク

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
車から燃料が漏れている。	⚠ 火災や爆発のおそれがあります 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにイグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。	ディーゼルエンジンの燃料供給システムに空気が入っているため、エア抜きをする必要がある。 ▶ 燃料を少なくとも 5 ℓ 以上給油してください。 ▶ イグニッション位置を **2** にして約 10 秒間待ちます。 ▶ エンジンがスムーズに作動するようになるまで、最大約 10 秒間エンジンの始動操作を行ないます。 または ▶ エンジンスイッチに差し込んだキーを **3** の位置までまわして手を放し、タッチスタート機能（▷153 ページ）によりエンジンの始動操作を行ないます。 エンジンが始動しないとき： ▶ 再度イグニッション位置を **2** にして約 10 秒間待ちます。 ▶ エンジンがスムーズに作動するようになるまで、再度最大約 10 秒間エンジンの始動操作を行ないます。 または ▶ タッチスタート機能により、エンジンの始動操作を行ないます。 始動操作を 3 回行なってもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーを使用して、セダンはトランクを開いてください。ステーションワゴンは運転席ドアを開いて、車内からテールゲートを開いてください（▷413 ページ）。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷414 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンルーム

ボンネット

 警 告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。

警 告

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

警 告

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

警 告

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

警 告

エンジンスイッチからキーを抜いているときやイグニッション位置が **0** のときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

アクティブボンネット *

歩行者への衝突などの際、ボンネットの後端が上方に動き、相手への衝撃を緩和する機能です。

詳しくは（▷415 ページ）をご覧ください。

警 告

車両が受ける衝撃の大きさや角度など衝突時の状況によっては、ボンネットの後端が上方に動かず、相手への衝撃を緩和できないことがあります。

ボンネットを開く

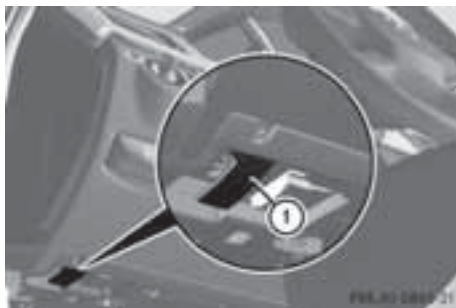
警 告

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまでキーレスゴースイッチ * を押し、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください（▷140 ページ）。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

左ハンドル車

▶ エンジンスイッチからキーを抜くかイグニッション位置が **0** になっていて、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認します（▷140 ページ）。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

ℹ ワイパーが作動しているときにボンネットのロックを解除すると、ワイパーの作動が停止します。

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ ② を矢印の方向に上げながらボンネットを開きます。
約 40cm までボンネットを上げると、ボンネットはガスダンパーにより自動的に上がり、開いたままになります。

ボンネットを閉じる

⚠ **警 告**

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットやエンジンルーム内の機器類などを損傷するおそれがあります。

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm 〜 30cm の位置から手で押し下げて閉じます。

▶ ボンネットが確実に閉じていることを確認します。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

ラジエター（ディーゼルエンジン車）

ℹ ラジエター部分を覆わないでください。保温用マットや虫除け用ノーズカバーなどを使用しないでください。車両の診断システムが正しい値を表示できなくなります。これらの値のいくつかは法的に必要で、正しく表示されなければなりません。

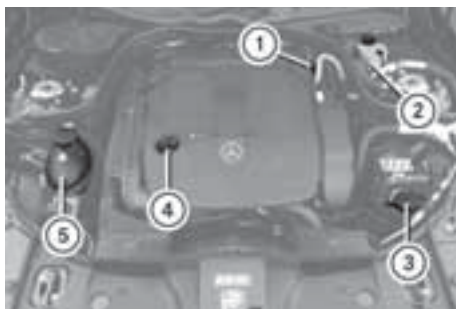
エンジンルーム

⚠ 警告

- イグニッションシステムおよびバイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

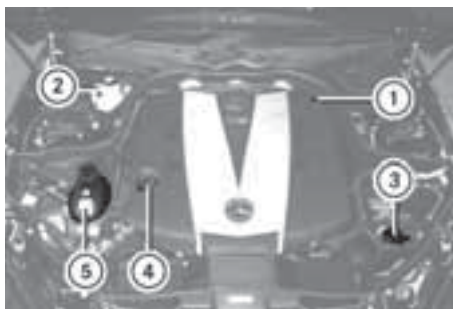
E 250

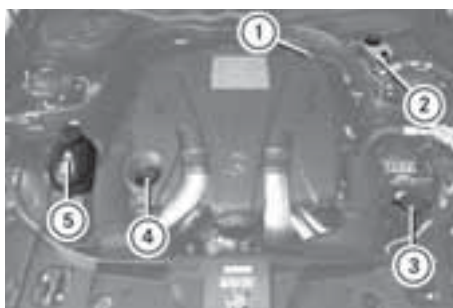
①	エンジンオイルレベルゲージ
②	ブレーキ液リザーブタンク
③	ウォッシャー液リザーブタンク
④	エンジンオイルフィラーキャップ
⑤	冷却水リザーブタンク

E 300 / E 300 4MATIC / E 350

左ハンドル車

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	ブレーキ液リザーブタンク
③	ウォッシャー液リザーブタンク
④	エンジンオイルフィラーキャップ
⑤	冷却水リザーブタンク

※ 右ハンドル車の ② は左右対称の位置にあります。

E 350 BlueTEC

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	ブレーキ液リザーブタンク
③	ウォッシャー液リザーブタンク
④	エンジンオイルフィラーキャップ
⑤	冷却水リザーブタンク

E 550

左ハンドル車

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	ブレーキ液リザーブタンク
③	ウォッシャー液リザーブタンク
④	エンジンオイルフィラーキャップ
⑤	冷却水リザーブタンク

※ 右ハンドル車の ② は左右対称の位置にあります。

E 63 AMG

左ハンドル車

①	エンジンオイルレベルゲージ
②	ブレーキ液リザーブタンク
③	ウォッシャー液リザーブタンク
④	エンジンオイルフィラーキャップ
⑤	冷却水リザーブタンク

※ 右ハンドル車の ② は左右対称の位置にあります。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

環 境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

エンジンオイル量に関する注意

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイル量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分間経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

ⓘ 車種や仕様により、エンジンオイルレベルゲージの形状が異なります。

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限 ② と下限 ③ の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルレベルゲージを元の位置に差し込みます。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷394 ページ）をご覧ください。

ⓘ エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間はエンジンにより、約 1.5 ～ 2 リットルです。

エンジンオイルを補給する

⚠ **警 告**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

環 境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

! 必ず車両の点検整備用として承認されたエンジンオイルとオイルフィルターだけを使用してください。

以下の原因により、エンジンや排気システムを損傷するおそれがあります。

- 車両の点検整備用として承認されていないエンジンオイルとオイルフィルターを使用すること
- 指定の交換時期を過ぎてからエンジンオイルとオイルフィルターを交換すること
- エンジンオイルに添加剤を入れること

! エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときは、エンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

エンジンオイルフィラーキャップの例

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの下限かそれ以下のときは、エンジンオイルを約 0.5 ～ 1 リットル補給します。安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして取り付けます。

エンジンオイルフィラーキャップが確実に取り付けられていることを確認します。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検します。

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ **警 告**

冷却システムには圧力がかかっています。水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ **警 告**

不凍液をエンジンルームにこぼさないでください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の量を点検する

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水の量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが十分に冷えているときにのみ行なってください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計で冷却水の温度が冷えていることを確認します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク ② 内のバー ③ の上面に達していれば適量です。

冷却水が温かいときは、液面がマーカー ③ より約 1.5cm 上にあれば適量です。

▶ 必要であれば、冷却水を補給します。

▶ キャップ ① を合わせ、いっぱいまで時計回りにまわします。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます（▷456 ページ）。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷393 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ 警 告

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警 告

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください。

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷345 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ 警 告

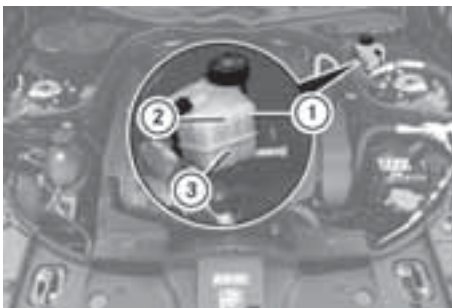
マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷389 ページ）、ブレーキ警告灯（▷361 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

> ⚠ **警 告**
>
> 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

> ⚠ **警 告**
>
> ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷389 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

左ハンドル車

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンク ① のレベルインジケーター上限（MAX）② と下限（MIN）③ の間にあれば正常です。

※ 右ハンドル車のブレーキ液リザーブタンク①は、エンジンルームに向かって左側にあります。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、ブレーキ液が走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ 警 告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

- ▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。
- ▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ ① を開きます。
- ▶ ウォッシャー液を補給します。
- ▶ キャップ ① を取り付けます。

ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは共用です。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷402 ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

安全に関する注意

⚠ 警告

純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着したり、タイヤやホイールを正しく装着しないと、車両の安全性を損なうおそれがあります。

⚠ 警告

パンクしたタイヤにより、車両の走行、ステアリング、制動特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

ランフラットタイヤ装備車以外のタイヤの場合：

- パンクしたタイヤでは走行しないでください。
- ただちに応急用スペアタイヤに交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ランフラットタイヤ装備車の場合：

- ランフラットタイヤに関する記載事項や知識などに注意してください。

ブレーキシステムやホイールを改造しないでください。また、スペーサーやダストシールドを使用しないでください。保証の適用外になります。

走行時の注意

- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石や障害物に接触しないようにしてください。

  縁石などを乗り越える必要があるときは、走行速度を落とし、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤの点検

⚠ 警告

損傷しているタイヤは空気圧低下の原因になります。その結果、車のコントロールを失うことがあります。事故の危険性があります。損傷の兆候がないかタイヤを定期的に点検し、損傷しているタイヤはただちに交換してください。

タイヤを点検する

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

- タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを左側または右側にいっぱいまで切った状態で、タイヤの内側も点検してください。
- ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
- 応急用スペアタイヤも含め、タイヤの空気圧は定期的に点検してください。
- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤトレッド

⚠ 警告

以下の点に注意してください。

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が現われたら、すみやかにに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを片方向に向けて、タイヤの内側も点検してください。

タイヤの選択、装着と交換

- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。
- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、車両操縦性やロードノイズ、燃料消費などに悪影響をおよぼすおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールと車体などが接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。
- 大口径のホイールを装着したときは、路面状況が悪いときに乗り心地が悪くなることがあります。また、障害物を乗り越えたときの快適性も低下し、ホイールやタイヤを損傷する危険性も高まります。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 前後同サイズのタイヤ / ホイールが指定されている車種は、2 本だけ新品のタイヤを装着するときは、前輪に装着してください。

MoExtended（ランフラットタイヤ）*

ランフラットタイヤ装備車は、1 本または複数のタイヤの空気が抜けた状態でも、走行を続けることができます。

ランフラットタイヤには、Daimler AG の純正品および承認されているホイールを装着してください。また、ランフラットタイヤの使用は、タイヤ空気圧警告システム（▷355 ページ）が正常に作動していることが条件になります。

ℹ ランフラットタイヤ装備車は、応急用スペアタイヤおよびタイヤフィットは装備されていません。

ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットをお買い求めになることをお勧めします。

ℹ タイヤフィットについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP® などの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

⚠ **警 告**

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。十分なグリップを発揮できず、雪道や凍結路の走行に適さなくなります。これにより、車両のコントロールを失い、事故の原因になります。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

i ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警 告**

ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、タイヤのサイズと種類が異なるため、事故を起こすおそれがあります。

以下の事項を守ってください。

- 状況に合わせて慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤはウィンタータイヤとはサイズが異なるため、短時間のみ使用してください。
- ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- 車種や仕様により、標準タイヤ、ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは(▷460 ～ 462 ページ)をご覧ください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーンは、4MATIC 車であっても必ず後輪に装着してください。前輪に装着すると、ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。
- スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。
- 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。
- AIR マティックサスペンション装備車にスノーチェーンを装着したときは、車高を上げて走行してください(▷234 ページ)。

ℹ スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ℹ スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています(▷332 ページ)。

装着されているタイヤのサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「kPa (100kPa=1bar)」と「psi」で示しています。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤサイズの代わりに、"**16“**" や "**R16**" などのホイール外径で表示されていることもあります。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

ホイール外径①はタイヤのサイドウォールのタイヤサイズ表示に記載されています。

環 境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

⚠ 警 告

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠ 警 告

市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。それらを装着すると、バルブが常に開いた状態になるため、空気圧低下の原因になります。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。直射日光を浴びていない場所で約 3 時間駐車したままのとき、または 1.6km 以上走行していないときは、タイヤは冷えています。周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 10kPa（0.1bar / 1.5psi）変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

また、16 インチおよび 17 インチタイヤ装備車は、タイヤ空気圧ラベルに記載された "up to 210km/h" の空気圧から以下の数値を引いた空気圧に調整することにより、乗り心地を高めることができます。

セダン：-30kPa（-4psi）

ステーションワゴン:-20kPa（-3psi）

上記の空気圧に調整しても安全性を損なうことはありませんが、燃料消費は若干増加します。

ℹ 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

ℹ 応急用スペアタイヤ * の空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム *

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速しているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 重い荷物を積載しているとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ **警 告**

空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。

タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。

⚠ **警 告**

突然の空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷353 ページ）を参照して、すべてのタイヤが適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤが適正な空気圧に調整されていないときは、正常に作動しません。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから " メンテナンス " を選択します。

▶ [▼] を押して、" タイヤ空気圧 " を選択します。

▶ [OK] を押します。

" タイヤ空気圧 警告システム オン " と表示されます。

ℹ イグニッション位置が **2** 以外のときは、" タイヤ空気圧 警告システム イグニッションオンで 作動できます " と表示されます。

▶ [OK] を押します。

" タイヤ空気圧 正常ですか？ キャンセル はい " と表示されます。

▶ [▼] を押して " はい " を選択し、[OK] を押します。

" タイヤ空気圧 警告システム 再始動しました " と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

再起動を中断する

▶ ステアリングの [⮌] スイッチを押します。

または

▶ " タイヤ空気圧 正常ですか？ キャンセル はい " と表示されているときに、" キャンセル " を選択して、[OK] を押します。

タイヤローテーション

⚠ 警告

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。

ホイールボルトの締め付けトルクは13kg-m（130Nm）です。タイヤローテーションを行なったあとは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤを入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤを入れ替えたあとにタイヤ空気圧を調整してください。タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

応急用スペアタイヤは、どちらの回転方法でも装着できます。

応急用スペアタイヤを使用するときは、速度制限および使用期限に従ってください。

タイヤの保管

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃

⚠ 警 告

高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時の注意

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

燃料（ディーゼルエンジン車）

冬季には、燃料の凍結を防止するとともに、ディーゼルエンジンの性能を十分に発揮させるため、寒冷地用の軽油を使用してください。

詳しくは（▷334 ページ）をご覧ください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランク、テールゲートの凍結

ドアやトランクまたはテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクまたはテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクまたはテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウ、スライディンググルーフ * などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

> ⚠ **警 告**
>
> マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行時の注意

エンジン

⚠ **警 告**

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ **警 告**

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

下り坂を走行するとき

長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを効かせてください。

エンジンブレーキを併用することにより、ブレーキシステムへの負荷が減り、ブレーキの過熱を防ぐことができます。また、ブレーキの摩耗を防ぐことができます。

より強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルを踏み続けるのではなく、繰り返し踏んでください。

ⓘ クルーズコントロール * や可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

ブレーキシステムに強い負荷がかかったとき

⚠ **警 告**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

ブレーキに大きな負担がかかったときは、すぐに停車するのではなく、しばらく走行を続けてください。ブレーキシステムに風を当てることにより、より早く冷却することができます。

ブレーキを効かせずに長時間走行しているときなどは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

路面が濡れているとき

⚠ **警 告**

滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

濡れた路面を走行しているときや洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

ブレーキパッドについて

⚠ 警告

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

AMG 強化ブレーキシステム * および AMG カーボンセラミックブレーキ * の注意事項

AMG 強化ブレーキシステムおよび AMG カーボンセラミックブレーキは、高い負荷に耐えられるように設計されています。

走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、ブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いが高くなります。

! ブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

赤色のブレーキ警告灯は、パーキングブレーキを効かせているときはエンジン始動後も点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷389 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤのグリップについて

⚠ **警 告**

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

濡れた路面での走行

ハイドロプレーニング現象

一定以上の深さがある水たまりを走行するときは、以下の状態でも、ハイドロプレーニング現象が発生するおそれがあります。

- 走行速度を落としている
- タイヤトレッドの溝の深さが十分にある

できるだけ水たまりや轍を避け、ブレーキを効かせるときは注意してください。

道路が冠水しているときや車が水没したとき

やむを得ず冠水した道路を走行するときは、以下の点に注意してください。

- 許容されている最大水深は約 25cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。

! 前方を走行している車両や、すれ違う車両からも波が発生します。これにより、最大水深を超えることがあります。

! 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

! 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードを E モードに切り替えてください（▷169 ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- クルーズコントロールは使用しないでください。

- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ 警 告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドライトを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いため、歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。

- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドライトやリアフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドライトを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するため、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはリアフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーターが表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーターが自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーターを消したいときは、ステアリングスイッチの [↰] または [OK] を押します。

ℹ メンテナンスインジケーターが表示される時期は一定ではなく、車種や仕様、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

ℹ 新車時の走行距離が 30km を超えてから、メンテナンスインジケーターの点灯時期が適切であることをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で必ず確認してください。

手動表示

メンテナンスインジケーターは、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの [◀] または [▶] を押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから " メンテナンス " を選択します。

▶ [▼] を押して、" メンテナンス " を選択します。

▶ [OK] を押します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように表示されます。

点検整備実施前の表示例

" 次のメンテナンス A（または B） あと XX km です "

" 次のメンテナンス A（または B） あと XX 日です "

点検整備実施時期になったときの表示例

" メンテナンス A（または B） 期限が切れます "

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" メンテナンス A（または B）期限超過しました – XX km です "

" メンテナンス A（または B）期限超過しました – XX 日です "

i " メンテナンス A" または " メンテナンス B"、およびそれらに続く文字や数字は、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備または総合的な点検整備のどちらに該当するかを示すものです。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

i ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のように対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

i バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、車種により走行距離では 10,000km または 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

AdBlue® サービスインジケーター

ℹ E 350 BlueTEC に対応した項目です。

BlueTEC 排気ガス処理装置を正常に機能させるためには、除去剤（AdBlue®）とともに作動させることが必要になります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場では、AdBlue® をメーカー指定点検整備の一部として補充します。通常の使用状況では、いっぱいに補充した AdBlue® は、メッセージが表示されない限り次のメーカー指定点検整備の実施時期までは補充する必要はありません。

車両の使用状況や使用場所によっては、AdBlue® の消費量が増え、次のメーカー指定点検整備の実施時期が早まることがあります。

AdBlue® の補充は、以下のメッセージにより知ることができます。

" 工場で AdBlue を 補充してください 取扱説明書を参照 "

"...km 以内に 工場で AdBlue を 補充してください "

ℹ AdBlue® は、2 年毎に全交換する必要があります。詳しくは、整備手帳をご覧になるか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! AdBlue® タンクへの補充は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ行なってください。車両を損傷したり、汚損するおそれがあります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場以外での補充により発生した損傷については、保証の適用外になります。

BlueTEC 排気ガス処理装置や AdBlue® について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

AdBlue® の容量については（▷455 ページ）をご覧ください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

警 告

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

! 車の手入れをするときは、以下のものを使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、かたい布など
- 研磨剤を含むクリーナー
- 有機溶剤
- 有機溶剤を含むクリーナー

また、強くこすったり、スクレーパーなどのかたい物が塗装面や保護フィルムなどに触れないようにしてください。塗装面や保護フィルムなどを損傷したり、こすり傷が付くおそれがあります。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるため、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

外装

自動洗車機の使用

⚠ **警 告**

自動洗車機で洗車したあとは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキディスクやブレーキパッドが乾くまでは、十分注意して走行してください。

⚠ **警 告**

ホールド機能またはディストロニック・プラス * が作動しているときは車両にブレーキが効いています。自動洗車機で洗車するときは、ホールド機能とディストロニック・プラス * を解除してください。

! 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。車内に水が浸入するおそれがあります。

車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。

! 以下の点に注意してください

- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- ドアウインドウやリアサイドウインドウ、パノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。
- 余熱ヒーター / ベンチレーション * を停止してください（▷283 ページ）。
- ワイパーを停止してください（▷140 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。

自動洗車機で洗車した後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。フロントウインドウに残った残留物による汚れを防ぎ、ワイパーノイズを低減させます。

手洗いによる洗車

- 熱湯を使用しないでください。また、直射日光が当たっているときは洗車をしないでください。
- 柔らかいスポンジで洗車してください。
- 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を使用してください。
- ボディ全体に低圧で水をかけます。
- 外気取り入れ口付近には直接水をかけないでください。
- 十分な量の水を使用して、スポンジで洗い流します。
- きれいな水で洗い流し、セーム皮などで水滴を拭き取ります。
- 塗装面に洗浄液がある状態で乾かないでください。

冬季に車両を使用したときは、すみやかに凍結防止剤を丁寧に取り除いてください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ 警 告

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズル間には、常に最低でも 30cm の間隔を確保してください。

高圧式スプレーガンのノズルは円を描くように動かしてください。

高圧式スプレーガンのノズルを直接、以下の物に向けないでください。

- タイヤ
- ドアのすき間やヒンジ部分など
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール部
- トリム部品
- 吸気口

シール部や電気装備や塗装面が損傷することにより、車内への水の浸入や故障につながります。

! 燃料給油口が開いているときは、高圧式スプレーガンを向けないでください。シール部や構成部品を損傷するおそれがあります。

ホイールの清掃

! ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキ構成部品を損傷するおそれがあります。

! ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

塗装面の清掃

不適切な手入れによる傷や腐食、損傷は完全に修復することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

▶ 不純物は、強くこすることなく、ただちに取り除いてください。

▶ 虫の死がいはインセクトリムーバーで取り除き、周囲をよく洗い流してください。

▶ 鳥のふんは水で落とし、周囲をよく洗い流してください。

▶ 油脂類、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、ベンジンまたはライター用オイルを染み込ませた布で軽くふいてください。

▶ タールはタールリムーバーで取り除いてください。

▶ ワックスはシリコンリムーバーで取り除いてください。

! 塗装面に以下のものを貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネットなど

塗装面を損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

! 塗装面を磨かないでください。

! 以下のことは塗装面に光沢を持たせたり、マット塗装の質感を損なわせるおそれがあります。

- 不適切な素材で力強くこすること
- 頻繁に洗車を行なうこと
- 直射日光下で洗車を行なうこと

! 塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

i 洗車は、柔らかいスポンジとカーシャンプー、十分な水で、手洗いで行なうことをおすすめします。

ウインドウの清掃

⚠ **警告**

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし、腐食の原因になります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ **警告**

ワイパーブレードを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の清掃

ヘッドライトを含むライト類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドライトウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

センサーの清掃

センサー ① を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! センサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! センサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

セダン

▶ きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。
- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

⚠ 警 告

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ ディスプレイの手入れを行なう前に、必ず COMAND システムをオフにして、ディスプレイの表面が熱くなっていないことを確認してください。

▶ 市販の不織布とディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイの表面を拭き取ります。

▶ 乾いた不織布でディスプレイを拭きます。

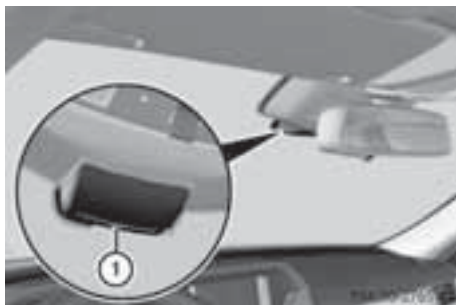
! ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

ナイトビューアシストプラスカメラ * の清掃

! カメラのレンズを拭かないでください。レンズが汚れたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

▶ カバーの凹部 ① に指を入れて下に開きます。

▶ やわらかい布で、カメラ ② 前方のフロントウインドウを清掃します。

! スプレー式のウインドウクリーナーを使用するときは、カメラのレンズにクリーナーが付着しないように注意してください。

プラスチックトリムの清掃

⚠ 警 告

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ステアリングおよびセレクターレバーの清掃

▶ 水で湿らせた布で全体を拭くか、指定のレザーケア用品を使用してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シート表皮の清掃

! 天然皮革や人工皮革、アルカンタラ®を使用した部分には、不織布を使用しないでください。頻繁に使用すると、これらの部分を損傷するおそれがあります。

! レザーは、軽く湿らせた布で表面を拭き、次に乾いた布で拭き取ります。革が湿気を帯びないように注意してください。

i シート表皮を定期的に手入れすることにより、見栄えや快適性を維持することができます。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

ルーフライニングおよびカーペットの清掃

▶ ルーフライニングは、柔らかいブラシを使用して清掃します。ひどい汚れには、指定のクリーナーを使用します。

▶ カーペットは、指定のクリーナーを使用して清掃します。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **警 告**

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

シフトポジションを N にして、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションを N にできないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

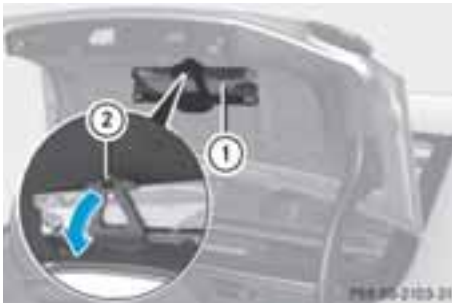
非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに装備しています。

i 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

セダン

停止表示板はトランクリッドの裏側に収納されています。

停止表示板を取り外す

▶ トランクを開きます。

▶ ノブ ② を下方に押しながら、矢印の方向にカバーを開きます。

▶ 停止表示板 ① を取り外します。

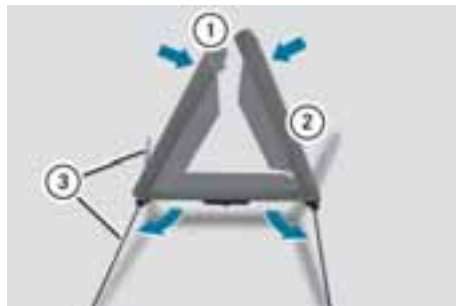
ステーションワゴン

停止表示板はラゲッジルーム右側のカバー内に収納されています。

停止表示板を取り外す

▶ ラゲッジルーム内右側のカバーを開きます（▷446 ページ）。

▶ 停止表示板ケース ① を取り出します。

停止表示板の組み立て

▶ スタンド ③ を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板 ② を開いて、先端のフック ① をかみ合わせます。

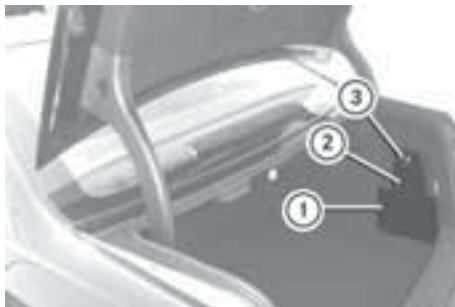
※ 車種や仕様により、停止表示板の形状や収納の方法が異なる場合があります。

救急セット

ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用期限が過ぎていないことを確認してください。

セダン

救急セットはトランク内右側に収納されています。

救急セットを取り出す

▶ ラゲッジネット ① を下げます。

▶ カバー ② のクリップ ③ を時計回りに約 90 度まわして、カバーを開きます。

▶ ベルクロテープ ④ を外し、救急セット ⑤ を取り出します。

ステーションワゴン

救急セットはラゲッジルーム内右側のカバー内に収納されています。

救急セットを取り出す

▶ ラゲッジルーム内右側のカバーを開きます（▷446 ページ）。

▶ 救急セット ① を取り出します。

車載工具 / 応急用スペアタイヤ *

車載工具はトランクフロアボード（セダン）またはラゲッジフロアボード（ステーションワゴン）の下に収納されています。

⚠ **警 告**

車が車載のジャッキ * だけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキ * は、タイヤを交換するために車を一時的に持ち上げる目的のみに設計されています。

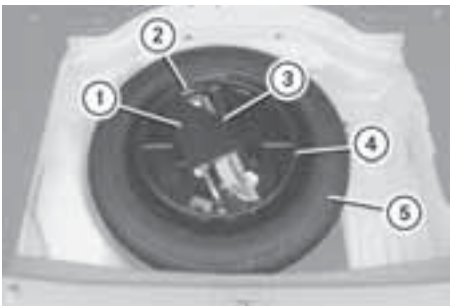
* オプションや仕様により、異なる装備です。

> ⚠ 警告
> ジャッキはかたくてすべりにくい、水平な場所でのみ使用してください。パーキングブレーキを確実に効かせ、さらに輪止めを使用して、車が動き出してジャッキから外れることを防いでください。

! トランクフロアボードやラゲッジフロアボードの下には金属が露出している部分や鋭利な部分があります。車載工具や応急用スペアタイヤ * を取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用し、けがをしないように注意してください。

! トレイや応急用スペアタイヤ * を取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

ℹ ジャッキを使用するときは、「パンクしたとき」(▷421 ページ)に記載されている安全に関する内容も必ずご覧ください。

E 63 AMG を除く車種

① カバー
② ノブ(車載工具収納ケースを取り外す)
③ ノブ(カバーを開く)
④ トレイ
⑤ 応急用スペアタイヤ

車載工具を取り出す

- ▶ トランクフロアボード(セダン)または EASY-PACK フロアボード(ステーションワゴン)を開きます(▷315、316 ページ)。
- ▶ ラゲッジトレイ *(▷316 ページ)を取り外す(セダン)か、EASY-PACK アンダーラゲッジルームトレー * 裏面のフックをテールゲート開口部の上端にかけます(ステーションワゴン)。
- ▶ ノブ ③ を押しながらカバー ① を開きます。

ℹ ノブ ② を押して、車載工具収納ケースをトレイ ④ から取り外すことができます。

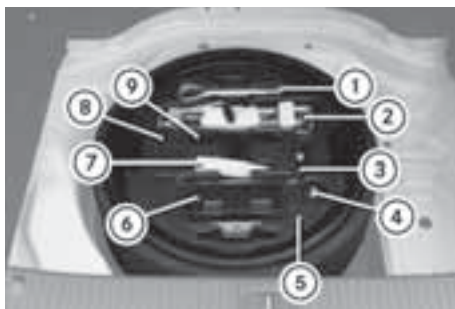
車載工具には以下のものが収納されています。

- ホイールレンチ
- ジャッキ
- けん引フック
- 輪止め
- ヒューズ配置表(英文)
- 手袋
- ガイドボルト

応急用スペアタイヤを取り出す

- ▶ トレイ ④ を、反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤ ⑤ を取り出します。

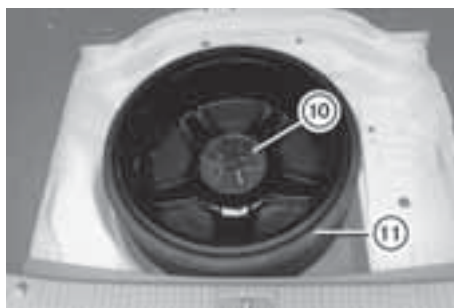
* オプションや仕様により、異なる装備です。

E 63 AMG

① けん引フック
② ジャッキ、手袋
③ ホイールレンチ
④ ガイドボルト
⑤ トレイ
⑥ 電動エアポンプ
⑦ ヒューズ配置表（英文）
⑧ トレイの収納方向を示す矢印
⑨ 輪止め

車載工具を取り出す

▶ トランクフロアボード（セダン）または EASY-PACK フロアボード（ステーションワゴン）を開きます（▷315、316 ページ）。

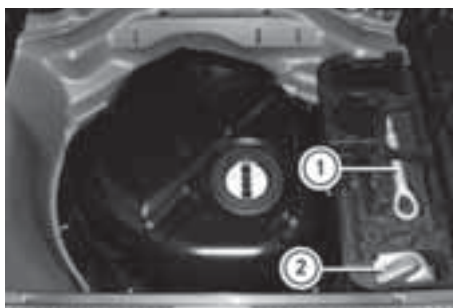
応急用スペアタイヤを取り出す

▶ 車載工具などが収納されているトレイ ⑤ を持ち上げて取り出します。

⑩ スクリュー
⑪ 応急用スペアタイヤ

▶ スクリュー ⑩ をまわして外します。

▶ 応急用スペアタイヤ ⑪ を取り出します。

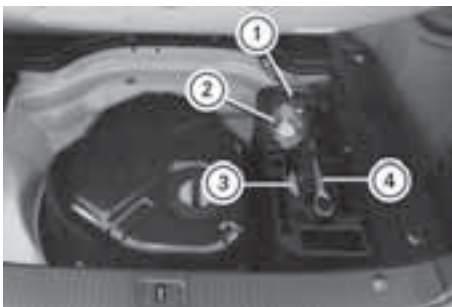
ℹ トレイ ⑤ を収納するときは、収納方向を示す矢印 ⑧ が前方を向くようにしてください。

ランフラットタイヤ装備車

① けん引フック
② ヒューズ配置表（英文）

車載工具は、トランクフロアボード（セダン）またはラゲッジフロアボード（ステーションワゴン）の下に収納されています。

車載工具を取り出す

▶ トランクフロアボード（セダン）または EASY-PACK フロアボード（ステーションワゴン）を開きます（▷315、316 ページ）。

タイヤフィットが車載されている車種

① 電動エアポンプ
② タイヤフィット
③ ヒューズ配置表（英文）
④ けん引フック

車載工具は、トランクフロアボード（セダン）またはラゲッジフロアボード（ステーションワゴン）の下に収納されています。

車載工具を取り出す

▶ トランクフロアボード（セダン）または EASY-PACK フロアボード（ステーションワゴン）を開きます（▷315、316 ページ）。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

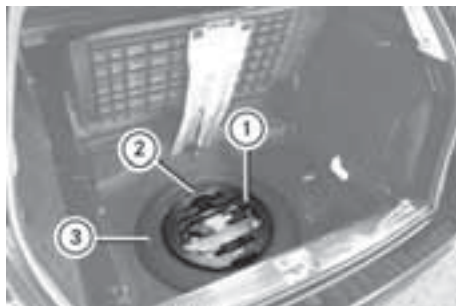
フロア格納式サードシート装備車（ステーションワゴン）

車載工具を取り出す

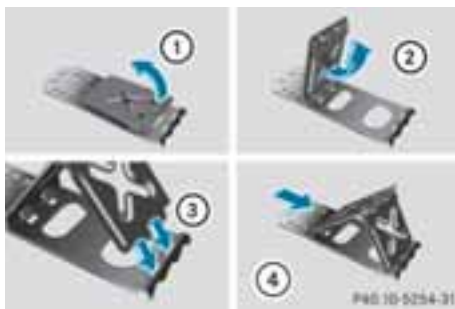
▶ サードシートのシートクッションを取り外します（▷109 ページ）。

▶ サードシートのバックレストを前方に起こします（▷109 ページ）。

▶ ハンドル ① を引き、トレイ ② を前方に引き上げます。

応急用スペアタイヤを取り出す

▶ 凹部 ② に手をかけ、車載工具などが収納されているトレイ ① を持ち上げて取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤ ③ を取り出します。

輪止め *

ジャッキを使用するときなどには、輪止めを使用し、車が動き出さないようにしてください。

輪止めを組み立てる

▶ プレートを引き起こします ①。

▶ 裏面のプレートを引き出します ②。

▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます ③。

❗ 輪止めを使用するときは、図 ④ の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ **警 告**

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障 / 警告メッセージの表示機能は運転者を支援するシステムです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから "メンテナンス" を選択します。

故障や異常がある場合は、ディスプレイに "2 メッセージ" のように故障や異常の件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、"0 メッセージ" と表示されます。

▶ ▼ または ▲ を押して、" メッセージ" を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、故障 / 警告メッセージを表示します。

故障や異常がない場合は、" 故障はありません" と表示されます。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの OK または ↩ スイッチを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

安全装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプ、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 メーターパネルの [ESP] と [ESP OFF]、[ABS] も点灯している。 電圧が低下している可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 作動できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプ、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 メーターパネルの [(!)] と [ESP]、[ESP OFF] および [ABS] も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 作動できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプ、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 メーターパネルの [ESP] と [ESP OFF] も点灯している。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
  作動できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプ、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 アテンションアシストの機能は解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 パーキングブレーキ 解除してください	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 警告音も鳴った。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
 すぐにブレーキを 踏んでください	ホールド機能またはディストロニック・プラスの作動中に故障が発生した。 ホーンが断続的に鳴る。このときにリモコン操作で施錠操作を行なうと、ホーンの音量が上がる。イグニッション位置を **0** か **1** にしたときは、エンジンを始動することができない。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、ただちにブレーキペダルをいっぱいまで踏み、メッセージが消えるまで保持してください。 ▶ 車から離れるときは、パーキングブレーキを効かせて、車が動かないようにしてください。 エンジンが始動できるようになります。
 ブレーキ液レベル 点検して ください	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 メーターパネルの が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
 ブレーキパッド摩耗 点検して ください	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
プレセーフ 作動できません 取扱説明書を参照	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。 エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 以下により、PRE-SAFE® ブレーキが一時的に作動停止している。 • フロントグリルのディストロニック・プラスカバーが汚れている • 豪雨や雪のため機能に支障がある • バンパーのセンサーが汚れている • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している • AMG 車両：ESP® が解除されている • システムが作動温度外になっている • バッテリーの電圧が低くなっている メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ フロントグリルのディストロニック・プラスカバーを清掃してください（▷374 ページ）。 ▶ バンパーを清掃してください（▷374 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車両：ESP® を待機状態にしてください。 センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 PRE-SAFE® ブレーキは、再度作動可能になります。
プレセーフ 機能が制限 されています 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** PRE-SAFE® ブレーキが故障している。BAS プラスまたは車間距離警告も機能しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 SRS システム 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護補助装置が故障している。 メーターパネルの [SRS] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
チャイルドシート 位置が違います 取扱説明書を参照	⚠ **けがのおそれがあります** センサー付き純正チャイルドセーフティシートが不適切な位置に装着されている。 ▶ センサー付き純正チャイルドセーフティシートを適切な位置に装着してください。
	⚠ **けがのおそれがあります** チャイルドセーフティシート検知システムのセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 フロント左 SRS システム故障 工場で点検 または フロント右 SRS システム故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** フロント左側、またはフロント右側の乗員保護補助装置に異常がある。 メーターパネルの [icon] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 リア左 SRS システム故障 工場で点検 または リア右 SRS システム故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** リア左側、またはリア右側の乗員保護補助装置に異常がある。 メーターパネルの [icon] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ウインドウバッグ 故障 工場で点検 または 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 左側、または右側のウインドウバッグに異常がある。 メーターパネルの [icon] も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
左ロービーム 1)	左ヘッドライト（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
インテリジェントライト システム 作動できません	インテリジェントライトシステムが故障している。 インテリジェントライトシステムは作動しないが、ランプは通常通り点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
故障 取扱説明書を参照	車外ライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
オートライト 作動できません	ライトセンサーに異常がある。ヘッドランプが下向きで点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ライトを消してください	ライトスイッチが の位置にあり、イグニッション位置が 0 でエンジンスイッチにキーが差し込まれていないときに運転席ドアを開いた。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを AUTO の位置にしてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 作動できません	アダプティブハイビームアシストに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	以下のときは、アダプティブハイビームアシストが解除され、一時的に作動できない。 • フロントウインドウのカメラ付近が汚れている • 雨や雪、霧などのために、視界が低下している ▶ フロントウインドウを清掃してください。 以下のときは、マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示され、アダプティブハイビームアシストが再度作動できるようになります。 • 走行中にフロントウインドウの汚れが落ちたとき • カメラが再び完全に機能しているとシステムが判断したとき

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ℹ LED ライトについては、すべての LED が切れたときにメッセージが表示されます。

エンジン

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 冷却水を補充 してください 取扱説明書を参照	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 冷却水 停車して エンジンを停止	冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪や泥、または氷などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計（▷26 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートのおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計（▷26 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転することができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	以下の理由により、バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 • オルタネーターの故障 • V ベルトが切れている • 電気システムの故障 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 V ベルトが損傷していないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 給油の際 エンジンオイル量を 点検してください	エンジンオイル量が非常に不足している。 警告音も鳴った。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
 給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
 エアクリーナエレメントを 交換してください	ディーゼルエンジン車： エンジンエアフィルターの交換時期になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 フューエルフィルタを 清掃して下さい	ディーゼルエンジン車： 燃料フィルターに水が混入している。水を抜く必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
工場で AdBlue を 補充してください 取扱説明書を参照	AdBlue® の残量が、補充しなければならない量以下にまで減った。警告音も鳴っている。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で AdBlue® を補充してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
...km 以内に 工場で AdBlue を 補充してください	AdBlue® の残量が、表示された距離の分しか残っていない。警告音も鳴っている。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で AdBlue® を補充してください。
ｴﾝｼﾞﾝ始動不可 工場で AdBlue を 補充してください	AdBlue® のタンクが空になっている。警告音も鳴っている。エンジンを始動することができない。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
AdBlue を確認 取扱説明書を参照	AdBlue® システムが故障している。警告音も鳴っている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
AdBlue ...km 以内に ｴﾝｼﾞﾝ始動不可	AdBlue® システムが故障している。警告音も鳴っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
AdBlue ｴﾝｼﾞﾝ始動できません	AdBlue® システムが故障している。警告音も鳴っている。エンジンを始動することができない。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

走行装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
アテンションアシスト 休憩してください	アテンションアシストの基本機能として、システムが運転者の注意力に対する警告を促している。 警告音も鳴った。 ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。 長距離運転時には、定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。
アテンションアシスト 作動できません	アテンションアシストが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
車高が あがります	AIR マティックサスペンション装備車： システムが車高を調整している。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 車高が あがります お待ちください	AIR マティックサスペンション装備車： 停車時の車高が下がりすぎている。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意して、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってから、走行してください。
 停車してください 車高が低すぎます	車高が下がりすぎている状態で走行を開始した。しばらくすると、AIR マティックサスペンションが選択した高さに車高を調整する。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意して、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってから、走行してください。
	⚠ **事故のおそれがあります** AIR マティックサスペンションに異常がある。 警告音も鳴った。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、車高調整スイッチを押してください。故障内容によっては、これにより車高が上がることがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 故障	⚠ **事故のおそれがあります** AIR マティックサスペンションの機能が制限される。車両操縦性に影響する可能性がある。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
HOLD オフ	ホールド機能が解除されている。 車が横すべりしている。 警告音も鳴った。 ▶ 再度ホールド機能を作動させてください。
	ホールド機能の作動条件を満たしていないときにブレーキペダルを強く踏み込んだ。 警告音も鳴った。 ▶ ホールド機能の作動条件を確認してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
レーダーセンサー 自動的に 停止しました 取扱説明書を参照	電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーからの電波の発信が禁止されているため、レーダーセンサーシステムが自動的に停止する（▷466 ページ）。 ディストロニック・プラス（▷218 ページ）が作動していた場合、システムが自動的に解除され、警告音が鳴る。 アクティブブラインドスポットアシスト（▷262 ページ）が作動していた場合は、自動的に解除され、ドアミラーの黄色の表示灯 ▲ が点灯する。 BAS プラス（▷61 ページ）と PRE-SAFE® ブレーキ（▷69 ページ）の機能も停止する。 ▶ 走行を続けてください。 電波望遠鏡から十分離れた場所に移動すれば、上記の機能は再び作動させることができます。
レーダーセンサー 停止しました 取扱説明書を参照	レーダーセンサーシステムが解除されている。 ▶ レーダーセンサーシステムが作動していることを確認してください（▷204 ページ）。 ▶ レーダーセンサーシステムを作動させてください（▷203 ページ）。
レーンキープアシスト 現在使用不可 取扱説明書を参照 または アクティブ レーンキープアシスト 現在使用不可 取扱説明書参照	以下の理由により、レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストが一時的に停止している。 • カメラ部分のフロントウインドウが汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 車線ラインがない道路を長時間走行している • 車線ラインが汚れや雪などにより覆われている メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ フロントウインドウを清掃してください（▷373 ページ）。 カメラが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 アクティブレーンキーピングアシストは、再度作動可能になります。
レーンキープアシスト 故障 または アクティブ レーンキープアシスト 故障	レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
アクティブ ブラインドスポット 現在使用できません 取扱説明書参照	以下により、アクティブブラインドスポットアシストが一時的に停止している。 • センサーが汚れている • 豪雨や雪のため機能に支障がある • レーダーセンサーが作動温度外になっている • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 車線ラインがない道路を長時間走行している • 車線ラインが汚れや雪などにより覆われている • カメラ部分のフロントウインドウが汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 車線ラインがない道路を長時間走行している • 車線ラインが汚れや雪などにより覆われている ドアミラーの黄色の表示灯 ▲ も点灯している。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ センサーを清掃してください（▷374 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。 センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 アクティブブラインドスポットアシストは、再度作動可能になります。
アクティブ ブラインドスポット 故障	アクティブブラインドスポットアシストが故障している。 ドアミラーの黄色の表示灯 ▲ も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ディストロニックプラス オフ	ディストロニック・プラスが解除された（▷227 ページ）。自動的に解除されたときは、警告音も鳴る。
ディストロニックプラス 再び使用できます	ディストロニック・プラスが一時的に停止した状態から再び作動可能な状態になった。ディストロニック・プラスを再度作動できます（▷220 ページ）。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ディストロニックプラス 現在 使用できません 取扱説明書を参照	以下により、ディストロニック・プラスが解除され、一時的に作動停止している。 • フロントグリルのディストロニック・プラスカバーが汚れている • 豪雨や雪などのため機能に支障がある • バンパーのセンサーが汚れている • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している • システムが作動温度外になっている • バッテリーの電圧が低くなっている 警告音も鳴っている。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ フロントグリルのディストロニック・プラスカバーを清掃してください（▷374 ページ）。 ▶ バンパーを清掃してください（▷374 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。 センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 ディストロニック・プラスは、再度作動可能になります。
ディストロニックプラス 故障	ディストロニック・プラスが故障している。BAS プラスと PRE-SAFE® ブレーキも機能しない。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ディストロニックプラス 制御待機中	アクセルペダルを踏んだ。ディストロニック・プラスが車両の速度の制御しなくなった。 ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニックプラス - - - km/h	ディストロニック・プラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ディストロニック・プラスの作動条件を確認してください（▷220 ページ）。
ディストロニックプラス と可変スピードリミッター 故障	ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴っている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロールとスピードリミッター 故障	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
クルーズコントロール －－－km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▷213 ページ）。

タイヤ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。警告音も鳴った。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、周囲の交通状況に注意してください。 ▶ タイヤを点検し、必要であれば該当するタイヤを修理するか、交換してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、またはタイヤを修理するか交換した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷355 ページ）。
空気圧点検後 タイヤ空気圧 警告システム 再始動	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
タイヤ空気圧 警告システム 作動できません	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジン始動 P または N にシフト	セレクターレバーが D または R に入っているときにキーレスゴー操作でエンジンを始動しようとした。 ▶ セレクターレバーを P または N に入れてください。
	セダン： トランクが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ トランクを確実に閉じてください。
	ステーションワゴン： テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを確実に閉じてください。
または	⚠ **事故のおそれがあります** 盗難防止警報システム装備車： ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路と交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
アクティブ ボンネット 故障 取扱説明書を参照	故障のため、アクティブボンネットが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 警告音も鳴った。 ▶ ドアを確実に閉じてください。
左リア バックレスト ロックされていません または 右リア バックレスト ロックされていません	⚠ **けがのおそれがあります** セダンの分割可倒式リアシート装備車： 左右いずれかの、または両方のリアバックレストが完全にロックされていない。警告音も鳴った。 ▶ バックレストを後方に押して、確実にロックしてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** ステアリングのパワーアシストが低下している。 ステアリング操作に非常に大きな力が必要になる。警告音も鳴った。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリング操作ができるとき：** ▶ 注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリング操作ができないとき：** ▶ 走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 ウォッシャ液を 補充してください	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください。

キー

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 キーが違います	エンジンスイッチに別の車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
 キーを交換 してください	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 キーの電池を 交換してください	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 キーを認識できません (赤色のメッセージ)	エンジンがかかっているときにこのメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。警告音も鳴った。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
	走行していて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 キーを認識 できません (白色のメッセージ)	システムがキーを認識できない。 ▶ キーの位置を変えてください。 それでもキーがシステムに認識されないとき： ▶ 再度、キーの位置を変えてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 キーが 車内にあります	施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車から遠ざけてください。
 スタートボタンを外し キーを入れてください	システムが一時的に故障しているか異常がある。 警告音も鳴った。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ドアを閉めてから ロックしてください	施錠時にいずれかのドアが開いている。 警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてから、再度施錠操作を行なってください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(!) エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** ブレーキのブースト機能が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS に異常があるため機能が解除されている。そのため、BAS、ESP®、EBD、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS の機能が一時的に作動しない。BAS、ESP®、EBD、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 システムの自己診断が終了していない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBD に異常がある。そのため、ABS、BAS、ESP®、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) ⚠ OFF (ABS) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS と ESP® に異常がある。そのため、BAS、EBD、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも故障のため作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールの機能は解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場で、ESP® の点検を受けてください。
SPORT E 63 AMG： エンジンがかかっているときに黄色のスポーツハンドリングモード表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** スポーツハンドリングモードを設定している。 スポーツハンドリングモードを設定したときは、車が横滑りしたときや車輪が空転したときに ESP® は制限された内容で作動するため、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになる。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯は消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ けがのおそれがあります 乗員保護装置が故障している。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。	冷却水温度計のセンサーが故障している。 冷却水温度を確認することができない。冷却水の温度が高すぎる場合は、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら安全に停車し、エンジンを停止してください。状況を問わず走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
[冷却水警告灯] エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。	冷却水量が不足している。 冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水量の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されない。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら安全に停車し、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えた後、点検時の注意事項を守りながら冷却水量を点検し、冷却水が不足している場合は補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 雪や泥、または氷などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。
[冷却水警告灯] エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120℃を超えている。 ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している可能性がある。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら安全に停車し、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えた後、点検時の注意事項を守りながら冷却水量を点検し、冷却水が不足している場合は補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 雪や泥、または氷などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

走行安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車との車間距離が短すぎる。 ▶ 車間距離を長くとってください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車または走行車線上にある障害物に、非常に高い速度で接近している。 ▶ ただちにブレーキ操作を行なう準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。必要であれば、ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なってください。 さらなる情報については、ディストニック・プラス（▷218 ページ）、または PRE-SAFE® ブレーキ（▷69 ページ）をご覧ください。

非常時の施錠 / 解錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクまたはテールゲートを解錠できます。

車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアやトランクまたはテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- キーがキーレスゴー * の左右側アンテナまたはトランク / テールゲートの検知範囲（▷81 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れるかトランクまたはテールゲートのハンドルを引く
- キーがキーレスゴー * の車室内アンテナの検知範囲にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、トランクまたはテールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

燃料給油フラップを解錠する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

キーからエマージェンシーキーを取り外す

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから抜きます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

左ハンドル車

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置 1 にまわします。

ロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

ℹ 左ハンドル車は反時計回りに、右ハンドル車は時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車両を施錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 助手席ドアとリアドア、トランクまたはテールゲートを閉じます。

▶ ドアロックスイッチ（施錠）を押します（▷88 ページ）。

▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブが下がっていることを確認します。

下がっていないときは、ロックノブを押し込みます。

▶ 運転席ドアから車を降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

左ハンドル車

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを施錠の位置 1 にまわします。

運転席ドアのロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

ℹ 左ハンドル車は時計回りに、右ハンドル車は反時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

ℹ 上記の操作で車両を施錠したときは、燃料給油フラップは施錠されません。また、盗難防止警報システム * は待機状態になりません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

セダン

▶ ドアとトランクが施錠されていることを確認します。

トランクが施錠されていないときは、トランクを独立施錠します
（▷93 ページ）。

ステーションワゴン

▶ テールゲートが施錠されていることを確認します。

ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し下げて施錠したときは、状況によりテールゲートが施錠されていないことがあります。このときは車両を完全に施錠することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トランクの解錠（セダン）

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でトランクを解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。また、トランクの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! エマージェンシーキーで解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷411 ページ）。

▶ エマージェンシーキーを、トランクのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置から反時計回りにまわして、2 の位置にします。

トランクが解錠して開きます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置に戻して、キーシリンダーから抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

テールゲートの解錠（ステーションワゴン）*

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でテールゲートを解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。また、テールゲートの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ エマージェンシーキーで解錠した後にテールゲートを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキー ② をテールゲート裏側の挿入口 ① に差し込みます。

▶ テールゲートを外側に押しながら、エマージェンシーキー ② を左右いずれかの方向にまわします。

テールゲートが開きます。

▶ さらにテールゲートを押し上げます。

燃料給油フラップの解錠

⚠ 警告

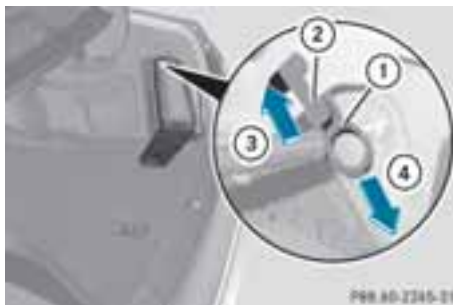
トランクまたはラゲッジルーム右側の小物入れ内部には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

燃料給油フラップのリリースグリップは、トランクまたはラゲッジルーム右側の小物入れの上方にあります。

セダン

▶ トランクを開きます。

▶ トランク右側のラゲッジネットを下げてカバーを開きます。

▶ 救急セットを取り出します（▷382ページ）。

▶ リリースグリップ ① を矢印 ③ の方向に押して、フック ② を外します。

▶ リリースグリップ ① を矢印 ④ の方向に引きます。

燃料給油フラップが解錠されます。

▶ 燃料給油フラップを開きます。

ステーションワゴン

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルーム内右側のカバーを開きます （▷446 ページ）。

▶ 救急セットを取り出して、内部にあるカバー ① をめくります。

▶ リリースグリップ ② を外し、矢印の方向に引きます。

燃料給油フラップが解錠されます。

▶ 燃料給油フラップを開きます。

アクティブボンネット * のリセット

アクティブボンネットが作動すると、作動装置 ③ の上にあるカバー ② が外れ、ボンネット ① の後端が約 50mm 上方に動きます。

! 上方に動いたボンネットを押し下げないでください。ボンネットを損傷するおそれがあります。

アクティブボンネットの作動後も走行することができます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場でリセット作業を行なってください。

また、ボンネットロック解除レバーを引いたときは、走行する前にボンネットのリセット作業が必要になります。

⚠ **警 告**

車両が受ける衝撃の大きさや角度など衝突時の状況によっては、ボンネットの後端が上方に動かず、相手への衝撃を緩和できないことがあります。

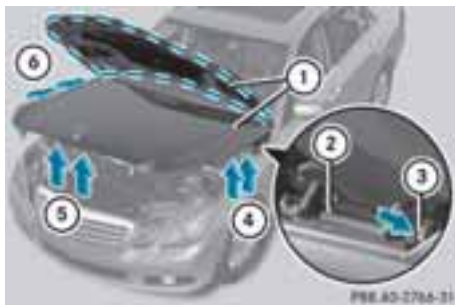
* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警告**

ボンネットロック解除レバーを引いたときは、ボンネットのリセット作業を行なわないと、ボンネットを閉じてもロックできなくなります。走行中にボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。ボンネットロック解除レバーを引いたときは、必ず走行前にボンネットのリセット作業を行なってください。

⚠ **警告**

エンジンや補器類は非常に高温になっている可能性があるため、エンジンが停止している状態でも、ボンネットが開いていると火傷をするおそれがあります。

火傷を防ぐため、ボンネットのリセット作業を行なうときは、取扱説明書に記載されている箇所のみに触れるようにし、また関連する注意事項を守ってください。

アクティブボンネットをリセットする

▶ ボンネットを開きます。

▶ 左右のカバー ② が押し下げられて固定されるまで、ボンネット中央部 ⑤ を両手で持ち上げて開きます。

左右のカバー ② が押し下げられるときは、強い手応えが感じられます。

▶ ボンネット ① から手を放します。

▶ カバー ② が収納部 ③ にかぶさっていることを確認します。

▶ カバーが収納部にかぶさっているときは、ボンネット ① を閉じます。

または

▶ カバーが収納部にかぶさっていないときは、最初にボンネットの左側 ④ を持ち上げ、次にボンネットの右側 ⑥ を持ち上げます。いずれの側も、カバー ② が固定されるまで持ち上げます。

カバー ② が収納部 ③ にかぶさります。

▶ ボンネット ① を閉じます。

ボンネット ① が閉じないときやマルチファンクションディスプレイに [記号] または [記号] が表示されるときは、再度リセット作業を行なってください。

⚠ **警告**

ボンネットが確実に閉じないときや、マルチファンクションディスプレイに [記号] または [記号] が表示されるときは、走行しないでください。その状態で走行すると、走行中にボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。リセット操作ができないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護できません。

NECK PROアクティブヘッドレストの作動は、ヘッドレストが前方に動き、ヘッドレストの角度の調整ができなくなることで確認できます。

ℹ このリセット作業は強い力が必要になるため、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ヘッドレストの上部を ① の方向に停止するまで前方に押します。

▶ ガイドに沿ってヘッドレストを ② の方向に停止するまで押し下げます。

▶ ヘッドレストを ③ の方向に押して、確実にロックさせます。

▶ もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

❗ 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でNECK PROアクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ **警 告**

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

電池には有害物質が含まれています。環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

キーの表示灯が 1 回点滅すれば電池は正常です。

ℹ 車両の近くでキーの電池の点検を行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ℹ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手のひらの上に乗せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（＋）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

▶ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認します。

▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

電球に関する注意

バイキセノンヘッドライト

バイキセノンヘッドライトはお客様ご自身で交換することはできません。電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

⚠ **警 告**

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れると感電して、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。バイキセノンヘッドライトのカバーは決して取り外さないでください。

バイキセノンヘッドライトの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ライト類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのライト類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてライトが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したライトが点灯しない場合や、すぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

その他のライト

⚠ **警 告**

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。電球を損傷したり、子供がけがをするおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトには圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトを交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

! 電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

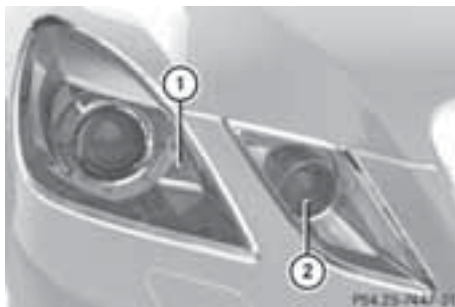
! マルチファンクションディスプレイにライトに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは （▷392 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

バイキセノンヘッドライト以外にもお客様自身で交換できない電球があります。お客様ご自身で交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

交換可能な電球について

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換する場合は、必ず指定された電球を使用してください。

ヘッドライト

①	コーナリングライト	H7 55 W
②	車幅灯 / 赤外線照射ライト *	H11 55 W

! 電球の交換を行なうときは、実際に車両に装着されている電球の規格を確認してください。

パンクしたとき

⚠ 警告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。
- ランフラットタイヤ装備車を除き、パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

パンクしたときは

パンクしたときは、車両に合わせて以下のページをご覧ください。

- 応急用スペアタイヤ装備車（▷422 ページ）
- タイヤフィット装備車（▷429 ページ）
- ランフラットタイヤ装備車（▷434 ページ）

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤ交換およびタイヤ修理の準備

▶ AIR マティックサスペンション装備車は、車高が標準の高さになっていることを確認します（▷234 ページ）。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーレスゴースイッチ * でエンジンを停止したときは、運転席ドアを開きます。

▶ キーレスゴー装備車は、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します（▷100 ページ）。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 周囲の状況に注意しながら車から降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤが車載されている場合

応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。

⚠ 警 告

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤの使用は短い時間にとどめてください。また、ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

! 応急用スペアタイヤは各車専用です。他車のものは使用しないでください。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 車速感応ドアロック（▷77 ページ）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

タイヤ交換の準備

▶ タイヤ交換に必要な準備を行ないます（▷422 ページ）。

▶ 輪止め、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、ホイールレンチ、ガイドボルトを準備します（▷382 ～ 386 ページ）。

水平な場所で輪止めをする場合

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

傾斜地で輪止めをする場合

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

i 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

ジャッキアップする

⚠ 警告

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- 車の下に入って作業するときは、必ずジャッキスタンドで車を上げてください。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- タイヤ交換を行なっているときは、エンジンを始動しないでください。

⚠ 警告

- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキアップしているときにエンジンを始動したり、ドアやトランクまたはテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除するなどの危険な操作をすると、車が落下して身体が挟まれ、致命的なけがをするおそれがあります。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 傾斜の急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- ジャッキを正しく取り付けないと、以下のようなことが起こります。

  ◇ ジャッキが外れて車が落下する

  ◇ 乗員や周囲の人がけがをする

  ◇ 車両を損傷する

  そのため、ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。
- ジャッキが交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートに正しく取り付けられていることを確認してください。
- ジャッキを使用する前にジャッキサポートを点検し、汚れが付着している場合は取り除いてください。
- ジャッキサポートに亀裂や損傷がある場合は、作業を行なわないでください。

▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

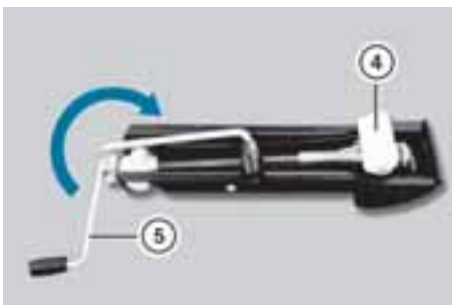
この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所（矢印の位置）に設けられています。

AMG スポーツパッケージ装備車（フロント）

▶ AMG スポーツパッケージ装備車、E 63 AMG は、カバー ② を上方に引き上げて外します。

※ ジャッキの色や形状が異なる場合があります。

▶ ジャッキハンドル ⑤ を矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわします。

ジャッキアーム ④ が上がります。

▶ ジャッキアーム ④ の先端を、車体のジャッキサポート ③ の位置に合わせます。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ ジャッキの底面が、交換するタイヤに近いジャッキサポートの真下にあることを確認します。

▶ ジャッキハンドル ⑤ を時計回りにまわして、ジャッキアーム ④ の先端をジャッキサポート ③ に合わせます。このとき、ジャッキの底面を確実に地面に接地させます。

▶ タイヤが地面から最大 3cm 離れるまで、ジャッキハンドル ⑤ をまわします。

⚠ **警告**

ジャッキアームの先端がジャッキサポートに合っていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり、車を損傷するおそれがあります。

タイヤの取り外し

! AMG カーボンセラミックブレーキ装備車は、ホイールの取り外しや取り付けのときに、ホイールリムがブレーキディスクに当たらないように注意してください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。必要であれば、大人 2 人で作業を行なってください。

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ その穴に車載工具のガイドボルト ① をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外します。

! ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

▶ タイヤを取り外します。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ **警告**

ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

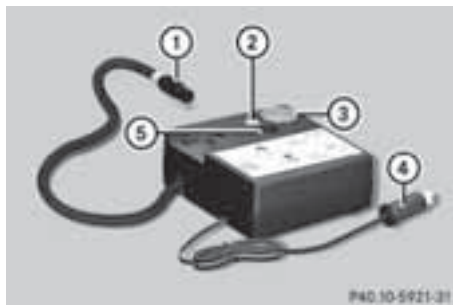
⚠ **警告**

ホイールハブのネジ穴が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **警告**

応急用スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルト ⑧ を使用します。異なるホイールボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にホイールが外れるおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面を清掃します。

▶ ガイドボルトに合わせて応急用スペアタイヤを取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外します。

▶ 5 本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

応急用スペアタイヤに空気を入れる（E 63 AMG）

E 63 AMG の応急用スペアタイヤは、電動エアポンプで空気を入れて使用します。

仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

! 必ずジャッキダウンする前に応急用スペアタイヤに空気を入れてください。応急用スペアタイヤのリムを損傷するおそれがあります。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ ④ とエアホースを取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを外します。

▶ 電動エアポンプのエアホースのナット ① を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ が **0**（オフの位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ ④ を、ライター（▷326 ページ）を抜き取ったソケットまたは12V電源ソケット（▷327ページ）に差し込みます。

▶ エンジンスイッチを **1** の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ を **I**（オンの位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載しています。

▶ 指定の空気圧に達したら電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ を **0**（オフの位置）にします。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ 指定の空気圧を超えたときは、空気圧調整ボタン ② を押して空気を抜いて調整します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブからエアホースのナット ① を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ 電源プラグ ④ とエアホースを電動エアポンプの背面に収納します。

▶ 電動エアポンプを元の位置に収納します。

! 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

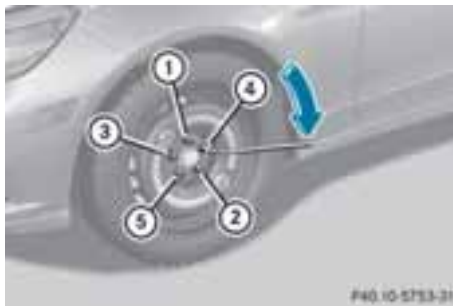
ジャッキダウンする

⚠ **警 告**

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

! 必ずジャッキダウンする前に応急用スペアタイヤに空気を入れてください。応急用スペアタイヤのリムを損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

⚠ **警 告**

ホイールボルトの締め付けトルクが規定値で締め付けられていないと、ホイールが緩み、事故を起こすおそれがあります。

ホイールを交換した後は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 13 kg-m（130Nm）です。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、ホイールレンチや輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ E 63 AMG および AMG スポーツパッケージ装備車は、ジャッキサポートのカバーを取り付けます。

▶ 外したタイヤをトランクルームまたはラゲッジルームに収納します。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システム * は正常に作動しません。

タイヤフィットが車載されている場合

タイヤの傷が約 4mm 以下のときは、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理して、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が約－ 20℃以上のときに使用できます。

⚠ **警 告**

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。

◇ タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合

◇ タイヤの接地面以外に傷がある場合

◇ ホイールに損傷がある場合

◇ タイヤの空気圧が非常に低い状態や、空気が完全に抜けた状態で走行した場合

このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

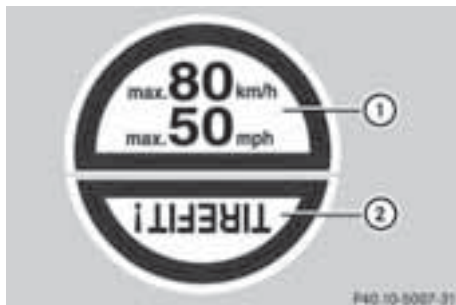
* オプションや仕様により、異なる装備です。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

タイヤを修理する

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギやネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードまたはラゲッジフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属している最高速度表示のステッカー ① をはがし、運転者の見やすい場所に貼付します。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィット使用表示のステッカー ② を貼付します。

⚠ **警告**

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ ④ とエアホース ⑤ を取り出します。

▶ エアホース ⑤ をタイヤフィット ① のバルブ ⑥ に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット ① のバルブ ⑥ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ② に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ ④ をライターソケット（▷326 ページ）または 12V 電源ソケット（▷327 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にパンクしたタイヤにタイヤフィットが送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 500kPa（5bar / 73psi）まで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 180kPa（1.8bar / 26psi）に達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達しているときは、（▷350 ページ）をご覧ください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達していないときは、（▷349 ページ）をご覧ください。

空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達しない場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

▶ タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されいた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **警 告**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達している場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチを **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグを抜きます。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されいた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

⚠ **警 告**

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホースを修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **警 告**

空気圧が 130kPa（1.3bar / 20psi）以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 130kPa（1.3bar / 20psi）以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

空気圧を上げる

▶ 電動エアポンプを作動させます。

空気圧を下げる

▶ 空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧調整ボタン ⑨ を押して調整します。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

ランフラットタイヤ *

ランフラットタイヤ装備車は、パンクしたときも、最長で約 80km まで走行を続けることができます。

ランフラットタイヤは、タイヤ空気圧警告システムが正常に作動しているときに使用することができます。

! パンクしたときは、荷物の重量や乗員の人数により、約 30km ～約 80km の範囲で走行できます。

走行できる距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージが、マルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

パンクしたときは、必ず約 80km/h 以下の速度で走行してください。

警 告

パンクしたときは、カーブを走行するときやブレーキを効かせたときの車両操縦性が低下します。急な進路変更や急加速、縁石やくぼ地などを乗り越える走行は避けてください。特に、重い荷物を積んでいるときは注意してください。

慎重な運転を心がけても、走行速度や荷物の重量、急加速、カーブでの走行、路面の状況、外気温度などにより、パンクしたときに走行できる距離は短くなります。

警 告

以下のようなときは、走行を続けないでください。

- 大きな異音が聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP® が頻繁に作動するとき
- タイヤのサイドウォールに傷が付いているとき

パンクした状態で走行したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールの点検を行ない、パンクしたタイヤを交換してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

環 境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

爆発の危険があります。

バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。

火花が出ないように注意してください。

バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクを着用してください。

バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。

子供を近付けないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

警 告

安全のため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。指定されたバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員がバッテリー液により火傷をする危険性を低減します。

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーをのぞき込まないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。

- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

環 境

バッテリーは家庭用ごみとして廃棄しないでください。バッテリーは環境に配慮した適切な方法で処理してください。

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

i 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

i バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- 施錠時のドアミラー格納機能のリセット
- COMAND システムの再設定

バッテリーの位置

バッテリーは、エンジンルーム内助手席側のエアダクト下部に収納されています。

左ハンドル車

▶ マイナスドライバーなどの適切な工具を使用して、エアダクトの 3 カ所のクリップ ② を外します。

▶ エアダクト ① を取り外します。

! クリップを外すときは、けがをしないように注意してください。

i 他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときなどは、エンジンルーム内のブースターケーブル接続用の端子を使用してください(▷439 ページ)。

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター ① があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター ① は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

ブースターケーブルは、エンジンルーム内助手席側にあるブースターケーブル専用の [+] 端子と [−] 端子に接続します。

⚠ 警 告

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一爆発したときに、けがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しているときは、ガスが発生し、爆発の原因になります。火気や裸火、火花を近付けたり、近くで喫煙しないでください。バッテリーを取り扱うときは、安全に注意し、保護対策を取ってください。

⚠ 警 告

未燃焼の燃料が排気システムに入ると、発火して火災が発生するおそれがあります。エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

⚠ **警告**

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! ブースターケーブルのケーブル部分や絶縁部分が損傷していないことを確認してください。

! ブースターケーブルをバッテリーに接続するときは、他の金属部分に触れないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

▶ すべての車でバッテリーにブースターケーブルを接続できるとは限りません。バッテリーにブースターケーブルを接続できないときは、補助バッテリーやエンジン始動用装置の電源を使用して、エンジンを始動してください。

▶ エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。

▶ バッテリーが凍結しているときは、エンジン始動を行なわないでください。火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（約 50℃以下)、バッテリー液を解凍してから行なってください。

▶ 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。

▶ 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

▶ ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

▶ バッテリーが完全に放電しているときは、ケーブルを接続してすぐに始動操作を行なうのではなく、数分間経過してから行なってください。完全に放電したバッテリーに充電が行なわれます。

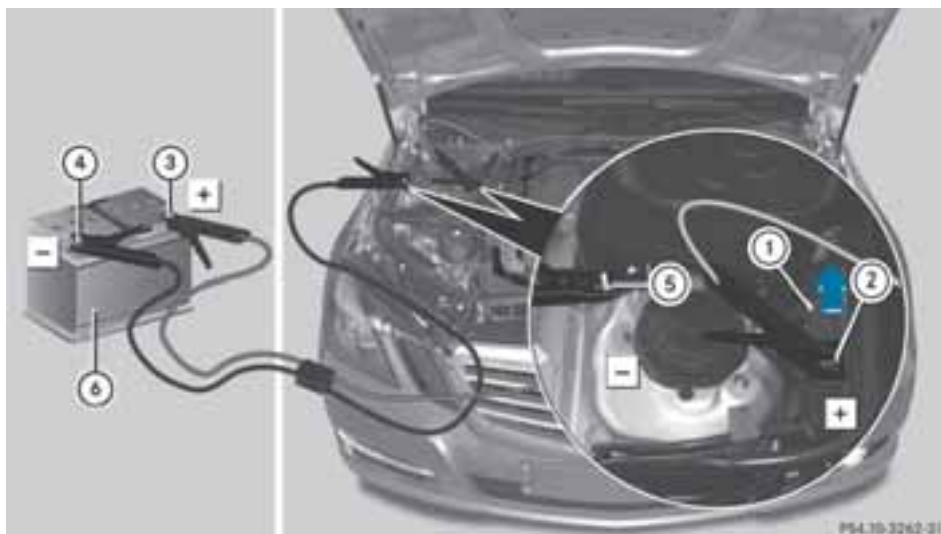
ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、不明な点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

左ハンドル車

▶ [+] 端子のカバー ① を矢印の方向に動かして開きます。

▶ 自車のバッテリーの [+] 端子 ② に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリーの [+] 端子 ③ に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの [–] 端子 ④ に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの [–] 端子 ⑤ に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ ブースターケーブルの接続を外すまで、数分間エンジンをかけたままにします。

▶ 黒色ブースターケーブルを両車のバッテリーの [–] 端子から外します。先に自車の [–] 端子 ⑤ から外します。

▶ 赤色ブースターケーブルを両車のバッテリーの [+] 端子から外します。先に自車の [+] 端子 ② から外します。

▶ ブースターケーブルを外してから、自車の [+] 端子のカバー ① を閉じます。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動は緊急の対応です。

けん引

けん引時の注意

⚠ 警 告

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。

⚠ 警 告

ホールド機能またはディストロニック・プラス * が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引で車を動かすときは、ホールド機能とディストロニック・プラス * を解除してください。

けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! ぬかるみからの脱出などの目的に、けん引フックを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチではなくキーを使用してください。運転席ドアを開いたときにシフトポジションが P になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

けん引されるときは、必ずシフトポジションを N にしてください。

以下の理由により、けん引される前にバッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。

- イグニッション位置を **2** にすることができません
- シフトポジションを N にすることができません

! エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源とした始動を試みてください。やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従い、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に移送してください。

万一のとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

i けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷89、203 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されることがあります。

また、けん引防止警報も解除してください（▷73 ページ）。

けん引フックの取り付け

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷382 ページ）からけん引フックを取り出します。

⚠ **警 告**

リアのカバーを取り外すときは、マフラーに注意してください。マフラーは高温になるため、マフラーに触れると火傷をするおそれがあります。

けん引フックの取り付け部はフロントとリアのバンパーにあります。けん引フックを取り付けるときはカバーを外します。

セダン

▶ カバー ① のマーク部を矢印の方向に押します。

▶ カバー ① を外します。

▶ 内部のネジ穴に、けん引フックを時計回りにまわしてねじ込み、停止するまで手で締め込みます。

※ 車種や仕様により、カバー ① の形状は異なります。

けん引フックを取り外す

▶ けん引フックを取り外します。

▶ カバー ① をバンパーに押し込んで取り付けます。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

後輪を上げてけん引する

この操作は 4MATIC 以外の車種のみ可能です。

後輪を上げてけん引するときは、(▷440 ページ)の注意事項を守ってください。

! 後輪を上げてけん引するときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

▶ 非常点滅灯を点滅させます(▷130 ページ)。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ 車から離れるときは、キーを携帯します。

前後輪を接地させてけん引する

前後輪を接地させてけん引するときは、(▷440 ページ)の注意事項を守ってください。

⚠ **警告**

エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。注意して操作を行なってください。

運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、シフトポジションは自動的に **P** になります。けん引するときは、以下の方法に従ってシフトポジションを **N** のままにしてください

▶ 停車して、エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **0** にします。

▶ エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **2** にします。

キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用します(▷100 ページ)。

▶ ブレーキペダルを踏んで保持します。

▶ シフトポジションを **N** にします。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます(▷130 ページ)

▶ エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **2** のままにします。

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引されているときでも、コンビネーションスイッチを操作して方向指示灯を点滅させることができます。このときは、方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

車両を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを N にします。

車を積載したらすみやかに以下のことを行ないます。

▶ パーキングブレーキを効かせて、車が動かないようにします。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ 車を固定します。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

4MATIC 車のけん引に関する注意

! 4MATIC 車は、フロントまたはリアのみを持ち上げた状態でけん引しないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

トランスミッションまたはフロント / リアアクスルを損傷しているときは、車両運搬車で運搬してください。

電気システムが損傷しているとき

バッテリーに不具合があるときは、シフトポジションが P に固定されます。他車のバッテリーを電源としたエンジン始動と同様に、車両の電気システムに電力を供給しなくてはなりません（▷437 ページ）。

電力が供給できない場合は、車両運搬車で運搬してください。

押しがけ

押しがけでエンジンを始動することはできません。トランスミッションを損傷します。他車のバッテリーを電源としたエンジン始動については（▷437 ページ）をご覧ください。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ 警 告

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ヒューズを交換するときは、必ず同じ電流値（色）のヒューズと交換してください。ヒューズの電流値は「ヒューズ一覧」（▷446 ページ）に記載されています。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ヒューズを交換してもすぐに切れるときや、ヒューズには異常がなく電気装備が作動しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調べ、修理してください。

! 必ず車両に適合した、正しい電流値のヒューズだけを使用してください。構成部品やシステムを損傷するおそれがあります。

ヒューズを交換する

▶ 停車して、パーキングブレーキを効かせます。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、ヒューズが切れている（溶断）ときは、同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- エンジンルーム内運転席側
- トランクルーム / ラゲッジルーム内右側

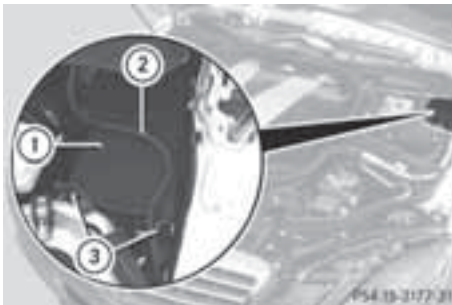
エンジンルーム内運転席側のヒューズボックス

ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ ワイパーが停止位置になっていることを確認します。

⚠ **警 告**

エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止し、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

▶ ボンネットを開きます。

左ハンドル車

▶ カバー ① に水分や汚れが付着しているときは、布などで拭き取ります。

▶ 左ハンドル車は、ホース ② をカバー ① のフックから取り外します。

▶ 2 カ所のクリップ ③ を外します。

▶ 前方に向けてカバーを取り外します。

※ 右ハンドル車のヒューズボックスは、エンジンルームに向かって左側にあります。

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ ヒューズボックスカバーのシール部が正しい位置にあることを確認します。

▶ 後部から先に、カバーをヒューズボックスに取り付けます。

▶ クリップ ③ でカバーを固定します。

▶ 左ハンドル車は、ホース ② をカバー ① のフックに取り付けます。

! ヒューズボックスの内部に水などが入らないように、カバーを確実に取り付けてください。

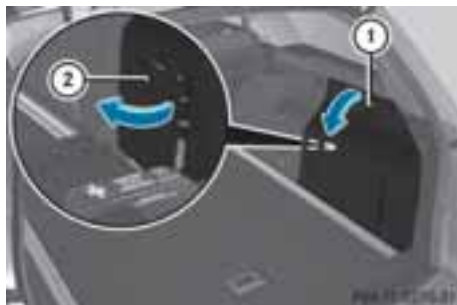
▶ ボンネットを閉じます。

トランクルーム内右側のヒューズボックス（セダン）

ヒューズボックスのカバーを開く

▶ トランクを開きます。

▶ カバー ① の上部を持ち、下方に取り外します。

ラゲッジルーム内右側のヒューズボックス（ステーションワゴン）

ヒューズボックスのカバーを開く

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルーム右側のハンドル①を引き、カバーを開きます。

▶ 内部のトリム②を前方に引いて開きます。

ヒューズ一覧

エンジンルーム

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	25A	ABS / ASR / BAS / ESP®
2	30A	セントラルロック、アンビエントライト、アクティブブラインドスポットアシスト、乗降用ライト、ドア赤色灯、ドアミラー、キーレスゴー、前席パワーウインドウ、シート調整、スイッチ照明
3	30A	セントラルロック、アンビエントライト、アクティブブラインドスポットアシスト、乗降用ライト、ドア赤色灯、ドアミラー、キーレスゴー、前席パワーウインドウ、シート調整、スイッチ照明
4	20A	燃料ポンプ
5	7.5A	メーターパネル
6	10A	ABS / ASR / BAS / ESP®、エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、スターター
7	20A	スターター、エンジンエレクトロニクス
8	7.5A	エアバッグ
9	15A	12V 電源ソケット（前席）
10	30A	フロントワイパー、リアウインドウウォッシャー
11	7.5A	COMAND ディスプレイ、ナイトビューアシストプラス
12	7.5A	エアコンディショナー、AIR マティックサスペンション、パークトロニック、電動ブラインド、運転席シートヒーター、助手席シートヒーター、シートベンチレーター、スイッチ照明、ラゲッジルームカバー
13	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、ホーン、マルチファンクションステアリング、ハイビーム、方向指示灯、ウインドウウォッシャー、ワイパー、リアウインドウウォッシャー、音声認識機能
14	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
15	7.5A	エアバッグ
16	5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、オートマチックトランスミッション、電話
17	30A	自動防眩機能、アクティブレーンキーピングアシスト、ルームランプ、ナイトビューアシストプラス、ライトセンサー、バニティミラー照明、レインセンサー、読書灯、スイッチ照明、パノラミックスライディングルーフ、スライディングルーフ
18	7.5A	ライトスイッチ、非常点滅灯、ヘッドライト照射角度調整
19	20A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、イグニッションロック、スターター、ステアリングロック
20	40A	ABS / ASR / BAS / ESP®
21	7.5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、エアバッグ、ブレーキランプ、グローブボックスライト、チャイルドセーフティシート検知システム
22	15A	エンジンエレクトロニクス
23	20A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ
24	15A	エンジンエレクトロニクス
25	15A	エンジンエレクトロニクス
26	20A	COMAND システム、音声認識機能
27	7.5A	エンジンエレクトロニクス、燃料ポンプ、イグニッションロック、スターター、ステアリングロック
28	7.5A	メーターパネル
29	10A	ヘッドライト照射角度調整
30	10A	ヘッドライト照射角度調整
31	15A	ホーン
32	40A	エンジンエレクトロニクス
33	10A	オートマチックトランスミッション、エンジンエレクトロニクス
34	7.5A	燃料ポンプ
35	5A	オプション
36	7.5A	アクティブレーンキープアシスト、ディストロニック・プラス、ナイトビューアシストプラス

トランクルーム / ラゲッジルーム

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
37	5A	エアバッグ、NECK PRO アクティブヘッドレスト、PRE-SAFE®
38	15A	ウインドウウォッシャー、リアウインドウウォッシャー、リアワイパー
39	30A	アンビエントライト、乗降用ライト、ドア赤色灯、セントラルロック、キーレスゴー、パワーウインドウ、スイッチ照明
40	–	未使用
41	30A	アンビエントライト、乗降用ライト、ドア赤色灯、セントラルロック、キーレスゴー、パワーウインドウ、スイッチ照明
42	25A	燃料ポンプ
43	5A	オプション
44	30A	マルチコントロールシートバック、前席シート調整
45	30A	マルチコントロールシートバック、前席シート調整
46	7.5A	アンテナモジュール、盗難防止警報システム、セントラルロック、キーレスゴー、けん引防止警報機能
47	–	未使用
48	–	未使用
49	40A	リアデフォッガー
50	50A	PRE-SAFE®
51	50A	PRE-SAFE®

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
52	–	未使用
53	–	未使用
54	–	未使用
55	–	未使用
56	–	未使用
57	–	未使用
58	–	未使用
59	7.5A	アクティブレーンキープアシスト
60	30A	ドライビングダイナミックシート
61	40A	キーレスゴー、自動開閉トランクリッド、EASY-PACK 自動開閉テールゲート
62	25A	マルチコントロールシートバック、前席シート調整、ステアリング調整
63	25A	後席シートヒーター
64	25A	マルチコントロールシートバック、前席シート調整
65	–	未使用
66	7.5	エアコンディショナー
67	40A	COMAND システム、サウンドシステム
68	15A	AIR マティックサスペンション
69	25A	COMAND システム、サウンドシステム
70	–	未使用
71	15A	ライター
72	15A	12V 電源ソケット（ラゲッジルーム）
73	5A	ABS / ASR / BAS / ESP®、オートマチックトランスミッション、余熱ヒーター / ベンチレーション、診断ソケット
74	15A	キーレスゴー
75	–	未使用

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
76	15A	12V 電源ソケット（後席）
77	–	未使用
78	7.5A	メディアインターフェース
79	–	未使用
80	5A	パークトロニック、ディストロニック・プラス
81	–	未使用
82	7.5A	前席シートヒーター、前席シートベンチレーター
83	7.5A	パーキングアシストリアビューカメラ、VICS / ETC
84	5A	パーキングアシストリアビューカメラ、COMAND システム
85	7.5A	リアエンターテインメントシステム、COMAND システム
86	–	未使用
87	–	未使用
88	15A	オートマチックトランスミッション、エンジンエレクトロニクス
89	30A	燃料ポンプ
90	40A	ブルーテックシステム、エンジンエレクトロニクス
91	10A	ECO スタート / ストップ
92	15A	オプション

（2010-04-16・A212 584 69 81）

ℹ ヒューズ配置表（英文）は、車載工具にも収納されています。ヒューズ配置表にはヒューズ容量も記載されています。

ℹ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 警 告

承認されていない部品、タイヤやホイール、または安全に関するアクセサリーを使用すると、走行安全性が損なわれるおそれがあります。

これらはブレーキシステムなどの安全性に関連したシステムの故障につながる可能性があります。さらに車両操縦性を失う原因になり、事故の原因になります。

どのような場合でも、純正部品のみを使用してください。また、タイヤやホイール、アクセサリーはお客様の車両のために承認されたもののみを使用してください

環 境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- ドア
- ドアピラー付近
- サイドシル付近
- シート
- ダッシュボード
- インストルメントパネル
- センターコンソール

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ **警 告**

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両との適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

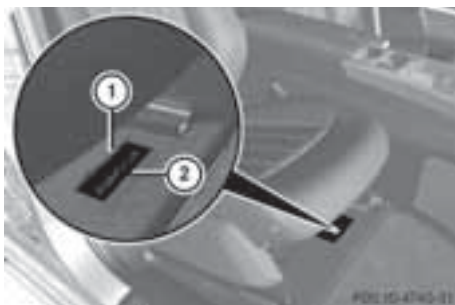
! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に、車台番号およびカラーコードなどを記載したニューカープレート ① が貼付されています。

車台番号

右側前席下部のフレームに車台番号 ② が打刻されています。

車台番号を確認する

▶ 右側前席をもっとも後方の位置にします。

▶ フロントシート下部の小物入れ装備車は、シートクッション前端部を上げます。

▶ カバー ① を開きます。

車台番号 ② が確認できます。

オプションコードプレート

ボンネットの裏側に、オプションコードを記載したオプションコードプレート ① が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロック後方上部または前面上部にエンジン番号が打刻されています。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料（ガソリン、軽油など）
- 排気ガス処理装置添加剤（AdBlue®）
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずDaimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ **警 告**

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

⚠ **警 告**

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **警 告**

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 80 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 9 ℓ （E 63 AMG は約 14 ℓ）

! ガソリンエンジン車には軽油を給油しないでください。また、ディーゼル車にはガソリンを給油しないでください。少量でもガソリンと軽油が混じると燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤った燃料を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! ガソリンエンジン車の燃料には無鉛プレミアムガソリン、ディーゼルエンジン車の燃料には自動車用の軽油を使用してください。指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の適用外になります。

i ディーゼルエンジン車の指定燃料は自動車用の軽油になります。

自動車用の軽油とは、JIS 規格（JIS K 2204）を満たす軽油を示します。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環 境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

おだやかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

AdBlue®

i E 350 BlueTEC に対応した項目です。

AdBlue® は非可燃性で無害、無色・無臭で、水溶性の液体です。

! ISO22241 に準拠した AdBlue® のみを使用してください。特別な添加剤は使用しないでください。

! 補充を行なっているときに、カーペットや塗装面などの表面に AdBlue® が付着したときは、十分な水でただちに洗い流してください。さらに、流した後にただちに湿らせた布と冷水で AdBlue® を拭き取ってください。AdBlue® が結晶化してしまったときは、スポンジと温水で取り除いてください。AdBlue® の残留物は、一定時間後に結晶化し、表面を損傷させます。

外気温度が高いとき

AdBlue® タンクに直射日光が当たったときなど、AdBlue® が一定時間、50℃以上で熱されたときは、AdBlue® は分解されることがあります。その結果、気化したアンモニアが発生します。

⚠ 警 告

高温の状態で AdBlue® タンクのキャップが開いていると、気化したアンモニアが出てくる場合があります。気化したアンモニアには刺激臭があり、皮膚や粘膜、目がヒリヒリしてきます。その結果、咳き込んだり涙目になるとともに、目や鼻、のどに炎症が起きることがあります。

気化したアンモニアを吸い込まないようにしてください。

外気温度が低いとき

AdBlue® は、約 -11℃以下で凍結します。車両には、標準装備で AdBlue® 予備ヒーターが装備されています。そのため、気温が -11℃以下になる冬季でも、作動が保証されています。

特別な添加剤

! ISO22241 に準拠した AdBlue® のみを使用してください。AdBlue® に特別な添加剤を加えたり、水で薄めないでください。

BlueTEC 排気ガス処理装置を損傷するおそれがあります。

添加剤などの使用や水分による損傷は、保証の対象外になります。

純度

BlueTEC 排気ガス処理装置の故障を防ぐためには、AdBlue® の純度が特に重要になります。

補修作業の途中などで AdBlue® を AdBlue® タンクから汲み出したときは、液体の純度が保証できなくなるため、AdBlue® をタンクに戻さないでください。

! AdBlue® 内の不純物（他のサービスプロダクト、クリーナー、ホコリなど）は、排出物量の増加やシステムの故障、触媒コンバーターの損傷、BlueTEC システムの損傷につながります。

車種	AdBlue® タンク全容量
E 350 BlueTEC	24.5 ℓ

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

エンジンオイル容量

車種	容量
E 250	約 5.5 ℓ
E 300 E 300 4MATIC E 350 E 350 BlueTEC	約 6.5 ℓ
E 550	約 8.0 ℓ
E 63 AMG	約 8.5 ℓ （外部オイルクーラー分を含む）

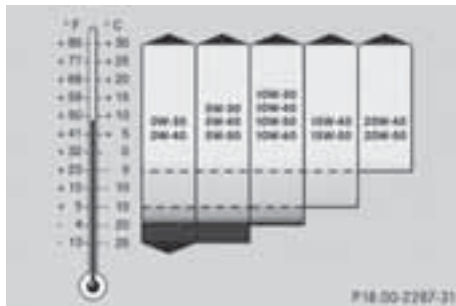
i 容量は、オイルフィルター分を含む交換時の数値です。

添加剤

! エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

⚠ **警 告**

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

警告

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

警告

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量のセンサーを損傷するおそれがあります。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

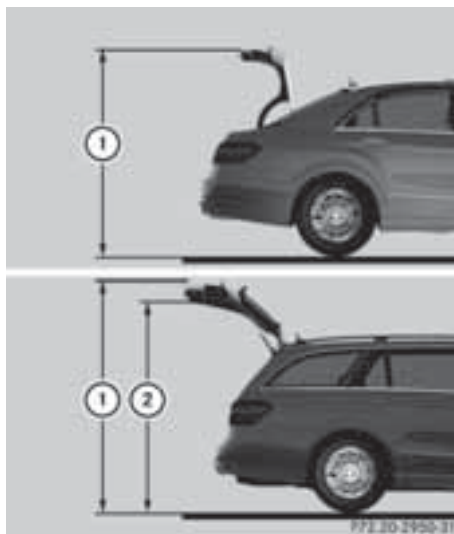
電圧	12V
容量	70Ah / 80Ah / 95Ah

※ バッテリーの容量は、予告なく変更されることがあります。

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ	トランク
全車	100kg	100kg

ⓘ ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

トランク / テールゲートを開いたときの高さ

① トランク / テールゲートを開いたときの高さ（外側）

② テールゲートを開いたときの高さ（内側）

トランクまたはテールゲートをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

	①	②
セダン	1737 ～ 1760mm	―
ステーションワゴン	2050 ～ 2062mm	1925 ～ 1939mm

ⓘ タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

! 再生したタイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 大径ホイールを装着したときは、路面状況が悪いときに乗り心地が悪くなることがあります。また、障害物を乗り越えたときの快適性も低下し、ホイールやタイヤを損傷する危険性も高まります。

! タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車種は、タイヤローテーションを行なわないでください。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷353 ページ）。

i 左右には必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

i 標準タイヤとウィンタータイヤ、ランフラットタイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

i ランフラットタイヤ装備車は、応急用スペアタイヤおよびタイヤフィットは装備されていません。

ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットをお買い求めになることをお勧めします。

i タイヤフィットについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ（セダン）

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
E 350 BlueTEC アバンギャルド	245/45R17（ランフラット）	8J × 17	48mm
E 300 アバンギャルド E 300 エレガンスパッケージ E 300 4MATIC アバンギャルド E 350 アバンギャルド	245/45R17	8J × 17	48mm
E 550 アバンギャルド エクスクルーシブパッケージ	245/40R18	8.5J × 18	48mm
E 250 E 250 アバンギャルド E 300 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 350 BlueTEC アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 350 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 550 アバンギャルド	前輪 245/40R18 後輪 265/35R18	前輪 8.5J × 18 後輪 9J × 18	前輪 48mm 後輪 54mm
E 63 AMG E 63 AMG パフォーマンスパッケージ	前輪 255/35R19 後輪 285/30R19	前輪 9J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 37mm 後輪 52mm

! タイヤサイズ 265/35R18 と 285/30R19 の標準タイヤにはスノーチェーンを装着できません。

標準タイヤ（ステーションワゴン）

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
E 350 BlueTEC アバンギャルド	245/45R17（ランフラット）	8J × 17	48mm
E 300 アバンギャルド E 300 エレガンスパッケージ E 300 4MATIC アバンギャルド E 350 アバンギャルド	245/45R17	8J × 17	48mm
E 550 アバンギャルド エクスクルーシブパッケージ	245/40R18	8.5J × 18	48mm
E 250 E 250 アバンギャルド E 300 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 350 BlueTEC アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 350 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 550 アバンギャルド	前輪 245/40R18 後輪 265/35R18	前輪 8.5J × 18 後輪 9J × 18	前輪 48mm 後輪 54mm
E 63 AMG E 63 AMG パフォーマンスパッケージ	前輪 255/35R19 後輪 285/30R19	前輪 9J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 37mm 後輪 52mm

! タイヤサイズ 265/35R18 と 285/30R19 の標準タイヤにはスノーチェーンを装着できません。

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
16 インチホイール	205/60R16	7J × 16	38mm
	225/55R16	7.5J × 16	45.5mm
		8J × 16	46mm
17 インチホイール	245/45R17（ランフラット）	8J × 17	48mm
		8.5J × 17	48mm
	245/45R17	8J × 17	48mm
		8.5J × 17	48mm
18 インチホイール	245/40R18	8.5J × 18	48mm
	前輪 245/40R18 後輪 265/35R18	前輪 8.5J × 18 後輪 9J × 18	前輪 48mm 後輪 54mm
	前輪 255/40R18（ランフラット） 後輪 285/35R18（ランフラット）	前輪 9J × 18 後輪 9.5J × 18	前輪 37mm 後輪 52mm
19 インチホイール	前輪 245/35R19 後輪 275/30R19	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 48mm 後輪 48mm
	前輪 255/35R19 後輪 285/30R19	前輪 9J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 37mm 後輪 52mm

! タイヤサイズ 265/35R18、285/35R18、275/30R19、285/30R19 の標準タイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車種は、タイヤローテーションを行なわないでください。

サービスデータ

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

応急用スペアタイヤ *

! 応急用スペアタイヤにスノーチェーンを装着しないでください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
E 250 E 300 E 300 4MATIC E 350	T 155/70R17	4.0B × 17	39mm	4.2bar/61psi /420kPa
E 550	T 155/60R18	4.5B × 18	36mm	
E 63 AMG	175/50R19	6.5B × 19	14mm	3.5bar/51psi /350kPa

ウィンタータイヤ

! E 63 AMG の後輪に、タイヤサイズ 285/30R19 M+S のウィンタータイヤを装着したときは、スノーチェーンを装着しないでください。

! AMG カーボンセラミックブレーキ装備車には、18 インチタイヤ / ホイールを装着しないでください。

i ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

セダン

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
E 250 E 300 アバンギャルド E 300 エレガンスパッケージ E 300 4MATIC アバンギャルド E 350 BlueTEC アバンギャルド E 350 アバンギャルド E 550 アバンギャルド エクスクルーシブパッケージ	245/45R17 M+S	8J × 17	48mm
		8.5J × 17	48mm
E 250 アバンギャルド E 300 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 350 BlueTEC アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 350 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 550 アバンギャルド	245/40R18 M+S	8.5J × 18	48mm
E 63 AMG E 63 AMG パフォーマンスパッケージ	前輪 255/40R18 M+S 後輪 255/40R18 M+S	前輪 9J × 18 後輪 9.5J × 18	前輪 37mm 後輪 52mm
	前輪 255/35R19 M+S 後輪 255/35R19 M+S	前輪 9J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 37mm 後輪 52mm
	前輪 255/35R19 M+S 後輪 285/30R19 M+S	前輪 9J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 37mm 後輪 52mm

ステーションワゴン

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
E 250 E 300 アバンギャルド E 300 エレガンスパッケージ E 300 4MATIC アバンギャルド E 350 BlueTEC アバンギャルド E 350 アバンギャルド E 550 アバンギャルド エクスクルーシブパッケージ	245/45R17 M+S	8J × 17	48mm
		8.5J × 17	48mm
E 250 アバンギャルド E 300 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 350 BlueTEC アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 350 アバンギャルド AMG スポーツパッケージ E 550 アバンギャルド	245/40R18 M+S	8.5J × 18	48mm
E 63 AMG E 63 AMG パフォーマンス パッケージ	前輪 255/40R18 M+S 後輪 255/40R18 M+S	前輪 9J × 18 後輪 9.5J × 18	前輪 37mm 後輪 52mm
	前輪 255/35R19 M+S 後輪 255/35R19 M+S	前輪 9J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 37mm 後輪 52mm
	前輪 255/35R19 M+S 後輪 285/30R19 M+S	前輪 9J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 37mm 後輪 52mm

24 GHz レーダーセンサーシステム

24 GHz レーダーセンサーシステムは、各々の国により、それぞれの承認を必要とします。レーダーセンサーシステムが承認されていない国で走行するときは、マルチファンクションディスプレイを使用して、システムを停止しなければなりません（▷203 ページ）。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

現在作動中のシステムは自動的に停止します。

- ディストロニック・プラス（▷218 ページ）
- アクティブブラインドスポットアシスト（▷262 ページ）
- PRE-SAFE® ブレーキ（▷69 ページ）

マルチファンクションディスプレイに、レーダーセンサーシステムが停止していることが表示されます（▷204 ページ）。

さらに BAS プラス（▷61 ページ）も機能しません。

マルチファンクションディスプレイを使用して、レーダーセンサーシステムを解除することもできます（▷203 ページ）。

国名	施設名	地理緯度	地理経度	施設からの周辺距離
日本	野辺山 長野県南佐久郡南牧村 野辺山 462-2	北緯 35° 56’ 40.9”	東経 138° 28’ 23.2”	約 8 km
	水沢 岩手県奥州市水沢区 星が丘町 2-12	北緯 39° 08’ 01”	東経 141° 07’ 57”	約 14 km
	入来 鹿児島県薩摩川内市入来町 浦之名 4018-3	北緯 31° 44’ 52”	東経 130° 26’ 24”	約 11 km
	小笠原 東京都小笠原村父島字旭山	北緯 27° 05’ 31”	東経 142° 13’ 00”	約 1 km
	石垣島 沖縄県石垣市登野城嵩田 2389-1	北緯 24° 24’ 44”	東経 124° 10’ 16”	約 2 km
	鹿嶋 茨城県鹿嶋市平井 893-1	北緯 35° 57’ 21”	東経 140° 39’ 36”	約 15 km
	苫小牧 北海道苫小牧市字高丘	北緯 42° 40’ 25”	東経 141° 35’ 49”	約 17 km
	岐阜大学 岐阜市柳戸 1-1	北緯 35° 28’ 03”	東経 136° 44’ 14”	約 13 km
	鹿児島大学 鹿児島県鹿児島市平川町	北緯 31° 28’ 04”	東経 130° 30’ 18”	約 5 km
	国土地理院 茨城県つくば市北郷 1	北緯 36° 06’ 11”	東経 140° 05’ 20”	約 20 km
	臼田 長野県佐久市上小田切 字大曲 1831-6	北緯 36° 07’ 57”	東経 138° 21’ 46”	約 6 km
	山口大学 山口県山口市仁保中郷 123	北緯 34° 12’ 58”	東経 131° 33’ 26”	約 3 km

国名	施設名	地理緯度	地理経度	施設からの周辺距離
日本	日立 茨城県日立市十王町大字伊師字加幸沢 3866	北緯 36° 41’ 51”	東経 140° 41’ 32”	約 20 km
	高萩 茨城県高萩市大字石滝字呉坪 650	北緯 36° 41’ 54”	東経 140° 41’ 40”	約 20 km
	内之浦 鹿児島県肝属郡肝付町南方 1791-13	北緯 31° 15’ 16”	東経 131° 04’ 42”	約 20 km

対象モデル

セダン

E 250 BlueEFFICIENCY
E 300 BlueEFFICIENCY
E 300 4MATIC BlueEFFICIENCY
E 350 BlueTEC
E 350 BlueEFFICIENCY
E 550 BlueEFFICIENCY
E 63 AMG

ステーションワゴン

E 250 BlueEFFICIENCY STATIONWAGON
E 300 BlueEFFICIENCY STATIONWAGON
E 300 4MATIC BlueEFFICIENCY STATIONWAGON
E 350 BlueTEC STATIONWAGON
E 350 BlueEFFICIENCY STATIONWAGON
E 550 BlueEFFICIENCY STATIONWAGON
E 63 AMG STATIONWAGON

※この取扱説明書の内容は、2011 年 9 月現在のものです。